



学生ハンドブック2022

大学院総合情報学研究科
総合情報学部
看護学部

東京情報大学

Tokyo University of Information Sciences

建学の精神・教育理念

東京農業大学の創設者、榎本武揚は文部・外務・農商務・通信大臣を歴任し近代を切り拓いた優れた政治家であるとともに、実用的な応用技術に力を注ぐ「実学」の重要性を唱えた科学者でもありました。

東京情報大学では、榎本精神を発展的に継承し、情報を活かして新しい未来を切り拓く人材育成を建学の精神とし、その教育理念を「現代実学主義」としているのです。

「現代実学主義」とは、実践的な学びの姿勢を尊重すること、情報を活用した応用技術を社会に還元すること、そのための基礎学問を重視することの3点に要約されます。

建学の精神「未来を切り拓く」

東京農業大学の前身「育英黉」の創設者であり、近代社会の礎を築いた明治の元勳榎本武揚のパイオニア精神を継承し、「未来を切り拓く」を建学の精神とする。

教育理念「現代実学主義」

現代社会に役立つ学問である実学を、情報を活かすことで発展的に実現する「現代実学主義」を教育理念とする。

人間形成の理念「自立と協調」

人間形成の場でもある大学が感性と創造性を育むことができるよう「自立と協調」を人間形成の理念とする。

学生ハンドブック

大学院総合情報学研究科
総合情報学部
看護学部

2022年度



東京情報大学

Tokyo University of Information Sciences

CONTENTS

大学紹介 7

学長メッセージ	8
沿革	10
組織	11
教員紹介	12
役職者	
大学院：総合情報学研究科	
総合情報学部：総合情報学科	
◆情報システム学系	◆数理情報学系
◆社会情報学系	
総合情報学部：教職課程	
看護学部：看護学科	
校章・学旗	27
東京情報大学学歌	28

学生生活 29

1. 各種手続および相談（担当）窓口	30
窓口等利用案内	授業担当職員への相談・質問
	主な手続き
2. 学籍について	33
修業年限	大学院の修業年限
休学	復学
退学	除籍
再入学	
3. 学生証	34
学生証の確認・裏面シールの記入	学生証は常時携帯
学生証を紛失・破損したとき	試験当日学生証を忘れたとき
学生証の裏面シールは年次更新	
4. 通学定期券を購入する場合	34
5. 住所変更等	35
学生（本人）住所、電話番号（自宅・携帯）が変わったとき	
学生（本人）氏名・本籍地および保証人（連絡人）の情報が変わったとき	
6. 証明書・申請書の発行（自動発行機）.....	35
証明書・申請書の種類等	発行機操作手順（概略）
利用時間	諸注意
7. 学割証	36
学割証とは	発行方法
使用上の注意	
8. 団体旅行割引証	37
9. 車両通学	37
申請許可手順	許可期間・更新
臨時許可証	
10. 学内施設・貸出し用具.....	37
学内施設の利用	運動用具の貸出し
空気入れ等の貸出し	

11. スクールバスの利用・申込	38
運行の条件	申込方法・許可
利用料金	
12. 学費納入	39
学費の納入方法	休学者についての取り扱い
復学者についての取り扱い	原級者についての取り扱い
留年者についての取り扱い	再入学者についての取り扱い
学費延納願	在学中の学費
13. 学内の奨学金制度	41
特待生制度	
東京情報大学提携教育ローン制度	
14. 学外の奨学金制度	41
日本学生支援機構奨学金	その他の奨学金
15. 学生生活をバックアップ	43
食堂・ブックセンター・売店	
アルバイト紹介	
16. 悪徳商法にご用心	44
悪徳商法の手口	悪徳商法に引っかからないための6か条
被害にあいそうになったら	
17. 健康管理	45
医務室	学生相談室（カウンセリングルーム）
こことからだの相談窓口24	定期健康診断
健康診断証明書発行について	学校において特に注意すべき感染症について
罹患等証明書の提出について	予防接種について
18. ハラスメントの防止	47
19. 事故・災害について	48
緊急連絡	学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）
20. 学生への連絡及び注意事項	49
J-portによる連絡	家を出る前にJ-portを毎日確認
電話による連絡	休講に関する取り扱い
補講に関する取り扱い	交通機関の運行停止等による授業の取り扱い
学校内広報誌の発行	学生用（1・2年生用）個人ロッカーの利用について
盗難防止	インターネット利用上の注意
環境美化	マナーとルール
21. Web情報システム「J-port」の利用	53
個人情報照会	時間割
シラバス照会	判定
成績照会	履修登録
出欠管理	掲示情報
スケジュール登録	利用にあたって
利用環境	ログイン方法
質問等の方法	

本学の学修について 55

1. 授業科目の履修	56	
1) 授業科目の分類	2) 単位制	3) 年間履修単位数（CAP制）
4) セット履修	5) ステップ履修	6) 他学部及び他学科履修
7) 放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目の履修		
8) 東京農業大学との単位互換科目の履修		
9) 他の大学等における修得単位の認定		
10) 知識・技能審査の学修における修得単位の認定（総合情報学部のみ）		
11) 大学院授業科目の先取り履修制度		

2. 授業時間	59
3. 授業科目の履修登録方法	59
4. 試験	60
5. 成績評価	63
6. 授業の出席管理	66
7. 欠席時の対応	67

総合情報学部の学修について 69

1. 学士課程教育の目的および方針	70
2. 授業科目の履修及び進級・卒業要件について	74
3. 教育課程	77
1) 授業科目の分類	
2) 授業科目表 (学系推奨科目の印付)	
3) 授業概要	
4. 学系制	111
1) 総合情報学部総合情報学科の教育体系	
2) 学系別科目担当表	
3) 学系別履修モデル	
5. 教職課程	118

看護学部の学修について 125

1. 学士課程教育の目的および方針	126
2. 授業科目の履修及び進級・卒業要件について	127
3. 教育課程	129
1) カリキュラムマップ	
2) 授業科目の分類	
3) 授業科目のナンバリング	
4) 授業科目表	
5) 授業概要	
6) 履修モデル	
7) 実習について	
8) 短期留学について	
4. 取得できる資格と選抜方法	147
1) 看護師	
2) 保健師	
3) 保健師課程の選抜方法	

大学院総合情報学研究科 149

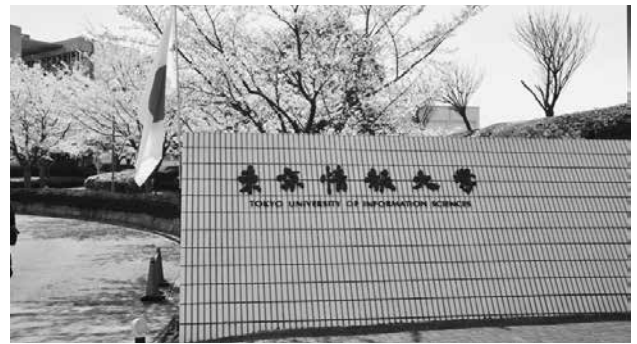
1. 総合情報学研究科の目的及びポリシー	150
1) 博士前期課程	
2) 博士後期課程	
3) 学位取得までの流れ	
2. 授業科目の履修及び単位認定	153
1) 履修方法	
2) 単位認定	
3) 単位の計算方法	
3. 授業時間	155
4. 論文計画書の提出から学位論文審査の申請まで	155
〈博士前期課程〉	
1) 修士論文計画書の提出	
2) 学位請求論文の提出	
3) 論文発表会	
〈博士後期課程〉	
1) 博士論文計画書の提出	
2) 研究経過報告書の提出	
3) 論文要旨の提出	
4) 論文発表会	
5) 学位請求論文の提出	
5. 課程修了の要件	156
6. 修士 (総合情報学) の学位授与のための基準および方法 (申し合わせ)	156
7. 博士 (総合情報学) の学位授与のための要件及び方法 (申し合わせ)	157
8. 学位	157
9. 9月修了	158
10. 表彰	158
11. 論文計画書等の様式	158
12. 教育課程	160
13. 教員免許について	161

課外活動	163
1. 願出が必要な施設利用について.....	164
2. 学友会.....	165
キャリア・就職	169
就職活動について.....	170
総合情報学部 of 総合的キャリア教育 (Jナビ)	171
看護学部 of キャリア支援プログラム.....	174
キャリア課を利用する.....	177
進路に関する手続き及び就職状況について.....	179
進路に関する手続き 就職状況	
資格取得対策について.....	181
総合情報学部 of 資格取得について 看護学部 of 看護師・保健師国家試験対策について	
情報サービスセンター	183
〈図書情報部〉	
1. 図書情報部の概要.....	184
2. 総合情報センター棟展開図.....	184
3. ライブラリー・エリア.....	185
〈情報システム部〉	
1. 情報システム部の概要.....	186
2. 情報システム部の各施設について.....	186
3. 利用に先立って.....	188
4. ネットワークの利用心得.....	188
◎東京情報大学ネットワーク利用ポリシー.....	188
後援会・教育振興会・校友会	193
1. 後援会・教育振興会・校友会.....	194
後援会の活動 教育振興会の活動	
校友会の活動	
キャンパス案内	195
校舎等配置図.....	196
1号館 (本館棟) 案内図.....	197
3号館 (体育館) 案内図.....	201
4号館 (総合情報センター棟) 案内図.....	202
5号館 (フロンティア研究棟) 案内図.....	203
6号館 (学生会館ピオーネ) 案内図.....	204
7号館 (研究棟) 案内図.....	205
8号館 (東アジア環境・経済研究棟) 案内図.....	207
9号館 (看護実習棟) 案内図.....	208
Q & A (よくある質問)	209
1. 履修登録に関すること.....	209
2. 授業に関すること.....	211
3. 試験に関すること.....	211
4. 成績評価に関すること.....	211

様式サンプル等.....213

様式1 成績評価に関する質問票.....214
様式2 時間割変更申請書.....215
様式3 欠席届.....216
交通案内図.....217

大学紹介





学長メッセージ ～4年間の計は、入学時にあり～

学長 鈴木 昌治

1. はじめに

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

国内で新型コロナウイルスの感染が確認されてから、約2年の歳月が流れましたが、今もって感染の終息の兆しすら見えません。本学は、引き続き新型コロナウイルスの感染防止にしっかりと取り組み、①学生と教職員の健康と生命を守ること、②学生の教育を止めないことに全力を傾注します。

さて、皆さんは新たな学び舎として東京情報大学を選ばれました。本学の教職員を代表して心より歓迎します。本学の経営母体は、学校法人東京農業大学です。その中核となる東京農業大学は、榎本武揚を創始者として1891年に創設され、世界でも有数の農学系総合大学として現在に至り、本年度創立131周年となります。兄弟校となる本学は、1988年に「情報」を大学名に冠した日本で初めての私立大学として、学校法人東京農業大学によって開学し、本年度創立35周年を迎えます。建学の精神「未来を切り拓く」、教育理念は兄弟校の東京農業大学の「実学主義」を継承した「現代実学主義」を掲げ、情報化社会の礎となるパイオニア精神にあふれた人材を育成してきました。

2. 情報と看護

我が国では、「人生100年時代」と言われる超高齢社会が到来します。本学の建学の精神「未来を切り拓く」に適う実学の府として、医療と地域、そこで暮らす人々を繋ぐ「情報」と「看護」のコラボレーションによる新たな医療システムの構築が重要な鍵になると考え、2017年に看護学部を開設しました。同時に、人工知能（AI）がビッグデータを解析し「人」にフィードバックすることにより「ビジネス」、「交通・輸送」、「医療・看護」、「農業・水産」など、あらゆる分野で革命が起こり、人々の生活を大きく変えるSociety5.0（超スマート社会）が始まりました。日本人の誰もが経験したことがない時代に突入することは明白です。また、温暖化による気候変動がもたらす災害、大地震の発生、さらには国境を越えた病原菌による感染症の蔓延など、我々は将来にわたって幾多の課題に取り組まなければなりません。皆さんがこれから学ぶ総合情報学部の情報学と情報技術（IT）や、看護学部の看護学と看護技術は、これらの諸課題の解決に光を照らす指針となり、難題を解決へと導く、極めて重要な学問分野であることを心に留めておいてください。本学が掲げる教育理念「現代実学主義」は、現場における知恵を培い、育てることだと考えています。

3. 総合情報学部・看護学部の人材育成

総合情報学部の使命についてお話しします。日本政府は、人類がこれまで歩んできた狩猟・農耕・工業・情報社会のその先にある第5の新たな社会の到来を見据えてSociety5.0という考えを提唱しています。インターネットなどの仮想空間におけるビッグデータを人工知能（AI）が解析し、高付加価値を現実空間にフィードバックする、経済発展と社会的課題の解決を両立させる人間中心の社会です。経済産業省は2030年にSociety5.0を中心になって支える、IT人材が59万人不足すると予想しています。総合情報学部は、Society5.0と言われる超スマート社会を支えるIT関連分野の人材を育成するため、情報システム・数理情報・社会情報の3学系と、それぞれの学系下に全部で14の研究室を設け、

実社会の課題解決に役立つテーマを追求する多彩な学びの場を提供します。

また、Society5.0の社会では、医療・農業・金融・流通などあらゆる分野で技術革新が進み、IT関連の知識が欠かせない時代になります。「情報教育」は小学校から大学まで切れ目なく実施され、教科「情報」の教員の養成が強く求められています。本学部では、教科「情報」や関連する教科「数学」の教員養成にも力を注ぎ、社会の要請に応える人材を育成します。

次に、看護学部の使命についてお話します。本学は、創立30周年を迎えた2017年に、急速に進む我が国の超高齢社会において高度な実践能力を持ち、情報化社会における地域医療に貢献できる看護職の育成を目指して看護学部を開設し、教育研究活動を始動させました。これからの医療体制は、病院から在宅へとシフトが進み、住み慣れた地域での暮らしが続けられるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が求められています。そこでは、情報通信技術を駆使した遠隔看護システムの活用などが重要性を増してくることから、超高齢社会に対応する看護師養成は、情報学の教育システムを持つ本学こそが担うべきであると考えます。本学部では、「情報の活用・発信力」「職業人としての基礎力」「現場から学ぶ力」の3つの能力の養成を軸に、地域とともに歩む、未来を切り拓く次世代の看護師を育成します。

4. 先端データ科学研究センターとヘルスケア実践研究センターの始動

総合情報学部はSociety5.0の進展に伴い、デジタルトランスフォーメーション（DX）による構造改革が一気に加速していること、さらに、コロナ禍がもたらした「ニューノーマル」に即した研究と教育も視野に入れ「先端データ科学研究センター」を開設しました。本センターは、生命情報研究、情報セキュリティ研究、機械学習研究、情報基盤研究の4つのユニットで構成され、①革新的な技術の創出と共同研究の活発化による研究力の強化、②未来のデータ科学を牽引する優秀な人材の育成、③本学のデータ科学研究の認知度やブランド力の向上による強みの明確化に注力します。併せて学生の皆さんにも先端研究に触れる機会を積極的に提供します。

看護学部は、人生100年時代を生き生きと暮らせる健康寿命の延伸のための実践研究の場として「ヘルスケア実践研究センター」を開設しました。本センターは、①インターネットを活用した認知症の講座の配信などによる地域住民との協働による実践研究、②看護や介護の専門家及び地域住民の介護や看護に関する実践力を育成するプロフェッショナル研修、③看護学部と総合情報学部が企画したコミュニティとのヘルスケアに関する協働研究の推進に取り組みます。

5. 目標達成に向けて

大学における学びの基本姿勢は「自分が何を学びたいのか」という問いの中にあります。大切な心構えは、他者から教えられるのを待つのではなく、自ら会得しようとするマインドです。もう一つは、論語でいうところの「知らざるを知らずとせよ是知れるなり」です。自らの無知を自覚し、知らないことを知らないと認識することは、知ることへの第一歩になります。

大学時代の限られた貴重な時間を有効に使い、皆さん一人ひとりが自分の目標に向かって、失敗を恐れず、志を高く持ち、粘り強く学び続けて、大きく成長してくれることを期待しています。

教職員一同で皆さんの学生生活を全力で支援することをお約束いたします。



榎本武揚
(1836～1908年)

本学は、来るべき未来を見据え、時代の要請する新しい専門的能力と国際感覚、均衡感覚に優れた人材の育成を教育の目的として、1988（昭和63）年4月、千葉市に開学した。

設置者である学校法人東京農業大学は、本学や2021年に創立130周年を迎えた東京農業大学をはじめ、8つの教育機関をもつ学校法人として現在に至るが、その始まりは1891（明治24）年、明治の元勳榎本武揚が創設した「徳川育英黌」にさかのぼる。

総合的な視野から、新しい時代の要請に即した人材の育成を目指した榎本「育英黌」の精神が、時代を超えて東京情報大学にも受け継がれている。

1891（明治24）年	徳川育英会を母体に育英黌農業科設置（東京農業大学の前身）
1925（大正14）年	財団法人東京農業大学設立
1951（昭和26）年	財団法人東京農業大学は学校法人東京農業大学となる
1988（昭和63）年	東京情報大学（経営情報学部／経営学科・情報学科）開設
1991（平成3）年	東京情報大学経営情報学部（経営学科・情報学科）臨時定員増認可
1992（平成4）年	東京情報大学大学院（経営情報学研究科経営情報学専攻）修士課程開設
1996（平成8）年	東京情報大学経営情報学部情報文化学科開設
1999（平成11）年	東京情報大学大学院（経営情報学研究科経営情報学専攻）博士前期課程・博士後期課程開設
2001（平成13）年	東京情報大学総合情報学部に学部名称を変更 東京情報大学総合情報学部経営情報学科、環境情報学科、情報システム学科開設（既設の情報文化学科とあわせて1学部4学科となる） 東京情報大学総合情報学部に教職課程を開設
2005（平成17）年	東京情報大学大学院総合情報学研究科（総合情報学専攻）に研究科名称を変更 東京情報大学総合情報学部経営情報学科を情報ビジネス学科に学科名称を変更
2010（平成22）年	東京情報大学総合情報学部に学芸員課程を開設
2013（平成25）年	東京情報大学総合情報学部総合情報学科12コース制に変更
2017（平成29）年	東京情報大学総合情報学部総合情報学科3学系（情報システム学系・数理情報学系・社会情報学系）制に変更 東京情報大学看護学部看護学科設置

組織

東京情報大学 Tokyo University of Information Sciences

学長
President

大学院／総合情報学研究科総合情報学専攻（博士前期課程・博士後期課程）
Graduate School of Informatics (Master Course / Doctor Course)

総合情報学部 Faculty of Informatics

総合情報学科
Department of Informatics

情報システム学系

システムデザイン研究室

ゲーム・アプリケーション研究室

ネットワーク・セキュリティ基盤研究室

ネットワークシステム研究室

知能情報システム研究室

環境情報研究室

数理情報学系

数理情報研究室

データサイエンス研究室

社会情報学系

映像・音響研究室

ゲーム・CG・Webデザイン研究室

メディア文化研究室

経営イノベーション研究室

心理学研究室

スポーツ科学研究室

教職課程

Education for Teachers

先端データ科学研究センター

Research Center for Advanced Data Science

看護学部 Faculty of Nursing

看護学科

Department of Nursing

基盤看護分野

成育看護分野

成人・高齢者看護分野

地域看護分野

ヘルスケア実践研究センター

学生部 Student office

医務室 University Clinic

情報サービスセンター Informatics Support Center

図書情報部 Library Information Section

情報システム部 Information System Section

総合情報研究所 Information Research Institute, TUIS (Johodai)

事務局 Administrative Division

企画調整課 Planning and Coordination Department

総務課 General Affairs Department

学生教務課 Student and Academic Affairs Department

入試・広報課 Entrance Exams & Publicity Department

キャリア課 Career Services Department

(2022年4月1日現在)

教員紹介

役職者

- 学長 鈴木 昌治
- 大学院研究科委員長 布広 永示
- 看護学部長 藤井 博英
- 看護学科長 細川 満子
- 学生部長 朴 鍾杰
- 総合情報研究所長 永井 保夫

- 副学長 布広 永示
- 総合情報学部長 圓岡 偉男
- 総合情報学科長 井関 文一
- 教職課程主任 鈴木 英男
- 情報サービスセンター長 西村 明
- 医務室長 朴 鍾杰



学長
鈴木 昌治



副学長
大学院研究科委員長
布広 永示



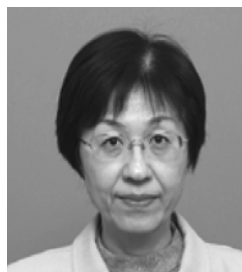
総合情報学部長
圓岡 偉男



看護学部長
藤井 博英



総合情報学科長
井関 文一



看護学科長
細川 満子



教職課程主任
鈴木 英男



学生部長
医務室長
朴 鍾杰



情報サービスセンター長
西村 明



総合情報研究所長
永井 保夫

大学院：総合情報学研究科

■研究科委員長 布広 永示

■専攻主事 花田 真樹

■指導教授 井関 文一 茨木 正治 金子 仁子 佐野 夏樹 鈴木 英男 圓岡 偉男
堂下 浩 富田 瑞樹 永井 保夫 西村 明 布広 永示 朴 鍾杰
花田 真樹 松下孝太郎 松下 博宣 山口 豊

■指導准教授 村上 洋一

■授業担当 池田 幸代 宇田川佳久 内田 治 大見 嘉弘 小早川睦貴 原田恵理子
藤原 丈史 マッキンケネスジェームス 森口 一郎

■非常勤講師 浅沼 市男 伊藤 敏朗 北風 和久 斎藤 隆 櫻井 尚子 中尾 浩
原 慶太郎 三宅 修平 森山 賢一

《情報システム系列》

①：専門分野
②：担当科目



指導教授
井関 文一
教授

- ①応用画像処理
- ②画像情報特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
佐野 夏樹
教授

- ①応用統計学、データマイニング
- ②データマイニング特論
機械学習特論A



指導教授
鈴木 英男
教授

- ①暗号・情報セキュリティ理論
- ②暗号理論特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
富田 瑞樹
教授

- ①環境復元論・生態学
- ②環境マネジメント特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
永井 保夫
教授

- ①人工知能
- ②人工知能システム特論
機械学習特論B
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
布広 永示
教授

- ①情報処理学・計算機工学
- ②分散・並列処理システム特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
朴 鍾杰
教授

- ①時系列衛星データを用いた土地被覆変化抽出に関する研究
- ②空間情報特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授

花田 真樹

教授

- ①情報通信ネットワーク工学
- ②情報ネットワーク特論A・B
- 修士特別研究
- 修士特別演習



指導准教授

村上 洋一

准教授

- ①生命情報学
- ②バイオインフォマティクス特論
- 情報数理特論B



授業担当

宇田川 佳久

教授

- ①ビッグデータのパターンマイニング学
- ②ソフトウェア工学特論



授業担当

内田 治

准教授

- ①統計的品質管理
- ②品質マネジメント特論



授業担当

大見 嘉弘

准教授

- ①コンピュータによる
- 知的創造支援システム
- ②組み込みシステム特論



授業担当

藤原 文史

准教授

- ①計算機統計学
- ②データベース特論



授業担当

**マッキン
ケネスジェームス**

准教授

- ①マルチエージェント論
- ②ソフトコンピューティング特論
- 知能情報特論



授業担当

森口 一郎

准教授

- ①情報ネットワーク
- ②ネットワークセキュリティ特論I・II



《社会情報系列》



指導教授
茨木 正治
教授
①マス・コミュニケーション論
②社会情報特論Ⅰ・Ⅱ
マスコミュニケーション特論Ⅰ・Ⅱ
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
圓岡 偉男
教授
①映像表現論
②社会哲学特論
情報社会特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
堂下 浩
教授
①ベンチャー企業の成長戦略
②金融情報特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
西村 明
教授
①聴覚心理学
②音響メディア情報特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
松下 孝太郎
教授
①画像工学・教育工学
②マルチメディア特論
情報教育学研究
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
山口 豊
教授
①臨床心理学
②ヘルスケア情報教育特論
修士特別研究
修士特別演習



授業担当
原田 恵理子
教授
①発達臨床心理学
学校臨床心理学
②教育心理学特論



授業担当
池田 幸代
准教授
①経営学, 経営組織論
②経営情報特論



授業担当
小早川 睦貴
准教授
①認知心理学
②ヘルスケア情報特論

《ヘルスケア情報系列》



指導教授
金子 仁子
教授
①公衆衛生看護学
②ヘルスケア情報特論
ヘルスケア情報管理特論
修士特別研究
修士特別演習



指導教授
松下 博宣
教授
①医療管理学
ヘルスケア・システム科学
健康医療情報学
②ヘルスケアイノベーション特論
修士特別研究
修士特別演習

総合情報学部：総合情報学科

- 学科長 井関 文一
- 学科主事 村上 洋一

専任教員

◆情報システム学系

- 学系長 井関 文一
- 学系主事 河野 義広
- 教授 井関 文一 宇田川佳久 鈴木 英男 富田 瑞樹 永井 保夫 布広 永示
朴 鍾杰 花田 真樹
- 准教授 大城 正典 大見 嘉弘 河野 義広 岸本 頼紀 斉藤 卓也
マッキンケネスジェームス 村上 洋一 森口 一郎
- 助教 早稲田篤志

◆数理情報学系

- 学系長 井関 文一
- 学系主事 佐野 夏樹
- 教授 川勝 英史 蔵岡 誉司 佐野 夏樹
- 准教授 内田 治 藤原 丈史 吉澤 康介

◆社会情報学系

- 学系長 山口 豊
- 学系主事 藤田 修平
- 教授 浅川 順 石井 政弘 茨木 正治 圓岡 偉男 堂下 浩 西村 明
松下孝太郎 山口 豊
- 准教授 池田 幸代 小早川睦貴 樋口 大輔 藤田 修平 茂住 和世 安岡 広志
- 助教 高橋 洋平 中島 淳

◆教職課程

- 課程主任 鈴木 英男
- 課程主事 原田恵理子
- 教授 鈴木 英男 田邊 昭雄 原田恵理子 槇 誠司

情報システム学系

《システムデザイン研究室》

- ①：専門分野
- ②：担当科目
- ③：研究室



教授
宇田川 佳久
①ビッグデータのパターンマイニング学
②プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
システム設計論 a・b
③ 8号館 2階8202研究室



教授
布広 永示
①情報処理学・計算機工学
②知識創造の方法 f
システム設計論 a・b
プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
言語処理論
③ 7号館 4階3404研究室



准教授
岸本 頼紀
①ソフトウェア工学
②知識創造の方法 f
インターンシップ
情報システムアーキテクチャ
ソフトウェア工学 a・b
③ 7号館 3階3302研究室



准教授
斎藤 卓也
①情報学, ロボティクス, 惑星探査ローバ
IoT, 組み込みシステム
②プログラミング基礎
プログラミング基礎演習
プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
③ 7号館 4階3402研究室

《ゲーム・アプリケーション研究室》



准教授
大城 正典
①視覚認識情報学
②プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
モバイルプログラミング b
ゲームプログラミング a・b
③ 7号館 4階3401研究室



准教授
河野 義広
①社会情報学
②知識創造の方法 e
プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
③ 7号館 3階3301研究室



准教授
村上 洋一
①生命情報学
②プログラミング応用 a・同演習
プログラミング応用 b・同演習
Unix論 a・b
③ 7号館 4階3407研究室

《ネットワーク・セキュリティ基盤研究室》



教授
鈴木 英男
①暗号・情報セキュリティ理論
②基礎数学入門
暗号理論
計算機数論
符号理論
③ 7号館 4階3406研究室



教授
花田 真樹
①情報通信ネットワーク工学
②IT基礎技術論
Unix論 a・b
情報システムアーキテクチャ
情報通信ネットワーク論
③ 7号館 3階3308研究室



助教
早稲田 篤志
①暗号理論
②情報モラルとセキュリティ
プログラミング基礎・同演習
コンピュータ概論
情報ネットワーク概論
③ 8号館 2階8203研究室

- ①：専門分野
- ②：担当科目
- ③：研究室

《ネットワークシステム研究室》



教授

井関 文一

- ①応用画像処理
- ②情報通信システム論 a・b
ネットワークセキュリティ論
ネットワークプログラミングa・同演習
ネットワークプログラミングb・同演習
- ③7号館3階3305研究室



准教授

森口 一郎

- ①情報ネットワーク
- ②Unix論 a・b
ネットワークプログラミングa・同演習
ネットワークプログラミングb・同演習
- ③7号館3階3306研究室

《知能情報システム研究室》



教授

永井 保夫

- ①人工知能
- ②アルゴリズムとデータ構造 a・b
人工知能 a
Webシステムプログラミングa・同演習
Webシステムプログラミングb・同演習
- ③7号館3階3303研究室



准教授

大見 嘉弘

- ①コンピュータによる知的創造支援システム
- ②プログラミング基礎
プログラミング基礎演習
アルゴリズムとデータ構造 a・b
Webシステムプログラミングa・同演習
Webシステムプログラミングb・同演習
モバイルプログラミング a
- ③7号館4階3403研究室



准教授

マッキンケネスジェームス

- ①マルチエージェント論
- ②知識創造の方法 f
プログラミング基礎
プログラミング基礎演習
人工知能 b
人工知能プログラミング
- ③7号館3階3304研究室

《環境情報研究室》



教授

朴 鍾杰

- ①時系列衛星データを用いた土地被覆変化抽出に関する研究
- ②プログラミング入門
コンピュータ概論
画像情報論
環境リモートセンシング
画像・動画処理演習
パターン認識
- ③8号館2階8201研究室



教授

富田 瑞樹

- ①環境復元論・生態学
- ②環境学
環境情報論 b
地理情報システム a・b
環境システム論
環境システム演習
- ③8号館3階3301研究室

数理情報学系

《数理情報研究室》

- ①：専門分野
- ②：担当科目
- ③：研究室



教授

川勝 英史

- ①オペレーションズ・リサーチ
- ②シミュレーション
情報リテラシー演習
情報分析応用
データ処理論
数値計算法
- ③1号館6階671研究室



教授

蔵岡 誉司

- ①普遍代数学, 束論, ファジィ代数学
- ②基礎数学ab
代数学ab
整数論
- ③1号館6階631研究室



准教授

藤原 文史

- ①計算機統計学
- ②データベース論
データサイエンス概論
Webシステムプログラミングa・同演習
データ解析システム
- ③1号館6階630研究室



准教授

吉澤 康介

- ①情報工学、教育工学
- ②情報分析基礎
情報分析応用
データ処理論
Webデータサイエンス
- ③1号館6階624研究室

《データサイエンス研究室》



教授

佐野 夏樹

- ①応用統計学, データマイニング
- ②情報分析基礎
情報分析応用
データサイエンスa
データサイエンスb
データマイニング
データベース管理システム
- ③1号館6階672研究室



准教授

内田 治

- ①統計学品質管理
- ②推測統計学
応用統計学
実験計画法
- ③1号館6階607研究室

社会情報学系

- ①：専門分野
②：担当科目
③：研究室

《映像・音響研究室》



教授
浅川 順
① 広告メディア論
アニメーション論
映像演出論
② 映像表現基礎 I
映像表現論
映像制作論 II
③ 4号館 1階5115研究室



教授
西村 明
① 聴覚心理学
② 知識創造の方法 c
音響メディア論 I・II
サウンドデザイン論
知覚心理学
学校インターンシップ
③ 4号館 1階5111研究室



准教授
藤田 修平
① 映画学
映像制作論
② 映像表現論
映像表現基礎 I・II
メディア社会論
映像制作論 I
③ 4号館 1階5114研究室

《ゲーム・CG・Webデザイン研究室》



教授
松下 孝太郎
① 画像工学・教育工学
② コンピュータグラフィックス基礎
コンピュータグラフィックス演習
③ 1号館 7階731研究室



准教授
安岡 広志
① 視覚情報処理学
視覚伝達デザイン学
② コンピュータ概論
コンピュータグラフィックス基礎
Webデザイン演習
メディア広告論
③ 1号館 7階722研究室



助教
中島 淳
① マルチメディア論
② インターンシップ
コンピュータグラフィックス論
ゲーム制作基礎
視覚デザイン論
出版メディア論
③ 1号館 7階726研究室

《メディア文化研究室》



教授
茨木 正治
① マス・コミュニケーション論
② キャリアデザイン b
比較社会論
マスメディア論
社会心理学
政治と情報
新聞論
③ 1号館 7階728研究室



教授
圓岡 偉男
① 理論社会学
② 情報モラルとセキュリティ
知識創造の方法 b
③ 1号館 7階779研究室

①：専門分野
②：担当科目
③：研究室

《メディア文化研究室》



准教授
茂住 和世
①日本語教育
②日本語 a～d
知識創造の方法 a
日本の社会と生活文化
ビジネスコミュニケーション
リクルートコミュニケーション
異文化コミュニケーション論
③ 1号館 7階756研究室



助教
高橋 洋平
①言語学・英語学（統語論・意味論）
②英語a～d
③ 1号館 7階776研究室

《経営イノベーション研究室》



教授
堂下 浩
①ベンチャー企業の成長戦略
②情報分析基礎
グローバル経済と金融
金融論
経営イノベーション論
ベンチャービジネス論
③ 1号館 6階604研究室



准教授
池田 幸代
①経営学, 経営組織論
②経営と情報
情報社会と職業
経営組織論
マーケティング・コミュニケーション論
ブランドマネジメント論
③ 1号館 6階679研究室



准教授
樋口 大輔
①経営学, 経営戦略論
②情報リテラシー演習
インターンシップ
経営学概論
マーケティング論
経営戦略論
マーケティング戦略論
③ 1号館 6階678研究室

《心理学研究室》



教授
山口 豊
①臨床心理学
②臨床心理学概論
心理検査法・同実習
人間関係論
臨床心理学実習
カウンセリング
③ 1号館 7階774研究室



准教授
小早川 睦貴
①認知心理学
②情報リテラシー演習
心理学概論
情報分析基礎
認知心理学
心理学研究法
心理学実験Ⅰ・Ⅱ
③ 1号館 7階725研究室

《スポーツ科学研究室》



教授
石井 政弘
①スポーツバイオメカニクス
②スポーツ演習 a～d
健康科学
スポーツ情報論
スポーツ心理学
③ 1号館 7階711研究室

- ①：専門分野
- ②：担当科目
- ③：研究室

教職課程



教授
鈴木 英男

- ①暗号・情報セキュリティ理論
- ②基礎数学入門
暗号理論
計算機数論
符号理論
- ③7号館4階3406研究室



教授
田邊 昭雄

- ①教育学
- ②教職概論
生徒指導・進路指導論
教育実習Ⅰ・Ⅱ
学校インターンシップ
教職実践演習
- ③1号館7階707研究室



教授
原田 恵理子

- ①発達臨床心理学
学校臨床心理学
- ②学校心理学
道徳教育の理論と方法
教育心理学
教育相談論
教育実習Ⅰ・Ⅱ
教職実践演習
- ③1号館7階702研究室



教授
檜 誠司

- ①数学教育
- ②教育実習Ⅰ・Ⅱ
学校インターンシップ
基礎数学入門
情報と職業
数学科教育法
教職実践演習
- ③1号館7階708研究室

■総合情報学部総合情報学科の授業に関する質問や相談は、授業中に行うのが原則ですが、次の方法で行うことも可能です。

◇コミュニケーションアワーを確認して研究室を訪ねる。

コミュニケーションアワーとは、教員が学生の相談を受け付ける時間のこと。各教員のコミュニケーションアワーは、J-portの教員時間割で確認することができます。

各教員の研究室は、学生ハンドブックのキャンパス案内をご覧ください。

◇非常勤講師に相談がある場合は、J-portのシラバス「授業時間外の質問方法」を確認し、メール等を送る。または、学生教務課に申し出る。

非常勤講師の出講曜日等については、J-portの教員時間割で確認してください。

看護学部：看護学科

■学科長 細川 満子

■学科主事 時田 礼子

専任教員

■教授 市川 香織 金子 仁子 小島 善和 藤井 博英 細川 満子 松下 博宣

■准教授 金丸 友 高柳千賀子 藤井かし子 水野 芳子 室岡 陽子 山野内靖子
吉武 幸恵

■助教 井坂 智子 石井 優香 伊藤 美香 大山 一志 岸田 るみ 児玉 悠希
菅原 久純 時田 礼子 芳賀 邦子

■臨床教員 井ノ口智子 菅田 瞳 嶋田 礼子 山浦那津子

《基盤看護分野》

- ①：専門分野
- ②：主な担当科目
- ③：研究室



教授
松下 博宣

- ①医療管理学
- ②ヘルスケアサービス論
看護とグローバルヘルス
ヘルスケアマネジメント論
社会イノベーション論
キャリアデザインとケアⅠ～Ⅳ
- ③7号館2階3208研究室



准教授
藤井 かし子

- ①基礎看護学
- ②看護学概論
看護関係法規
ヘルスアセスメント論
看護技術論Ⅱ
看護過程論
基礎看護学実習Ⅱ
- ③7号館1階3102研究室



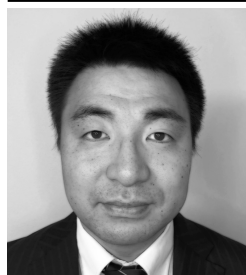
准教授
吉武 幸恵

- ①基礎看護学
- ②看護技術論Ⅰ・Ⅱ
ヘルスアセスメント論
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
看護研究
- ③7号館2階3212研究室



助教
児玉 悠希

- ①基礎看護学・看護情報学
- ②ヘルスアセスメント論
看護技術論Ⅰ・Ⅱ
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
看護と情報Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館2階3205研究室

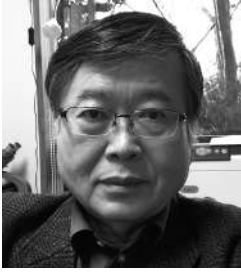


助教
菅原 久純

- ①基礎看護学
- ②看護技術論Ⅰ・Ⅱ
ヘルスアセスメント論
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
看護と情報Ⅰ
- ③7号館1階3107研究室

《成人・高齢者看護分野》

- ①：専門分野
- ②：主な担当科目
- ③：研究室



教授

小島 善和

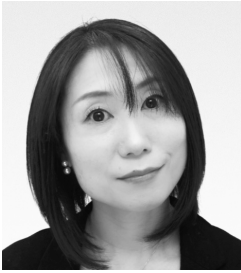
- ①成人看護学
- ②成人看護学概論
成人看護学方法論（急性期）
成人看護学方法論（慢性期）
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
災害看護論
- ③7号館1階3111研究室



准教授

高柳 千賀子

- ①高齢者看護学
- ②高齢者看護学概論
高齢者看護学方法論
高齢者看護学実習
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館2階3201研究室



准教授

室岡 陽子

- ①成人看護学
- ②成人看護学概論
リハビリテーション論
成人看護学方法論（慢性期）
成人看護学方法論（急性期）
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館1階3110研究室



助教

石井 優香

- ①高齢者看護学
- ②高齢者看護学概論
高齢者看護学方法論
高齢者看護学実習
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館1階3109研究室



助教

伊藤 美香

- ①成人看護学
- ②成人看護学概論
成人看護学方法論（慢性期）
成人看護学方法論（急性期）
成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館2階3211研究室

《成育看護分野》



教授

市川 香織

- ①母性看護学
- ②母性看護学概論
母性看護学方法論
母性看護学実習
キャリアデザインとケアⅠ～Ⅳ
家族看護学
- ③7号館2階3203研究室



准教授

金丸 友

- ①小児看護学
- ②小児看護学概論
小児看護学方法論
小児看護学実習
- ③7号館1階3103研究室



准教授

山野内 靖子

- ①小児看護学
- ②小児看護学概論
小児看護学方法論
小児看護学実習
- ③7号館1階3106研究室



助教

井坂 智子

- ①母性看護学
- ②母性看護学方法論
母性看護学実習
- ③7号館1階3105研究室

《地域看護分野》

- ①：専門分野
- ②：主な担当科目
- ③：研究室



教授
藤井 博英

- ①精神看護学
- ②精神看護学概論
精神看護方法論
精神看護学実習
- ③7号館1階3108研究室



教授
金子 仁子

- ①公衆衛生看護学
- ②公衆衛生学
地域看護学概論
地域看護学方法論
地域看護学実習
公衆衛生看護活動論
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館2階3207研究室



教授
細川 満子

- ①在宅看護学
- ②在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱ
在宅看護学方法論
在宅看護学実習
地域包括ケア実習
- ③7号館2階3209研究室



准教授
水野 芳子

- ①在宅看護学
- ②在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱ
在宅看護学方法論
在宅看護学実習
地域包括ケア実習
- ③7号館2階3210研究室



助教
大山 一志

- ①精神看護学
- ②精神看護学概論
精神看護方法論
精神看護学実習
- ③7号館2階3204研究室



助教
岸田 るみ

- ①公衆衛生看護学
- ②公衆衛生学
地域看護学概論
地域看護学方法論
地域看護学実習
公衆衛生看護活動論
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館1階3104研究室



助教
時田 礼子

- ①公衆衛生看護学
- ②公衆衛生学
地域看護学概論
地域看護学方法論
地域看護学実習
公衆衛生看護活動論
公衆衛生看護活動方法論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護管理論Ⅰ・Ⅱ
公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ
- ③7号館2階3206研究室



助教
芳賀 邦子

- ①在宅看護学
- ②在宅看護学概論Ⅰ・Ⅱ
在宅看護学方法論
在宅看護学実習
地域包括ケア実習
- ③7号館2階3202研究室

《臨床教員》



井ノ口 智子
③7号館2階3227研究室



菅田 瞳
③7号館2階3227研究室



嶋田 礼子
③7号館2階3227研究室



山浦 那津子
③7号館2階3227研究室

■看護学部・看護学科の専任教員のコミュニケーションアワーは、原則、毎週水曜日1～3時限目としていますが、教員別のスケジュール表は新学期ガイダンスの時に配布します。学生は、コミュニケーションアワー以外の時間でも研究室を訪ねることは出来ますが、教員不在の場合は各教員にEメールに連絡をして予約を取って面会するようにしてください。

■看護学部・看護学科 非常勤講師

科 目	氏 名
生命倫理	近藤 弘美
人権・ジェンダー	瀬山 紀子
基礎化学	安藤 達彦
疫学・社会調査	谷口 優
形態機能論Ⅰ	嘉藤 邦彦
	宮芝 章
	梅野 福太郎
	石井 猛
	青墳 信之
	平島 修
	平栗 雅樹
形態機能論Ⅱ	市川 千秋
	岡嶋 祐子
	齋藤 俊彦
	森尾 比呂志
臨床栄養学	伊部 陽子
臨床薬理学	田嶋 公人
臨床生化学	安藤 達彦
病理学	樋野 興夫
病態生理学	梅野 福太郎
	大内 玲
	山内 豊明
疾病と治療Ⅰ	梅野 福太郎
	中田 泰彦
	平島 修
	海賀 照夫
	齋藤 俊彦
	片山 薫
	橘 香穂里
	森尾 比呂志
	平栗 雅樹
	青墳 信之

科 目	氏 名
疾病と治療Ⅱ	中田 泰彦
	中野 健一
	原 佳奈子
	鎌田 憲明
	岡嶋 祐子
	有蘭 行朋
疾病と治療Ⅲ	是木 明宏
	植木 英亮
	木川 崇
	土持 太一郎
	寺田 和樹
	池田 弘之
	尾久 守侑
感染症学	鈴木 明子
学校保健論Ⅰ	荒川 雅子
産業保健論Ⅰ	伊藤 美千代
学校保健論Ⅱ	荒川 雅子
産業保健論Ⅱ	伊藤 美千代
保健福祉行政論	大久保 一郎
口腔健康論	大石 朋子
	菊谷 武
	田村 文誉
国際看護論	藤屋 リカ
医療リスクマネジメント	藤谷 克己
家族看護論	齋藤 佑見子
エンドオブライフケア論	間瀬 由記
	竹倉 史人
人間工学	福田 亮子
リハビリテーション論	松井 優子
看護と情報Ⅲ	森田 夏実

※非常勤講師に質問がある場合は、J-portのシラバス「授業時間外の質問方法」を確認してください。

校章・学旗

校章は、2001年10月学内で公募され、2002年3月に山崎哲史氏（2003年度卒業 [情報文化学科]）のデザインが採用されました。

学旗は、その校章を用いて平成14年度に制定されました。



東京情報大学学歌

林 雄二郎 作詞
伊藤 敏朗 作曲

一 新墾の千城ヶ丘に
いま開くあしたへの門
われ等ともにここに集いぬ
新たなる門出のために

二 昨日までかくありぬとも
今日はまた泥むことなし
明日ゆくはいかなる道ぞ
わが旅の終わることなく

三 群青の空に羽展べ
はるかなる時空を超えて
かぎりなくひろがり止まぬ
英知こそわが心なれ

♩ = 100 B^b FonA Gm F B^bm^{onD^b} FonC C⁷ F

に

A F C⁷ B^b F

い は り の ち し る が お か に
の う ま で か く あ り め と も
ん じょ う の そ ら に は ね の べ

B^b ConB^b F Dm Gm B^b Bm⁷⁻⁵ C⁷

い ま ひ ら く あ し た へ の も ん
ぎょ う は ま た な ら ず む こ と な し
は る か な る じ く う を こ え て

FonA B^b C⁷ F FonE^b

わ れ ら と も に こ こ に つ ど い め
あ す ゆ く は い か な る み ち ぞ
か ぎ り な く ひ る が り や ま ぬ

B^b C F ConE D[#]dim D⁷ Gm C F

あ ら た な る か ど で の た め に
わ が い た び の お わ る こ と な く
え ち こ そ わ が こ ころ な くれ

FonA B^b A A^{7onC[#]} Dm C[#]aug FonC C⁷ F

1.2

B^b FonA Gm F B^bm^{onD^b} FonC C⁷ F

3.

rit...

き
ぐ

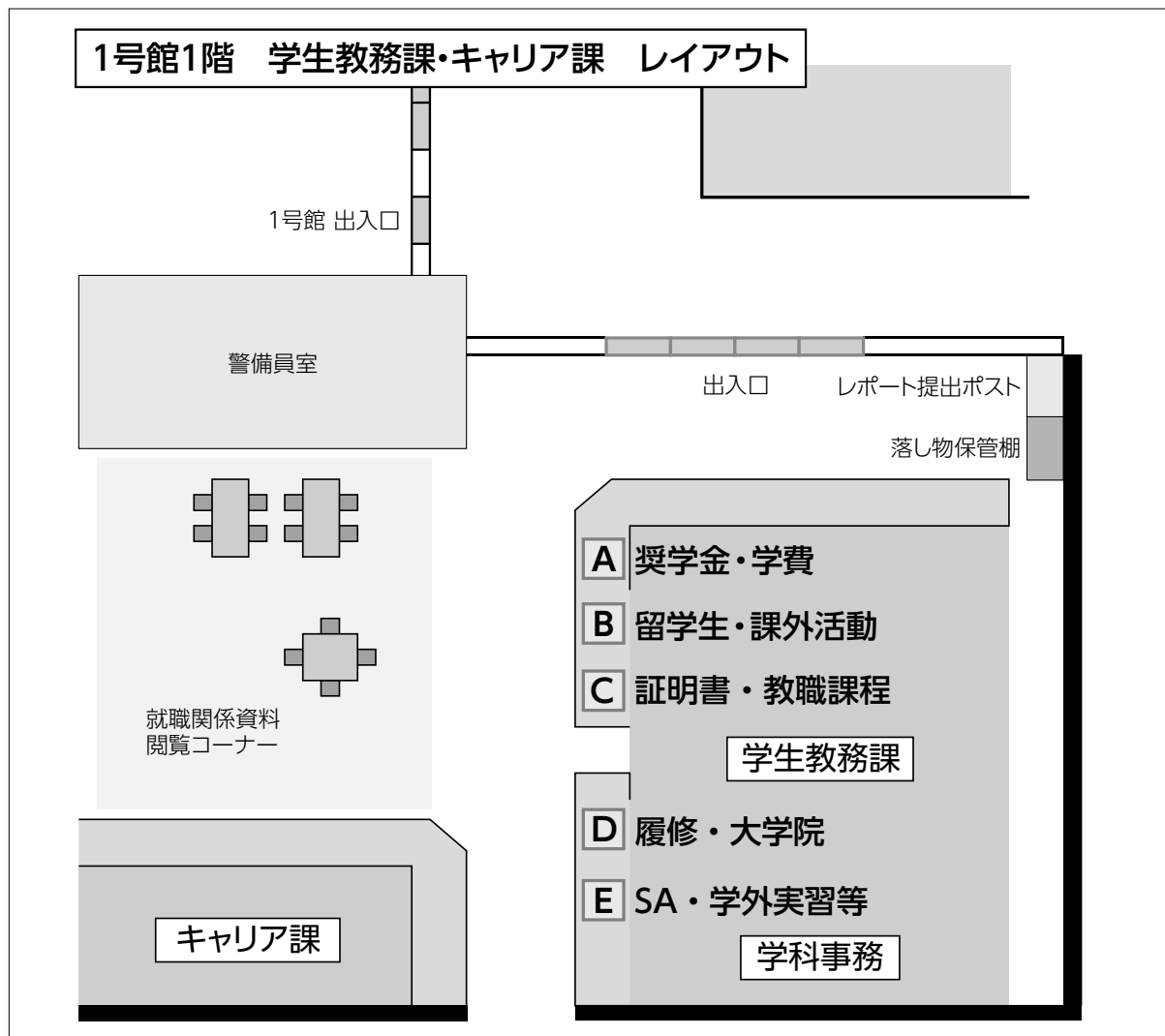


1. 各種手続および相談（担当）窓口

窓口等利用案内

窓口および施設	窓口受付時間	場所	連絡先
学生教務課	9:00～17:30 金曜日は17:00まで	1号館1階（同フロア）	043-236-4612
キャリア課	9:00～17:30 金曜日は17:00まで	1号館1階（同フロア）	043-236-4614
医務室	9:00～17:30	1号館1階（医務室）	043-236-1109
学生相談室	11:00～17:00	5号館3階（学生相談室）	043-236-1194
ブックセンター	10:30～17:00	1号館1階フロア横	043-236-0094
証明書自動発行機	9:00～18:30	1号館1階事務局横	—
情報サービスセンター （情報システム部）	9:00～17:30 金曜日は17:00まで	1号館2階	043-236-4620
情報サービスセンター （図書館部）	9:00～17:30 金曜日は17:00まで （ライブラリーゾーン9:00～20:00）	4号館2階（総合情報センター）	043-236-4617
食堂	11:00～15:00	2号館（食堂）	—
売店	9:00～17:00	2号館（食堂）	—
コミュニケーションルーム （パティオ）	8:00～19:00	3号館1階	—

- *土・日曜日，祝祭日，大学の休業日には業務を行いません。（土曜授業日を除く）
- *長期休業中（春・夏・冬）の窓口時間は，HP・J-port等でお知らせします。
- *相談及び問合せは窓口で行うのが原則です。電話での確認・相談は控えてください。
- *窓口受付時間は今後変更となる場合があります。



*レイアウト等は令和4年3月現在のもの。今後，変更になる場合があります。

授業担当教員への相談・質問

専任教員または非常勤講師が担当する授業科目に対して質問等がある場合は、J-portのシラバス「授業時間外の質問方法」を確認し、連絡してください。

クラス担任に対して修学上や生活上の相談等がある場合は、J-portの教員時間割を参考に、直接担当教員の研究室を訪問してください。

主な手続き

手続き及び相談の内容によって担当窓口が異なります。以下の一覧を参照し、指定の窓口に出向いて手続きをしてください。掲載ページ欄にページの記載があるものは、そのページに詳細が掲載されています。

*届出内容の変更等

種別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
学生（本人）の住所変更	所定の手続きをとる（「住所変更届」を再提出）	学生教務課	35
学生（本人）の携帯電話番号の変更	所定の手続きをとる		
学生（本人）の氏名・本籍地変更	所定の手続きをとる		
保証人・連絡人の住所変更	所定の手続きをとる		
保証人・連絡人の変更	所定の手続きをとる		
休学・退学・復学・再入学の相談	窓口で相談のうえ、所定の手続きをとる		33

*学生生活全般

種別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
学生証の更新等	①裏面シールの張替え ・年度更新時（毎年4月） ・記載事項変更時	学生教務課	34
	②再発行【¥1,000】 自動発行機で申請書を発行し、窓口で申請		
	③仮学生証【¥500】※定期試験時のみ 自動発行機で申請書を発行し、窓口で申請		
	④IDカード再発行【¥1,500】※看護学部のみ 自動発行機で申請書を発行し、窓口で申請		
車両による通学・入構	①新規申請 【車¥2,000バイク¥1,000】 安全運転講習会（学校主催：4月上旬）に参加し、 締切期限までに窓口提出	学生教務課	37
	②継続申請 窓口にて書類配布・提出 ※年1度更新 締切日：毎年5月末		
	③再発行（紛失した場合など） 【車¥1,000 バイク¥500】 自動発行機で申請書を発行し、窓口で申請		
	④登録車両変更 窓口で申し出をし、変更する任意保険証を提出		
各種証明書・学割証の発行	自動発行機により発行する		35～36
J-portの利用	窓口で相談する	学生教務課 (D 履修)	49, 53～54
アパート等の住居相談	窓口で相談する	学生教務課	43
アルバイト紹介	学生教務課掲示板で情報を確認のうえ、直接申し込む		43～44
悩み等の個別相談	事前に医務室へ申し込み、カウンセリングを受ける	学生相談室 (5号館)	44, 45, 47～48
学内、通学途中でのケガ	窓口で、学研災の事故報告・保険請求手続きを行う	学生教務課 (B 課外活動)	48～49
遺失物、拾得物	学生教務課横ケースにて3ヶ月間保存 ※3ヶ月以降は処分	学生教務課	—

***学費および奨学金**

種別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
学費納付の延納手続	『学費延納願』を窓口にて配布・提出	学生教務課 (A 奨学金・学費)	39
奨学金	日本学生支援機構奨学金制度		41~42
	特待生制度		41
	その他の奨学生制度		42

***課外活動**

種別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
新規結成	学友会総務部執行委員会主催の説明会（年2回）に参加し、申請・承認	学生教務課 (B 課外活動)	163~168
教室等の学内施設の利用	HP「各種届出・様式ダウンロード」より『施設利用許可願』を窓口にて提出		
休日の活動	HP「各種届出・様式ダウンロード」より『施設利用許可願』を窓口にて提出		
合宿	HP「各種届出・様式ダウンロード」より『合宿届』を窓口にて提出		
各部・サークルへの配布物	6号館（学生会館）1階、総務部執行委員会部室横のポスト		
掲示物の扱い	職員確認後、了承印が押印されているもののみ所定の掲示場所へ掲示可		

***授業および資格に関すること**

種別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
履修登録に関する相談	窓口にて相談する	学生教務課 (D 履修)	59~60
試験・成績評価に関する相談	窓口にて相談する		60~65
授業に関する相談	窓口にて相談する		66~128
資格試験等の相談	窓口にて相談する	キャリア課	181~182
スコアラ	窓口にて相談する、各スコアラ担当教員が対応		181
ノートパソコン	使用方法の相談	情報サービスセンター	—
	修理中の貸し出し		—
	修理及び貸し出しのための書類配布	学生教務課	—
コンピュータ・ネットワークの利用	窓口にて相談する	情報サービスセンター	188~191
ネットワーク利用許可証の再発行	再発行申請書を発行（有料）し窓口にて提出する講習会（週1回開催）へ参加する		188

***就職及びキャリア教育に関すること**

種別	手続き等	担当窓口	掲載ページ
就職活動の相談	窓口にて相談する	キャリア課	169~180
就職支援行事の相談	窓口にて相談する		171,174
求人情報・企業情報の閲覧	就職資料室（キャリア課）で閲覧する J-portの求人情報検索を活用する		177
インターンシップの相談	窓口にて相談する、インターンシップ担当教員が対応		177
キャリアデザインカードの活用	窓口にて相談する		179

2. 学籍について

修業年限（学則第21条関連）

学部学生の修業年限は4年とし、通算して8年を超えて在学することはできません。
ただし、再入学者については、再入学以前の在学年数を加えて8年を超えることができません。
また、編入学生は6年を超えて在学することはできません。

大学院の修業年限（大学院学則第5条関連）

博士前期課程の学生の修業年限は2年ですが、通算して4年を超えて在学することはできません。また、博士後期課程の学生の修業年限は3年ですが、通算して6年を超えて在学することはできません。

休学（学則第25条関連）

病気その他やむを得ない事由のため、3カ月以上修学することができない場合は、保証人連署のうえ願い出て、許可を得て休学することができます。

なお、休学の事由が病気であるときは、医師の診断書を添付してください。

(1) 休学期間

- ① 休学期間中でもその事由が止んだときは、復学できます。
ただし、試験期間の6カ月前に復学した者でなければ受験することはできません。
- ② 休学期間は、在学期間に算入しない。
- ③ 休学した翌年度は原級となる。
- ④ 休学期間は、通算して4年を超えることができない。
- ⑤ 休学期間が次年度に亘る場合は、各年度ごとに休学の手続きを行うものとする。

(2) 休学期間中の授業料（学則第32条関連）

- ① 4月から1年間の休学の場合……授業料は半額とする。
- ② 学年途中の休学の場合……休学の翌月から月割計算により半額とする。

復学

休学者は、休学期間終了の2週間前までに保証人連署のうえ願い出て、許可を得て復学することができます。

退学（学則第27条関連）

都合により修学できなくなったときは、保証人連署のうえ願い出て、許可を得て退学することができます。その際は、必ず学生証を添付してください。

除籍（学則第29条関連）

下記の事項に該当する者は、除籍されます。

- (1) 本学において修学する意思がないと認められる者
- (2) 督促を受けた滞納学費を、指定された期限までに納入しない者
- (3) 所定の在学年限を超えた者
- (4) 所定の休学年限を超えた者
- (5) 死亡した者、または行方不明の者

再入学（学則第30条関連）

願いにより退学した者または前述『除籍（学則第29条関連）』の(1)または(2)により除籍された者が再入学を願い出た場合には、学年の始めに限り、選考のうえ、相当年次に再入学を許可することがあります。

- (1) 再入学の願い出ができる期間は、除籍の場合、除籍となった日から1年以内とする。退学の場合はこの限りとしません。
- (2) 再入学を許可された者の退学または除籍前に修得した科目の単位は、特別の場合を除き認定する。

3. 学生証

学生証の確認・裏面シールの記入

学生証を受け取ったら、学籍番号・学科・氏名・生年月日など記載事項に誤りがないか確認してください。確認後、裏面シールに必要事項を記入してください。（通学定期券購入時に必要）
記載事項に誤りがある場合は、ただちに学生教務課に申し出てください。

学生証は常時携帯

学生証は、あなたが東京情報大学の学生であることを証明するものです。他人に貸与したり、譲渡したりしてはいけません。また、次のような場合は必ず提示できるよう“常時携帯”してください。

- ① 定期試験
- ② 成績表配布
- ③ 証明書・申請書の発行
- ④ 遺失物等の受け取り
- ⑤ 通学定期券の購入
- ⑥ 課外活動等用具及び図書の出し
- ⑦ その他、本学教職員から提示を求められたとき

※スマホケースに学生証を入れると磁気異常を起こす場合があります。

学生証を紛失・破損したとき

学生証を紛失（盗難を含む。）又は破損、汚損したときはただちに学生教務課（C 証明書）へ申し出て再交付の手続きをしてください。その際、自動発行機で発行する申請書（1,000円）が必要となります。

また、学生証を紛失したときは悪用されることがあるため、念のため警察に届け出をしてください。

試験当日学生証を忘れたとき

定期試験の時に学生証を忘れた場合には、学生教務課へ申し出て「仮学生証」（当日のみ有効）発行の手続きをしてください。その際、申請書代金（500円）が必要となります。

学生証の裏面シールは年次更新

裏面シールは在籍確認の証であり有効期限は1年間です。裏面シールを更新しないと学生証が無効になります。各自、学生教務課で受け取り、年度始めに新しい裏面シールに貼り替えてください。

なお、有効期間内であっても、通学定期乗車券発行控欄に記載できなくなったときは、その都度学生教務課へ申し出て貼り替えてください。

4. 通学定期券を購入する場合

通学定期券を購入する場合は、定期券販売窓口で購入申込書に学生証を添えて購入してください。

通学経路が、二つ以上の会社の路線にまたがる場合は、居住地または大学の最寄駅の指示に従ってください。

また、京成バス株式会社ではJR千葉駅から東京情報大学までの直行バス（ノンストップバス）を運行（路線化）しています。（所要時間25分程度です。）

利用する学生は、京成バスの定期券販売窓口で購入することができる、京成バス利用共通パス（キャンパスライフ、年間62,800円：2022年度予定額）が、定期券を購入するよりも安価となりますので、購入をお勧めします。

なお、直行バスの運行予定は以下のとおりとなっていますが、原則として大学授業日のみの運行で、大学の休日及び休業期間中は運行していませんので、ご注意ください。

【運行時間】（予定）

○往路：JR千葉駅発⇒東京情報大学行き

出発時刻（JR千葉駅 発）
8：20 8：30 10：10 12：15

※全便大学1号館前下車可

○復路：東京情報大学発⇒JR千葉駅行き

出発時刻（東京情報大学 発）
14：50 15：00 16：30 16：40

※全便大学1号館前乗車可

5. 住所変更等

学生（本人）住所、電話番号（自宅・携帯）が変わったとき

大学から直接学生諸君に連絡することがあります。転居等により住所、電話番号（携帯電話含む）が変わった場合は、「住所変更届」を学生教務課まで提出してください。

学生（本人）の氏名・本籍地および保証人（連絡人）の情報が変わったとき

変更手続きに必要な書類を用意し、学生教務課へ提出してください。

所定の届出書類は学生教務課で配付しています。

変更内容	手続書類等
学生氏名	改姓（名）届，個人調査票変更届，戸籍抄本
保証人（連絡人）の住所変更	住所変更届
保証人（連絡人）の変更	誓約書，個人調査票変更届，保証人・続柄が記載された住民票

6. 証明書・申請書の発行（自動発行機）

証明書・申請書の種類等

証明書・申請書の大半は、各自が自動発行機を操作のうえ発行することになります。

区分	名称	担当	@手数料金額 ※1
証明書	在学証明書（和・英）／大学院・学部	学生教務課	和：200円，英：500円
	成績証明書（和・英）／大学院・学部		和：200円，英：500円
	卒業見込証明書（和・英）／学部		和：200円，英：500円
	卒業見込・成績証明書（和）／学部		200円
	修了見込証明書（和・英）／大学院 ※3		和：200円，英：500円
	健康診断証明書（和）／大学院・学部		200円
	感染症検査結果・予防接種歴等証明書		200円
	学割／大学院・学部（原則1日4枚，年間10枚まで）		無料
申請書	入構許可申請／自動車（受付期間のみ）	学生教務課	2,000円
	入構許可申請／自動二輪・原付（受付期間のみ）		1,000円
	入構許可証再発行／自動車（許可者のみ）		1,000円
	入構許可証再発行／自動二輪・原付（許可者のみ）		500円
	学生証再発行		1,000円
	仮学生証発行（定期試験期間のみ）		500円
	IDカード再発行（看護学部のみ）		1,500円
	ネットワーク利用許可証再交付申請		情報セ ※2

※1 和：和文証明書，英：英文証明書

※2 情報セ：情報サービスセンター

※3 博士前期課程のみ

発行機操作手順（概略）

(1) 画面に表示される以下の手順に従って、操作してください。

- ① 発行機に学生証を挿入する。（仮学生証発行及び学生証再発行申請の場合は、学生教務課窓口へ来てください。）
- ② パスワードを入力する。（初期パスワードは、入学時のガイダンスでお知らせします。）
- ③ 必要な証明書（又は申請書）の種類と部数を入力する。

- ④ 画面に表示される入力内容を確認する。(発行後の手数料の返金はできません。)
 - ⑤ 画面に表示される合計手数料を入金する。
 - ⑥ 発行された証明書(又は申請書)を受け取る。
 - ⑦ 申請書は、該当の所管部署の窓口へ提出する。
 - ⑧ 卒業生は、発行された申請書を学生教務課(C 証明書)に提出する。(本人以外には証明書を発行できません。)
- (2) 証明書用の封筒は、室外に用意してあります。(封緘印が必要な場合は、学生教務課窓口(C 証明書)で貸し出します。)
- (3) 不明な点は学生教務課窓口(C 証明書)で確認してください。

利用時間

月曜～金曜 9:00～18:30 (大学の休業日を除く)

*長期休業中(春・夏・冬)の利用時間は、変更になることもあります。J-portで確認してください。

諸注意

- ◆健康診断証明書など発行期間、発行対象者が限定されるものもあるので、予め確認すること
- ◆学割証は1枚ずつ発行すること(紙づまり防止のため)
- ◆悪用されないよう、学生証及びパスワードの管理には留意すること
- ◆誤発行しないよう、操作は慎重に行うこと

7. 学割証

学割証とは

学生旅客運賃割引証の略称で、JRの鉄道、航路又は自動車線のいずれかの区間を、100kmを越えて旅行する場合、普通乗車券に限りJR・連絡社線とも全区間を2割引きで利用できるものです。

なお、学割証は学生の自由な権利として使用することを前提としたものではなく、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的として実施されている制度ですので、以下の目的をもって旅行する必要があると認められる場合に限り、発行することができます。

- (1) 休暇、所用による帰省
- (2) 実験実習並びに通信による教育を行う学校の面接授業及び試験などの正課の教育活動
- (3) 学校が認めた特別教育活動又は体育・文化に関する正課外の教育活動
- (4) 就職又は進学のための受験等
- (5) 学校が修学上適当と認めた見学又は行事への参加
- (6) 傷病の治療その他修学上支障となる問題の処理
- (7) 保護者の旅行への随行

発行方法

各自が自動発行機を操作して発行します。1回の発行は原則4枚以内(1枚ずつ発行すること)で有効期間は発行日から3ヶ月です。

使用上の注意

- ◆交付された学割証は、期限切れ又は計画変更等の理由で返却しても再交付は行いません。
- ◆学割証は、記名人に限り使用できるもので、他入に譲渡して使用させることはできません。
- ◆乗車券を購入する時は学生証を必ず携帯すること。
- ◆学割証で購入した割引乗車券を、他人に譲渡して使用させることはできません。
- ◆割引乗車券で乗車する場合は、必ず学生証を携帯しなければなりません。

上記に違反した場合は、不正使用となり普通運賃の3倍に相当する額の追徴金を徴収されるだけでなく、本学の信用が損なわれ、発行停止処分を受けることになります。

8. 団体旅行割引証

課外活動や研究活動等で旅行するとき、学生8名以上で本学教職員が引率する場合に適用されます（乗車券代の5割引）。

申込みは、JR及びJR指定業者から指定の用紙をもらい、学生教務課（B 課外活動）で証明を受けてください。申込期間は、列車、連絡船は出発日の9ヶ月前から14日前までです。

9. 車両通学

本学は車両（自動車・自動二輪車・原動機付自転車）による通学を許可しています。希望者は、大学主催の「安全運転講習会」（4月上旬開催）に必ず参加してください。不参加かつ未許可のまま通学した場合、学則上の処分を含め厳格に対処します。また、学生駐車（輪）場以外の駐車（輪）、学内走行は禁止です。[別冊子「諸規則諸規程」のP.52「東京情報大学車両通学要領」参照]

また、毎年本学学生との関係する交通事故が多発しています。交通事故は当事者間の責任となりますので、通学途上はもちろん、日常生活においても常に安全運転を心掛け、事故防止に努めてください。本学では車両通学許可の絶対条件として「任意保険の加入」を義務付けています。学内での車両に関するトラブル（盗難・あて逃げ等）について、本学は一切の責任を負いません。各自、自己管理を徹底してください。

なお、近年、自転車の交通法規違反、未整備車両の事故等が社会問題となっています。大学では、許可制をとっていませんが、自転車通学についても交通法規等を遵守してください。また、万が一事故の加害者となった場合に備えて、あらかじめ「自転車保険」に加入しておくことを強くおすすめします。

申請許可手順

- ① 大学主催の「安全運転講習会」に参加
- ② 必要書類を締切期限までに学生教務課（B 課外活動）に提出
- ③ 許可証の交付
自動車：入構許可証（紙）
自動二輪車・原動機付自転車：入構許可カード

申請期間・更新

許可期間：交付日～翌年度5月末

更新締切日：毎年5月末

※更新を希望する場合は、学生教務課（B 課外活動）にて申請書類を配布します。

臨時許可証

課外活動（翔風祭時など）や本人の申請等でやむを得ない場合、期間を限定し、臨時許可証を交付する場合があります。学生教務課（B 課外活動）にて相談して下さい。

10. 学内施設・貸出し用具

学内施設はそれぞれ決められたルールに従って利用してください。また、学生教務課（B 課外活動）では運動用具等の貸出しを行っています。希望者は学生証を提示して申し込んでください。

学内施設の利用

学内施設の利用可能時間は下記のとおりです。いずれも休日及び大学の休業日を除く月曜日から金曜日に限りです。夏季及び冬季における学生の休業期間中は変更となる場合がありますので、事前に確認してください。なお、保守管理の都合上、第1グラウンド及び第2グラウンドの一般学生への貸し出しは行っていません。（詳しいことは別冊子「諸規則諸規程」のP.54「東京情報大学学生会館使用要領」、P.55東京情報大学部室及び同好会室使用要領、P.56「課外活動における教室使用要領」P.57「東京情報大学体育館アリーナ使用要領」を参照）

施設名	利用時間	利用上の注意
6号館（学生会館ピオーネ）	8：00～22：00	共用施設（多目的ホール、和室、会議室）の利用はゼミ及び学友会各団体に限る。
3号館（体育館）アリーナ	9：00～20：00	ゼミ及び学友会各団体に限る。
学生会館前広場	9：00～20：00	ゼミ及び学友会各団体に限る。
部室及び同好会室	8：00～21：00	学友会団体に限る。
教室	16：30～19：00	ゼミ及び学友会各団体に限る 事前の届け出が必要
コンピュータ実習室	9：00～21：00	授業に使用しない時間帯に限る。 P.187、および別冊子「諸規則諸規程」P.62を参照
4号館（総合情報センター）「ライブラリー・エリア」	9：00～20：00	P.185、および別冊子「諸規則諸規程」P.66を参照

※休日、夜間等に利用する場合は全ての施設で事前に届け出が必要

運動用具の貸出し

学生教務課にある貸出し表に記入すれば、使用責任者の学生証と引き換えに貸出します。

現在用意してあるのは、野球用具（クラブ・軟式ボール）、サッカーボール、バレーボールなどですが、数に限りがあり利用者も多いことから常時使用できるとは限りません。

使用後は、直ちに返却してください。

空気入れ等の貸出し

自転車利用者のために「空気入れ」と「潤滑油」を用意しています。

「空気入れ」は1号館1階警備室横にありますので、ご自由に利用してください。

「潤滑油」を希望する者は、学生教務課で学生証を提示し、申し出てください。

11. スクールバスの利用・申込

ゼミ活動・研究室の研修旅行・課外活動団体の試合・合宿などへ出かける場合、以下の要領に従って大学のスクールバスを利用することができます。（原則としてゼミ担当教員・部長・顧問の引率を必要とします。）

なお、詳細については学生教務課（B 課外活動）で問い合わせください。

運行の条件

(1) 乗車人数	20人以上55人以下
(2) 運行時間	1日8時間以内
(3) 運行地域	原則として、関東圏内および宮城県・福島県・山梨県・新潟県・静岡県・愛知県・岐阜県

申込方法・許可

(1) 利用申込	利用申込期間は、利用希望日の3ヶ月前から3週間前までに、「スクールバス利用願」を学生教務課（B 課外活動）へ提出してください。
(2) 利用許可	バスの利用目的・空き状況等を確認後、利用を許可します。 (利用できない場合もあります。)

利用料金

(1) 燃料代	走行距離1kmにつき130円
(2) 運行者委託費用	1日につき10,000円
(3) 有料道路・有料駐車場代	実費負担
(4) 運転者宿泊代	実費負担
(5) その他運行に要した諸費用	実費負担

※片道利用の場合でも往復料金を請求いたします。

12. 学費納入

学費の納入方法

(1) 分割納入

学費のうち授業料、整備拡充費および実習演習費については、1年分を2回に分けて、分納1回目を4月に、分納2回目を9月に納入することができます。

なお、1年分の学費を前期に一括納入し、学年の途中で退学した場合等には、原則として学費の返還はできません。

(2) 納入通知

納入方法・納入期日については、大学（総務課）から保証人（父母等）宛に、文書をもって通知します。

休学者についての取り扱い

休学した場合の授業料・実習演習費は、以下の計算式により算出します。

なお、授業料・実習演習費以外の学費は、減額の対象とはなりません。

※休学者の学費は、在籍料として徴収します。

授業料	$(\text{年間授業料の半額} / 12) \times \text{在学月数} + \text{年間授業料の半額}$
実習演習費	$(\text{年間実習演習費} / 12) \times \text{在学月数}$

復学者についての取り扱い

休学期間が終了し、年度の始めに復学した学生の学費は、復学した学年にかかわらず在籍することとなった学年の学費と同額とします。

なお、学年途中で復学した学生の授業料は、復学した月から月割計算した額とします。

原級者についての取り扱い

原級となった場合の学費は、原級した学年にかかわらず在籍することとなった学年の学費と同額とします。

留年者についての取り扱い

学部4年次において留年した場合の学費は、当該年度の4年次の学費と同額とします。

また、博士前期課程2年次、博士後期課程3年次において留年した場合の学費は、留年した学年の学費と同額とします。

再入学者についての取り扱い

再入学した学生の学費は、再入学する学年の納付額と同額とします。

学費延納願

災害、倒産、家計支持者の死亡等『特別な事情』により、学則に定められた期日までに納入できない場合は、所定の手続きにより承認された場合に限り、納付期限から起算して3ヶ月以内の延納を許可しています。手続きは『学費延納願(所定様式)』に理由を明記し、学生(本人)・保証人連署のうえ、学生教務課(A奨学金・学費)へ申請して下さい。

総合情報学部（平成29年度以降の入学者に適用）

（単位：円）

	入学金	授業料	実習演習費	整備拡充費	学生 厚生費	その他の諸会費	合計
1年次	270,000	分納1回目分 390,000 分納2回目分 390,000	分納1回目分 45,000 分納2回目分 45,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	22,500	教育振興会費 2,000 後援会入会金 10,000 後援会費 10,000 校友会入会金 5,000 学友会費 10,000 合計 37,000	分納1回目分 854,500 1年分 1,379,500
2年次		分納1回目分 405,000 分納2回目分 405,000	分納1回目分 45,000 分納2回目分 45,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	教育振興会費 2,000 後援会費 10,000 学友会費 20,000 合計 32,000	分納1回目分 584,500 1年分 1,124,500
3年次		分納1回目分 420,000 分納2回目分 420,000	分納1回目分 45,000 分納2回目分 45,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	教育振興会費 2,000 後援会費 10,000 学友会費 20,000 合計 32,000	分納1回目分 599,500 1年分 1,154,500
4年次		分納1回目分 435,000 分納2回目分 435,000	分納1回目分 45,000 分納2回目分 45,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	教育振興会費 2,000 後援会費 10,000 校友会終身会費 15,000 学友会費 20,000 合計 47,000	分納1回目分 629,500 1年分 1,199,500
合計	270,000	3,300,000	360,000	720,000	60,000	148,000	4,858,000

*原級・留年者の納付金は、当該学生が在籍することになった学年の額を徴収する。

*編入学生の納付金は、原則として、編入学した学年が適用を受けている学則によって定められた学年の額を徴収する。

看護学部（平成29年度以降の入学者に適用）

（単位：円）

	入学金	授業料	実習演習費	整備拡充費	学生 厚生費	その他の諸会費	合計
1年次	270,000	分納1回目分 500,000 分納2回目分 500,000	分納1回目分 75,000 分納2回目分 75,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	22,500	教育振興会費 2,000 後援会入会金 10,000 後援会費 10,000 校友会入会金 5,000 学友会費 10,000 合計 37,000	分納1回目分 994,500 1年分 1,659,500
2年次		分納1回目分 550,000 分納2回目分 550,000	分納1回目分 140,000 分納2回目分 140,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	教育振興会費 2,000 後援会費 10,000 学友会費 20,000 合計 32,000	分納1回目分 824,500 1年分 1,604,500
3年次		分納1回目分 600,000 分納2回目分 600,000	分納1回目分 140,000 分納2回目分 140,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	教育振興会費 2,000 後援会費 10,000 学友会費 20,000 合計 32,000	分納1回目分 874,500 1年分 1,704,500
4年次		分納1回目分 650,000 分納2回目分 650,000	分納1回目分 140,000 分納2回目分 140,000	分納1回目分 90,000 分納2回目分 90,000	12,500	教育振興会費 2,000 後援会費 10,000 校友会終身会費 15,000 学友会費 20,000 合計 47,000	分納1回目分 939,500 1年分 1,819,500
合計	270,000	4,600,000	990,000	720,000	60,000	148,000	6,788,000

*原級・留年者の場合は、当該学生が在籍することになった学年の額を徴収する。

	入学金	授業料	演習費	整備拡充費	その他の諸会費	合計
博士前期課程 1年次	270,000	分納1回目 390,000 分納2回目 390,000	分納1回目 80,000 分納2回目 80,000	分納1回目 75,000 分納2回目 75,000	教育振興会費 2,000 校友会入会金 5,000 合計 7,000	分納1回目分 822,000 1年分 1,367,000
博士前期課程 2年次		分納1回目 405,000 分納2回目 405,000	分納1回目 80,000 分納2回目 80,000	分納1回目 75,000 分納2回目 75,000	教育振興会費 2,000 校友会終身会費 15,000 合計 17,000	分納1回目分 577,000 1年分 1,137,000
合計	270,000	1,590,000	320,000	300,000	24,000	2,504,000
博士後期課程 1年次	270,000	分納1回目 420,000 分納2回目 420,000	分納1回目 80,000 分納2回目 80,000	分納1回目 50,000 分納2回目 50,000	教育振興会費 2,000 校友会入会金 5,000 合計 7,000	分納1回目分 827,000 1年分 1,377,000
博士後期課程 2年次		分納1回目 435,000 分納2回目 435,000	分納1回目 80,000 分納2回目 80,000	分納1回目 50,000 分納2回目 50,000	教育振興会費 2,000 合計 2,000	分納1回目分 567,000 1年分 1,132,000
博士後期課程 3年次		分納1回目 450,000 分納2回目 450,000	分納1回目 80,000 分納2回目 80,000	分納1回目 50,000 分納2回目 50,000	教育振興会費 2,000 校友会終身会費 15,000 合計 17,000	分納1回目分 597,000 1年分 1,177,000
合計	270,000	2,610,000	480,000	300,000	26,000	3,686,000

*原級・留年者の納付金は、当該学生が在籍することになった学年の額を徴収する。

13. 学内の奨学金制度

特待生制度

人物・学業成績ともに優秀な学生に対して、授業料の半額を免除する制度です。

この制度は、大学が毎年度ごとに成績優秀者の中から一定数選抜するものです。採用された場合は本人及び保証人宛に通知します。【別冊子「諸規則諸規程」のP.36「東京情報大学特待生細則」参照】

東京情報大学提携教育ローン制度

本学では、在学生専用の教育ローンとして、金融機関との提携を行い「提携教育ローン制度」を行っています。これは、大学が行う奨学金制度等の付帯サービスとして行うもので、一般の教育ローンよりも「手続きの簡素化」、「優遇金利」等のサービスを提供できるものとなっています。

利用にあたっては、学生教務課（A 奨学金・学費）でご相談ください。

14. 学外の奨学金制度

学業・人物ともに優秀で経済的理由により修学が困難な学生に対して、各種の奨学金制度があります。本学で取り扱っている奨学金には、本学独自の奨学金の他に都道府県・市町村等地方公共団体の奨学金等があります。

日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学金には、第一種奨学金(無利子)と第二種奨学金(有利子)の二種類があり、場合によっては併用して貸与を受けることも可能です。奨学生の採用は、日本学生支援機構が直接行うのではなく、大学を通じて行われます。本学では毎年4月(定期採用)に『日本学生支援機構奨学金説明会』を開催し、奨学金の説明と申込書の配布を行いますので、貸与を希望する方は必ず参加して下さい。

[奨学金の概要]

種類	貸与金額		利子	推薦数 (2021年度定期採用実績)
第一種奨学金	学部	自 宅：2万、3万、4万、5万4千円/月 自宅外：2万、3万、4万、5万、6万4千円/月	無利子	1年次生：85名※2 2年以上：4名※2
	大学院	博士前期：5万、8万8千円/月 博士後期：8万、12万2千円/月		博士前期課程：2名 博士後期課程：0名
第二種奨学金	学部	2万円から12万円のうち1万円単位で選択	※1 有利子	1年次生：154名 2年以上：10名
	大学院	5万円、8万円、10万円、 13万円、15万円の中から選択		博士前期課程：1名 博士後期課程：0名

※1 年3%を上限とした金利（「固定・変動」選択可）です。金利は卒業後の返還時にかかるため、在学中は金利がかかりません。

※2 1年次生：高校3年の成績の平均が3.5以上の者
2年次生以上：大学の成績が申請本人の所属する学科の上位1/3以内の者

修学支援新制度について

東京情報大学は、「高等教育の修学支援新制度」<https://www.mext.go.jp/kyufu/>（文科省）の対象校となっています。この制度は、入学予定者や在学生に対して、「授業料等減免」や「給付型奨学金」の支援が受けられる制度です。希望者は学生教務課主催の「定期採用説明会」に参加をしてください。参加者には、申請に必要な諸手続きの書類を配布します。

日程	内容	備考	担当窓口
4月初旬	定期採用説明会開催	年1回募集	学生教務課
6月初旬	減免対象者の認定・通知		学生教務課
	「分納1回目納付書 ※1」発送	期日：7月末日	総務課
7月初旬	「継続願」提出（後期分）		学生教務課
11月初旬	「分納2回目納付書 ※1」発送	期日：12月末日	総務課
翌年2月初旬	「継続願」提出（翌年度前期分）		学生教務課

※特待生など大学の減免制度を適用されている方は、大学の制度による減免後の額に対して、国の制度を適用します。

※納付書発行以降に減免対象となった場合は、減免を反映した納付書を再発行します。なお、総額を納付済の場合は、減免額決定分を返金いたします。

日本学生支援機構（以下、JASSO）のホームページから「進学資金シミュレーター」で、新制度の対象となるかどうかのおおよその確認が可能です。ご活用ください。

○進学資金シミュレーター

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html>

（試算によるものであるため、実際に申し込んだ場合の結果とは必ずしも一致しません）。

その他の奨学金

各都道府県・市区町村等により募集の時期・方法等が異なりますので、大学に募集依頼がありしだい J-portでお知らせします。また、大学に連絡のない奨学団体もありますので出身地の市区町村などに各自直接問い合わせをして下さい。また、他団体に奨学金を申込み、学校の推薦状が必要な場合は、募集要項を持参の上、学生教務課（A 奨学金・学費）まで申請してください。



15. 学生生活をバックアップ

食堂・ブックセンター・売店

キャンパス内に、学生、教職員のために下記の施設が設けられており、食堂内には自販機コーナーも置かれています。なお、食堂は全てセルフサービスになっていますので、食後の食器は各自で返却コーナーへ戻してください。

また、昼食時間帯は大変混雑しますので、次の利用者のためにも食事終了後はなるべく早く席を空けるようにしてください。

名称	営業時間(月～金)
食堂	11:00～15:00
ブックセンター	10:30～17:00
売店	9:00～17:00
サブウェイ	10:00～15:00

※営業時間は状況により変更される場合があります。

住居

アパート等で一人暮らしをしている学生は、入居中のトラブルについてはいつでも遠慮なく相談してください。

本学の学生が入居しているアパート付近の住民の方から、夜遅くまで騒がしい、ゴミの始末が悪い、自動車やバイクの迷惑駐車が多いなどの苦情が大学に寄せられることがあります。自宅を離れてアパートに住むと世帯主としての責任もあります。地域の一住民として地域社会に融合した生活を心がけてください。

なお、悪質と思われる行為をしている者については、学生教務課に呼出し厳重に注意します。

アルバイト紹介

学生生活を維持するためにアルバイトをする必要のある学生に、アルバイトを紹介しています。

学生教務課では、学生に相応しい職種や業種をできる限り紹介するようにしています。アルバイトの目的は人それぞれですが、学業や生活を犠牲にしてまで行うことはやはり避けなければなりません。

なお、新生入生はできるだけ学生生活のリズムができてからアルバイトを行うようにしてください。

◎アルバイトの紹介方法

「アルバイト求人票」を1号館(本館棟)1階入試・広報課前の“学生教務課掲示板”に掲示します。就労条件を確認して直接求人元と連絡をとってください。

◎学生にふさわしくない職種

- ① 危険をともなうもの……………自動車、バイクの運転
高所での作業
経験を要する機械作業
有害な薬物等の取扱作業
- ② 法令に違反するもの……………マルチ、ネズミ講商法など
- ③ 教育的に好ましくないもの……………風俗営業の現場作業
ギャンブル場内の現場作業
セールス、勧誘
深夜(夜10時以降)におよぶ勤務
選挙の応援に関する業務
- ④ その他……………ア) 人命にかかわる恐れのあるもの
イ) 明らかに勉学に支障をきたす内容のもの
ウ) 労働条件が不明確なもの
エ) 出来高制で最低賃金の保障のないもの

学生教務課では、以上のような職種については、求人受付を制限しています。

アルバイト・求人情報サイトや求人情報誌などには、このような求人もかなり多く、トラブルのもとになって

いるようです。大学以外の紹介でアルバイトを行う場合も、上記のような職種は避けるよう注意してください。

◎トラブルが生じた場合

アルバイト先で（大学の紹介先でなくても）トラブルが生じた場合は、学生教務課窓口で相談してください。

16. 悪徳商法にご用心

若者を狙う悪徳商法は様々な手口で君たちを狙っています。「こまったな、どうしよう」、「ちょっとへんだぞ」、「おかしい」などと思ったら絶対にサインしないでください。また、万が一契約した（契約させられた）場合でも『クーリング・オフ』制度で解約できる場合がありますので、決して泣き寝入りしないで、できるだけ早く学生教務課か消費者センターに相談してください。

※参考までにクーリングオフができるのは、申込日から8日以内です。

悪徳商法の手口

◆電話で呼出す……………「アポイントメント商法」

◆路上で声をかけてくる……………「キャッチセールス商法」

◆割りのいいバイトがあると誘う……………「マルチ（まがい）商法」

「友人を誘うだけで金もうけができる」、「月収100万円も夢ではない」という話に注意が必要です。

◆その他……………「デート商法」、「かたり商法」、「レンタルビデオ商法」、「架空請求」

（注）大学が保護者等に学生の電話番号を尋ねることはありません。不審電話に気をつけましょう。

悪徳商法に引っかからないための6か条

- ① 簡単にドアを開けずに名前と目的を聞こう。
- ② うますぎる話には落とし穴があると疑う。
- ③ あいまいな話はせず、勇気をもってはっきりと「いません!」と言う。
- ④ 一人で決めずに、家族や知人に相談する。
- ⑤ 簡単に書くな署名、押すな印鑑
- ⑥ すぐにお金を払わずに、『クーリング・オフ』制度 ※を有効に使う

※商品が不要であると判断した時、一定期間内（契約書面受領日から20日以内）であれば消費者から業者に対し、一方的に無条件で「申し込みの撤回」「契約の解除」ができる制度。ただし、一定の条件を満たす必要があります。

被害にあいそうになったら

□相談窓口

◎千葉市消費生活センター 消費者相談電話 043-207-3000

月～金、第2・4土曜日 9:00～16:30（日祝日と年末年始を除く）

<http://www.city.chiba.jp/shimin/seikatsubunka/shohi/index.html>

◎千葉県消費者センター 消費生活相談窓口

電話 047-434-0999 / ファクス 047-431-3858

月～金 9:00～16:30

土 9:00～16:00（日祝休日と年末年始を除く）

<http://www.pref.chiba.lg.jp/customer/index.htm>

17. 健康管理

本学では、学生及び教職員の健康の保持増進を図るために医務室を設けて、学校保健安全法に基づく定期健康診断の実施、感染症予防対策の実施等を行うほか、心と体の健康相談等も行っています。

医務室では、学校医、看護師が在室し健康相談等に応じています。また、学生相談室（カウンセリングルーム）では専門のカウンセラーが相談に応じてます。医務室及び学生相談室では、障害を持った学生の相談にも応じていますので、気軽に相談してください。

医務室

開室時間：9：00～17：30（月曜日～金曜日） TEL：043-236-1109 E-mail：imu01@affrs.tuis.ac.jp

※開室時は看護師が待機しています。

※閉室時は学生教務課窓口に申し出てください。

学 校 医：学校医（医師）が健康上の相談に応じます。

※在室日はJ-portでお知らせします。

医務室では下記について対応しています。

- 体調不良時の対応及び外傷時の応急処置
- 健康相談
- 健康診断の再検査及び面談
- 感染症予防対策の実施（感染症罹患歴・ワクチン接種歴の調査・ワクチン接種勧奨・感染症罹患時の手続きについて）
- 身長・体重・血圧測定などを行っています（自由に測定して健康管理に役立ててください）

※医務室では医薬品（内服薬・外用薬等）をお渡しすることはできません。常備薬がある学生は携帯するようにしてください。なお、医療機関などのご案内をしますので、ご相談ください。

学生相談室（カウンセリングルーム）

申込方法：①直接学生相談室（カウンセリングルーム）または医務室で利用申込みを行う。②電話（学生相談室：TEL043-236-1194，医務室：TEL043-236-1109）で利用申込みを行う。③担任教員に相談し、教員を通じて申込む。

相談場所：5号館3階学生相談室（カウンセリングルーム）

相談日時：原則として週5回実施【本年度は、月～金曜日の11：00～17：00】（学生の長期休業期間は、原則閉室）
※詳細日程等は、学生相談室および医務室前掲示板に掲載しています。

相談内容：○大学生活全般について（学業、進路、課外活動、友人関係）

○自分の性格や適正、能力等について

○人生観や価値観、家族や家庭等のことについて

○心身の健康（不安・うつ状態・対人ストレスなど）について

そ の 他：相談者の秘密は絶対に守ります。学生のみではなく、父母（保護者）からの相談もお受けしています。

こことからの相談窓口24（外部委託：ティーペック株式会社）

- ・24時間電話健康相談サービス（フリーダイヤル 0120-301-424 年中無休）
- ・Webによる相談（<http://t-pec.jp/websoudan/> ユーザー名：j-soudan パスワード：j-soudan 年中無休）
- ※この相談は、上記の大学内の学生相談室（カウンセリングルーム）とは直接連動していません。

定期健康診断

毎年所定の時期（4月）に定期健康診断を実施します。

この健康診断は、学校保健安全法に基づき学生の健康増進と学内保健管理のために行われるものであり、必ず受けなければなりません。検査結果に所見のある学生については、精密検査の受検などの指示を与え、疾病の早期発見に努めています。

健康診断証明書・感染症検査結果証明書発行について

定期健康診断を受診した学生には「健康診断証明書」を発行することができます。

定期健康診断時に感染症抗体価検査を実施した学生には、「感染症検査結果証明書」を発行することができます。
(予防接種歴を証明する母子健康手帳等のコピーの提出が必要です。)

学校において特に注意すべき感染症について

本学では、感染症の流行を防ぐために、大学が病気になった学生を出席停止にしたり、臨時休講にすることがあります。これは学校保健安全法に規定されており、学校保健安全法施行規則では、下記の感染症が指定されています。

大学は集団生活の場であり、感染症等が流行しやすい環境です。感染症と診断されたら速やかに医務室に連絡し、原則医師が感染のおそれがないと認めるまで登校しないようにしてください。(出席停止となります)

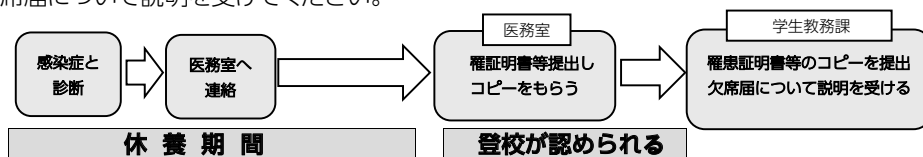
看護学部の実習中における感染症罹患後の対応に関しては、実習の手引に記載された内容に従って出欠の有無を決定しますが、その際、実習担当教員にも相談してください。

【学校保健安全法施行規則に規定されている感染症の種類・出席停止の期間の基準】

	感染症の種類	出席停止の期間の基準
第1種	まれだが重大な感染症	
	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、鳥インフルエンザ(H5N1)、新型コロナウイルス(COVID-19)	治癒するまで
第2種	学校において流行を広げる可能性が高い感染症	
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ(H5N1)を除く。)	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日経過し、かつ、全射状態が良好になるまで
	風疹(三日ばしか)	発しんが消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	
第3種	学校において流行を広げる可能性がある感染症	
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症(O-157)、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎(アポロ病)、その他の感染症〔溶連菌感染症、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感染症、感染性胃腸炎など〕	医師が伝染のおそれがないと認めるまで

罹患等証明書の提出について

感染症が治り医師により登校が認められた場合は、感染症名と出席停止期間が記載された証明となるもの(罹患証明書・登校許可書・治癒証明書等のいずれか)、または大学所定用紙に医療機関で証明を受け、速やかに医務室に提出してください。授業を欠席し公欠的な取り扱いを希望する場合、医務室から証明書類のコピーをもらい、学生教務課へ提出し、欠席届について説明を受けてください。



*インフルエンザについては、罹患証明書は必要ありません。

診断が証明できるものを(下記のうちどれか1つ)医務室に提出してください。

- ①検査結果用紙(氏名の記載がない場合は、領収書または診療明細書を添付する)
- ②抗インフルエンザ薬の服用説明書(本人氏名の記載があるもの)



③領収書・診療明細書(抗インフルエンザ薬の記載があるもの)

*新型コロナウイルス感染症については、J-port等をみて最新の情報を確認してください。

予防接種について

【総合情報学部】

本学では感染予防対策として、入学時に、学校等集団生活で流行しやすい感染症(麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎)について、罹患歴・予防接種歴を調査しています。

必ず保護者または母子健康手帳等で確認をお願いします。

1. 調査する感染症：麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎
2. 調査方法：入学時に罹患歴、予防接種歴を調査票にて実施

※ 教職課程を受講する学生は教育実習先等から感染症について証明書の提出が求められます。1学年後期に母子健康手帳等による予防接種歴の調査と2学年で抗体価検査(血液検査)を行います。

【看護学部】

看護学部では、様々な医療施設や福祉施設等において看護学実習を行います。施設内では様々な疾患を抱えている方が多く、学生が感染症に罹患する可能性が高い(学生が感染させる可能性も高い)ため、感染症に罹りにくい状態(感染症の抗体を持った状態)で実習を行うことを義務付けています。

つきましては下記の感染症について、抗体価検査(血液検査)、レントゲン検査を入学時(1年次)の健康診断時に実施します。抗体価が低く(抗体がない)かつ2回の予防接種記録が確認できない場合(B型肝炎は3回)は、(C型肝炎と)結核を除き、医療機関でのワクチンの接種が必要となります。

1. 対象となる感染症

麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎・C型肝炎・結核・インフルエンザ

2. ワクチン接種について

- 1) 入学時健康診断終了後5月に、検査結果をお知らせします。
- 2) ワクチン接種が必要な項目や方法については、学生個人に看護学部教員より説明します。
- 3) ワクチンの接種は、最寄りの医療機関で、自費にて、対応をお願いします。
- 4) インフルエンザに関しては毎年接種して頂きますが、10月以降に大学からお知らせがあります。

18. ハラスメントの防止

本学では、ハラスメントのないキャンパスにするため、本学全ての構成員(学生、教職員、教育研究に係わる者)は互いの人格を尊重し、協力して教育・研究・就業にふさわしい環境を作り出すことを基本としています。

- 1) ハラスメントの定義

- (1) セクシャルハラスメント

セクシャルハラスメントとは、相手を不快にさせる性的な言動を指します。

- (2) アカデミックハラスメントとは

アカデミックハラスメントとは、教育・研究の場において行われる嫌がらせの言動で、相手の勉学・研究意欲や学習・研究環境を害する行為を指します。

- (3) パワーハラスメント

パワーハラスメントとは、教職員や上級生、職務上で優越的地位にある者が、優位な地位を背景に圧力を加え、権利・名誉や人格を著しく傷つけ、精神的、身体的苦痛を与えるような言動を指します。

- (4) その他のハラスメント

- アルコールハラスメント

アルコール飲料に絡む嫌がらせ全般を指す言葉で、イッキ飲みの強要や酩酊状態に陥ったものが行う各種迷惑行為など反社会的な迷惑行為のことです。

- SNSハラスメント

SNSを使ってブログや掲示板に、個人を特定した誹謗中傷等の書き込みをすることです。

- 2) ハラスメントが起きた場合の対応

ハラスメントを受けた、あるいは身近でハラスメントが起きた場合は、その継続と拡大を防ぎ、早急に解決することが求められますので、下記のハラスメント相談員や信頼できる教職員などに気軽に相談してください。ハラスメント相談員や防止委員会が、あなたのプライバシーを守りつつ、問題の解決に努めます。

[ハラスメント相談員一覧]

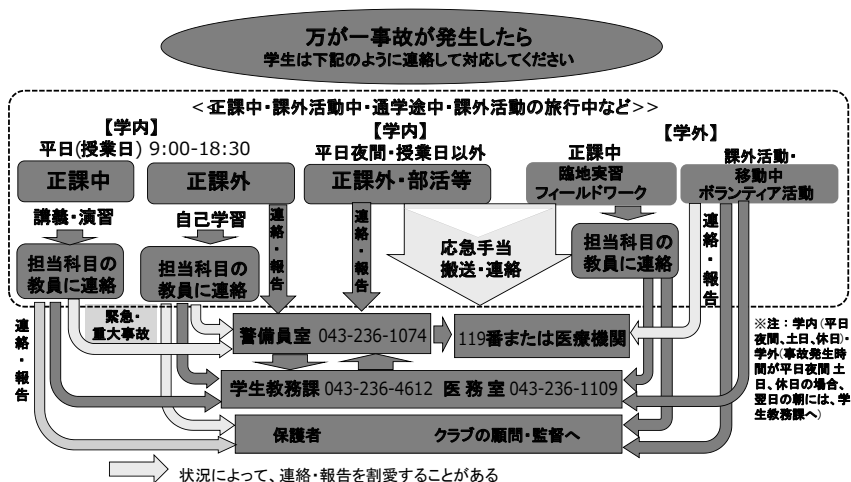
区分	氏名	職名	学内連絡先（電話）	学内連絡先（メール）
学生相談室相談員	山口 豊		学生相談室直通 ☎043-236-1194	yutaka@rsch.tuis.ac.jp
学校医	荒木 慶彦		医務室直通 ☎043-236-1109	imu01@affrs.tuis.ac.jp
看護師	戸賀 由美			
//	矢代 貴子			
教務職員	茂住 和世	准教授	756 研究室 ☎043-236-4635	mozumi@rsch.tuis.ac.jp
//	高橋 洋平	助教	776 研究室 ☎043-236-1369	y3takaha21@rsch.tuis.ac.jp
//	山野内靖子	准教授	3106 研究室 ☎043-236-4659	s3yamano21@rsch.tuis.ac.jp
//	時田 礼子	助教	3206 研究室 ☎043-235-7251	rt207178@affrs.tuis.ac.jp
学生教務課員	田中久美子	学生教務課長補佐	学生教務課 ☎043-236-4612	ktanaka@affrs.tuis.ac.jp

19. 事故・災害について

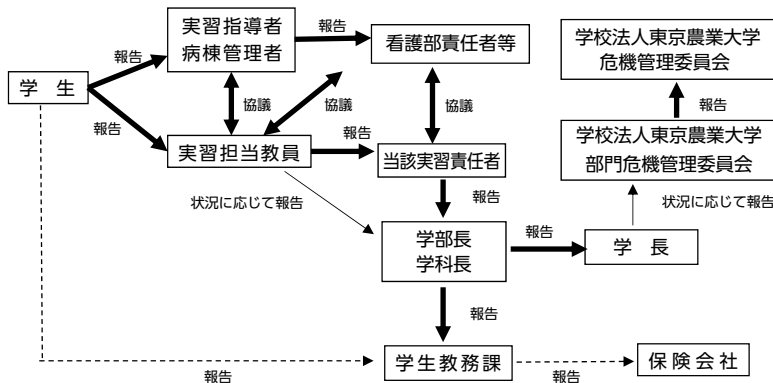
事故や災害が起きないように、日頃から事故や災害の元になる出来事を排除すること。さらに、危険に気付いたときは、教職員や学生同士で情報交換を行うことが大切です。

仮に、事故や災害が起きてても、失うもの・失うこと（健康・財産・立場など）を最小限にするために、ケガをしないように、貴重な物品を破損や焼失しないようにする対応が重要です。

事故や災害が起きてしまったときは、①二次災害を防ぐために、できるだけ危険な状況から離れることが大切です。②一人で、対応しようと考えないで、助けを求めてください。図にあるように、どこで事故や災害に遭ったかで、学内か学外か、教職員をはじめとして対応に責任が取れる人が周囲にいるかどうかで、対応方法が異なります。



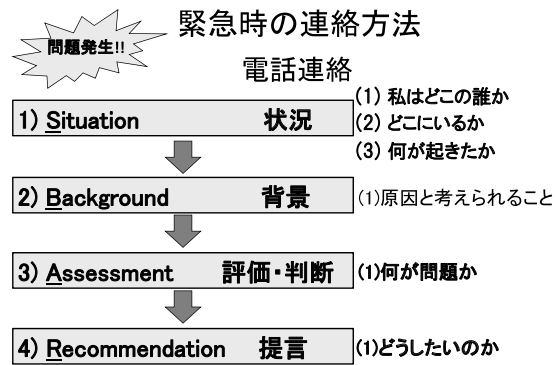
【実習時の事故発生対応】 看護学部の場合



→ : 事故発生当日中に報告・協議する
 - - - : 必要に応じて報告する

緊急連絡

救助を求めるための連絡方法を、図に示します。事故や災害が発生した直後は、気持ちが動転して、状況を端的に伝えられないことがあります。図は、SBAR（エスパー）と呼ばれている緊急連絡の方法です。



学生教育研究災害傷害保険（略称：学研災）

学研災は、学生が正課中あるいは課外活動中の不慮の事故により、負傷または死亡といった災害を受けた場合に補償救済する制度です。

本学では、教育研究の円滑な実施のため入学の時から全員加入となっております。万一、次のような状態で事故にあった場合は、直ちに学生教務課（B 課外活動）に申し出てください。

- ① 正課中
- ② 学校行事に参加している間
- ③ ①②以外で学校施設にいる間
- ④ 学校施設以外で大学に届け出た課外活動を行っている間

（※本学は上記保険の「通学中等傷害危険担保特約」も付帯しています。）

また、通学の経路上で事故に遭遇した場合は、保険の対象になりますので、その場合も直ちに学生教務課（B 課外活動）に申し出てください。ただし、次のような場合（合理的通学と認められないもの）は対象となりません。

- ・大学から車両での通学が認められていない学生の事故
- ・通常の通学経路から逸脱している場合（寄り道した場合）
- ・大学からアルバイト先へ向かう途上での事故

以上の他にも、上記特約の対象にならない場合がありますが、事故に遭って負傷した場合は、念のため直ちに報告してください。

なお、学外でボランティアを行う場合、所定様式による事前届出と承認が必要になります。

20. 学生への連絡及び注意事項

J-portによる連絡

携帯電話やPCから、インターネットを通じて、授業の休講情報や奨学金情報等の学生生活で重要かつ必要な情報をお知らせしているものです。

◇ 掲示内容について

大学では、高校担任のHRのような、毎日の連絡事項をお知らせする人はいません。担任の先生の役割が、J-portになりますので、毎日必ず確認してください。

〔各種連絡事項内容〕

* お知らせ

⇒事務局からの各種連絡事項です

* 授業やゼミ・教職等に関するもの

⇒授業の休講情報や教室変更など

* 就職に関するもの

⇒就職ガイダンスや就職活動に役立つ情報など

* 呼び出し

⇒緊急の場合があるので、よく確認してください

* 学生生活全般に関するもの

⇒各種奨学金情報や留学生関連の情報など

家を出る前にJ-portを毎日確認!!

J-portの利用については、P53「web情報システム「J-port」の利用」を参照

電話による連絡

遺失物で持ち主が判明した場合あるいは緊急を要する場合は、携帯または自宅の電話に連絡します。

休講に関する取り扱い

休講の連絡は、J-portで行いますが、休講表示がなく始業時から30分が経過しても何の連絡もない場合は、学生教務課（D 履修）に問い合わせる指示を受けてください。

補講に関する取り扱い

休講その他により補講が必要であると認められる場合には、学期末の補講日または平常時間（主に5時限目以降）などを利用して補講が行われます。

補講の日時・教室等は、その都度、J-portで連絡します。

交通機関の運行停止等による授業の取り扱い

首都圏内の交通機関のうち、JR各線又は関係主要各線がストライキや自然災害等によって運行を停止した場合の取り扱いは、おおむね以下のとおりとします。

- (1) 始発時まで全面解決又は復旧した場合には、当日の授業を行う。
- (2) 午前7時まで全面解決又は復旧した場合には、2時限より授業を行う。
- (3) 午前7時を経過しても未解決又は復旧しない場合には、当日の授業をすべて休講とする。
- (4) 対象とする路線を次のとおりとする。

JR東日本（総武線、総武本線、成田線、京葉線）
千葉都市モノレール
京成バス（千葉－情報大正門間、都賀－情報大正門間）

学内広報誌の発行 「CAMPUS NOW!」

本学では、大学の出来事や行事、随想、あるいは意見や疑問に役立つ情報を掲載する学内報を定期的に発行しています。教職員と学生あるいは学生相互間の人間関係を緊密にし、さらに、学風の樹立に役立ちたいという趣旨で学生部委員会が発行しています。学生諸君からの情報提供を歓迎します。

学生用（1・2年生用）個人ロッカーの利用について

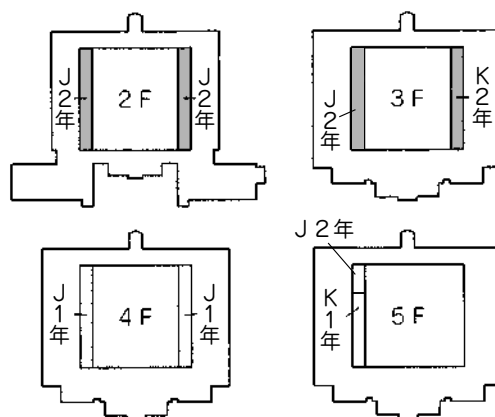
本学では、1・2年生用に学生用個人ロッカーを設置しています。（1号館の2階から5階に設置）
設置場所・使用方法等は、4月のガイダンス時に説明がありますが、以下の注意事項を厳守して使用してください。

【ロッカー利用時の注意事項】

- (1) ロッカーの使用資格が与えられるのは1・2年生に在籍している期間のみです。
- (2) 鍵は、各自で用意し、ダイヤル式のものではなく『南京錠』を使用してください。また、100円ショップ等の南京錠では、防犯上危険な恐れがあるため、使用不可とします。
- (3) パソコン等の貴重品については、ロッカー保管せず、必ず持ち帰ってください。また、近年、鍵を施錠していても無理やり押し開けられ、貴重品が持ち去られる事件が多発しています。学内に居るときも、貴重品はロッカー内に置かず、極力携帯してください。
- (4) 2年次終了時等、ロッカーの使用資格を失った場合には、直ちにロッカーを明け渡してもらいます。〔明け渡しは、2年次の1月末（学年末定期試験終了まで）を予定しています。〕
- (5) 大学が定めた明け渡し期限を過ぎた後において、収納物が撤去されていない場合は、それらを強制的に処分します。（各自が設置した、南京錠も撤去します。）スムーズに後輩に譲り渡すことができるよう、明け渡し期限を必ず守ってください。
- (6) ロッカーの使用について不明な点がある場合は、学生教務課で問い合わせてください。

1・2年次用ロッカーの配置（2022年度）

1号館



※入学者数によっては若干変更がある場合があります。

盗難防止

高額な現金は大学へ持ちこまないようにしてください。万一、盗難にあった場合は、学生教務課へ届け出てください。

自転車やパソコンの盗難にもご注意ください。自転車は二重にロックしたり、パソコンは席を離れる時には置いたままにしないなどの自己防衛も必要です。また、個人ロッカーにおける貴重品盗難も目立ちます。貴重品は極力携帯するよう心がけてください。

インターネット利用上の注意

インターネットに関係したトラブルや事件が急増しています。

本学では「東京情報大学ネットワーク利用ポリシー」を定めており、ガイダンスやコンピュータの演習科目等の中で指導を行っています。

インターネットは大変便利なツールですが、利用者が知っておかなければならない落とし穴もあります。

特にプライバシーに関することで被害を受けたり、場合によっては加害者となったり、著作権等に関するトラブル等については注意が必要です。

環境美化

本学は教職員と学生とが協力して、キャンパスの環境美化に努めています。みなさんも校舎等の利用については十分注意して、教育・研究の場にふさわしい環境作りに協力してください。

マナーとルール

○地域社会でのマナー

街頭で、大勢でたむろして騒いだり、グループで行動する場合、周りの人の迷惑を考えなくなりがちです。いかなるときも周囲の人のことを考え、自分の行動には責任をもってください。

皆さん一人ひとりがマナーを心がけ、ルールを守り行動することが期待されています。情報大生としての自覚と誇りをもって行動してください。

[公共マナーについて]

- ・優先席では、高齢者や障害者に席を譲りましょう！
- ・公共の乗り物（電車・バス等）の中での携帯電話の使用等はマナー違反です。整列乗車のマナーを守ること。
- ・公共の施設等の破壊・破損、落書き等は犯罪です。
- ・通学途中におけるゴミの投げ捨て等は厳禁です。歩きタバコ・飲食・横並びで歩く等は厳禁です。
- ・自転車通学も交通法規を守る。

○飲酒マナー

未成年者の飲酒は法律で固く禁じられています。新入生（未成年者）の飲酒・強要は厳禁です。また、適量を知らず無茶な飲み方をすると急性アルコール中毒になり死に至ることもありますので、充分注意してください。

[飲酒について]

- ・学内における飲酒場所は原則各研究室のみとし、原則として「教員同席のもと」としてはいますが、それ以外の

場所（学外の店舗等）で行う場合は、度を過ぎた飲酒（イッキ飲み等）や急性アルコール中毒にくれぐれもご注意ください。

- ・車両（自動車、原付、自動二輪、自転車）で通学した場合の飲酒は厳禁です。
- ・翔風祭開催期間中の飲酒は原則禁止です。

○学内における禁煙・分煙の徹底

喫煙は健康に害を及ぼします。肺ガンだけでなく、喉頭ガン、食道ガン、膀胱ガンなどの悪性腫瘍や、狭心症、心筋梗塞、胃・十二指腸潰瘍の有病率も非喫煙者より喫煙者の方が高いことがわかっています。

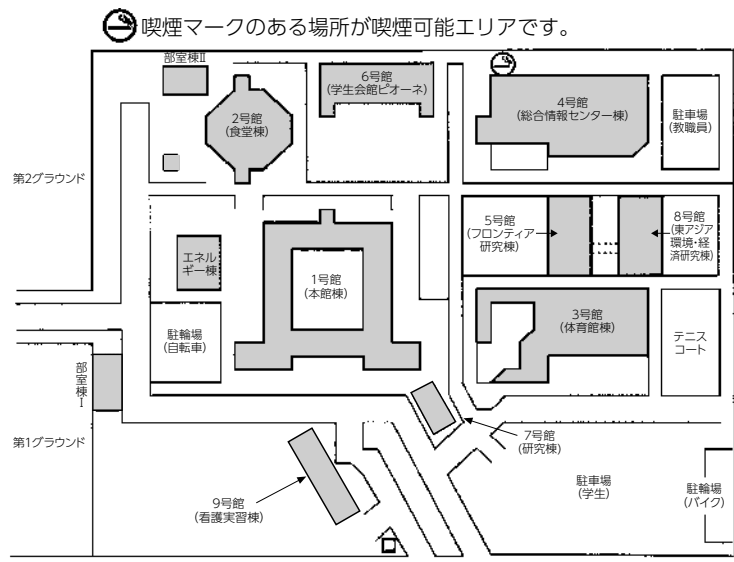
また、喫煙者だけでなく、喫煙者の吐いた息に含まれる有毒物質で空気が汚染されるため、その煙を吸い込むことで、たばこを吸わない周囲の人々も受動喫煙者となり、喫煙者と同様の健康被害から逃れることはできません。

こうした健康面への配慮から、本学では、建物内は全面禁煙とし、建物外についても、指定の喫煙コーナー以外での喫煙は全て禁煙としています。

喫煙マナーや学内ルールを守ることは勿論のこと、喫煙者であっても健康のことを考えて、禁煙に向けて努力しましょう。

●喫煙コーナーの設置場所

6号館脇の出入口付近（4号館裏）



○海外渡航時の安全対策について（注意喚起）

春休み、夏休み等を利用して、海外旅行や海外ボランティアに参加される方も多いと思います。世界各地でテロ、内戦、感染症などが続発している最近の治安情勢を踏まえ、外務省及び文部科学省より学生及び教職員の安全確保に細心の注意を払うよう要請がありました。

海外渡航および滞在においては、まず「自分の身は自分で守る」という原則「自己責任」の心構えをもって情報収集や安全対策に努めてください。例えば、外務省ホームページ等で発出している「危険情報」などを参照し、世界及び地域の情勢についての情報を収集しておきましょう。

長期間、海外に滞在又は新たに渡航される場合は、渡航先の最寄りの日本国大使館又は総領事館から最新の情報を入手するとともに、外務省が実施している渡航登録サービス「たびレジ」への登録を必ず行い、加えて海外渡航時の日程や渡航先での連絡先等を家族と共有した上で、いかなる国・地域に旅行する際も、安全確保に十分御配慮いただきますようお願いいたします。

（参考）「たびレジ」<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

○情報倫理（モラル）の順守について

オンライン授業を受講する場合、情報倫理の順守を徹底してください。オンライン授業で使用される作品等の著作権は、教育上の特例で使用が許可されており、講義の妨害やプライバシーの侵害を招く恐れのある以下の行為は、情報倫理に反する行為になります。なお、違反した場合、東京情報大学ネットワーク利用要綱第14条または東京情報大学学則第38条に基づき処分されることがあります。

- ・配布された授業の URL、ミーティング ID やパスワードを他人と共有すること、情報を漏洩すること、SNS などで情報を流すこと。
- ・オンラインで行われる講義の様子を出席者の許可なく写真にとり、それを SNS などで共有すること。
- ・担当教員の許可なく、授業の内容を録音・録画し、それを他人と共有したり、SNS などで公開すること。
- ・録画あるいはダウンロードしたビデオ教材を、他人と共有したり、SNS などで公開すること。
- ・オンライン授業で配布された資料等を、教員の許可なく再配布すること。
- ・その他、オンライン授業の情報に関する、担当教員の注意や指示に従わないこと。

21. Web情報システム「J-port」の利用

本学では、学生の教育活動と学生生活の支援を目的として、Web技術を利用した情報システム（通称J-port）が構築されています。パソコンやスマートフォンを用いて履修登録、履修登録科目一覧（学生時間割）や成績の確認、迅速な掲示情報の照会などを可能にするシステムです。

主な機能は次のとおりです。

機能	パソコン スマートフォン Webサイト	スマートフォン 専用アプリ	備考
個人情報照会	○		
時間割	○	○	
シラバス照会	○	○	
判定	○		利用期間限定
成績照会	○		利用期間限定
履修登録	○		利用期間限定
掲示情報	○	○	
スケジュール登録	○		
出欠登録	スマートフォンのみ可	○	

※画面右上の「メール設定」は、利用できません。

※利用期間を限定しない機能は、いつでも利用することができますが、保守点検等で利用できない場合があります。保守点検の日時は、随時お知らせします。

個人情報照会

入学時に届け出た「個人調査票」「学生現住所届」の内容が確認できます。変更がある場合は、学生教務課に「変更届」を提出してください。

時間割

履修登録した結果が、希望どおり登録され、進級または卒業要件を満たしているかどうかを学生時間割（自分自身の時間割）で確認し、必要に応じて各自印刷してください。

また、各教員が担当している授業科目の時間割や各学科・学年の授業時間割が照会できます。

シラバス紹介

各授業のシラバス（年間授業計画）が照会できます。

なお、履修登録、時間割からも授業科目のシラバスが照会できます。

判定

各学期の初めに履修登録した単位数と修得単位数において、進級または卒業要件を満たしているかどうかを確認できます。

また、資格取得（教職免許、保健師資格）のための要件を満たしているかどうかを確認できます。

成績照会

履修登録科目の試験の結果と修得単位数の状況（累計等）が確認できます。

履修登録

各学期の初めに、受講する授業を登録します。

出欠管理

スマートフォンアプリにて受講する授業の出席登録をします。

また、履修している授業の出席状況が照会できます。

掲示情報

休講、補講、教室変更、レポート提出、平常試験、教職課程関連、その他全般的なお知らせ、学生個人への呼び出し情報などが、照会できます。またこれらの情報は、携帯電話（フィーチャーフォン）からも照会できます。

スケジュール登録

日時単位で自分のスケジュールを登録し、管理することができます。

利用にあたって

本システムを利用するには、利用者IDとパスワードが必要になります。

これは、授業などで利用する「東京情報大学ネットワーク」のID・パスワードと同一のもので、パスワードを忘れてしまった場合、ネットワーク講習会（有料）に参加し、許可証の再交付を受けなければならないので、パスワード管理には十分注意してください。

利用環境

本システムを利用する上で、推奨するOSおよびブラウザは以下のとおりです。他のものを利用すると一部正しく表示されない場合があります。

OS - Windows
ブラウザソフト - Microsoft Edge, Mozilla Firefox, Google Chrome (最新版)

ログイン方法

本システムのログイン（利用開始）の手順は、以下のとおりです。

- (1) 大学ホームページ「学習支援」 - 「学習支援・システム」の下にある「J-port (WEB情報システム)」をクリックしてください。
- (2) 記載内容を確認後、「J-port (WEB情報システム)」のバナーをクリックしてください。
- (3) 利用者IDとパスワードを入力後、LOGINボタンをクリックし、ログインしてください。

●スマートフォンアプリのインストール方法

お使いのスマートフォンから以下のいずれかの方法でインストールをしてください。

- (1) QRコードを読み取り、アプリのインストールを行ってください。(iOS / Android)
- (2) インストールした後に、アプリを起動すると、初回は「URL入力画面」が表示されます。

URL入力欄には、下記のPCサイトのJ-portログイン画面のURLを入力します。

URL : <https://j-port.tuis.ac.jp/uprx/>



質問等の方法

本システムの機能や操作方法について不明な場合は、学生教務課 (D 履修) に問い合わせてください。

「J-port」とは…

「J-port」の「J」は、情報大 (JOHODAI) の「J」を表し、「port」は大勢の人、物、情報の行き交う場所を象徴する「港」とコンピュータ用語で他の通信機器とパソコン本体を結ぶ、様々なデータを受け渡す「接続部分」を指す単語を表しています。

「J-port」は、大学と学生とを結ぶ掛け橋となり、多様な情報が行き交う「port」を作ることで、みなさんのキャンパスライフの充実に寄与することを願って命名されました。

本学の学修について

学則第14条第3項に定める「授業科目の履修方法及び単位の修得に関することについては、本学則に定めるもののほかは、別に定める」とは、本書のこの部分を指します。
また、総合情報学部履修規程に関する内容も掲載しています。



1. 授業科目の履修

1) 授業科目の分類

(1) 授業科目は、学則第10条の規定に基づき、全学共通科目、基礎科目、専門教育科目及び教職課程関連科目に分類されます。詳細は、各学部の教育課程に掲載しています。

※この他に、放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目が開講されています。

(2) 授業科目は、卒業の要件として修得しなければならないか否かにより、次のように分類されます。

必修科目……………必ず修得しなければならない授業科目

選択必修科目…特定の科目の中から選択して必ず修得しなければならない授業科目

選択科目……………自由に選択して修得する授業科目

2) 単位制

単位制とは、学則第11条から第14条の規定に基づき、各入学年度の教育課程によって定められた全ての授業科目に一定の基準で単位数を定め、その授業科目を履修し、学修の成果を試験等により評価し、合格することで、所定の単位を修得していく制度です。

単位計算の基準は、各学部の「学修について」に掲載しています。

3) 年間履修単位数 (CAP制)

1年間及び各学期に履修できる上限単位数を、以下のとおり設定しています。これは、上記の単位制に基づき、単位を修得するためには、授業の他に授業外学修(予習や復習)の時間を確保する必要があり、履修単位数が多くなるとそれに比例して授業外学修の時間も多くなるので、それぞれの授業外学修時間を確保できるように履修単位数を制限しています。

例えば、講義科目を20単位修得するのは、1週間に20時間の授業と40時間の授業外学修をすることになります。

なお、後述のGPA制度を活用し、GPAの値が高い学生に対して、次学期の履修登録単位数の上限を緩和します。

【履修登録単位数の上限】

学 期	通 常		前学期までの通算GPAが3.0以上	
	総合情報学部	看護学部	総合情報学部	看護学部
1年間	48単位	46単位	52単位	50単位
各学期	26単位	—	28単位	—

※履修登録できる単位数とは、あくまでも登録した科目の総単位数であり、修得できた総単位数ではありません。

※教職課程科目については、この履修登録単位数の制限から除外します。

※他大学との単位互換制度により履修する科目については、この履修登録単位数の制限から除外します。

※1年間開講する科目(通年科目)は、単位数を2分し、各学期の登録単位数としてカウントします。

※集中授業は、夏季は前期、冬季は後期としてカウントします。

4) セット履修

セット履修とは、同一科目名で講義と演習に分かれている科目を同一年度内にセットで履修していく制度をいいます。履修登録・成績評価に関する内容は以下のとおりです。

(1) セット履修科目は、「授業科目表」に掲載されています。

(2) セット履修科目は、講義と演習の両方を修得しないと卒業要件単位として認定されません。

5) ステップ履修

ステップ履修とは、同一科目名でステップⅠを基礎編、ステップⅡを応用編とするなど内容的に2つに分かれている科目を順次履修していく制度をいいます。

履修登録・成績評価に関する内容は、以下のとおりです。

(1) ステップ履修科目は、「授業科目表」に掲載されています。

(2) ステップⅠの科目を修得していない場合は、ステップⅡの科目を履修できません。

ステップⅡを後期または翌年度以降に履修しようとする場合は、前期またはその年度内に必ずステップⅠを履修・修得するようにしてください。

6) 他学部及び他学科履修

他学部及び他学科（以下「他学科」という。）履修とは、学部・学科間の連携を目的として、他学科の専門教育科目を履修できる制度をいいます。

履修登録・成績評価に関する内容は、以下のとおりです。

- (1) 他学科履修できる科目は、自学科に配当されていない他学科の専門教育科目とする。
ただし、次に該当する科目は履修することができない。
 - ①必修科目
 - ②実習・演習科目
 - ③上位年次に配当されている科目
 - ④他学科において履修を許可しない科目
- (2) 他学科履修を希望する場合は、自学科の科目と同様に「J-port」により履修登録を行うこと。
他学科履修できる科目は、各学科の「授業科目表」に掲載されています。
- (3) 評価は、自学科の履修科目同様、定期試験等により評価し、成績原簿に記載する。
- (4) 修得した単位は、8単位まで専門教育科目（選択）の卒業要件に充てることができる。

7) 放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目の履修

放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目は、「単位互換に関する包括協定書」に基づき開講される科目です。
履修登録・授業・試験・成績評価等に関する概要は、以下のとおりです。

- (1) 履修できる科目は、単位互換協定に基づき開講される科目のみとする。該当科目は学生教務課（D 履修）で確認すること。
なお、科目によっては受講できる学年が制限されている場合がある。
- (2) 在学中に履修できる単位数は、通算して30単位以内である。
- (3) 履修の対象学年は、1年次から3年次までとする。
- (4) 履修期間は、放送大学については毎年度10月からの半期間（放送大学の2学期）とし、その他の大学については当該大学が指定する期間とする。
- (5) 履修登録は、原則として、通常の授業科目と同様に行うが、履修を希望した学生（特別聴講学生と称する）は、当該大学への出願のための手続きを別途行う。
- (6) 受講に際しては、以下に示す授業料（自己負担）が別途必要になり、放送大学への納入は大学が一括して行い、その他の大学への納入は各自が行う。
放送大学：放送授業 1科目（2単位）：11,000円（印刷教材費込み）
その他の大学：各大学が定めた金額（詳細は当該大学の募集要項参照）
- (7) 放送大学の授業は、テレビ・ラジオによる半期15週にわたって毎週1回（1回45分）行われる放送授業と放送大学から別途送られる印刷教材による学習とを、自宅または所属する学習センター（千葉市美浜区若葉2-11放送大学内）において受講する。
その他の大学の授業は、各自が当該大学に直接出向き、指定された時間割に沿って受講する。
なお、放送大学の放送授業を受けることができない場合は、特別聴講学生に限って、本学が放送大学から借り受けるビデオテープ等の放送教材を学内で利用することができる。
- (8) 放送大学の試験は、半期の放送授業が終了後、所属する学習センターで「単位認定試験」を受験する。その他の大学の試験は、大学の定めるところにより、当該大学の学生と同様の方法で受験する。
なお、放送大学の「単位認定試験」の受験資格を得るためには、学期の途中（8回目の放送授業終了後）に1回の通信指導（レポート提出）が義務付けられている。
- (9) 試験の結果は、当該大学の評価基準によって判定され、学期末に本学と学生本人の両方に対して、「成績通知書」により通知される。
- (10) 修得した単位は、当該大学の評価を、それに相当する本学の評価に置き替え、成績原簿に記載する。なお、修得した単位は、以下のとおり本学の卒業要件単位とすることができる。
 - ① 放送大学の科目の修得単位は、全学共通科目及び基礎科目の単位として、12単位まで認定する。
 - ② 放送大学の認定心理士資格取得のための科目及びその他の大学で開講される互換科目の修得単位は、当該学修により修得した単位は、GPA及びCAPの対象外とする。専門教育科目の選択の単位として、16単位まで認定する。
- (11) 当該学修により修得した単位は、GPA及びCAP制の適用外とする。

8) 東京農業大学との単位互換科目の履修

東京農業大学との「単位互換に関する協定書」に基づき、世田谷、厚木で開講されている科目を受講できます。

概要は下記のとおりですが、詳細については、学生教務課（D 履修）で問い合わせてください。

- (1) 受講対象者は2年生以上とする。
- (2) 受講できる科目は、実習・演習以外の科目とする。
- (3) 在学中に履修できる単位数は、30単位までとし、本学の卒業要件単位数に認定できる。但し、他の協定校において修得した単位も含めて30単位までとする。
- (4) 履修期間は、半年間とする。
- (5) 募集は、各学期開始前に年2回行う。
- (6) 出願方法や提出書類については、東京農業大学の方法に準ずる。
- (7) 受講料は無料とする。但し、テキスト等の教材については自己負担とする。
- (8) 当該学修により修得した単位は、GPA及びCAP制の適用外とする。

9) 他の大学等における修得単位の認定

他の大学または短期大学を卒業または中途退学し、新たに本学の1年次に入学した学生の当該大学等の既修得単位については、教育上有益と認められるとき、その全部または一部を本学において修得したものと認定することができます。なお、当該学修により修得した単位は、GPA及びCAP制の適用外とする。

該当する学生は、所定の期間内に当該大学等の成績証明書および講義要綱を添えて、学生教務課（D 履修）まで申し出てください。

10) 知識・技能審査の学修における修得単位の認定（総合情報学部のみ）

学則第15条の2及び総合情報学部履修規程第13条に規定されている文部科学大臣が別に定める学修として、本学では、下表の知識及び技能に係る学修を定めています。

入学前または入学後に、当該学修をおこない、定められた級または得点に該当するか、あるいは合格した場合、本学の授業科目を単位修得したものと認定することができます。

該当する学生は、所定の期間内に当該学修の公的な成績表等を添えて、学生教務課まで申し出てください。

- (1) 当該学修による評価は「認(N)」とする。
- (2) 当該学修により8単位まで修得できる。
- (3) 当該学修により修得した単位は、GPA及びCAP制の適用外とする。
- (4) 認定授業科目が単位修得済の場合、適用外とする。

知識及び技能に係る学修

学修の種類等	認定授業科目	認定単位数
実用英語技能検定2級	英語 a・英語 b	2
実用英語技能検定準1級	英語 a・英語 b・英語 c	3
実用英語技能検定1級	英語 a・英語 b・英語 c・英語 d	4
TOEFL 470点以上	英語 a・英語 b	2
TOEFL iBT 52点以上（コンピュータ上で受験）	英語 a・英語 b	2
TOEIC Bridge 150点以上	英語 a	1
TOEIC 600点以上 ※2020年度以降入学者	英語 a・英語 b	2
TOEIC Bridge L&R 80点以上	英語 a	1
TOEIC Bridge S&W 80点以上	英語 b	1
日本漢字能力検定試験2級以上（留学生のみ対象）	日本語 a・日本語 b	2
応用情報技術者試験	IT基礎技術論	2
基本情報技術者試験	IT基礎技術論	2
ITパスポート ※2021年度以降入学者	経営と情報	2
全国経理教育協会 簿記能力検定2級以上	基礎会計論	2
全国商業高等学校協会 簿記実務検定2級以上	基礎会計論	2
日商簿記検定3級以上	基礎会計論	2
CGエンジニア検定エキスパート(CG-ARTS協会)	コンピュータグラフィックス論	2

11) 大学院授業科目の先取り履修制度

本学大学院への進学希望者に対して、以下の大学院授業科目を学部生のうちに履修し修得した単位を、大学院進学時に既修得単位として単位認定します。

申請方法等の詳細は、4月のガイダンス時に案内します。

(1) 対象科目

科目区分		授業科目	単位	必選	学期
基礎	共通	知能情報特論	2	選択	前期
		情報社会特論	2	選択	前期
		ヘルスケア情報特論	2	選択	前期
		データマイニング特論	2	選択	前期

(2) 履修上限単位数

4単位

※当該学修により修得した単位は、学部の卒業要件単位数には含まず、GPA及びCAP制の適用外とする。

(3) 履修対象学生

本学大学院へ進学を希望する学部4年次生

2. 授業時間

授業時間は、原則として次のとおりです。

時 限	1 時 限	2 時 限	3 時 限	4 時 限	5 時 限
時 間	9:15 ~ 10:45	10:55 ~ 12:25	13:10 ~ 14:40	14:50 ~ 16:20	16:30 ~ 18:00

上記の他、授業によっては、6限(18:10~19:40)に実施することもあります。講義内で指示します。

3. 授業科目の履修登録方法

1) 履修登録とは

履修登録は、自分の一年間の時間割を作る大事な手続きです。これが正確に行われないと、受講したい授業に出席することができません。すべて自己責任において行うこととなりますので、授業科目の内容、履修条件、評価の方法などを確認して、自分の履修したい科目を間違いなく登録完了するようにしてください。

履修登録は、「J-port」を使って、各自が大学のネットワークに接続したパソコン端末から登録することになります。登録の手順や操作方法などの詳細は、年度当初のガイダンスの際に連絡します。

2) 履修登録上の諸注意

- (1) 履修登録の事前準備、および「J-port」による登録は、配布される「J-port 利用ガイド」を参考に、指定された期間内に各自が行ってください。
- (2) 登録する科目は、その年度に受講したい科目の全て（前期・後期科目とも）を登録します。
なお、総合情報学部1年次生は、前期科目と後期科目をそれぞれの履修登録期間に登録します。
- (3) 科目には必修科目、選択必修科目、選択科目の区別がありますが、その区別に関係なく、履修したい科目は、原則、必ず自分で登録してください。
- (4) 指定の期間内に履修登録を完了した科目でなければ、単位を修得できません。
- (5) 履修登録を完了した科目は、その後、原則として変更することはできません。
希望する科目の登録をし忘れたり、逆に過剰に登録し過ぎて途中で授業を放棄するようなことのないようにしてください。
- (6) 指定の期間内に履修登録を完了しない場合は、修学の意思がないものとみなされ、除籍の対象となる場合があります。
- (7) 同一時間に2科目以上登録することはできません。また、既に合格している（認定されている）科目を再度登録することもできません。
- (8) 履修登録完了後は、各自が登録した内容に不備がないかを必ず確認してください。
確認の方法は「J-port 利用ガイド」を参考にしてください。
- (9) 不合格となった必修科目は、翌年度に必ず自分で登録してください。
- (10) 履修登録に関する不明な点は、必ず学生教務課（D 履修）で確認してから登録してください。

3) 他大学との単位互換科目の履修申請

他大学の単位互換科目の履修を希望する場合は、学生教務課（D 履修）で受講できる科目を確認し、各大学の所定の手続を行ってください。

手続期間は、4月ガイダンス時に周知します。

4) 必修科目のクラス分け変更の申請

必修科目のクラス分け変更は、必修科目と再履修科目が同一時に配当されている場合に限り許可されます。該当者は、学生教務課で配布する所定の申請用紙により、変更先の授業担当教員の許可印を受け、学生教務課（D 履修）に提出してください。

5) 履修登録の確認について

4月の履修登録・確認期間および9月の履修登録・確認期間内に必ず履修登録した結果の確認も行ってください。間違った登録をしたままで見過ごしていると、GPAが低下してしまったり、学期末の定期試験を受験できないこととなります。

また、履修登録期間を過ぎると「J-port」の履修登録機能の利用（登録・修正）はできなくなるので、十分確認をしてください。

NOTICE

履修登録の際に大切なことは、内容の確認と期限の厳守です。

間違った登録をしたままで見過ごしていると、学期末の定期試験を受験できないこととなります。「気づいた時にはもう後の祭り」にならないよう十分注意しましょう。

また、GPAの低下を回避するために履修を取り止める場合も、履修登録期間内に修正してください。

4. 試験

1) 定期試験（試験実施内規第8条関連）

- (1) 学事曆に示された学期末または学年末の試験期間中に行う試験をいう。
- (2) 試験時間割は、試験開始日のおおむね2週間前にJ-portおよび掲示板により発表する。
- (3) 原則として、各学期末の定期試験を受験しない場合は単位を修得できないので注意すること。

2) 平常試験（試験実施内規第9条関連）

- (1) 定期試験期間以外の、平常の授業時間に各授業担当者が行う試験をいう。
- (2) 試験実施日その他は、担当者が授業中に直接発表する。
- (3) 平常試験を欠席した学生は授業担当者に申し出ること。
ただし、この場合後述3)の追試験の対象とはならないので注意すること。

3) 追試験（試験実施内規第12条関連）

- (1) 定期試験を病気その他やむを得ない事由により受験できなかった学生に対して行う試験をいう。
- (2) 追試験の受験を希望する学生は、指定された申し込み期間中に、欠席の事由を証明する公的書類を添えて、所定の「追試験願」を学生教務課（D 履修）に提出すること。
- (3) 追試験の受講科目は、特別な事情を除き、各試験期間において8科目を上限とする。
- (4) 自己の不注意または公的書類のない場合は、理由のいかんを問わず追試験を受験することができない。
- (5) 試験期間中は公共交通機関（電車・バス等）を利用し、自家用車の利用は自粛すること。自家用車を利用した場合、天候や交通渋滞等による遅刻・欠席は一切追試験の対象とはならないので特に注意すること。

(6) 欠席理由と添付すべき公的書類は以下のとおり。

欠席事由	提出書類
病 気	本人が試験当日に受診したことがわかる病院の領収書、又は医師の証明書 ※感染症による欠席の場合は、医務室へ提出する罹患証明書の写しでも可とする
忌引(3親等まで)	死亡に関する書類(会葬通知等)
災害(水害・火災等)	官公庁による被災証明書
交通機関の遅延	交通機関発行の遅延証明書 ※居住地からの交通機関に限る
就職試験等	官公庁・企業発行の受験票等で試験実施が証明できるもの ※企業説明会や企業セミナーは認めない
インターンシップ(正課)	官公庁・企業からの通知文書等
単位互換校の試験	単位互換校発行の試験日程表等
その他	追試験受験資格審査による

※追試験を欠席した場合の再度の試験は行わない。

NOTICE

追試験の対象は、定期試験を実施した科目だけです。平常試験やレポートにより評価される科目は追試験の対象にはなりません。また、定期試験を寝坊や車の渋滞で受験できなかった場合も追試験は受験できません。追試験の受験にはいくつかの制限があることを覚えておきましょう。

4) 再試験(試験実施内規第16条に規定している臨時試験として実施する)

《総合情報学部》

- (1) 修得単位の不足により、進級要件または卒業要件を満たしていない学生に対して行う進級または卒業資格を得るための試験をいう。
- (2) 再試験の受験には、以下の要件をすべて満たしていることが条件となる。ただし、受験できる科目は6単位までとする。

※不足単位が6単位以内であっても、1単位科目に未修得科目があり、7単位以上の受験が必要となる場合は再試験の対象とならない。

- ① 別に定める進級要件または卒業要件を、6単位以内の単位修得で満たすことができること。
- ② 当該年度の評価が「不」の科目であること。「欠」の評価科目および演習科目(卒業論文を含む)は対象外とする。また、講義科目も一部対象外としているので、注意すること。
- ③ 指定期間内に所定の手続きを完了していること。

※手続きの日程をJ-portへ掲載するので、各自の責任で手続きすること。

- (3) 1科目あたりの受験料を2,000円とする。

《看護学部》

- (1) 1年次から3年次

再試験の受験には、以下の要件をすべて満たしていることが条件となる。

- ① 必修科目であること。
- ② 当該年度の評価が「不」の科目であること。「欠」の評価科目および演習・実習科目は対象外とする。また、講義科目も一部対象外としているので、注意すること。
- ③ 指定期間内に所定の手続きを完了していること。

- (2) 4年次

再試験の受験のための要件は、総合情報学部準ずる。

- (3) 1科目あたりの受験料を2,000円とする。

5) 受験資格

- (1) 当該年度に履修登録をした科目であること。
- (2) 当該授業担当者の定める授業日数を満たしていること(原則として授業日数の2/3以上の出席が必要)。
- (3) 当該年度の学費を納入済であること。
ただし、学費延納の許可を受けた場合を除く。

6) 受験の心得

- (1) 指定されたクラス、試験場で受験すること。
- (2) 試験監督者から、学生証により出席の確認を受けること。
学生証を忘れた場合は、学生教務課において仮学生証(発行手数料500円/当日限り有効)の交付を受けること。
- (3) 試験開始後15分以上の遅刻は認めない。また、退室は開始後30分以降とする。
- (4) 答案用紙には学科、学年、学籍番号、氏名を必ず明記すること。記入がない答案は一切を無効とする。
- (5) 答案用紙は白紙であっても必ず提出すること。
- (6) 不正行為を行った者は、当該試験期間中の受験資格を一切失い、学則により処分されることがある。また、持込を許可されていないものが机上および机中に入った場合は、不正行為の対象とみなす。
- (7) 受験にあたっては試験監督者の指示に従うこと。
- (8) その他試験に関する注意事項は、定期試験時間割発表と同時に掲示する。

7) 試験期間中の時間割

定期試験、追試験、再試験期間中の時間割は、通常の授業時間割とは異なるので注意してください。
試験時間は、原則として60分間です。

8) レポート提出

レポートの提出を求められた場合は、J-port等によりテーマ・枚数・提出期限・提出先を確認し、必ず指定された期限までに提出してください。

期限に遅れた場合は、いかなる理由があっても受け付けません。

NOTICE

◇レポートや論文執筆時の剽窃に注意◇

(参考にした文献を引用しないと剽窃になります)

○剽窃(ひょうせつ)とは

レポート等で引用の形式を取らずに、著作権者に無断で著作物を複製・転載することです。これは学術上のルール・モラルに反する行為です。また、著作権法に違反する行為で、懲役刑または罰金刑が科せられることもあります。東京情報大学では、剽窃や不適切な引用、データ等の捏造(ねつぞう)は不正行為と位置付けています。十分に注意してください。

例)

- ・他人の作成したレポート・レジュメ・論文などを自分の成果物として提出する行為(およびその帮助<ほうじょ>: わきから力を添えて手助けをすること)。体裁や細部を多少変更しても許されません。
- ・レポート・レジュメ・論文などにおける、出典を明示しない、また、適切な引用方法によらない引用および不適切な言い換え(パラフレーズ)。
- ・他人の研究成果に示された分析・評価内容や私見の要旨を、レポート・レジュメ・論文などにおいて盗用すること。

○レポート等とは

レポート等の提出物や発表など、授業の成績評価に関わり、学生が提出・発表する成果物のすべてを指します。レポート、レジュメ、答案、プレゼンテーション資料、電子データ等が含まれます。

○著作物とは

日本国著作権法が定めるとおりのものすべてを指します。論文・講演等言語による著作物・放送・音楽・劇・美術・建築・地図・図面・模型・映画・写真・プログラム・テープなど磁気データ・Web上の文章やデータ、画像等が含まれます。

○引用とは

- ・自分の文章が主であり、それを補うために他人の著作物を利用すること
- ・引用する必然性があること
- ・出典(著者名、書名・論文題名、出版年、所収書名・雑誌名、出版社名)を明確に示すこと
- ・引用した部分ができるように示すこと
(直接引用) 引用した部分の文章をそのまま変えずに引用すること
(間接引用) 引用した部分の内容を変えず、文体などを変更して引用すること



直接引用と間接引用については、文献 [1] で詳しく述べられているので参照してください。
 以上の条件をすべて満たしたうえで、他の著作物の内容を自分の著作物のために使用することが、引用には求められます。なお、引用文献の書法は各学会により様々な書法が存在します。授業担当者の指示に従ってください。

引用文献

[1] 富士田匠：高等学校での引用指導に関する考察 一意見文における思考の形成過程に着目して一, J-STAGE 学芸国語教育研究, 36 巻 (2018), pp.83-94, https://doi.org/10.24672/gakugeikk.36.0_83(access 2021.2.8).

補足：

- ・引用文献は、参考文献と書くこともある。引用文献、参考文献のどちらを使用するかは各学会の流儀によるもので、どちらも正しい。
- ・ここでは著者名と題目の間に、[:] を使用しているが、[,.] を使用することもある。
- ・論文題目は「と」, 『と』, ”と” で囲んでもよい。
- ・所収書名・雑誌名は『と』で囲む場合と、囲まずに斜体 (イタリック) で表示する場合がある。
- ・Vol. と No. があるものは、Vol. と No. の両方を記述する。
- ・上記のように URL を記述するときは、ジャンプできるように URL の前後に「」(半角スペース) を書くとともに、(access 2021.2.8) のように、URL にはアクセスした年月日を記述する。
- ・1つの引用文献の最後は「.」などを記述する。
- ・引用文献リストで、[1] と書いた場合は、本文では「文献 [1]」や「... である [1].」のように引用する。
- ・引用文献リストで、富士田 (2018) と書いた場合は、本文では「富士田 (2018)」や「... である (富士田 (2018)).」のように引用する。
- ・引用文献リストで、[富士田 2018] と書いた場合は、本文では「[富士田 2018]」や「... である [富士田 2018].」のように引用する。
- ・pp.83-94 は、p.83~p.94 を意味する。日本語論文でも英語論文でも pp.83-94 のように記述する。
- ・1 ページのみの場合は、p.83 のように記述する。
- ・英語論文で、et al. は「エトール」と発音し、日本語の「他」と同じ。
- ・卒業論文執筆時の引用文献の書法は、指導教員の流儀に合わせる。

5. 成績評価

1) 成績評価基準

- (1) 履修した授業科目の成績評価は、原則として試験 (筆記試験・論文・レポート・その他) により行う。
- (2) 成績評価基準、および成績証明書等の成績の表記は、下表のとおりとする。

成績評価基準とGP

判定	評価点	J-port 成績照会 表記	成績 証明書 表記	GP	成績評価内容
合格	100~90点	秀	秀	4	到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている
	89~80点	優	優	3	到達目標を十分に達成している
	79~70点	良	良	2	到達目標を達成している
	69~60点	可	可	1	到達目標を最低限達成している
不合格	59点以下	不	表示 せず	0	到達目標を達成していない
	—	欠		0	試験欠席・レポート未提出・出席不足
合格		認	認		編入学時に単位認定した評価 知識及び技能に係る学修により単位認定した評価 GPAの対象としない

※当該授業担当者の定める授業日数を満たしていない場合 (原則として 2 / 3 以上の出席が必要)、最終試験を受験したとしても、出席不足という扱いで、「欠」となることもある。

(3) 総合情報学部「卒業研究Ⅱ 評価ガイドライン」

項目	チェックポイント	評価割合	エビデンス・判断資料
ゼミ活動と研究姿勢	ゼミ活動と研究への取組姿勢	50%	ゼミでの発表資料, 課題レポート
	研究と課題遂行力		ゼミでの発表資料, 課題レポート
	プレゼンテーション		ゼミでの発表資料, 卒業論文最終発表
卒業論文の形式	構成(草立て, 形式)	20%	卒業論文
	論理性		卒業論文
	誤字・脱字		卒業論文
	書法(引用, 図表, 参考文献)		卒業論文
卒業論文・卒業制作	目的の妥当性	30%	卒業論文・作成物
	方法の妥当性		卒業論文・作成物
	結論の妥当性		卒業論文・作成物
	完成度		卒業論文・作成物

注意：評価割合は、各教員で異なります。

(4) 看護学部の実習の成績評価

看護学部の各領域の実習における成績評価については、定められた実習出席日数の4/5以上の出席が必要です。出席日数を満たさない場合は、原則として実習の成績評価が行なわれないこととなります。ただし、病気(医師の診断書がある場合)、忌引きなどやむを得ない理由により、欠席した場合には、学生の願い出及び教員の判断により、補助実習等の対応をいたします。

(5) 放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目の成績評価は、当該大学の評価を、それに相当する本学の標語に置き換えて表示する。

2) GPA制度

本学では、学生の履修行動や学修意欲を高めることを目的として、GPA制度を導入しています。

(1) GPA制度

GPAとは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数(Grade Point)を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、履修登録した科目の総単位数で割って算出した平均値のことをいいます。

このGPAは、学修への取り組みを質的に把握するための指標となり、学期ごとに比較することで、学修した成果を判断する目安となります。

また、不合格の科目も算出対象となるので、計画的な履修をするよう心がけてください。

(2) 成績評価とGP

成績評価	GP	評価点	備考
秀	4	100 ~ 90点	
優	3	89 ~ 80点	
良	2	79 ~ 70点	
可	1	69 ~ 60点	
不	0	59点以下	
欠	0	—	
認	—	—	対象外とする

(3) GPA算出方法

GPA = (科目の単位数 × GP) の合計 / 履修登録科目の単位数の合計

* 小数点第2位を四捨五入

* 分母の総単位数には、不合格科目(評価が「不」, 「欠」)の単位数を含む

●算出例

科 目	単位数	評 価	GP	単位数×GP
基礎演習	1	優	3	1×3=3.0
英語 a	1	良	2	1×2=2.0
哲学概論	2	秀	4	2×4=8.0
日本国憲法	2	不	0	2×0=0.0
統計学	2	可	1	2×1=2.0
情報リテラシー演習	2	欠	0	2×0=0.0
総合情報学概論	2	秀	4	2×4=8.0
合 計	12 ①	—	—	23.0 ②

$$\text{GPA} = \text{②} / \text{①} \Rightarrow 23.0 / 12 = 1.9$$

(4) 対象科目

全学共通科目、学科専門科目の全てを対象とするが、教職課程科目、保健師課程科目は対象外とする。

また、本学以外の大学（農大、放送大学等）で修得した単位（1年次入学・編入学前の認定単位、単位互換科目の単位）も対象外とする。

(5) GPAの通知方法

GPAの通知は、4月・9月（のガイダンス時）に配付する成績表に記載する。

(6) GPAの「総合評価表」

算出されたGPAは、下表を参照し、目安としてください。

GPA	総 合 評 価
3.5 ~ 4.0	大変優秀な成績です。
3.0 ~ 3.4	優秀な成績です。
2.0 ~ 2.9	平均的な成績です。
1.0 ~ 1.9	努力を要する成績です。
0 ~ 0.9	より一層の努力を要する成績です。

(7) GPAによる履修登録単位数の緩和

通常GPAが3.0以上の時、次学期の履修登録単位数の上限を緩和します。

(8) 成績不振者に対する指導（退学勧告）について

当該年度のGPAが1.0未満の学生を対象に、年度末に保護者を交えてクラス（ゼミ）担任による面談指導を実施します。なお、この退学勧告に強制力はなく、学修計画改善のための指導を目的とします。

3) 成績に関する質問日

J-portに開示された前学期の成績評価に質問等がある場合は、各学期の初めに設けられた「成績に関する質問日」に、所定の「成績評価に関する質問票」を用いて授業科目担当者に質問することができます。詳しい日程等は、各学期の初めに、J-port等に掲示します。

なお、質問の理由が明確に記入されていない質問票や、受付期限を過ぎた質問票は一切受け付けないので注意してください。

※様式は、大学ホームページの「学生生活」の各種届出・様式ダウンロードからダウンロードすること。

6. 授業の出席管理

学生のみなさんが、授業に遅刻せずに出席することが、大学において学問を学ぶための必須の条件であり、その上で成績評価をします。

ついては、授業の出席状況の確認を徹底するので、以下の実施事項をよく読み、授業を受講してください。また、各授業の第1回目に、成績評価の方法や遅刻、欠席の取扱い等について授業担当教員から説明があるので、その指示に従ってください。

1) 出席確認の徹底

全授業で原則、毎回出席確認をする。

原則として、開講数の2/3以上の出席がない学生は、成績評価の対象としない。

2) 出席確認の方法

(1) J-portの出席登録機能を利用する授業の場合

- ①ノートパソコンやスマートフォンを用意し、確認キー（数字4桁）を入力できる状態に準備しておく。なお、携帯電話等を忘れた場合は、授業担当教員に申し出ること。
- ②授業開始後10分以内に、授業担当教員から伝えられた確認キー（数字4桁）を入力する。
- ③他の方法（出席カード、小テスト、実習室の出席管理システム、先生独自の出席管理システムなど）を、抜き打ちで併用することもある。
- ④J-portで出席登録をしているが、併用した他の方法で出席の確認ができない学生は、不正出席とみなす。
- ⑤携帯電話を機種変更したり、パスワードをまちがえ、複数回ログインに失敗したりすると、J-portへログインできなくなる場合があります。授業開始の前に学生教務課に立ち寄って、登録しなおすこと。

(2) J-portの出席登録機能を利用しない授業の場合

授業担当教員の指示に従う。

※くわしい出席登録方法は「J-port利用ガイド」を確認してください。

3) 不正出席をした場合

・該当学生は、その授業の単位をその学期に取得できない。

○不正出席の事例

- ①教員が通知するコード（確認キー）を、LINEやメール等により通知してもらい、教室外から不正に出席登録する。
- ②友人に出席カードを提出させる。
- ③点呼の際、友人に返事をさせる。

4) 欠席、遅刻等の対応

病気等で授業を欠席した場合、「欠席」として取扱う。但し、事由によって、公欠的な取扱いとなる場合もあるので、当ページの「7. 欠席時の対応」または大学ホームページの「授業を欠席したとき」を確認すること。

交通機関の遅延等、やむをえず遅刻や欠席する場合は、できるだけ必要書類（遅延証明など）を添えて授業担当教員に報告する。

授業中に勝手に教室を出ることを禁ずる。体調不良など、やむをえず退出する場合は、必ず教員に報告してから退出する。

7. 欠席時の対応

1) 公欠的な取扱いとなる場合

以下の事由により授業を欠席した場合、公欠的な取扱いをするので、忘れずに手続きをしてください。なお、公欠的な取扱いとした授業については、原則として補講は行わず、授業担当教員が当該授業日に相当する学習を課すものとします。

事 由	証明者	添付書類等
課外活動（大学が許可した強化指定部の公式戦等）	部長 顧問等	開催要項等
個人資格による課外活動（全国大会、国際大会レベルの大会へ出場）	学部長	①大会要項、②本人の出場を証明する書類、③その他（連盟の推薦書・出場依頼書等）等 ※学生教務課に相談すること
忌引（3親等まで） ※1親等：連続7日 2親等：連続3日、3親等：1日	保護者	死亡に関する書類（会葬通知等）
学校保健安全法に規定されている感染症による出席停止	不要	治癒証明書の写し ※医務室にも提出
裁判員候補者に指名され、裁判所に出頭・職務従事した場合	不要	裁判所発行の通知文書等
教職課程履修学生の実習や課外活動への参加	教職課程主任	必要に応じて指示する
看護学科の学生の実習への参加	学科長	必要に応じて指示する
その他、教務委員長が適当と認めた場合	教務委員長	※学生教務課に相談すること

(1) 「欠席届」の提出

- ・大学 HP「様式ダウンロード」から「欠席届」をダウンロードする。
 - ・必要事項を記入し、証明者に署名に署名・捺印をもらう。事由により、証明書類を添付する。
 - ・欠席届は、欠席日の前後1週間以内に学生教務課に提出する。
- ※課外活動の公式戦等への参加で欠席する人数が多い場合、別途課外活動団体から配慮を依頼するので、欠席届の提出は不要とする。
- ※教職課程の学生が実習や課外活動への参加により欠席する場合は、教職課程から配慮を依頼する。
- ※看護学科の学生が実習により長期欠席する場合は、別途学科から配慮を依頼する。

(2) 欠席した授業の課題等の確認方法

授業前日まで（欠席することがわかった時点）に、授業担当教員に以下の要領でメールをして、返信メールで課題等の内容を受取る。

メールを送信しない場合は、公的な取扱いとしないので注意してください。

- ・件名：「【公欠届】授業科目名・学籍番号・氏名」
- ・本文：欠席日、時限、授業科目名、学籍番号、氏名、メール送信理由（欠席理由、課題有無）を入力する。
- ・授業担当教員のメールアドレスは、各授業科目のシラバスの「教員 Email」で確認する。

(3) 注意事項

- ・個人資格による公欠的な取扱いを希望する場合は、原則として欠席する日の1ヶ月前までに必要書類を添付して学生教務課へ申請すること。
- ・公欠扱いの場合は、評価の際に欠席が不利にならないように取扱うこととするが、公欠扱いと出来る回数は、通常の欠席と合わせて1授業につき全日程の1/3回までとする。なお、集中授業等で全日程の1/3回以上欠席せざるを得ない場合は、授業担当教員に相談すること。
- ・欠席届について質問がある場合は、学生教務課で確認すること。

2) 公欠的な取扱いとならない場合

上記「公欠的な取扱いとなる場合」の事由以外の理由で授業を欠席した場合は、公欠的な取扱いとしません。

公欠的な取扱いとならない欠席理由の例
<ul style="list-style-type: none">・学校保健安全法に規定されている感染症以外の病欠、怪我・就職活動・サークル活動 など

なお、授業を欠席することが事前にわかっている場合、公欠的な取扱いをしないが、欠席日の前日までに、授業担当教員に以下の要領でメールをして、欠席することを事前に伝えること。

ただし、授業当日以降のメールは受け付けません。

- ・件名：「【欠席届】 授業科目名・学籍番号・氏名」
- ・本文：欠席日，時限，授業科目名，学籍番号，氏名，メール送信理由（欠席理由、課題有無）を入力する。
- ・授業担当教員のメールアドレスは、各授業科目のシラバスの「教員 Email」で確認する。



総合情報学部の学修について

学則第14条第3項に定める「授業科目の履修方法及び単位の修得に関することについては、本学則に定めるもののほかは、別に定める」とは、本書のこの部分を指します。
また、総合情報学部履修規程に関する内容も掲載しています。



1. 学士課程教育の目的および方針

1) 教育研究上の目的

総合情報学部総合情報学科は、建学の精神「未来を切り拓く」及び教育理念「現代実学主義」の精神に基づき、急速に進展する情報社会の将来を見据え、情報社会に貢献できる優れた情報収集、処理、分析及び発信能力をもった人材の育成を目指す教育及び情報学に関する研究を行う。
(東京情報大学学則 第2条第2項の別表第1より)

2) 教育目標及び育成する人材像

東京情報大学	
建学の精神「未来を切り拓く」、教育理念「現代実学主義」を念頭に、日々進化する情報技術を活用し社会に貢献できる人材を育成する。	
総合情報学部総合情報学科	
複雑化する情報社会に対応するために必須とされるICTに関する基礎を学び、加えて情報の応用・活用を通じて社会の様々な課題に対する解決能力を身につけるための実践的な教育を行う。特に「理数系的なコンピュータに関する情報」及び「文系的な人間や社会に関する情報」を対象とし、ICTを多様な専門分野の知識と融合させることにより、情報の高度な利活用ができる「情報の創り手・使い手」となる人材を育成する。	
学系	
《情報システム学系》	システム開発、情報ネットワーク、情報セキュリティや知能情報処理などに関する基礎技術からゲーム・エンタテインメント、仮想化システムなどの先端技術や環境分野のビッグデータ解析技術について研究し、新しい情報分野で活躍していくために必要な技術について学ぶ。企業活動のサポート、社会・環境問題のデータ分析と課題解決、人々の利便性向上やゲーム・エンタテインメント提供など、多様な情報システムを設計・構築・運用する能力を有する人材を育成する。
《数理情報学系》	数理情報学を基礎にしたデータ分析や数理モデル化による自然・社会システムの理解と課題解決実現のための手法を学ぶ。同時にこれらを情報システム化する技法を身につけ、その過程を通じて数理情報学およびその基礎である数学の専門性を修得することにより、高度な情報技術を駆使して意思決定を実行する、社会の要請に応え得るデータサイエンティストを育成する。
《社会情報学系》	社会と情報に関わるメディア学、社会科学、心理学などに関する研究をとおして、新しい価値を創造し、社会で活躍していくために必要な能力について学ぶ。社会問題解決のための情報分析、生活者の利便性向上のための社会情報の提供、情報メディアを活用した表現活動など、多様な情報を創造、運用する能力を有する人材を育成する。

3) 学位授与の方針【ディプロマポリシー】

東京情報大学は、以下のような学士力を身につけ、卒業要件単位数を修得した学生に対して、卒業時に学士の学位を授与する。

東京情報大学	
知識・理解	1. 専門分野の知識を習得し、社会の中で活用することができる。
汎用的技能	1. コミュニケーション能力を高め、自らの意見を論理的・効果的に伝えることができる。 2. 情報を適切に収集、分析及び活用することができる。 3. 社会人として必要な基礎的な知識と幅広い教養を身につけている。
態度・志向性	1. 社会人として必要な自己管理能力、協調性、統率力、倫理観、規律性を身につけている。 2. 情報モラルを身につけ、ICTを利活用することができる。

総合的な学習経験と 創造的思考力	1.主体的に課題を発見し、その課題を解決することができる。
総合情報学部総合情報学科	
知識・理解	1.情報科学や社会情報学についての豊かな知識を身につけている。 2.高度かつ専門的なICTの知識及び技術を身につけている。
汎用的技能	1.情報社会の分析・企画・立案をすることができる。
態度・志向性	1.情報社会の変化に対応すべく、幅広く自律的に学ぶ姿勢を身につけている。
総合的な学習経験と 創造的思考力	1.柔軟な課題解決能力を備えた情報のプロフェッショナルとして、人にやさしい情報社会の実現に貢献できる能力を身につけている。 2.地域連携等を通じて、実社会で新たな価値が創造できるようになる。
学系	
《情報システム学系》	
知識・理解	1.情報工学における基礎的な知識を身につけ、社会の要請にこたえるために、情報工学の基本的な技術を活用できる。 2.システム開発分野、ネットワーク分野、人工知能・ビッグデータ分野のいずれか1つの分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を有している。
汎用的技能	1.技術者として、情報システムの開発・運用を通じて情報技術の発展に貢献できる。 2.情報ネットワークシステムの開発・運用を通じて情報ネットワーク技術の発展に貢献できる。 3.人工知能やビッグデータ技術を利用したシステムの開発・運用を通じて人工知能やビッグデータ技術の発展に貢献できる。 4.他者との高いコミュニケーション能力を有し、論理的な議論ができる。
態度・志向性	1.工学的な情報の知識と技能を用いて社会に貢献できる。 2.技術者あるいは研究者として自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
総合的な学習経験と 創造的思考力	1.自分自身の成長について高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習できる。 2.自然、社会、文化に対して幅広い教養を持ち、高い情報技術を持つことで情報社会に対応できる。 3.情報システムの学びを総合的に活用することにより、自ら課題を設定し、実社会での問題解決策が導ける。
《数理情報学系》	
知識・理解	1.数理科学、統計学、情報科学における基礎的な知識・技術を身につけ活用できる。 2.数理情報分野、ビッグデータ及びスモールデータのいずれかの分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を有している。
汎用的技能	1.数理科学、統計学、情報科学を利用したシステムの開発・運用を通じて、数理情報分野の発展に貢献できる。 2.他者との高いコミュニケーション能力を有し、論理的な議論ができる。
態度・志向性	1.数理的な情報の知識と技能を用いて社会に貢献できる。 2.技術者、研究者あるいは教育者として自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
総合的な学習経験と 創造的思考力	1.自分自身の成長について高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習できる。 2.自然、社会、文化に対して幅広い教養を持ち、数理情動的な視点を持つことで情報社会に対応できる。 3.数理情報の学びを総合的に活用することにより、自ら課題を設定し、実社会での問題解決策が導ける。
《社会情報学系》	
知識・理解	1.社会生活の向上に向けた新たな情報を創造するための基礎的な知識・技術を身につけ活用できる。 2.メディア分野、経営分野、心理健康分野へのいずれか一つの分野の応用について理解する能力と関連分野の基礎知識を有している。

汎用的技能	<ol style="list-style-type: none"> 1.情報の表現者、分析者として、メディア学、社会科学にもとづいた新たなコンテンツの創造を通じて、社会情報学分野の発展に貢献できる。 2.他者との高いコミュニケーション能力を有し、論理的な議論ができる。
態度・志向性	<ol style="list-style-type: none"> 1.情報創造のためのメディアや専門知識を用いて社会に貢献できる。 2.情報の表現者あるいは分析者として自覚を持ち、高い倫理観を身につけている。
総合的な学習経験と創造的思考力	<ol style="list-style-type: none"> 1.自分自身の成長について高い意欲を持ち、自主的・総合的に学習できる。 2.自然、社会、文化に対して幅広い教養を持ち、社会生活に関わる情報を分析し、情報創造力と表現力を持つことで情報社会に対応できる。 3.社会情報の学びを総合的に活用することにより、自ら課題を設定し、実社会での問題解決策が導ける。

4) 教育課程編成・実施の方針【カリキュラムポリシー】

東京情報大学
<ol style="list-style-type: none"> 1.「未来を切り拓く」という建学精神と「現代実学主義」という教育理念に基づき、自らのキャリアを確立するための教育を実現するために、情報を活かして新しい未来を切り拓く人材育成を目指して総合情報学部情報システム学系、数理情報学系、社会情報学系を置く。さらに科学的根拠に基づいた適切なケアが提供できる人材育成を目指して看護学部看護学科を置き、教育課程を編成する。 2.教育理念である「現代実学主義」の精神に基づき、急速に進展しつつある情報社会、少子高齢社会の将来を見据えることができるための現代実学科目を設置する。各学部において、実践的な実学教育のカリキュラム体系を構築し、学生自身が主体的にかつ計画的に学び、実社会で活用できる能力を身につけていくことを教育方針とする。 3.全学共通科目は、学生として必要とされる知識と教養を養うとともに、学習方法および国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。 4.各学部の「基礎科目」は、当該学部で学修する知識や技能を体系的に身につけるために、学部の特性に応じた基礎教育を行う。 5.各学部の「専門教育科目」は、各々の専門的知識や学問的方法を体系的に学び、問題解決方法や問題の本質を見抜く洞察力や判断能力、社会や地域をサポートするための実践的能力を身につける。最終的に、これまで身につけてきた知識、技能・技術を集大成し、社会の発展に積極的に貢献できる人材を目指す。
総合情報学部総合情報学科
<p>総合情報学部総合情報学科では、情報学の幅広い専門知識と専門科目を身につけるために、共通基礎科目、情報基礎科目、キャリアデザイン科目を設置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.共通基礎科目を、「基礎演習」、「総合基礎」、「知識創造」、「実用語学」に分類する。 2.「基礎演習」では、総合情報学部で学修する知識や技能を体系的に身につけるために、学習動機付けを促進したり、コミュニケーション能力や創造的な思考力・理解力を育むために、参加型少人数授業を実施する。 3.「総合基礎」では、高度な科学技術知識を総合的に習得し、これを情報社会で活用できるようになるために必要な教養的知識や基礎知識について身につける。 4.「知識創造」では、初年次教育における「基礎演習」での学びに加えて、学部・学科の教育内容に興味を持たせ、その後の教育プログラムにうまく乗せていくために、体験型学習による能動的で自律的な学習態度への転換を促す授業を実施する。さらに、クリティカルシンキングやコミュニケーション能力など大学で学ぶための思考方法についても習得する。 5.「実用語学」では、「全学共通科目」で学んだ、国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力に加えて、情報社会に通用する国際的に通用する最低限のコミュニケーション能力を、コンピュータおよびビジネス分野に限定して習得する。 6.情報基礎科目では、情報化社会を生きていくために必要となる、情報に関する基礎的な知識を身につける。 7.キャリアデザイン科目では、キャリア支援を実施するとともに、インターンシップも支援していく。

学系

《情報システム学系》

情報システム学系では、社会のニーズに応える情報システムを構築するために、情報システムに対する深い関心と理解を持ち、その構成要素と要素技術に関する知識を学び、これらの統合によりシステムとして纏めあげていく技術を学ぶ必要がある。これらを実現するために、専門教育科目を「専門基礎科目」、「専門応用科目」、「卒業研究」に分類する。また、教職課程の高校一種「情報」免許取得を可能とする。

1. 専門基礎科目を、「共通」、「情報システム」、「数理情報」、「社会情報」に区分する。
2. 専門基礎科目に該当する「共通」科目では、情報システム学系を学んでいくために、「総合情報学」の導入教育や「情報システム学系」の入門科目を設置する。
3. 専門基礎科目に該当する「情報システム」科目では、コンピュータ全般にわたる基礎知識、ソフトウェアおよびプログラミングに関する基礎的な能力、情報通信に関する基礎知識、情報システムの基礎知識、環境を対象としたデータ解析・応用の基礎知識を習得する。
4. 専門応用科目に該当する「情報システム」科目では、情報システムの開発・運用、情報ネットワークシステムの開発・運用、人工知能やビッグデータ技術を利用した応用システムの開発・運用に関する技術を習得する。
5. 情報システム学に関連する幅広い分野の知識と技術の習得を奨励するために、「数理情報」、「社会情報」の専門基礎科目および専門応用科目を、自由選択科目として選択・履修できるようにする。
6. 「卒業研究」では、情報システムの学びを総合的に活用し、自ら課題を設定し、理論と実践を融合し、実社会での問題解決策を個別指導により考察し、卒業論文として纏める。
7. 教職課程では、情報社会に積極的に参画する能力と態度を養う分野、情報を効果的に活用する科学的な考え方を養う分野、および、情報モラル、知的財産の保護、情報の安全等に対する実践的な情報活用力を養う分野を学ぶ。さらに、多様化する情報社会において、その変化と学校現場を取り巻く状況を踏まえ、柔軟に対応できる専門的知識を身につけた教員としての資質を備えた人材を育成する。

《数理情報学系》

数理情報学系では、情報社会における様々な問題を、数理的手法とコンピュータ技術を駆使して合理的かつ効率的に解決できる実践的な能力を習得する必要がある。これを実現するために、専門教育科目を「専門基礎科目」、「専門応用科目」、「卒業研究」に分類する。また、教職課程の中高一種「数学」免許取得を可能とする。

1. 専門基礎科目を、「共通」、「情報システム」、「数理情報」、「社会情報」に区分する。
2. 専門基礎科目に該当する「共通」科目では、「総合情報学」全体の導入教育や、「数理情報学系」の入門科目を設置する。
3. 専門基礎科目に該当する「数理情報」科目では、数理情報学全般にわたる基礎知識、数理情報学の基礎となる数学の諸分野の基礎知識、コンピュータを用いて数理的な処理を行うための基礎知識と技術を習得する。
4. 専門応用科目に該当する「数理情報」科目では、より高度な数学的知識を学ぶと共に、統計学やデータサイエンス等に関する専門的、実践的、かつ多様な知識を習得し、数理的手法とコンピュータを連携させ、情報社会における様々な問題を合理的かつ効率的に解決するための総合的な知識と技術を習得する。
5. 数理情報学に関連する幅広い分野の知識と技術の習得を奨励するために、「情報システム」、「社会情報」の専門基礎科目および専門応用科目を、自由選択科目として選択・履修できるようにする。
6. 「卒業研究」では、教員の指導のもとで、研究課題を設定し、数理情報学系での学びを総合的に活用し、さらに進んだ知識と技術の習得に努め、学んだ知識と技術を主体的に実践し、その結果を真摯に考察し、新たな知見を生み出すことに挑戦する。そして、その最終成果を卒業論文として纏める。
7. 教職課程では、数学の代表的分野、自然、社会、人間の各現象に関わる「情報」を、コンピュータを用いて数理的に扱う分野、および、情報モラル、知的財産の保護、情報の安全等に対する実践的な情報活用力を養う分野を学ぶ。さらに、ICTを用いた効果的な授業や適切なデジタル教材の開発・活用能力の養成を受け、より分かりやすい役に立つ数学の指導と、意欲的、協働的に、また創造的な学びや活動を実現化する人材を育成する。

《社会情報学系》

社会情報学系では、社会のニーズに応える社会情報を構築するために、社会情報に対する深い関心と理解を持ち、情報表現、情報分析、メディア文化、経営学、心理学、および、スポーツ科学に関する知識を学び、これらの統合により新たな価値の創造ができるよう学ぶ必要がある。これらを実現するために、専門教育科目を「専門基礎科目」、「専門応用科目」、「卒業研究」に分類する。

1. 専門基礎科目を、「共通」、「情報システム」、「数理情報」、「社会情報」に区分する。
2. 専門基礎科目に該当する「共通」科目では、社会情報学系の導入教育として、「総合情報学」や「社会情報学系」の基礎演習を設置する。
3. 専門基礎科目に該当する「社会情報」科目では、社会情報全般にわたる基礎知識、映像・音響、CGに関する基礎的な技術、メディア文化、経営学、心理学、スポーツ科学の基礎知識を習得する。
4. 専門応用科目に該当される「社会情報」科目では、映像表現、音響技術、CG技術、メディア文化、経営学、心理学、スポーツ科学に関する専門的知識と技術を習得する。
5. 社会情報学に関連する幅広い分野の知識と技術の習得を奨励するために、「情報システム」、「数理情報」の専門基礎科目および専門応用科目を、自由選択科目として選択・履修できるようにする。
6. 「卒業研究」では、社会情報学の学びを総合的に活用し、自ら課題を設定し、理論と実践を融合し、実社会に対応できる情報表現能力や問題解決能力を個別指導により養い、卒業論文として纏める。

2. 授業科目の履修及び進級・卒業要件について

1) 総合情報学部の履修について

2～4年次生は、その年度に受講したい科目の全て（前期・後期科目とも）を登録します。

なお、1年次は前期・後期、各学期毎に登録します。後期科目の履修については、9月のガイダンス時に説明します。

授業科目を履修するうえで、以下のことに注意してください。また、5) 卒業要件に掲載している各学系の卒業所要単位数も確認しながら履修してください。

(1) 必修科目の履修

- ①各学系で、必修科目に指定している科目は、必ず選択履修してください。
- ②1年次配当の必修科目を3年次までに単位修得できない場合は、4年次に進級できません。

(2) 選択必修科目の履修

- ①全学基礎科目/スポーツに配当されている「スポーツ演習a～d」の中から、必ず1科目（1単位）を選択履修してください。
- ②共通基礎科目/知識創造に配当されている「知識創造の方法a～f」の中から、必ず1科目（2単位）を選択履修してください。
- ③専門基礎科目において、各学系が選択必修と指定している科目から、各学系が定めた単位数を選択履修してください。なお、所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の専門基礎の単位数とします。
- ④専門応用科目において、各学系（情報システム学系及び数理情報学系対象）が選択必修と指定している科目から、各学系が定めた単位数を選択履修してください。なお、所定の単位数を超えて修得した単位数は、選択科目の専門基礎の単位数とします。

(3) 選択必修科目（外国語）の履修（2年次）

- ①全学基礎科目/外国語及び共通基礎科目/実用語学に配当されている以下の科目から、必ず1組（2単位）を選択履修してください。
 - ・「中国語a・b」
 - ・「コンピュータ英語a・b」
 - ・「ハングル・韓国語a・b」
 - ・「ビジネス英語a・b」
- ②各クラスの履修者数が40名を超えた場合、抽選により履修者数を制限する場合があります。抽選方法等は、J-portのシラバス及び初回の講義で確認してください。
- ③外国人留学生は母国語の科目を履修することはできません。
※外国人留学生とは、本学の「外国人留学生試験」を受験して入学した留学生が対象となります。

(4) 選択科目の履修

①各学系で、選択科目に指定している科目の中から、各学系が定めた単位数を選択履修してください。

(5) 外国人留学生の履修

①外国人留学生は、「日本語 a～d」を必修とし、必修科目・外国語の単位数とします。なお、「英語 a～d」を単位修得した場合は、2単位まで選択必修科目・外国語の単位にします。

②授業科目表の科目名に「(※)」が付記されている科目は、外国人留学生対象科目です。積極的に履修してください。

(6) セット履修、ステップ履修科目について

セット履修、ステップ履修科目については、56ページ、85～86ページに掲載しています。

2) 単位制

単位制とは、学則第11条から第14条の規定に基づき、各入学年度の教育課程によって定められた全ての授業科目に一定の基準で単位数を定め、その授業科目を履修し、学修の成果を試験等により評価し、合格することで、所定の単位を修得していく制度です。

単位計算の基準は以下のとおりです。

区 分	授業時間	授業外学習時間	単位数
講 義	2時間×15週	4時間×15週	2単位
演 習	2時間×15週	1時間×15週	1単位
外国語	2時間×15週	1時間×15週	1単位

*時間割上の1時限は90分授業であり、上記の2時間とみなされる。

*授業時間は毎週1回を標準とする。

3) 年間履修単位数 (CAP制)

1年間及び各学期に履修できる上限単位数を、以下のとおり設定しています。これは、上記の単位制に基づき、単位を修得するためには、授業の他に授業外学修（予習や復習）の時間を確保する必要があり、履修単位数が多くなるとそれに比例して授業外学修の時間も多くなることを防ぐための制限です。

例えば、講義科目を20単位修得するには、**1週間に20時間の授業と40時間の授業外学修**をすることになります。

【履修登録単位数の上限】

・1年間に履修登録できる単位数の上限・・・48単位（52単位）

・各学期に履修登録できる単位数の上限・・・26単位（28単位）

※前期で26単位履修登録した場合、後期は22単位までしか履修できません。

※教職課程科目については、この履修登録単位数の制限から除外します。

※1年間開講する科目（通年科目）は、単位数を2分し、各学期の登録単位数としてカウントします。

※集中授業は、夏季は前期、冬季は後期としてカウントします。

※〈 〉内の単位数は、前学期までの通算GPAが3.0以上の時に履修登録できる上限単位数を表します。

4) 進級要件

2年次から3年次および3年次から4年次への進級、ならびに卒業するために、それぞれ要件が定められています。この要件を満たすように履修登録をし、単位修得するようこころがけてください。なお、要件を満たしていても休学した場合は翌年度は原級となります。

(1) 1年次から2年次への進級

2年次への進級の際には要件はありませんが、1年次終了時に修得単位数が25単位に満たない者あるいは後期の修得単位数が6単位に満たない者、または当該年度のGPAが1.0未満の者には、年度末に指導を行います。

(2) 2年次から3年次への進級

入学後の2年間（休学期間を除く）で、修得単位が50単位に満たない者は、第3年次に進級することができません。

(3) 3年次から4年次への進級

3年次終了の時点で、以下の要件を満たさない者は、第4年次に進級することができません。

①修得単位が90単位以上であること。

- ② 1年次配当の必修科目の単位を全て修得済であること。
 なお、3年次編入学生に対しては、②の要件は適用されません。

5) 卒業要件

学則及び総合情報学部履修規程により、卒業に必要な単位数が、以下のとおり学系ごとに定められています。

《情報システム学系》

卒業要件単位数														
合計	◎必修科目						○選択必修科目					△選択科目		
	現代実学	外国語	基礎演習	情報基礎	専門基礎	卒業研究	スポーツ	外国語	知識創造	専門基礎	専門応用	総合基礎	キャリアデザイン	専門選択(基礎・応用)
	4	4	2	6	13	11	1	2	2	18	6	8	※	47
124	40						29					55		

- キャリアデザイン科目(※)は専門選択の単位とする。
- 実用語学の「日本語総合演習」は選択科目・総合基礎の単位とする。
- 選択必修科目・専門基礎の卒業要件である18単位を超えて修得した単位は、専門選択の単位とする。
- 選択必修科目・専門応用の卒業要件である6単位を超えて修得した単位は、専門選択の単位とする。
- 他学科履修において修得した単位は、8単位まで専門選択の単位とする。
- 専門教育科目の自由選択科目を履修し修得した単位は、他学系履修として取扱い20単位まで専門選択の単位とする。ただし、このうち科目区分「社会情報」の単位は8単位以内とする。

《数理情報学系》

卒業要件単位数															
合計	◎必修科目							○選択必修科目					△選択科目		
	現代実学	外国語	基礎演習	総合基礎	情報基礎	専門基礎	卒業研究	スポーツ	外国語	知識創造	専門基礎	専門応用	総合基礎	キャリアデザイン	専門選択(基礎・応用)
	4	4	2	4	6	19	11	1	2	2	12	12	4	※	41
124	50							29					45		

- キャリアデザイン科目(※)は専門選択の単位とする。
- 実用語学の「日本語総合演習」は選択科目・総合基礎の単位とする。
- 選択必修科目・専門基礎の卒業要件である12単位を超えて修得した単位は、専門選択の単位とする。
- 選択必修科目・専門応用の卒業要件である12単位を超えて修得した単位は、専門選択の単位とする。
- 他学科履修において修得した単位は、8単位まで専門選択の単位とする。
- 専門教育科目の自由選択科目を履修し修得した単位は、他学系履修として取扱い20単位まで専門選択の単位とする。ただし、このうち科目区分「社会情報」の単位は8単位以内とする。

《社会情報学系》

卒業要件単位数													
合計	◎必修科目						○選択必修科目					△選択科目	
	現代実学	外国語	基礎演習	情報基礎	専門基礎	卒業研究	スポーツ	外国語	知識創造	専門基礎	総合基礎	キャリアデザイン	専門選択(基礎・応用)
	4	4	2	6	6	11	1	2	2	10	8	※	68
124	33						15					76	

- キャリアデザイン科目(※)は専門選択の単位とする。
- 実用語学の「日本語総合演習」は選択科目・総合基礎の単位とする。
- 選択必修科目・専門基礎の卒業要件である10単位を超えて修得した単位は、専門選択の単位とする。
- 他学科履修において修得した単位は、8単位まで専門選択の単位とする。
- 専門教育科目の自由選択科目を履修し修得した単位は、他学系履修として取扱い20単位まで専門選択の単位とする。

NOTICE

外国人留学生は、「日本語a～d」と「英語a～d」の両方が履修できます。「英語a～d」は、2単位まで選択必修科目・外国語の単位とすることができます。

※「外国人留学生」とは、本学の「外国人留学生入試」を受験して入学した留学生が対象となります。

6) 進級・卒業者発表

学年末試験の結果を受けて2～4年生を対象に進級・卒業判定を行い、上記の要件を満たした者を進級・卒業者として3月中旬に発表します。発表日および発表場所は、J-portで連絡します。

7) 卒業見込証明書の発行

卒業見込証明書は、4年次4月の履修登録の結果を踏まえて、卒業見込判定を行い、卒業要件を満たした学生にだけ5月中旬頃から証明書自動発行機で発行します。

8) 学士の学位

卒業要件を満たした者に対しては、学士（総合情報学）の学位を授与します。

9) 9月卒業

本学に4年以上在学したものの、所要の卒業単位を修得できずに留年した者が、前期科目の履修と単位の修得をもって卒業要件を満たした場合は、9月30日付けで卒業することができます。

10) 表彰

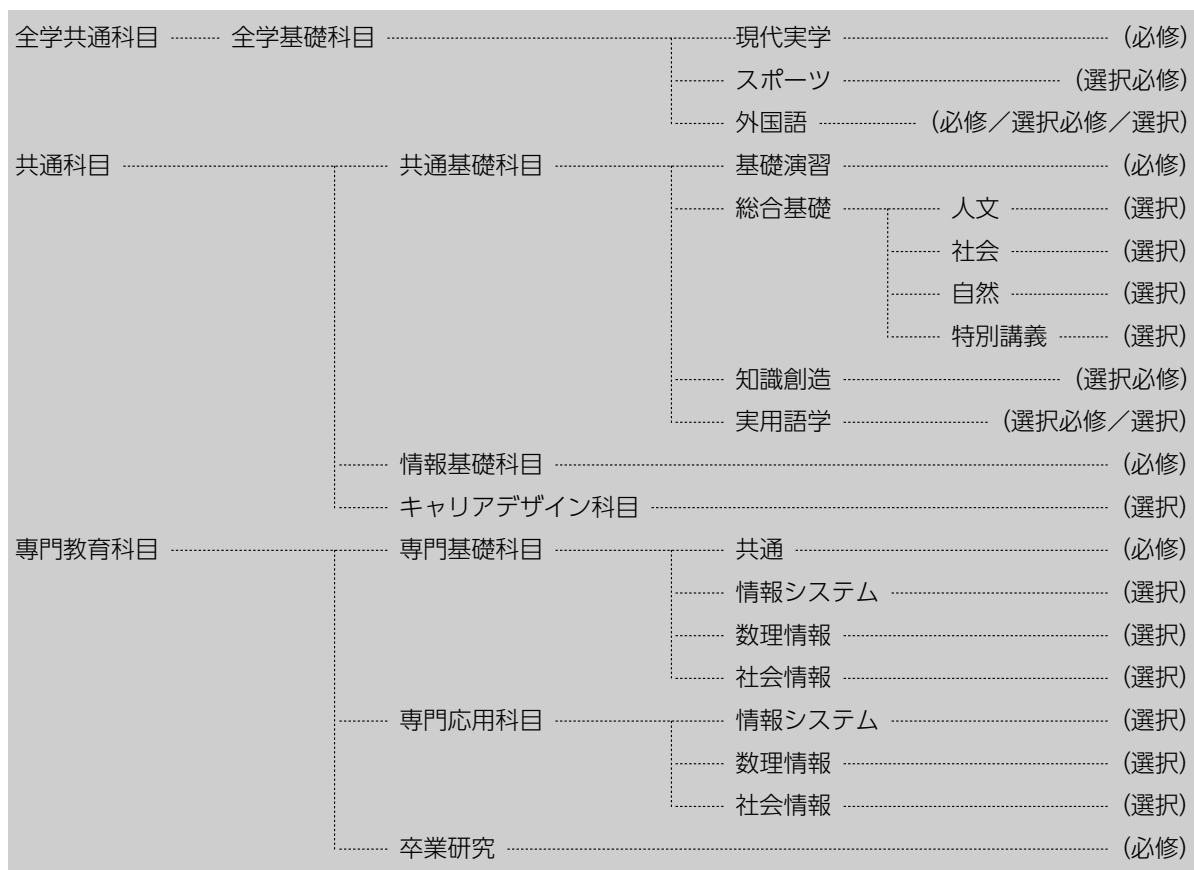
学則に基づき、在学中に極めて優秀な成績を修めた者には「学業成績優秀賞」を、極めて優秀な卒業論文（卒業制作を含む）を作成した者には「卒業論文優秀賞（学長賞・小田賞）」を授与して表彰します。また、スポーツ・文化の部門においても、特に抜群の成果を挙げた者には、「スポーツ・文化賞」を授与して表彰します。

表彰は、該当者の学位記授与式の際に行います。

3. 教育課程

1) 授業科目の分類

(1) 授業科目は、以下の科目群に分類されます。



※以上の他に、教職課程科目、放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目が開講されています。

(2) 授業科目は、卒業の要件として修得しなければならないか否かにより、次のように分類されます。

学系ごとに必修区分が異なるので、注意してください。

必修科目……………必ず修得しなければならない授業科目

選択必修科目…特定の科目の中から選択して必ず修得しなければならない授業科目

選択科目……………自由に選択して修得する授業科目

自由選択科目…学系ごとに定められた単位数を上限に卒業要件として認められる授業科目。

上限を超えて修得した授業科目の単位数は、卒業要件として認定されない。

2) 授業科目表

全学共通科目

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	学系別必修区分			教職		担当者	
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数		
全学基礎科目	現代実学	情報リテラシー演習	1	F	2	◎	◎	◎	◎	◎	川藤 英史 樋口 大輔 小早川 睦貴 *木村 昌史 *小岩 義典 *須賀 孝之 *鈴木 敏彦 *平塚 聖敏 *渡辺 俊一
		情報モラルとセキュリティ	1	F	2	◎	◎	◎	◎		井関 文一 早稲田 篤志
スポーツ		スポーツ演習 a	1	F	1	○	○	○	○	○	石井 政弘
		スポーツ演習 b	1	L	1	○	○	○	○	○	*原 朗
		スポーツ演習 c	1	F	1	○	○	○	○	○	*齋藤 修司
		スポーツ演習 d	1	L	1	○	○	○	○	○	
外国語		英語 a	1	F	1	◎	◎	◎	◎	◎	*太田 美智子 *更科 加代子
		英語 b	1	L	1	◎	◎	◎	◎	◎	*中尾 由美子 *松堂 啓子 *藪内 聡子
		英語 c	1	F	1	◎	◎	◎	◎	◎	*矢野 剛 *本間 幸郎
		英語 d	1	L	1	◎	◎	◎	◎	◎	*水戸 俊介 *渡邊 正明 *渡邊 啓之 *青砥 吉隆
		中国語 a	2	F	1	○	○	○			*飯塚 由樹
		中国語 b	2	L	1	○	○	○			*飯塚 由樹
		ハングル・韓国語 a	2	F	1	○	○	○			*崔 甲伊
		ハングル・韓国語 b	2	L	1	○	○	○			*崔 甲伊
		日本語 a (※)	1	F	1	◎	◎	◎			茂住 和世 *今川 和
		日本語 b (※)	1	L	1	◎	◎	◎			茂住 和世 *今川 和
		日本語 c (※)	1	F	1	◎	◎	◎			茂住 和世 *今川 和
		日本語 d (※)	1	L	1	◎	◎	◎			茂住 和世 *今川 和

【備考】

(1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。

(2) 学系別必修区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。

(3) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。

(4) 担当者の前の*は非常勤講師を表す。



基礎科目

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教職		担当者		
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数			
共通基礎科目	基礎演習	フレッシュマン演習	1		1	○	○	○			(専任教員)	
		基礎演習	1	F	1	○	○	○			(専任教員)	
	総合基礎 人文	哲学概論	1	F	2	△	△	△			*小須田 健	
		レポートと文章作法	1	F/L	2	△	△	△			田邊 昭雄 *白井 雅彦 *關 昌子 *竹内 英世	
		歴史学	1	F	2	△	△	△			*坂口 太助	
		文化人類学	1	L	2	△	△	△			*足立 加勇	
		心理学概論	1	L	2	△	△	△			小早川 睦貴	
		スポーツと社会	1	L	2	△	△	△			石井 政弘 *原 朗	
	社会	法学概論	1	F	2	△	△	△			*花村 征志 *鈴木 崇之	
		民法	1	L	2	△	△	△			*鈴木 崇之	
		日本国憲法	1	F	2	△	△	△	◎	◎	*鈴木 崇之	
		経済学概論	1	F	2	△	△	△			*伊藤 幸郎	
		現代企業論	1	L	2	△	△	△			樋口 大輔	
		情報法	1	L	2	△	△	△	◎		*鈴木 崇之	
		コミュニケーション論	1	F	2	△	△	△			*小須田 健	
		市民活動論	1	F	1	△	△	△			藤井 かし子	
	自然	人権・ジェンダー	1	F	1	△	△	△			*瀬山 紀子	
		統計学	1	F	2	△	△	△		◎	*鈴木 聡 *吉高 公彦	
		基礎数学入門	1	F/L	2	△	△	△			鈴木 英男 榎 誠司 蔵岡 誉司	
		基礎数学a	1	F	2	△	◎	△			蔵岡 誉司 *平塚 聖敏 *篠原 徹 *平塚 聖敏	
		基礎数学b	1	L	2	△	◎	△			蔵岡 誉司 *山下 哲 *篠原 徹	
		生命と情報	1	L	2	△	△	△			*原 慶太郎	
		生命倫理	1	L	2	△	△	△			*近藤 弘美	
		環境学	1	F	2	△	△	△			富田 瑞樹	
		数理科学	1	L	2	△	△	△			*木村 昌史	
		健康科学	1	F	2	△	△	△			石井 政弘 吉武 幸恵	
		プログラミング入門	1	L	2	△	△	△			富田 瑞樹 中島 淳	
		特別講義	特別講義 a	1	F/L	2	△	△	△			布広 永示 鈴木 英男
			特別講義 b	1	F/L	2	△	△	△			朴 鍾杰 榎 誠司 *西川 マキ *秋元 大輔

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教職		担当者	
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数		
共通基礎科目	知識創造	知識創造の方法 a	1	F	2	○	○	○			茂住 和世
		知識創造の方法 b	1	F	2	○	○	○			中島 淳
		知識創造の方法 c	1	F	2	○	○	○			*久保田 達也 *中尾 宏
		知識創造の方法 d	1	F	2	○	○	○			西村 明
		知識創造の方法 e	1	F	2	○	○	○			河野 義広
		知識創造の方法 f	1	F	2	○	○	○			岸本 頼紀
	実用語学	コンピュータ英語 a	2	F	1	○	○	○			高橋 洋平 *更科 加代子 *中尾 由美子 *國府方 麗夏 *渡邊 啓之 *青砥 吉隆
		コンピュータ英語 b	2	L	1	○	○	○			高橋 洋平 *更科 加代子 *中尾 由美子 *國府方 麗夏 *渡邊 啓之 *青砥 吉隆
		ビジネス英語 a	2	F	1	○	○	○			*水戸 優介 *太田 美智子 *藪内 聡子 松下 博宣
		ビジネス英語 b	2	L	1	○	○	○			*水戸 優介 *太田 美智子 *藪内 聡子 松下 博宣
日本語総合演習 (※)		1	L	1	△	△	△			*今川 和	
情報基礎科目	経営と情報	1	L	2	◎	◎	◎			池田 幸代 樋口 大輔 *中尾 宏	
	コンピュータ概論	1	F	2	◎	◎	◎	◎		早稲田 篤志 朴 鍾杰 *平山 英毅	
	情報分析基礎	1	L	2	◎	◎	◎		◎	堂下 浩 吉澤 康介 小早川 睦貴 佐野 夏樹 *木村 昌史 *鈴木 敏彦	
キャリアデザイン科目	情報社会と職業	2	F	2	△	△	△			井関 文一	
	キャリアデザイン a	2	L	2	△	△	△			小早川 睦貴 井関 文一	
	キャリアデザイン b	3	F	2	△	△	△			茨木 正治 高橋 洋平	
	インターンシップ	3		2	△	△	△			河野 義広 樋口 大輔 マッキンケスジェームス	
	学校インターンシップ (◇)	2		2	△	△		△	△	原田 恵理子 田邊 昭雄 榎 誠司	
	日本の社会と生活文化 (※)	2	F	2	△	△	△			茂住 和世	
	ビジネスコミュニケーション (※)	2	L	2	△	△	△			茂住 和世	
	リクルートコミュニケーション (※)	3	F	2	△	△	△			茂住 和世	

【備考】

- 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- 学系別必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。
- 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。
- 担当者の前の*は非常勤講師を表す。

専門教育科目

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教職		担当者	
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数		
専門基礎科目	共通	総合情報学概論	1	F	2	○	○	○			河野 義広 山口 豊
		学系基礎演習 a	1	L	1	○	○	○			(各学系担当者)
		学系基礎演習 b	2	F	1	○	○	○			(各学系担当者)
	情報システム	情報システム学概論	1	L	2	○	-	-			井関 文一
		IT基礎技術論	1	L	2	○	△				花田 真樹 早稲田 篤志 *平塚 聖敏
		プログラミング基礎	1	L	2	○	○		○		マッキンケネスジェームス 岸本 頼紀 早稲田 篤志 *海老原 亨 *須賀 孝之 *北風 和久
		プログラミング基礎演習	1	L	1	○	○		○		マッキンケネスジェームス 大見 嘉弘 *海老原 亨 *平塚 聖敏 *須賀 孝之 *北風 和久
		情報ネットワーク概論	1	L	2	○	-	-	○		鈴木 英男 花田 真樹
		アルゴリズムとデータ構造 a	2	F	2	○	△			△	永井 保夫 大見 嘉弘
		アルゴリズムとデータ構造 b	2	L	2	○	△			△	永井 保夫 大見 嘉弘
		システム設計論 a	2	F	2	○			○		布広 永示 宇田川 俊久 岸本 頼紀
		システム設計論 b	2	L	2	○			○		布広 永示 宇田川 俊久 岸本 頼紀
		プログラミング応用 a	2	F	2	○	△			△	齋藤 卓也 布広 永示 宇田川 俊久 大城 正典 村上 洋一 *平塚 聖敏 *渡辺 俊一 *北風 和久
		プログラミング応用 a 演習	2	F	1	○	△			△	齋藤 卓也 布広 永示 宇田川 俊久 大城 正典 村上 洋一 *平塚 聖敏 *渡辺 俊一 *北風 和久
		プログラミング応用 b	2	L	2	○	△			△	齋藤 卓也 布広 永示 宇田川 俊久 大城 正典 村上 洋一 *平塚 聖敏 *渡辺 俊一 *北風 和久
		プログラミング応用 b 演習	2	L	1	○	△			△	齋藤 卓也 布広 永示 宇田川 俊久 大城 正典 村上 洋一 *平塚 聖敏 *渡辺 俊一 *北風 和久

総合情報学部について

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教職		担当者		
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数			
専門基礎科目	情報システム	情報通信システム論a	2	F	2	○			◎		井関 文一	
	情報通信システム論b	2	L	2	○			◎		井関 文一		
	Unix論a	2	F	2	△	△					森口 一郎 花田 真樹 村上 洋一	
	Unix論b	2	L	2	△	△					森口 一郎 花田 真樹 村上 洋一	
	情報システムアーキテクチャ	2	F	2	△	△					岸本 頼紀 花田 真樹	
	データベース論	2	L	2	△	-	-		◎		宇田川 俊久 藤原 丈史 *木村 昌史	
	人工知能a	2	L	2	△				*		永井 保夫	
	環境情報論a	2	F	2	○				*		*原 慶太郎	
	環境情報論b	2	L	2	○						富田 瑞樹	
	地理情報システムa	2	F	2	○	△					富田 瑞樹 *浅沼 市男	
	地理情報システムb	2	L	2	○	△					富田 瑞樹 *浅沼 市男	
	画像情報論	2	F	2	○	△					朴 鍾杰	
	数理情報	数理情報学概論	1	L	2	-	◎	-		*		佐野 夏樹
	情報数学a	1	L	2		◎			*		*篠原 徹 *渡辺 俊一	
	情報数学b	2	F	2		◎			*		*篠原 徹 *渡辺 俊一	
	離散数学a	1	L	2		○			*		*篠原 徹 *山下 哲	
	離散数学b	2	F	2		○			*		*篠原 徹 *山下 哲	
	推測統計学	1	L	2		○			◎		内田 治 *鈴木 聡	
	情報分析応用	2	F	2	△	◎	○				川勝 英史 吉澤 康介 *平塚 聖敏 *櫻井 尚子	
	データサイエンス概論	2	F	2		◎			◎		藤原 丈史	
	データ処理論	2	L	2		◎			△		川勝 英史 吉澤 康介	
	代数学a	2	F	2		○			◎		蔵岡 誉司	
	代数学b	2	L	2		○			◎		蔵岡 誉司	
幾何学a	2	F	2		○			◎		*福室 康一		
幾何学b	2	L	2		○			◎		*福室 康一		
解析学a	2	F	2		○			◎		*福室 康一		
解析学b	2	L	2		○			◎		*福室 康一		
確率論	1	L	2		○			◎		*渡辺 俊一		
ネットワークとセキュリティ	1	L	2		-	△				早稲田 篤志		
データベース管理システム	2	L	2		-	△				佐野 夏樹		

【備考】

- 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- 学系別必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。
- 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。
- 担当者の前の*は非常勤講師を表す。

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	学系別必修区分			教職		担当者	
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数		
専門基礎科目	社会情報	社会情報学概論	1	L	2	—	—	◎		松下 孝太郎	
		映像表現論	1	L	2			○		浅川 順	
		映像表現基礎Ⅰ	1	L	2			△		藤田 修平 浅川 順	
		映像表現基礎Ⅱ	2	F	2			△		藤田 修平	
		メディア社会論	2	F	2			○		藤田 修平	
		音響メディア論Ⅰ	1	L	2			○		西村 明	
		サウンドデザイン論	2	L	2			△		西村 明	
		コンピュータグラフィックス基礎	1	L	2	△	△	△	◎	松下 孝太郎 安岡 広志	
		コンピュータグラフィックス論	2	F	2	△		○		中島 淳	
		コンピュータグラフィックス演習	2	L	1	△		△	◎	松下 孝太郎	
		Webデザイン演習	2	F	1	△		△	△	安岡 広志	
		ゲーム制作基礎	1	L	2	△		△		中島 淳	
		情報メディア論	1	L	2	△		○	◎	*玉川 博章	
		視覚デザイン論	2	L	2			△		中島 淳	
		知覚心理学	2	L	2			△		西村 明	
		社会学概論	1	L	2			△		圓岡 偉男	
		比較社会論	2	L	2			△		茨木 正治	
		マスメディア論	2	F	2			△		茨木 正治	
		社会心理学	2	L	2			△		茨木 正治	
		海外事情	1	L	2			△		高橋 洋平	
		文学論・英米児童文学	2	L	2			△		休 講	
		コミュニケーション実践論	2	L	2			△		*玉川 博章	
		マーケティング概論	1	L	2		△	○		*伊藤 幸郎	
		基礎会計論	1	L	2		△	△		*景山 秀貴	
		経営学概論	1	L	2		△	○		樋口 大輔	
		経営管理論	2	F	2			○		*伊藤 幸郎	
		経営組織論	2	F	2			○		池田 幸代	
		マーケティング論	2	L	2		△	△		樋口 大輔	
		グローバル経済と金融	2	F	2			○		堂下 浩	
		会計学概論	2	L	2			△		*景山 秀貴	
		スポーツトレーニング論	1	L	2			△		*原 朗	
		スポーツ指導論	2	F	2			△		*原 朗	
		スポーツ情報論	2	F	2		△	○		石井 政弘	
		スポーツ心理学	2	L	2			△		石井 政弘	
		臨床心理学概論	2	F	2			○		山口 豊	
		認知心理学	2	F	2			△		小早川 睦貴	
		心理学研究法	2	L	2			△		小早川 睦貴	
		心理検査法	2	F	2			△		山口 豊	
		人間関係論	2	L	2		△	△		山口 豊	
		学校心理学	2	F	2			△		原田 恵理子	
	道徳教育の理論と方法(◇)	2	L	2			—	△	◎ *原田 恵理子 *江島 顕一		
専門応用科目	情報システム	Webシステムプログラミングa	3	F	2	○			△	◎	永井 保夫 大見 嘉弘 河野 義広
		Webシステムプログラミングa演習	3	F	1	○			△		永井 保夫 大見 嘉弘 河野 義広

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	学系別必選区分			教職		担当者		
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数			
専門応用科目	情報システム	Webシステムプログラミングb	3	L	2	○			△		永井 保夫 大見 嘉弘 河野 義広	
		Webシステムプログラミングb演習	3	L	1	○			△		永井 保夫 大見 嘉弘 河野 義広	
		ネットワークセキュリティ論	3	L	2	△			△		井関 文一	
		ソフトウェア工学a	3	F	2	△			*		岸本 頼紀	
		ソフトウェア工学b	3	L	2	△			*		岸本 頼紀	
		ネットワークプログラミングa	3	F	2	○			*		井関 文一 森口 一郎	
		ネットワークプログラミングa演習	3	F	1	○			*		井関 文一 森口 一郎	
		ネットワークプログラミングb	3	L	2	○			*		井関 文一 森口 一郎	
		ネットワークプログラミングb演習	3	L	1	○			*		井関 文一 森口 一郎	
		モバイルプログラミングa	3	F	2	△			*		大見 嘉弘	
		モバイルプログラミングb	3	L	2	△			*		大城 正典	
		言語処理論	3	L	2	△			*		布広 永示	
		人工知能b	3	F	2	△			*		マッキン ケネスジェームス	
		人工知能プログラミング	3	L	2	△			△		マッキン ケネスジェームス	
		ゲームプログラミングa	3	F	2	△			*		大城 正典	
		ゲームプログラミングb	3	L	2	△			*		大城 正典	
		暗号理論	2	L	2	△			△		鈴木 英男	
		情報通信ネットワーク論	3	F	2	△			*		花田 真樹	
		環境システム論	3	F	2	○					富田 瑞樹	
		環境システム演習	3	L	1	○					富田 瑞樹 朴 鍾杰 * 平山 英毅	
		環境リモートセンシング	3	F	2	○					朴 鍾杰	
		画像・動画処理演習	3	L	1	○	△				朴 鍾杰	
		環境情報応用論	3	L	2	△					* 原 慶太郎	
		パターン認識	3	L	2	△	△				朴 鍾杰	
	数理情報		データマイニング	3	F	2	△	○				佐野 夏樹
			応用統計学	3	F	2		○		△		内田 治
			多変量解析	3	F	2		○		△		* 櫻井 尚子
			実験計画法	3	L	2		○		△		内田 治
			オペレーションズリサーチ	3	F	2	△	○				* 渡辺 俊一
			データ解析システム	3	L	2		○		△		藤原 丈史
		Webデータサイエンス	3	F	2		○		△		吉澤 康介	
		数値計算法	3	L	2		○		△		川勝 英史	
		シミュレーション	3	F	2		○		△		川勝 英史	
		データサイエンスa	3	F	2		○		*		佐野 夏樹	
		データサイエンスb	3	L	2		○		*		佐野 夏樹	
		計算機数論	2	F	2		△		*		鈴木 英男	
		整数論	2	L	2		△		△		蔵岡 誉司	
		微分方程式論	3	F	2		△		*		* 渡辺 俊一	
		符号理論	3	F	2		△		*		鈴木 英男	

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (2) 学系別必選区分欄の○は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。
- (3) 教職欄の○は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。
- (4) 担当者の前の*は非常勤講師を表す。

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	学系別必修区分			教 職		担当者
					情報システム	数理情報	社会情報	情 報	数 学	
専門応用科目	映像制作論Ⅰ	2	L	2			△			藤田 修平
	映像制作論Ⅱ	3	F	2			△			浅川 順
	パフォーマンス論	3	F	2			△			*見上 裕昭
	シナリオ論	2	F	2			△			*伊藤 敏朗
	音響メディア論Ⅱ	2	F	2			△			西村 明
	出版メディア論	3	F	2			△			中島 淳
	メディア広告論	3	L	2			△			安岡 広志
	現代社会学	3	L	2			△			圓岡 偉男
	政治と情報	3	F	2			△			茨木 正治
	新聞論	3	L	2			△			茨木 正治
	異文化コミュニケーション論	3	L	2			△			茂住 和世
	社会調査法	3	F	2	△	○	△			圓岡 偉男
	マーケティング・コミュニケーション論	3	F	2			△	△		池田 幸代
	会計学a	3	F	2			△			*景山 秀貴
	会計学b	3	L	2			△			*景山 秀貴
	金融論	3	F	2			△			堂下 浩
	経営戦略論	3	F	2			△	△		樋口 大輔
	人的資源論	3	F	2			△			R4 休講
	経営イノベーション論	3	F	2			△	△		堂下 浩
	ベンチャービジネス論	3	L	2			△			堂下 浩
	マーケティング戦略論	3	L	2			△	△		樋口 大輔
	地域再生システム論	3	L	2			△			R4 休講
	ブランドマネジメント論	3	L	2			△			池田 幸代
	心理学実験Ⅰ	3	F	1			△			小早川 睦貴
	心理学実験Ⅱ	3	L	1			△			小早川 睦貴
	心理検査法実習	3	L	1			△			山口 豊
	臨床心理学実習	3	L	1			△			山口 豊
	カウンセリング	3	F	2			△			山口 豊
卒業研究	専門演習	2	L	1	◎	◎	◎			(専任教員)
	卒業研究Ⅰ	3		4	◎	◎	◎			(専任教員)
	卒業研究Ⅱ	4		6	◎	◎	◎			(専任教員)

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。また、(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (2) 学系別必修区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空欄は学系ごとに指定した単位まで自由選択可能な科目を表す。
- (3) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。
- (4) 担当者の前の*は非常勤講師を表す。

○セット履修科目

プログラミング基礎 + プログラミング基礎演習	【注意事項】 セット履修科目は左記の科目が対象となり、必ず講義と演習をセットで履修し、単位を修得しなければならない。なお、講義と演習の両方の科目が合格しないと卒業要件単位として認定しない。
プログラミング応用a + プログラミング応用a演習	
プログラミング応用b + プログラミング応用b演習	
Webシステムプログラミングa + Webシステムプログラミングa演習	
Webシステムプログラミングb + Webシステムプログラミングb演習	
ネットワークプログラミングa + ネットワークプログラミングa演習	
ネットワークプログラミングb + ネットワークプログラミングb演習	

○ステップ履修科目

映像表現基礎Ⅰ → 映像表現基礎Ⅱ	【注意事項】 ステップ履修科目は左記の科目が対象となり、Ⅰを修得していない場合は、Ⅱを履修することができない。 なお、年度内にⅠ（前期）とⅡ（後期）を同時に履修し、Ⅰが不合格の場合、Ⅱの履修登録を削除します。
音響メディア論Ⅰ → 音響メディア論Ⅱ	
映像制作論Ⅰ → 映像制作論Ⅱ	
心理学実験Ⅰ → 心理学実験Ⅱ	
卒業研究Ⅰ → 卒業研究Ⅱ	

○看護学部看護学科の他学科履修許可科目

科目区分		科目名	年次	学期	単位
専門基礎科目	健康支援と社会生活の仕組み	口腔健康論	4	F	2
		人間工学	2	L	1
専門科目	統合領域	国際看護論	4	L	1
		医療リスクマネジメント	4	L	1
		家族看護論	4	F	1
		エンドオブライフケア論	4	F	1
		社会イノベーション論	4	L	1

3) 授業概要

全学共通科目

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要	
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数		
全学基礎科目	現代実学	情報リテラシー演習	1	F	2	◎	◎	◎	◎	◎	総合情報学部の学生として、講義や演習を履修していく上で不可欠なコンピュータ利用技法を学ぶ。文書作成、表計算やグラフ作成、プレゼンテーション、インターネットを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、画像・音声の利用と処理、コンピュータとネットワークの基本的な仕組みの理解、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶことで、問題解決のための基礎的素養を身につけることを目指す。
		情報モラルとセキュリティ	1	F	2	◎	◎	◎	◎	◎	現代の情報化社会において、他人に迷惑をかけない、自分が被害に合わないという情報モラルと情報セキュリティの基礎を学び、あわせて情報の利活用のための基礎を学ぶ。
	スポーツ	スポーツ演習 a	1	F	1	○	○	○	○	○	半期あるいは集中授業形式で行い、屋内外のスポーツ種目を実施する。いずれの時間で受講してもかまわないが、スポーツ種目により、開講時間が異なる。種目はバスケットボール、テニス、バドミントン、サッカー、さらに冬季集中形式でスキーorスノーボードなどである。最大でa～dまで4単位受講可能。
		スポーツ演習 b	1	L	1	○	○	○	○	○	半期あるいは集中授業形式で行い、屋内外のスポーツ種目を実施する。いずれの時間で受講してもかまわないが、スポーツ種目により、開講時間が異なる。種目はバスケットボール、テニス、バドミントン、サッカー、さらに冬季集中形式でスキーorスノーボードなどである。最大でa～dまで4単位受講可能。
		スポーツ演習 c	1	F	1	○	○	○	○	○	半期あるいは集中授業形式で行い、屋内外のスポーツ種目を実施する。いずれの時間で受講してもかまわないが、スポーツ種目により、開講時間が異なる。種目はバスケットボール、テニス、バドミントン、サッカー、さらに冬季集中形式でスキーorスノーボードなどである。最大でa～dまで4単位受講可能。
		スポーツ演習 d	1	L	1	○	○	○	○	○	半期あるいは集中授業形式で行い、屋内外のスポーツ種目を実施する。いずれの時間で受講してもかまわないが、スポーツ種目により、開講時間が異なる。種目はバスケットボール、テニス、バドミントン、サッカー、さらに冬季集中形式でスキーorスノーボードなどである。最大でa～dまで4単位受講可能。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	学	
全学基礎科目	英語 a	1	F	1	○	○	○	○	○	グローバル化が進み、近年TOEICテストは企業の人事採用や昇進・昇格の要件として活用されており、年々需要が高まってきている。この授業では、TOEICあるいはTOEIC BRIDGEに焦点を当て、実社会でも役立つ基礎的な英語力と知識を身につけていく。通訳訓練法のシャドーイングやクイックレスポンス、スラッシュリーディングなども取り入れ、語彙力向上、4技能のバランスの取れた向上を目指し、双方向の授業をしていく。
	英語 b	1	L	1	○	○	○	○	○	TOEICの入門編といえるTOEIC BRIDGEの形式、とくにリスニングとリーディングの形式に慣れ、実際の公開テストにおいて一定以上の点数がとれることを目標とする。授業では英語の4技能をバランスよく身につけるよう指導していく。公開テストで大学生としての平均点をクリアするには授業だけでなく、みずから自習することも大事になってくる。自発的に自習する習慣を身につけてほしい。
	英語 c	1	F	1	○	○	○	○	○	グローバル化が進み、近年TOEICテストは企業の人事採用や昇進・昇格の要件として活用されており、年々需要が高まってきている。この授業では、TOEICあるいはTOEIC BRIDGEに焦点を当て、実社会でも役立つ基礎的な英語力と知識を身につけていく。通訳訓練法のシャドーイングやクイックレスポンス、スラッシュリーディングなども取り入れ、語彙力向上、4技能のバランスの取れた向上を目指し、双方向の授業をしていく。
	英語 d	1	L	1	○	○	○	○	○	TOEICの入門編といえるTOEIC BRIDGEの形式、とくにリスニングとリーディングの形式に慣れ、実際の公開テストにおいて一定以上の点数がとれることを目標とする。授業では英語の4技能をバランスよく身につけるよう指導していく。公開テストで大学生としての平均点をクリアするには授業だけでなく、みずから自習することも大事になってくる。自発的に自習する習慣を身につけてほしい。
	中国語 a	2	F	1	○	○	○			中国語を初めて学ぶ人を対象に、発音の基礎、ローマ字による表記法と基本構文を習得させ、置き換え練習及び会話への応用を中心に基本的な会話力を養成する。
	中国語 b	2	L	1	○	○	○			「中国語a」で習得した発音の基礎、ローマ字による表記法と基本構文の理解をより定着させるため、置き換え練習及び応用会話を中心に、中国語による基本的なコミュニケーション能力を養成する。
	ハングル・韓国語 a	2	F	1	○	○	○			韓国語は日本に一番近い隣国で話されている言語である。日本語に比べ、母音子音ともに数が多いため、発音や文字（ハングル）を覚えるのに、ある程度時間がかかるし、努力も必要になる。ただ、一度文字と発音をマスターしてしまえば、語順は日本語と同じなので、割合速く進むことができるはずで、自己紹介をはじめ、身の回りの事柄を簡単に表現する練習をしていきたい。
	ハングル・韓国語 b	2	L	1	○	○	○			「ハングル・韓国語b」で習得したことを土台にして、読む、聞く、話す、書く力を伸ばしていく。語彙を増やし、動詞や形容詞の活用を習得することによって、口頭であるいは文章で、自分の言いたいことを表現できるようにしていきたい。また、韓国語を学ぶことを通じて、韓国の人々の心に少しでもふれていけるように心がけたい。
	日本語 a (※)	1	F	1	○	○	○			アカデミックな文章力を身に付けることを目指すが、前期ではその基礎的なスキルを習得する。テキストを中心に進めながら適宜補助プリントを用いて練習量をふやしていく。
	日本語 b (※)	1	L	1	○	○	○			アカデミックなスタイルの文章に触れ、論理的な文を読むためのスキルや論理的なつながりを示す表現、展開パターンを学習し、筆者の考えや意図を理解する。また、内容から日本の社会や日本人の考え方などにも触れ、自分の意見を述べたり、考察したりすることも目指す。
	日本語 c (※)	1	F	1	○	○	○			事実、自分の意見、他者の意見の引用を明確に区別し、分析や比較などの思考過程をも日本語で表現できるようなアカデミックな文章力を身につけることを目指す。前期に使用したテキストを引き続いて用い、必要に応じてプリント類を使って練習量を増やしていく。
	日本語 d (※)	1	L	1	○	○	○			前期と同様、アカデミックなスタイルの文章を読むことで、論理的な文を読むためのスキルや論理的なつながりを示す表現、展開パターンを学習し、筆者の考えや意図を理解する。また、内容から日本の社会や日本人の考え方などにも触れ、自分の意見を述べたり、考察したりすることも目指す。

基礎科目

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			情報	教職	数	授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報				
基礎教育科目	フレッシュマン演習	1	F	1	◎	◎	◎				<p>本演習科目は、初年次教育を実施する科目として位置付けており、以下のことを理解及び習得・実施することで、高校から大学への円滑な移行を図るとともに、本学への帰属意識を高めることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の建学の精神や教育理念 ・大学生活および大学での学び方 ・履修モデルおよび目標に沿った履修計画の設定 ・宿泊を伴う学外研修への参加 ・学園祭への参加
	基礎演習	1	F	1	◎	◎	◎				<p>本演習科目では、フレッシュマン演習に続いて、初年次教育を実施する科目として位置付けており、10名程度のクラスにおいて、策定された履修計画の確認・指導をおこなう。また大学の施設（図書館、情報サービスセンター等）を理解し、今後の学修におけるそれらの活用法を学ぶ。さらに、レポートの書き方などを学ぶ、コミュニケーション能力（読む、書く、聞く、話す、問う）の向上を図る。</p>
総合基礎	人文	哲学概論	1	F	2	△	△	△			<p>哲学的世界概念の変遷というテーマで、古代から現代にいたる哲学的思索の変遷をたどり、哲学的思索の固有性がどのようなところにあるのか、その一端を理解してもらう。</p>
		レポートと文章作法	1	F/L	2	△	△	△			<p>大学生としてまず必要になるレポートや論文の作成に必要な事柄をワークブック形式の教科書を通じて学習する。同時に、そうした学習を通じて将来的にあらゆる場面で必要となる確かな文章力、表現力の基礎を養う。ここで使用する教科書は、4年次における卒業論文執筆の際に役立つものとして選定している。</p>
		歴史学	1	F	2	△	△	△			<p>本講義は、歴史の中でも日本の近代史（明治～大正～昭和20年）を中心とした講義である。歴史（近代史）上の出来事について単に暗記するのではなく、特に日本がかかわった様々な戦争や軍隊に関する問題に注目し、ある出来事が「なぜ起こったのか＝過程・原因」、「その後どのようになったのか＝結果・影響」を「考える」ことを中心に進めていく。</p>
		文化人類学	1	L	2	△	△	△			<p>本科目は、自分とポピュラーカルチャーとの関係を問い直すことを目標とするものである。主に論点としてとりあげるのは、人々が社会や共同体の在り方をどのように認識しており、マンガ・アニメ作品は、その認識を作品にどう反映してきたか、という問題である。その問いを通して自分が幼い頃からごく自然に接してきたものとの関係を考え直すことは、現在自分が身を置いている文化というものは何か、ということに対する興味・関心を必然的に生み出すものである。そして、その興味・関心は、文化の中で人間の行動とはどういうものなのか、そして、それはどうすれば捉えうるものなのか、というさらなる問題意識を生み出すことであろう。</p>
		心理学概論	1	L	2	△	△	△			<p>心理学の概論を講義する。心理学の諸分野である動物、生理、知覚、認知、社会、発達、パーソナリティ、教育、臨床について、概要・考え方・応用方法について幅広く学ぶ。</p>
		スポーツと社会	1	L	2	△	△	△			<p>高度に多様化する情報化社会において、スポーツとの関係を学ぶ。さらに、日本体育協会のスポーツ指導員資格とも関連し、①スポーツの概念と歴史、②文化としてのスポーツ、③地域におけるスポーツ振興と行政の関わり、④地域スポーツクラブの機能と役割、⑤スポーツ少年団、⑥社会の中のスポーツ、⑦スポーツプロモーション、などを講義する。</p>
	社会	法学概論	1	F	2	△	△	△			<p>法は、ビジネス社会、商品交換社会、情報化社会などと称される現代社会において重要な社会規範の一つである。法が社会において担っている役割を学び、自由・平等な社会における法規範の効力・限界、及びあるべき姿を「私法」領域を中心に判例など実際の事件も利用して考察する。</p>
		民法	1	L	2	△	△	△			<p>民法は、財産取引と身分（親族・相続など）を規律する私法の基本法である。本講義では、財産法分野と身分法分野を概ね4:1の割合で取り扱う。判例などの事例も用いながら民法の重要部分を中心に考察する。</p>

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要	
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数		
基礎教育科目 総合基礎	社会	日本国憲法	1	F	2	△	△	△	◎	◎	日本で最重要な法である日本国憲法を、日本で生活する我々が知らないわけにはいかない。日本国憲法は、その成立から60年が経ち、最近憲法改正の議論も盛んである。本講義では、この憲法にどのようなことが書かれていて、どのようなことが問題となっているかを学習する。
	経済学概論	1	F	2	△	△	△				講義では、経済理論の初学者向けにアレンジした教養の経済学を紹介する。古典派経済学のアダムスミスやリカードなどの経済学から今日の経済学に至るまでの理論的な発展の流れを理解する。特に、「新古典派経済学」や「マルクス経済学」、「ケインズ経済学」など主要な理論を紹介していく。なお、本講義では折に触れて今日的な課題である「財政・金融危機」など具体的な問題も取り上げる。
	現代企業論	1	L	2	△	△	△				私たちの暮らす経済や社会では、企業が密接な関わりを持っている。また、現代の企業は、経済や社会に関わりを持つ過程で様々な構造や機能を持ち多様化している。そこで、「企業」とは何かをテーマに、企業の基本的な仕組みや形態、経営戦略、企業の発信する情報の見方等、将来企業で活躍するために必要な知識の習得を目指す。
	情報法	1	L	2	△	△	△	◎			情報化が進む今日の社会の中で、「情報」が法律上どのように法的位置にあるか、また、どのような法律上の問題があるのかを考えます。技術情報（特許やトレードシークレット）の保護やその取得、利用を中心にした問題と、インターネット上で取引されるコンテンツやコンピューター・ソフトウェアの保護、インターネット利用にかかわる法律問題を中心に、新しい事例を紹介しながら講義します。
	コミュニケーション論	1	F	2	△	△	△				コミュニケーションという概念は、広範で様々な意味で用いられる日常的な概念である。けれども、それがゆえ、その理解が曖昧になっているのも事実でもある。本講義は、そのようなコミュニケーションについてその本質的な分析を行い、あらためて、コミュニケーションを考察したい。その上でコミュニケーションにまつわる問題を具体的な事例を通して考察する。
	市民活動論	1	F	1	△	△	△				本科目では地域社会におけるさまざまな市民活動・住民活動・当事者活動・ボランティア活動の実際を紹介し、情報発信としてのこれらの役割や、社会の中で果たす役割について考える。その中で、実践的側面から具体的な参加の手法、プログラム開発の手法などを学び、市民としての学生がボランティア論の構築に向けて歩みだすことができる体験学習を促す。ゲストスピーカーからの、エンパワメントによる市民活動、情報活用発信としての市民活動、地域活性化と市民活動など、地域社会の変化について考える。
	人権・ジェンダー	1	F	1	△	△	△				現代社会に残る様々な差別を通して、保健医療福祉の専門職として理解しておくべき人権やジェンダーに関わるテーマについて考えていく。障害者の人権に関する歴史的な背景、障害当事者の活動、障害者差別撤廃・解消活動の推進と現状と今後の課題について学ぶ。
	自然	統計学	1	F	2	△	△	△		◎	データの背後にある情報を引き出すための方法として統計的手法がある。統計的手法はあらゆる分野で活用されており、研究活動におけるデータ処理の技法としても活用されている。本講座では統計的手法の基礎知識を習得することをねらいとする。具体的には、記述統計学と呼ばれる分野を講義する。
	基礎数学入門	1	F/L	2	△	△	△				大学生の教養として、三角関数、方程式、多項式、幾何などの基礎的な数学全般について学ぶ。
	基礎数学 a	1	F	2	△	◎	△				様々な初等関数(多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数)の基本的特徴を学習する。また、本講義で紹介する内容は後期開講予定の基礎数学bで取り扱う微分・積分を理解するための必須項目である。授業は黒板での演習を行いながら、計算問題を中心に講義を進める。
	基礎数学 b	1	L	2	△	◎	△				前期開講予定の基礎数学aでの学習内容を踏まえて、微分積分学の基礎を学習する。関数の極限、微分の計算とその応用、不定積分・定積分の計算とその応用までを、演習を行いながら解法を中心に講義を進める。
	生命と情報	1	L	2	△	△	△				「情報」をキーワードに様々な側面から「生命」の特質について考えていく。まず「情報」とは何かについて論じる。つづいて、生物における個体より上位レベルでの情報交換（コミュニケーション）、そして個体より下位レベルの問題である脳の情報処理、遺伝情報、免疫システムなどについて概説する。

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			情報	教職	数	授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報				
基礎教育科目	総合基礎 自然	生命倫理			2	△	△	△			生命科学の進展に伴い、誕生する前から死に到るまで、私たちのいのちへさまざまな先進技術の介入が行われる時代になった。クローン技術や究極の個人情報であるゲノム配列情報等が容易に入手できる時代に、個々の事象のはらむ倫理の問題に対する洞察や幅広い検討が追いついていないのが実情である。本講義では、始めに先端生命科学のトピックスを分かり易く紹介し、そこから生じる命の尊厳を脅かす危惧について考える。健康、医療を生命倫理の立場から捉え、一般人をも巻き込む生命科学の技術に対する深い洞察力と豊かな人間観を養うことを目指す。
		環境学	1	F	2	△	△	△			生態系とは何か、生命が地球環境の形成にどのように関わってきたかを生命と環境の相互作用から理解し、地球上における人間と環境との関わりについて概説する。
		数理科学	1	L	2	△	△	△			多くの自然現象から生命現象、社会現象に至るまで、全く別の現象に見えても数理的な観点を通してみると、類似性や普遍性が見いだされる現象は多い。本講義では自然科学全般に横たわることした現象を例に挙げながら数理モデル化し、そこから導き出される興味深い結果について紹介していく。
		健康科学	1	F	2	△	△	△			保健、医療、さらには福祉等にかかわる問題をテーマにして知識・理解を深める。また、自分自身がスポーツを行う場合、あるいは日本体育協会のスポーツ指導員資格にも関連し、「スポーツ指導者に必要な医学的知識（例 救急処置）」、「スポーツと栄養」等のテーマも講義する。
		プログラミング入門	1	L	2	△	△	△			Scartchはブロック形式でキャラクターを操作するプログラミング言語である。ブロックは「動き」「ペン」「演算」「音」など8種類の機能を持ちプログラミングの初心者から無理なく学習することができる。演習はインタラクティブなストーリーやゲームなどを制作する。ゲーム感覚で繰り返し、条件判断と関数などが学習できる。
	特別講義	特別講義 a			2	△	△	△			幅広い興味関心のもとで学生として十分な教養を身につけることを目標とする総合基礎科目をより充実させるという観点から、本学の学びとは比較的縁は薄い「おもしろい」領域、多数の領域にまたがる複合的な研究、あるいは必ずしも「学」として熟していないが注目を集めている分野などを随時、取り上げていく。なお、学外資金による寄付講座的なものについても、ここで開講する。
		特別講義 b			2	△	△	△			幅広い興味関心のもとで学生として十分な教養を身につけることを目標とする総合基礎科目をより充実させるという観点から、本学の学びとは比較的縁は薄い「おもしろい」領域、多数の領域にまたがる複合的な研究、あるいは必ずしも「学」として熟していないが注目を集めている分野などを随時、取り上げていく。なお、学外資金による寄付講座的なものについても、ここで開講する。
	知識創造	知識創造の方法 a	1	F	2	○	○	○			本講義は「教えてもらうのではなく、自分たちで考える」ことが求められる。企業担当者から「正解のない課題(MISSION)」が与えられ、それに対しチーム内で議論し、情報収集をし、その取り組みの成果をプレゼンテーションし、フィードバックを受ける。そのプロセスを通じ、企業の価値観や求められるレベルと自らの差を実感することで、今後の学生生活において主体的に行動することができるようになることを目的とする。
		知識創造の方法 b	1	F	2	○	○	○			本講義では、自ら考え行動する能力を高めるための基礎づけを行うことを目的とする。その方法として、学内新聞の作成を行う。新聞作成をとおして情報を収集し、分析し、表現する方法を学ぶことになる。それは、情報を学ぶための基礎にもつながるものである。この作業はチームを作り行うもので、あわせて協調性を身に付ける場としたい。
		知識創造の方法 c	1	F	2	○	○	○			本講義では、与えられる知識を学ぶのではなく、さまざまな問題・テーマについて自分で考え、他者と意見を交わし合いながらチームでひとつずつそれらを解決していく。具体的には、まず議論する経験を積み、自分の意見を他人に伝える方法を学ぶ。また、テーマに関して情報を収集して分析し、そのなかでチームメンバーひとりづつの個性を活かすことを学ぶ。さらに、問題を発見したり問題解決に向けて計画を構想・実行する経験をつむ。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要		
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	学			
基礎教育科目	知識創造	知識創造の方法 d	1	F	2	○	○	○			本講義では、与えられる知識を学ぶのではなく、さまざまな問題・テーマについて自分で考え、他者と意見を交わし合いながらチームでひとつづつそれらを解決していく。具体的には、まず議論する経験を積み、自分の意見を他人に伝える方法を学ぶ。また、テーマに関して情報を収集して分析し、そのなかでチームメンバーひとりづつの個性を活かすことを学ぶ。さらに、問題を発見したり問題解決に向けて計画を構想・実行する経験をつむ。	
		知識創造の方法 e	1	F	2	○	○	○			ソーシャルメディアやクラウドサービスなどのITを駆使して世の中の課題を解決する方法を体験する。他者の意見を収集したり、人と人をつなげたり、自身の考えを発信したりなど、ITには課題解決を推進する力がある。実社会での課題について、チームでディスカッションしながら、Facebook運用やWebサイト構築などのITを駆使した解決策を探索する。グループワークや演習を通じて、ITスキルに加え、課題解決に必要な論理的思考力や主体性を修得する。	
		知識創造の方法 f	1	F	2	○	○	○			社会人として必要な基礎力であるシステム実現力や問題解決能力、論理的思考力などの汎用的技能を身につけるため、ロジカルシンキングなどのパーソナルスキルを養うことを目的とする	
	実用語学		コンピュータ英語 a	2	F	1	○	○	○			Windows 7のマニュアルを英語で読む際に必要な基本的な語彙と文型を演習していく。前期では、ワークブックを使って、パソコンの設置からブラウザを操作するノウハウを学んでいく。
			コンピュータ英語 b	2	L	1	○	○	○			Windows 7のマニュアルを英語で読む際に必要な基本的な語彙と文型を演習していく。後期では、ワークブックを使って、eメールやチャット、パソコンのセキュリティ関連までを網羅する。
			ビジネス英語 a	2	F	1	○	○	○			英語圏での就職市場を探り、英字新聞の求人欄で仕事を探したり、英文履歴書の書き方を学んで海外の企業に応募するまで、シミュレーション形式で演習していく。
			ビジネス英語 b	2	L	1	○	○	○			就職面接の際の心得や、英文コレポや電話の対応など、入社後の仕事の内容に関わる英語表現を、作文と会話の両面で演習していく。
			日本語総合演習(※)	1	L	1	△	△	△			毎年7月と12月に行われる日本語能力試験N1合格に照準を合わせ、そのために必要な能力の強化を図る。受験科目の中でも、特にN1の文型の意味・使い方を学習し、その定着を目指す。また、読解のスキルを学び、より多くの問題を解くことで、読解力とスピードをつける。語彙に関しては毎回範囲を指定し、クイズを実施する。
	情報基礎科目		経営と情報	1	L	2	◎	◎	◎			企業を経営していく上で必要不可欠な経営資源として、従来から言われていた「ヒト、モノ、カネ」に加えて、「情報」が挙げられるようになった。今日の企業は業種や規模のいかんを問わず、PC、コンピュータ、インターネット、その他各種の情報システム等々の「ICT (Information and Communication Technology, 情報通信技術)」を、程度の差こそあれ、何らかの形で利用している。場合によっては、ICTなしでは企業活動が成り立たない企業や業界もある。本講義は「経営に必要とされる情報の在りかた」、「職業人が共通に備えておくべきICTの基礎知識」のうち、純粋な技術論を除いた分野の基礎を幅広く学ぶ。
		コンピュータ概論	1	F	2	◎	◎	◎	◎		現在のIT社会で常識として知っておいて貰いたいコンピュータ全般の技術や利用方法の基礎を学習する。	
		情報分析基礎	1	L	2	◎	◎	◎	◎		様々な種類のデータを取り上げ必要最小限の解析技術を学習することで、データ処理の基本を身につけるとともに、データ処理に必要なセンスの獲得を目指す。	
キャリアデザイン科目		情報社会と職業	2	F	2	△	△	△			本学の「総合的キャリア教育」の一環として、将来の進路選択に向けて「社会を知る」ことに重点を置いて授業を進める。この講義は、現在の社会情勢や様々な業種の実情を理解するために、社会で活躍している企業人、新卒採用にあたる人事担当者など幅広く外部から講師を招く。オムニバス形式で展開する講義により多彩なキャリアパスにふれ、履修者個々が将来に向けての職業観を醸成することを主眼とする。	
		キャリアデザイン a	2	L	2	△	△	△			本学の「総合的キャリア教育」の一環として、将来の進路選択に向けて「自分を知る」ことに重点を置いて授業を進める。自分の進路を主体的に選択し、その実現に向けて行動する積極性が重要になる。授業の主要な目的は、以下の4点である。1. 進路選択のための知識・情報を得る。2. 就職活動全体の流れを理解する。3. 自己分析の基礎を学ぶ。4. 就職活動に主体的に取組む意識を高める。	

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
キャリアデザイン科目	キャリアデザインb	3	F	2	△	△	△			<p>本学の「総合的キャリア教育」の一環として、将来の職業選択に向けて「社会と自分をつなげる」ことに重点を置いて授業を進める。自分の職業を主体的に選択し、その実現に向けて行動する積極性が重要になる。授業の主要な目的は、次の2点である。1. 社会および企業が求める人材の基礎的能力を実践的に理解し、それに必要な能力を体得する。2. 企業等が求める人材を判断する就職試験を意識して、必要な能力を高める。</p>
	インターンシップ	3	F/L	2	△	△	△			<p>この「インターンシップ」では、単に学生に就業体験させるだけでなく「マナー講座」「発表会」「報告書作成」などの事前事後のフォローアップを通じて「職業観の育成」「キャリアデザインの構築」「専門教育へのフィードバック」などへの展開を目指すこととしている。当取り組みは、本学のキャリア支援に貢献するプログラムのひとつでもある。</p>
	学校インターンシップ(◇)	2	F/L	2	△	△	-	△	△	<p>教職課程を履修している学生が、連携校における情報科目や学校運営のサポートを行い、現場での体験を通して教職に就くために必要な実践的指導力の向上を図る。</p> <p>また、体験前に事前指導として、実習を行う学校の概要や担当する授業科目に理解を深め、生徒や教員に対しての接し方のマナー等について指導する。体験中は、中間まとめとして、ふりかえりを行い、学生各自の課題と対応策を明確にする。体験終了後は、報告会において一人ひとり報告を行うとともに、レポートを提出する。</p>
	日本の社会と生活文化(※)	2	F	2	△	△	△			<p>日本の経済・社会・文化や日本人の行動・習慣などについて学ぶことで留学生の社会文化能力をさらに高めることを目指す。卒業後日本での就職を考えている留学生にとっての「日本についての一般常識」を学ぶ。知らないことばかりでなく、知っているつもりであることを正確に理解することで、一人一人の留学生の日本社会の中での実質的行動をより確かにするものにつなげる。</p>
	ビジネスコミュニケーション(※)	2	L	2	△	△	△			<p>留学生が卒業後、日本企業に就職したり、日本人相手にビジネスを行なう際のビジネス日本語、ビジネス文化、及び日本人のコミュニケーションスタイルについて学ぶ。授業では講義のほか、学生同士のロールプレイを通じて、日本語によるコミュニケーション力の向上のための実習を行なう。</p>
	リクルートコミュニケーション(※)	3	F	2	△	△	△			<p>卒業後日本人学生と同様に就職活動をして企業に就職することを目指す留学生が、日本独特のシステムである就職活動についての知識とスキルを身につけることを目的とする。授業では就職活動の流れに沿いながら、外国人にとって特異であるものに気付かせ、なぜそのようなことが求められるのかについての文化的な側面を考察していく。</p>

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職	数	授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報			
専門基礎科目	共通	総合情報学概論	1	F	2	◎	◎	◎		本講義では、総合情報学を「情報システム」「数理情報学」「社会情報学」という3つの側面から理解するために、「情報システム学系」、「数理情報学系」、「社会情報学系」の3つの学系について学ぶ。
		学系基礎演習 a	1	L	1	◎	◎	◎		学系で学ぶ動機付けをする。各学系の学びの特色を題材として、少人数のグループによる活動を通して、コミュニケーション（話す、書く、聞く、問う）能力を高め、協調性や責任感等を養う。プレゼンテーションを通して、コミュニケーション（聞く、話す）を高める。
		学系基礎演習 b	2	F	1	◎	◎	◎		各学系が用意するテーマを題材として、少人数のグループによる活動を通して、コミュニケーション（話す、書く、聞く、問う）能力を高め、協調性や責任感等を養う。プレゼンテーションを通して、コミュニケーション（聞く、話す）を高める。将来の職業や今後の大学での学びを意識し、研究室選択について考える。
	情報システム	情報システム学概論	1	L	2	◎	-	-		情報システム学について、以下の2点を中心として説明する。まず、情報システム学系についての学びと特徴について述べる。次に、情報システム学系の6つの研究室についてその学びと研究の特徴について紹介する。
		IT基礎技術論	1	L	2	◎	△			ITパスポート試験は情報処理技術者試験のレベル1の国家試験である。内容は企業等で働く人が持つべきIT基礎知識を問うものであり、ステラテジ系（戦略）、マネジメント系（管理）、テクノロジ系（技術）の3つの分野から、基本的知識につき、幅広く出題される。本科目では、ITパスポート試験向けの模擬試験等を用いた講義を通して、ITパスポート資格の取得を目指す。また、ITパスポートと同等以上の資格を既に持っている学生に対しては、より上位の資格である基本情報技術者資格、応用情報技術者資格を目指すための学習を行う。
		プログラミング基礎	1	L	2	◎	◎	◎		この講義では、演習科目の「プログラミング基礎演習」とセットで、プログラミングの最も基本的な構造化プログラミングの理解を目指し、2年次以後で取り扱うプログラミング科目のための基礎作りを行う。プログラミング言語はJava言語を用いる。
		プログラミング基礎演習	1	L	1	◎	◎	◎		この演習科目では、講義科目の「プログラミング基礎」とセットで、プログラミングの最も基本的な構造化プログラミングの理解を目指し、2年次以後で取り扱うプログラミング科目のための基礎作りを行う。プログラミング言語はJava言語を用いる。
		情報ネットワーク概論	1	L	2	◎	-	-	◎	本講義では、ネットワークの基礎知識、利用者として知っているべき技術的内容やセキュリティ上の知識を、幅広く学ぶ。また、ネットワークやセキュリティの設定や確認の実習を通して実用的な知識を学ぶ。本講義の内容は、多くの情報処理系の資格試験（ITパスポート、基本情報技術者試験など）の必要知識の一部を成すものである。
		アルゴリズムとデータ構造 a	2	F	2	○	△		△	本講義では、情報処理の基本であるアルゴリズムとデータ構造について学習する。講義内容としては、構造化プログラミング、フローチャート、配列、リスト、スタック、ハッシュ、待ち行列、二分木探索アルゴリズム、ソートアルゴリズム、再帰処理を具体例を通じて取り上げて学ぶ。さらに、プログラミング書式についても習得する。
		アルゴリズムとデータ構造 b	2	L	2	○	△		△	本講義では、実用的なアルゴリズムとその実装の具体例を説明する。主として、文字列操作、ファイル操作、再帰処理、二分木探索、グラフ探索、バックトラック、計算量による評価を取り上げ学習する。適宜、基本情報処理技術者で出題された過去問題についても取り上げる。
	システム設計論 a	2	F	2	○			◎	インターネット時代の情報システムの設計・構築・管理法について理解を深め、Webベース情報システム（Webアプリケーション）を実現する設計・構築・管理法を習得する。まず、情報システムの設計思想の変遷を概説し、情報システムの重要性やシステム開発モデルを理解する。次に、インフラ設計やアプリケーション設計などの設計の流れやシステムの分析設計法について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
専門基礎科目	情報システム	システム設計論 b	2	L	2	○			◎	インターネット時代の情報システムの設計・構築・管理法について理解を深め、Webベース情報システム(Webアプリケーション)を実現する設計・構築・管理法を習得する。まず、情報システムの設計思想の変遷を概説し、情報システムの重要性やシステム開発モデルを理解する。次に、インフラ設計やアプリケーション設計などの設計の流れやシステムの分析設計法について学ぶ。
		プログラミング応用 a	2	F	2	○	△		△	この講義では1年後期科目「プログラミング基礎」をうけて、現代的なソフトウェア開発において中核となる考え方「オブジェクト指向」を基本から学んでいく。言語は引き続きJavaを用いる。今日、応用的なソフトウェア作成を行うためには、オブジェクト指向は欠かせないものとなっている。毎回、予習を前提に該当回の学習事項を説明し、課題を中心とした基本演習を行う。最終試験は定期試験として実施する。
		プログラミング応用 a 演習	2	F	1	○	△		△	この講義は「プログラミング応用a」とセットで、現代的なソフトウェア開発において中核となる考え方「オブジェクト指向」を基本から学び、主に演習を通じて理解を深め実力を付ける。言語はJavaを用いる。今日、応用的なソフトウェア作成を行うためには、オブジェクト指向は欠かせないものとなっている。毎回、「プログラミング応用a」で学んだ内容に関する課題を中心とした演習を行う。
		プログラミング応用 b	2	L	2	○	△		△	この講義では2年前期科目「プログラミング応用a」をうけて、現代的なソフトウェア開発において中核となる考え方「オブジェクト指向」の基本と応用的な知識・技術を学んでいく。今日、応用的なソフトウェア作成を行うためには、オブジェクト指向は欠かせないものとなっている。毎回、予習を前提に該当回の学習事項を説明し、課題を中心とした演習を行う。最終試験は定期試験として実施する。言語は引き続きJavaを用いる。
		プログラミング応用 b 演習	2	L	1	○	△		△	この講義は「プログラミング応用b」とセットで、現代的なソフトウェア開発において中核となる考え方「オブジェクト指向」を基本から学び、主に演習を通じて理解を深め実力を付ける。今日、応用的なソフトウェア作成を行うためには、オブジェクト指向は欠かせないものとなっている。毎回、「プログラミング応用b」で学んだ内容に関する課題を中心とした演習を行う。
		情報通信システム論 a	2	F	2	○			◎	現在、インターネット上の事実上の標準プロトコルであるTCP/IPはコンピュータネットワークを勉強する上で非常に重要な位置を占めており、TCP/IPの理解無くしてコンピュータネットワークを理解することはできないと言っても過言ではない状況にある。本講義ではそのTCP/IPプロトコルについて、OSI参照モデルと対比させながら基礎から応用までを講義する。
		情報通信システム論 b	2	L	2	○			◎	情報通信システム論aに引き続いて、TCP/UDP層より上位のアプリケーション層でのネットワークアプリケーションのプロトコルの動作原理とその基本的な考え方を、さらに詳細に講義する。電子メール、Webブラウザ、Webアプリケーションはどのようにして動作するかを明らかにするとともに暗号化通信、P2Pネットワークおよびリアルタイム通信についても言及する。
		Unix論a	2	F	2	△	△			3年でのネットワーク・セキュリティコースとシステム開発コースを選択するための準備として、後期のUNIX論bとのセットで、Linuxとネットワークの基本的な技術と知識を学習する。この授業では主にLinuxの標準認定資格であるLPI-101を中心に（一部LPI-102）講義および演習を行う。具体的には、Linuxの簡単なコマンド、シェルの使用、主要なファイルとその構造、テキスト編集とその処理、ネットワーク接続を学ぶ。
		Unix論b	2	L	2	△	△			3年でのネットワーク・セキュリティコースとシステム開発コースを選択するための準備として、前期のUNIX論aとのセットでLinuxとネットワークの基本的な技術と知識を学習する。この授業では主にLinuxの標準認定資格であるLPI-102を中心に（一部LPI-101）に講義および演習を行う。具体的には、Linuxの各種ネットワークサービス利用、ランレベル、プロセス管理、簡単なシェルスクリプトを学ぶ。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要	
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数		
専門基礎科目	情報システム 情報システムアーキテクチャ	2	F	2	△	△				情報システムの仕組みについて構造に着目した設計や実装について学ぶ。データ構造や構造化言語、システム構造、ネットワーク構造など、情報システムについて構造的側面から学び、各専門知識が情報システム全体のどこに位置づけられるかについて学ぶことで、情報システム全体と要素技術の関連について学ぶ。	
	データベース論	2	L	2	△			◎		データベースはコンピュータシステム上でデータを効率的に管理するためには必須の知識・技術であり、近年における多種多様な大量のデータに対する処理・分析の必要性の高まりを受け、さらに重要度を増している。本講義では、データベースの必要性から、データベースの種類・構造、データベース設計といった基礎から、リレーショナルデータベースにおける情報検索等の具体的な操作までを実習を通して学ぶ。	
	人工知能 a	2	L	2	△			*		人工知能について基本的な概念（主に、知識と推論）を学ぶ。本講義では、人工知能研究の歴史と概要、知識と推論の定義、問題解決の表現・状態空間による問題解決手法、探索手法、問題分割法、ゲーム探索、論理による推論（命題論理と述語論理）、知識表現と推論（プロダクションシステム、フレーム、意味ネットワーク）、人工知能言語（LispとProlog）などについて説明する。	
	環境情報論 a	2	F	2	○			*		人間による環境の認知、人間を主体とする「人間-環境システム」の構造と機能に関する諸原理、そして環境資源の持続的利用のための適正な管理などについて講じる。ローカル（地域的）からグローバル（地球規模）なスケールの環境問題に関して、リモートセンシングやGIS（地理情報システム）などの技術の適用法、Webを介した環境情報の公開と共有、さらに具体的な環境情報システムの構築例などを概説する。	
	環境情報論 b	2	L	2	○					自然環境に関する現象を解析・記述・推定し、現象の変化を予測するための手法を学ぶ。講義では、主に生物・生態系に関する概念や現象について紹介する。コンピューター実習では、表計算ソフトを用いて基本的な解析およびシミュレーションを実行する方法について実践的に学び、生物・生態系に関する理論や現象についての理解を深める。	
	地理情報システム a	2	F	2	○	△				地理情報システムは、あらゆる地理空間情報を地図上に表示しながら、その属性をデータベースとして管理できるシステムである。地形・地質・気温・生物の分布や、土地利用・道路・鉄道・人口の分布などの、様々な環境データを解析し、その結果を公開することもできる。講義では、業界標準ソフトウェアのArcGISを用いて、その概念と技術を習得する。	
	地理情報システム b	2	L	2	○	△				地理情報システムは、あらゆる地理空間情報を地図上に表示しながら、その属性をデータベースとして管理できるシステムである。本講義は、前期の地理情報システムaで習得した知識・技術に加え、応用的解析技術の習得を目標とする。総合演習では、地理情報システムを用いた課題の設定・解析と、結果の公表のプロセスを経験し、地理空間情報処理の実践力を養う。	
	画像情報論	2	F	2	○	△				画像の入力方法、画像の統計的性質、画像の強調と復元方法、画像の特徴抽出と領域分割の方法そして、画像生成方法などに関する基礎的事項を実習し、体験する。これにより、デジタル画像情報処理の原理、手法の理解を高める。	
	数理情報	数理情報学概論	1	L	2		◎		*		数理情報学とは、自然界や我々の暮らす社会の問題を数学的手法を使ってモデル化・分析し、その現象の理解や問題解決の方法を探る学問である。本講義では、この数理情報学の全体像を、できるだけわかりやすく解説する。
		情報数学 a	1	L	2		◎		*		情報数学は日常の必要性にその起源を持っており、きわめて実用性が高く広く社会で活用されている。この講義では、情報数学を、社会を読み解き世界を認識するための数理として紹介する。まず、起こり得る事象の数え上げのごく簡単な例を説明する。さらに、それを使って確率現象をとりあげる。次に、数列について学習する。
	情報数学 b	2	F	2		◎		*		情報数学aを受けて、情報数学bでは、まず、スカラーとベクトルについて説明する。次に、行列の基本について説明し、最終的には、行列の演算、行列式、連立1次方程式、固有値問題までを学習する。	

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
専門基礎科目	離散数学 a	1	L	2		○			*	離散数学a・bでは論理的思考の基盤となる離散数学の基礎的な内容(集合と論理, 関係と写像, 代数系, 順序集合と束, グラフ理論)を学習する。離散数学aではこの中から「集合と論理, 関係と写像, 代数系」を取り上げる。
	離散数学 b	2	F	2		○			*	離散数学a・bでは論理的思考の基盤となる離散数学の基礎的な内容(集合と論理, 関係と写像, 代数系, 順序集合と束, グラフ理論)を学習する。離散数学bではこの中から「関係, 順序集合, グラフ理論」を取り上げる。
	推測統計学	1	L	2		○			◎	統計的検定と推定の計算方法を理解して, 実データに適用できる能力を身につける。
	情報分析応用	2	F	2	△	◎	○			データ解析のための統計的方法について, Office系ソフトウェアおよび統計解析専用ソフトウェアを使いながら学習する。理論を学ぶだけでなく, 現実のデータを自分で解析しながら, 統計的考え方や統計手法の適用場面を習得する。
	データサイエンス概論	2	F	2		◎			◎	データサイエンスはひとつの分野ではなく, 複数の分野の知識および技術を複合的に結びつけ, データをさまざまな角度から処理・分析することで問題解決に活かすものである。本講義では, データサイエンスを具体例とともに紹介し, その社会的な意義と重要性を俯瞰的に解説する。
	データ処理論	2	L	2		◎			△	現実世界に存在する大量のデータを統計的, ネットワーク科学的に分析する事で, データに潜む数学的構造を明らかにする事が, データサイエンスの基本中の基本である。本講義では, まず現実世界のデータに見られる代表的な数学的構造や, データを処理するためのアルゴリズムを学ぶ。それを踏まえ, できるだけ実践的な状況を仮定して, テキストデータの加工などによく使われるスクリプト言語Pythonを用い, データの入手と加工の技法を学ぶ。
	代数学 a	2	F	2		○			◎	初歩的な集合論から始まり, 適宜時間外学習としての演習課題を交えながら理解を深める。さらに, 代数的計算とその教授法についても学ぶ。
	代数学 b	2	L	2		○			◎	方程式論の初歩を学び, 三次方程式の解の公式まで拡張する。初等整数論の基礎を学び, 代数系の学習のまとめとする。授業は講義形式で行うが, 適宜時間外学習としての演習課題を交えながら実施し, これを通して実践力を身につける。
	幾何学 a	2	F	2		○			◎	平面幾何を中心に図形問題を見直し様々な証明法や問題解決の手掛かりの掴み方を確認する。さらに問題演習を通じ模範解答作成, 板書の実習を行う。
	幾何学 b	2	L	2		○			◎	平面図形問題を中心に, 三角関数やベクトルを用いた様々な問題解決の手掛かりの掴み方を確認する。さらに空間図形にも発展させ, 関数による図形表示や偏微分を用いた図形の捉え方を確認する。
	解析学 a	2	F	2		○			◎	主に講義形式で行うが, 問題演習を授業および時間外学習によって行い, 実践力を高める。
	解析学 b	2	L	2		○			◎	主に講義形式で行うが, 問題演習を授業および時間外学習によって行い, 実践力を高める。
	確率論	1	L	2		○			◎	授業は講義形式で行うが, 適宜時間外学習としての演習課題を交えながら実施し, これを通して実践力を身につける。
	ネットワークとセキュリティ	1	L	2		△				本講義では, ネットワークの基礎知識, 利用者として知っているべき技術的内容やセキュリティ上の知識を, 幅広く学ぶ。また, ネットワークやセキュリティの設定や確認の実習を通して実用的な知識を学ぶ。本講義の内容は, 多くの情報処理系の資格試験(ITパスポート, 基本情報技術者試験など)の必要知識の一部を成すものである。
	データベース管理システム	2	L	2		△				データベースはコンピュータシステム上でデータを効率的に管理するためには必須の知識・技術であり, 近年における多種多様な大量のデータに対する処理・分析の必要性の高まりを受け, さらに重要度を増している。本講義では, データベースの必要性から, データベースの種類・構造, データベース設計といった基礎から, リレーショナルデータベースにおける情報検索等の具体的な操作までを実習を通して学ぶ。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目, ○は選択必修科目, △は選択科目, -は履修不可科目, 空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目, ○は選択必修科目, △は選択科目, *は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職	数	授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報			
専門基礎科目	社会情報学概論	1	L	2	-	-	◎			本講義では、社会情報学について、以下の2点を中心として説明する。まず、社会情報学系についての学びと特徴について述べる。次に、社会情報学系の6つの研究室についてその学びと研究の特徴について紹介する。
	映像表現論	1	L	2			○			21世紀の映像は、万人が観る映像から、作る、参加する側になって、生活の中に溶け込んでいます。「映像表現論」では、映画誕生以前、映画誕生以後から現在、そして未来について、映像とコミュニケーションの関係から考察していきます。毎年、5月に開催されるNHK技術センターの最新技術公開展についても扱います。科学技術の進歩と映像表現は密接な関係にあります。
	映像表現基礎Ⅰ	1	L	2			△			映像表現の基本的理論に加えて、映像機器の原理や構造を学び、これらの技術がどのような表現効果に結びつくものであるかについて理解を深める。カメラ・三脚・マイクの基本的操作方法やカメラワーク、ノンリニア編集機への転送とタイムラインへの展開、ビデオフィルターの使い方とタイトルの挿入、音響トラックの操作と効果、DVD/BDへの焼き付けなどを学び、インタビュー番組とショートドラマの制作実践をおこなう。
	映像表現基礎Ⅱ	2	F	2			△			テレビ・スタジオにおける番組収録の方法について、実習をまじえつつ理解する。スタジオシステムの構成、機材のセッティング、収録の進行方法と、スタッフとキャスト役割分担のあり方などを学ぶ。カメラ・ミキサー・スイッチャー等のスタジオ装置や設備を操作して、スタジオ番組を自主制作できる能力を育成する。
	メディア社会論	2	F	2			○			現代社会は高度に発達した多様なメディアと分かちがたく結びつき、私たちが生きるこの世界や社会の理解はメディア表象を通して行われる。この講義では「ドキュメンタリー」に焦点を当てて、それがありのままに出来事や事実を伝えるジャンルではなく、劇映画と同様にフィクション性を持ち、特定の意図のもとで現実を再構成する表現手法であることを踏まえ、その方法論を社会、政治、テクノロジーとの関係を通して理解していく。そしてドキュメンタリーがいかなる社会問題や政治、文化現象を扱ってきたのか、またその表象が社会にいかなる影響を与えたのかについて考察する。
	音響メディア論Ⅰ	1	L	2			○			まず、音という物理現象を理解するために必要な知識を学ぶ。その後、実習を交えながら、コンピュータによる音の録音と再生、音のデジタル化、音響情報圧縮、音の編集と加工、音楽情報処理、インターネットでの音情報活用と著作権について学ぶ。特に、音の編集や加工に必要な、音響効果の原理と活用方法について学ぶ。さらに、さまざまな音響メディアと収録・再生手法とそれらの特徴について学ぶ。
	サウンドデザイン論	2	L	2			△			社会と音との関わりを様々な視点から捉えることによって、その現状を理解する。具体的には、騒音、建築音響、サウンドスケープ、音楽療法、オーディオ、難聴と補聴、サイン音、音と映像の相互作用、映像作品やゲームにおける音デザインなどについて学ぶ。このような様々な分野での音デザインの実例を学ぶことによって、そこにおける音響技術、デザインの指針および問題点を検討する。
	コンピュータグラフィックス基礎	1	L	2	△	△	△	◎		コンピュータグラフィックスの講義および演習を行う。講義および演習は2次元コンピュータグラフィックスと3次元コンピュータグラフィックスに分けて行われ、基礎理論の講義と基礎技術の演習を行う。これらを通して、コンピュータグラフィックスと情報メディアの関わり、コンピュータグラフィックスの基礎理論及び基礎技術を理解する。
	コンピュータグラフィックス論	2	F	2	△		○			実写では撮影不可能な映像をコンピュータとクリエイターの手でリアルに表現するコンピュータグラフィックス。その基本には実写映像の制作で培われた理論、知識、技術がふんだんに用いられている。本講義では実写技術との関連を重視しながら、様々な技術の限界を超えていく可能性に満ちたコンピュータグラフィックスについて多角的に取り上げ学んでいく。
コンピュータグラフィックス演習	2	L	1	△		△	◎		コンピュータグラフィックスによる図形処理やシミュレーションに関する講義及び演習を行う。さらに、Webプログラミングとコンピュータグラフィックスとの融合に関する講義及び演習を行う。これらを通して、コンピュータグラフィックスをWeb上で表現する方法と技術を理解・習得する。	

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
専門基礎科目	Webデザイン演習	2	F	1	△		△	△		WEBサイトを「自ら作るもの」としてとらえられるように既存サイトのXHTML・CSSソースコードを段階的に紹介する。HTMLエディタや画像処理のソフトウェアを使用し、WEBサイトにおける表現技術や制作技法を学ぶ。また、この科目の習得によってインターネット上での自己表現と課題発表実施におけるプレゼンテーション能力の向上を図る。
	ゲーム制作基礎	1	L	2	△		△			コンピュータ・ゲームのしくみを学び、制作を行う上で必要な技術を身につける。古今東西様々なゲームが存在するが、大きく九つの種類に分類することができる。またゲームの内部で用いられる汎用性の高い処理パターンが数多く存在する。これらを学習したのち自分で企画しデザインしたオリジナル・ゲームを制作する。
	情報メディア論	1	L	2	△		○	◎		今日の情報社会を支えるメディアを、デジタル化の手法、テクノロジーに支えられたサービスのしくみ、そして人間の社会生活への影響の3つの側面から理解し、展望するデジタル技術を基本に、コンピュータならびにネットワークを活用した最新のメディア情報の扱い方や考え方について論じる。また、メディア技術、ネットワーク技術の基礎を踏まえた上で、コンテンツ処理、ネットワーク環境ならびに、それらを活用したサービスについて学んでいく。さらに新しいサービスがもたらす生活環境の変化や社会への影響についても考えていく。また、随時最新の動向についても紹介し、今後を展望する能力を身につける。
	視覚デザイン論	2	L	2			△			人間の視覚メカニズムや視覚心理をベースにして、事実や概念を巧みに可視化し、デザインすることによって正確かつ付加価値をともなった情報伝達を行う方法について学ぶ。形状や形態、配置や質感、色彩や陰影のもたらす効果を理解し、創造的かつ論理的なコンテンツを発信していく術を習得する。
	知覚心理学	2	L	2			△			はじめに音の性質および聴覚系の構造と機能を学んだ後、音の心理属性である、高さ、大きさ、音色と、音の物理量との対応を学ぶ。さらに、それらの心理量の知覚特性、マスキングについて学ぶ。また、光の性質および視覚系の構造と機能を学んだ後、視覚現象を観察し、それを説明する心理学理論を学ぶ。さらに、視覚および聴覚や、それらの相互作用が、人間にとっての外界の認識に対して果たす役割について理解を深める。
	社会学概論	1	L	2			△			本講義は、社会学の基礎概念、および、社会学史の解説をとおして社会理解の基礎付けを行う。同時に事例として現代社会の社会問題を取り上げ、複合的な社会理解を促したい。
	比較社会論	2	L	2			△			近代の日本を西欧のものでない既存の言葉、考え方、感じ方を使って、人々の意識に迫った研究例を示しつつ、日本社会を理解するだけでなく、そこに隠されている「西欧的なもの」を読み取ることまで辿り着くことをめざす。
	マスメディア論	2	F	2			△			マス・メディアの組織、過程・作用、政治社会現象との関係などを検討素材にして、マス・メディアに対する見方・考え方の確立をめざす。コミュニケーションの「受け手」、「送り手」の枠組みをもとに、それらとメディアとの関連をふまえて、マス・メディアの諸相を明らかにする。
	社会心理学	2	L	2			△			メディアからの情報がどのように私たちに影響を与えるのか。そのメカニズムを人のこころの動きから明らかにしていこうとするのが、メディア・コミュニケーションにおける社会心理学的考察である。そのひとつのとして、「世論」(よろん・せろん)を取り上げ、その動きを考える。講義前半は、世論研究の概論、講義後半は新聞の政治漫画の分析を通じた世論の姿を明らかにする。
	海外事情	1	L	2			△			現在のグローバル化は、メディアや文化等のグローバル化を押し進め、情報も国を超えて流通している。さらに、世界各地ではそれぞれの社会問題やグローバルな社会問題が起きている。この授業では、海外で起きている様々な出来事に関心を持ち世界情勢を様々な観点から考えることを目的とする。各地域の社会・文化、メディアの特色などを理解し海外主要国の歴史的背景や問題の本質を考え、自分自信の考えや意見が持てるようになることを目標とする。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
専門基礎科目	文学論・英米児童文学	2	L	2			△			文学を通して、生きる意味、人生とは何かについて考えさせる。講義では、英米の児童文学を中心に読み、解説する。ピーターラビット、クマのプーさん、クマのパディントン等を読み、翻訳だけではなく、英語も取りいれながら、英語の音の美しさも体験する。この講義を通して、人生の生き方を考察する。
	コミュニケーション実践論	2	L	2			△			現代社会では、対面コミュニケーションに加え、SNSなどでのネット上のコミュニケーションが重要度を増している。この授業では、インターネットやSNSの特徴、そして現在メディア論や社会学で指摘されているSNSを巡る問題点を学ぶことにより、大学生や若年層にとってネット上でどのようなコミュニケーションの実践が可能なのかを考える。
	マーケティング概論	1	L	2		△	○			本講義ではマーケティングの定義、機能、専門用語などの基本的かつ必須事項を学び、マーケティング領域の学習の基礎を形成することをめざす。ヒット商品やブランド化をはじめとする具体的な事例を併せて学び、市場における製品やサービスをめぐるマーケティング活動の全体像を把握する。日頃、何気なく接している製品やサービスのなかにマーケティングの考え方が活かされていることを理解し、学問の社会的意義や応用性にも着目する。
	基礎会計論	1	L	2		△	△			基礎会計論は会計の基礎となる複式簿記について学習する科目である。複式簿記は企業の活動内容を記録・理解するうえで不可欠の技術である。ところが、現代の企業が実際に用いている複式簿記には様々な独特の考え方が盛り込まれている。たとえば、簿記上の「資産」は一般に言う「財産」とは異なるし、現金の収入・支出がそのまま簿記上の「収益」や「費用」になるわけではない。そしてコンピュータを用いた高度な経理システムも、それらの複式簿記の基本的な考え方の上に構築されている。こうした特徴に着目して講義する。
	経営学概論	1	L	2		△	○			経営学の基本的なフレームワークについて講義する。経営学の関心は、企業活動にまつわるあらゆるトピックに及び非常に多岐にわたるが、本講義では、経営学を理解するための土台づくりに重点を置き、基本的な考え方や用語を具体的な事例を交えながら解説を加えていく。
	経営管理論	2	F	2			○			ICTやグローバル化の進展のもとでビジネスを展開している経営組織のマネジメントの現状及び将来の経営課題の解決策の検討に向けて、主要理論の理解とその応用力を高めることをめざす。経営管理の主要理論をより理解し、実際の経営事例の検討に応用するための当事者意識の醸成もめざす。
	経営組織論	2	F	2			○			本講義では、企業や行政組織、非営利組織などの組織と、それを取り巻く環境との関係性に注目する。特定の環境下における認知と戦略的意思決定、組織の構築、ということに関する一連の理論について学ぶ。また組織が積極的に環境に影響を与える存在としての側面についても理解する。さらにマネジメントの視点から組織メンバーの行動について理解する。
	マーケティング論	2	L	2		△	△			マーケティングの基本的な理論とその応用を講義する。マーケティングの考え方は、製品やサービスだけでなく地域などにも適用可能であり、その応用範囲はきわめて広い。本講義においては、最新の理論と事例を織り交ぜながら、マーケティングに対する理解を深めることを目的とする。
	グローバル経済と金融	2	F	2			○			講義では、基本的素養となる教養の経済学を紹介する。古典派経済学のアダムスミスやリカードなどの経済学から今日の経済学に至るまでの理論的な発展の流れを理解する。特に、「新古典派経済学」や「マルクス経済学」、「ケインズ経済学」など主要な理論を紹介していく。また、現代の様々な経済問題についても解説する。あわせて、今日的な課題である「財政・金融危機」など具体的な問題にも触れていく。
	会計学概論	2	L	2			△			経営を学ぶ上で必要な会計学の全般に関する知識を得るものである。又、日商簿記検定3級程度の簿記実務能力を修得することをその目標とし、実務的な技能を身に付けることも目的とする。
スポーツトレーニング論	1	L	2			△			競技力や身体機能をレベルアップして行くためには体力の向上は不可欠である。授業では現在スポーツのあらゆる現場で実践されている体力向上のためのトレーニング方法の理論と実践を学習する。さらに、日本体育協会のスポーツ指導員資格とも関連し、①体力とは、②トレーニングの進め方、③トレーニングの種類、などを講義する。	

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
専門基礎科目	社会情報	スポーツ指導論	2	F	2			△		競技力向上やスポーツを実践したい一般対象者に対して競技力の三要素である体力、技術、戦術のレベルアップのためにいかにサポートして行くかを学習する。さらに、日本体育協会のスポーツ指導員資格とも関連し、①スポーツ指導者の役割、②指導者の心構え・視点、③競技育成プログラムの理念、などを講義する。
		スポーツ情報論	2	F	2		△	○		情報化社会において、スポーツに対する科学的な考え方や見方を講義する。分野としてはスポーツバイオメカニクス、スポーツ生理学、測定評価等である。情報機器や映像機器など最新情報を含めた講義を行う。また、コンピュータを用いた分析方法の実習、ビデオカメラを用いた分析や3Dモーションキャプチャーなどのデモを行う。併せてスポーツ指導員資格の学習内容を講義する。
		スポーツ心理学	2	L	2			△		まず、学習や反応など基礎的な心理学を学ぶことから始め、最新のスポーツ心理学までを紹介する。あがり、心理的限界、メンタルトレーニングなどの知識理解や、指導者が現場で活用できる指導方法についての心理学的部分を講義する。併せてスポーツ指導員資格の学習内容を講義する。
		臨床心理学概論	2	F	2			○		「臨床心理学」はクライアント（来談者）の有する否定的な心身症状や特定行動に対して、心理支援を行うための知識・技法・倫理などを探求する学問である。また、心理支援方法は医療・教育・産業・福祉・司法などの幅広い領域にわたっている。私たちは、生きていく中で、人間関係の悩みを抱え、人生の課題に翻弄されることもある。課題は解決されることが望ましいが、その解決は容易でない場合もある。これらのことから、「臨床心理学」を学ぶ意義がある。「臨床心理学」の学びを通じて、「いかに生きるか」を考え、悩み解決の支援方法への気づきが可能となる。本授業では「心理的課題の実態とその対応」を中心に学び、「臨床心理学」の重要な理論にも触れていく。特に、深層心理学、認知心理学、行動科学を通し、本来的自己・社会的自己をキーワードとしながら、自己イメージ、メンタルヘルス、行動特性の変容を学んでいく。
		認知心理学	2	F	2			△		人間が身の回りの物や出来事を認識する時には、様々な種類の情報処理システムが動いている。例えば、感覚、注意、記憶、言語、思考、意識など、様々なプロセスが存在する。この仕組みを理解するために、日常的な事例から心理学実験の結果などを見ていきながら、それぞれの過程でどのような情報処理が行われているかを学ぶ。
		心理学研究法	2	L	2			△		心は直接手で触れて確かめることができない。そのため、心理学で心を取り扱うときには、決められた厳密な方法を用いることが必要となる。心の仕組みを調べる方法は、実験、質問紙調査、観察、事例研究など様々なものがあり、それぞれに長所や短所がある。こうした知識を身に付けることで、目的に応じた心の側面を調べることができるようになることを目標とする。
		心理検査法	2	F	2			△		臨床心理学において、人のこころを理解していくことは重要なことである。そのために、心理学においては、信頼性と妥当性のあつた方法によって科学性を有する心理特性把握の方法がある。それが心理検査法である。本授業は、特に、臨床心理学において必要とされる心理検査法を学習する。さまざまな心理検査法について、背景理論、検査内容、測定の仕方、解釈の理解を深める。検査バッテリーについても取り上げる。
		人間関係論	2	L	2		△	△		本講義では、大学生生活を豊かにし、メンタルヘルスを支援していくためのアプローチ法を心理学的視点から実習していく。私たちは、自己表現の難しさを感じることもあり、そのことで周りからの支援をあきらめ、人間関係を否定的なものとして認知し、自らのメンタルヘルス悪化の原因となることがある。そこで、まず、自分のメンタルヘルスを心理テストによって測定し、自己の心理的課題への気づきを学ぶ。そして、各種グループアプローチ法を学び、実習することで、自己表現やコミュニケーション能力を高め、これらを通じた学びから人間関係の改善、メンタルヘルス支援の方法を学ぶ。実習授業の回は、実習の結果をまとめ、報告書を作成し提出する。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職	数	授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報			
専門基礎科目	社会情報 学校心理学	2	F	2			△			学校における全ての子ども（児童生徒）の成長・発達への支援を意図するだけでなく、学校コミュニティへの援助に関する理論を理解することを目指す。「個人（としての子ども）」ではなく「環境の中にいる個人（子ども）」を重視し、子どもを取り巻く援助者がどのような援助を行うことができるのかを重視した講義を行う。そして、児童生徒（個人）への働きかけだけでなく、学級・学校環境や教師との関係調整、学校内外の支援システムづくり（集団）など、教育現場で支援できる技法を習得しながら、アプローチの工夫を検討する。
	道徳教育の理論と方法(◇)	2	L	2			△	◎	道徳教育は、学齢期にある青少年に対して道徳性を身に付けさせることを目標とする種々の教育の総称である。道徳性は、社会的、時代的背景によりさまざまな議論がされてきたが、現在では、非常に幅広い概念としてとらえられており、特定の価値観や理念に基づくものとは考えられていない。そうした観点から、道徳教育の歴史や法的な規制、学校教育における道徳授業の方法だけにかぎらず、家庭や地域社会とのかかわりやカウンセリング、人権教育とのかかわりなど、道徳に関連するさまざまな話題を取り上げ、検討し、授業のあり方を考察する。また、指導案の作成と教材研究を行い、模擬授業を通して実践的な指導力が身につくようにする。	
専門応用科目	情報システム Webシステムプログラミングa	3	F	2	○		△		本講義では、情報システムの代表的な形態である、Webシステムの設計、開発に必要な知識と技術の習得を行う。具体的には、Webシステムの基本的な仕組みの理解、データベース（DB）の設計・構築、およびそのDBを利用するWebシステムの開発を行う。	
	Webシステム プログラミングa演習	3	F	1	○		△		本講義では、情報システムの代表的な形態である、Webシステムの設計、開発に必要な知識と技術の習得を、主に実習を通して行う。具体的には、Webシステムの基本的な仕組みの理解、データベース（DB）の設計・構築、およびそのDBを利用するWebシステムの開発を行う。	
	Webシステム プログラミングb	3	L	2	○		△		本講義では、Webシステムプログラミングaに引き続き、情報システムの代表的な形態である、Webシステムの設計、開発に必要な知識と技術の習得を行う。具体的には、Webシステムの基本的な仕組みの理解、データベース（DB）の設計・構築、およびそのDBを利用するWebシステムの開発を行う。	
	Webシステム プログラミングb演習	3	L	1	○		△		本講義では、Webシステムプログラミングaに引き続き、情報システムの代表的な形態である、Webシステムの設計、開発に必要な知識と技術の習得を、主に実習を通して行う。具体的には、Webシステムの基本的な仕組みの理解、データベース（DB）の設計・構築、およびそのDBを利用するWebシステムの開発を行う。	
	ネットワークセキュリティ論	3	L	2	△		△		ネットワークシステムのセキュリティ問題について、物理的側面、ソーシャルエンジニアリングの側面、ソフトウェアの側面から解説を行う。特にソフトウェア的側面ではネットワーク（LAN、インターネット）上での代表的なセキュリティホールとその防御法について講義する。 ネットワークセキュリティを向上させるには、逆に攻撃者（クラッカー）の攻撃手段を熟知することも必要不可欠であるので、その点についても詳しく講義を行う。	
	ソフトウェア工学 a	3	F	2	△		*		ソフトウェア工学の基本的な考え方と知識を体系的に学び、「安心・安全」なソフトウェアを設計・作成・保守する力を強化することを目的とする。ソフトウェア開発プロセス、ソフトウェアライフサイクル、プロセスの標準化、要求分析からテスト工程・保守まで一貫した流れを学ぶ。	
	ソフトウェア工学 b	3	L	2	△		*		ソフトウェア工学の基本的な考え方と知識を体系的に学び、「安心・安全」なソフトウェアを設計・作成・保守する力を強化することを目的とする。ソフトウェア品質管理、PMBOKなどの開発工程管理、リスク管理、人的管理などのソフトウェア開発の管理者に必要な技術と知識を学ぶ。	
	ネットワーク プログラミング a	3	F	2	○		*		ネットワークシステムの設計者や管理者またはネットワークアプリケーション開発者の育成を目標に、実システムを前提としたネットワーク構築の理論とその手段について講義を行うaではTCP/IPの復習からソケット通信、Webサーバデータベースサーバの仕組みを扱う。	
	ネットワーク プログラミング a 演習	3	F	1	○		*		講義を受け、実際にUnix系OS上に各種ネットワークサーバを構築し、各種プログラミング言語を使ってアプリケーション開発を行う。	

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
専門応用科目	情報システム ネットワークプログラミングb	3	L	2	○			*		ネットワークシステムの設計者や管理者またはネットワークアプリケーション開発者の育成を目標に、実システムを前提としたネットワーク構築の理論とその手段について講義を行うbではサーバサイド動的Webや名前解決、経路制御、メールサーバの仕組みを扱う。
	ネットワークプログラミングb演習	3	L	1	○			*		講義を受け、実際にUnix系OS上でサーバサイド動的Webアプリケーションの開発、サーバソフトの開発、実ルータを使った経路制御、アクセス制御を行う。
	モバイルプログラミングa	3	F	2	△			*		モバイル機器のOSとして広く利用されているAndroid上のソフトウェアの作成について、開発環境の整備方法から、実際の開発方法について学ぶ。
	モバイルプログラミングb	3	L	2	△			*		Apple社のモバイル機器のOSとして広く利用されているiOS上のソフトウェアの作成について、開発環境の整備・使用方法から、プログラミング言語Swiftを使用した開発方法の詳細まで学習する。
	言語処理論	3	F	2	△			*		最初にプログラミング言語の構文を厳密に定義するための形式的記述法を学ぶ。次に、コンパイラとインタプリタの機能・構造・機構について基本を学ぶ。また、Java言語やC#言語の処理に必要な中間言語と仮想マシンの役割りについて理解を深める。
	人工知能b	3	F	2	△			*		人工知能についての基礎を学ぶ。本講義では、主に機械学習やソフトコンピューティングなど、知能的な問題解決手法について講義をおこなう。
	人工知能プログラミング	3	L	2	△			△		近年、コンピュータによる音声認識や顔認識など、人工知能技術の実応用が進んでいる。本講義では、人工知能で利用される知的処理の基本的概念と代表的なアルゴリズムおよびプログラミングについて学ぶ。知的処理の学習を通じて、ソフトウェアによる問題解決方法の理解を深める。知的処理を応用する問題はゲームを題材とし、例題として扱うプログラムはJava言語を用いる。
	ゲームプログラミングa	3	F	2	△			*		2年前後期の「プログラミング応用a」「同b」をうけて、ゲームソフトウェアを例に、ソフトウェアの設計と作成を行う上で必要な考え方と方法論の基礎を学ぶ。内容的には、C言語を使って2Dシューティングゲームを作成する。
	ゲームプログラミングb	3	L	2	△			*		2年前後期の「プログラミング応用a」「同b」および3年前期の「ゲームプログラミングa」をうけて、オブジェクト指向に基づくソフトウェア設計を行う上で必要な考え方と方法論の基礎を3Dゲームソフトウェアを題材として学ぶ。プログラミング言語としてはC++を使い、3Dプログラミングの基本も学習する。また、どのようにデザインすれば優れたゲームソフトウェアを作成できるのか、その方法を学習する。
	暗号理論	2	L	2	△			△		本講義では、整数論と計算量理論を基礎とする現代暗号理論のプリミティブとその役割、各暗号アルゴリズムのプログラミングについて学ぶ。講義形式で学ぶ。課題として計算演習を課す。
	情報通信ネットワーク論	3	F	2	△			*		本講義では、インターネットに代表される情報通信ネットワークの仕組みを概説する。この基本的な仕組みを基に、ユーザの立場に着目した通信サービス品質の考え方とそれを制御する仕組みを学習する。最後に、研究開発が進められている無線ネットワークや新世代ネットワークに関する応用技術についても学習する。
	環境システム論	3	F	2	○					本講義では生態系 (ecosystem) をひとつのシステムと考え、その構成要素のひとつである植物・植生に着目しながら、その組成や構造、維持・更新機構、環境要因との関係について概説する。また、地理情報システムやリモートセンシングを用いた植物・植生の調査・解析手法についても学ぶ。
	環境システム演習	3	L	1	○					本講義では生態系 (ecosystem) をひとつのシステムと考え、その構成要素のひとつである植物・植生と環境要因との相互作用について現地実習を通して学ぶ。また、地理情報システムやリモートセンシングでの解析に必要な環境情報の抽出方法や、GPSなどの機器を用いた調査・解析手法を、現地実習をとおして習得する。
	環境リモートセンシング	3	F	2	○					衛星搭載センサーから地表面、海洋などの地球環境が観測され、環境研究に利用されてきた。ここでは、環境情報システムのエンドユーザとして、衛星情報処理ソフトウェアを利用し、衛星観測データの取り扱い手法について学習し、環境に関する研究へ利用可能な形態とする手法を学習する。特に、本学において受信処理するMODISデータの環境研究への利用手法を学習する。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、-は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
専門応用科目	情報システム 画像・動画処理演習	3	L	1	○	△				米Intel社で開発された画像処理・画像認識用のC言語ライブラリであるOpenCVを用いて静止画や動画を処理する演習授業である。画像情報論やパターン認識の講義で学んだ理論を基に実際のデジタル画像に適用し実習する。また、基本アルゴリズムを組み合わせて目的とする一つのソフトウェアを構築する演習を行う。
	環境情報応用論	3	L	2	△					環境資源の持続的な利用という目的のために、背景となる考え方や、リモートセンシングやGIS（地理情報システム）をはじめとする空間情報技術とWebをどのように環境管理に適用するのかについて講じる。
	パターン認識	3	L	2	△	△				現実世界にある3次元の物体の形状情報をコンピュータ内に表現するモデリングやディスプレイなどに表示できる2次元の画像の変換作業、そして時間に伴う対象世界の変化をアニメーションなどについて学習を行う。実際にコンピュータを用いて目的の画像を生成・加工する段階が必要となる基本的事項を習得する。
数理情報	データマイニング	3	F	2	△	○				大量のデータから規則を導き出すデータマイニングについて、具体的な方法論を学習する。また、実際のビジネスの現場における活用について考える。
	応用統計学	3	F	2		○			△	アンケート調査について、その計画と実施および収集したデータの解析を行うことができる能力が身に付いていること。
	多変量解析	3	F	2		○			△	多変量解析は、複数の変数で構成されたデータを用いて、変数相互の関係を分析し、当初の問題解決への道筋を学ぶさまざまな統計学的手法の総称である。予測、次元削減、分類を中心に理論を理解し、手法を実際のデータに適用できる技術を身に付ける。ソフトウェアはExcelを中心にすすめるが、RやSPSSにも言及する。
	実験計画法	3	L	2		○			△	効率的な実験の計画を立案する能力を身につける。実験で収集したデータを統計的に解析する能力を身につける。
	オペレーションズリサーチ	3	F	2	△	○				オペレーションズリサーチの基礎となる線形代数学の知識を整理し、オペレーションズリサーチにおける各手法の企業における実践例を理解し、各手法の計算方法を修得する。
	データ解析システム	3	L	2		○			△	データの解析を行うには、データの収集から蓄積、前処理、分析、モデリング、検証などさまざまなプロセスを経ることになる。この各プロセスにおいては、アプリケーション、ツール、ライブラリなどのソフトウェアだけでなく、ネットワーク、コンピュータなどのハードウェアも含めた多くの技術を活用したシステムが必要となる。本講義では、データ解析におけるアプリケーションシステムに関連したさまざまな知識および技術について実例を通して解説する。
	Webデータサイエンス	3	F	2		○			△	データサイエンスの対象とする「データ」の代表例が、インターネット、特にWebサイトに関するものである。例えばページ間のリンク、アクセスログ、サイトのテキスト、といった多種多様なものが挙げられる。本講義では、①ページ間のリンク構造を複雑ネットワークとして分析・可視化する事、②アクセスログに対して時系列や相関関係といった統計的性質を分析・可視化する事、③サイトのテキスト(HTMLのソース)を自動取得し分析する事など、Web上のデータを分析するための統計学的・数学的基礎、分析・可視化ツールの操作、分析のためのアルゴリズムなどを学習する。
	数値計算法	3	L	2		○			△	物理現象や生態系の現象、社会現象などの様々な数理モデルの数値シミュレーションを行う場合、最終的にはコンピュータによる数値計算処理が必要となる。本講義では、連立1次方程式の数値解法、数値積分、常微分方程式の数値解法、さらに非線形方程式の数値解法の考え方や具体的なアルゴリズム構成法、留意点などについて習得する。また、受講者自らプログラミングを行うことにより、学習の理解を深める。
	シミュレーション	3	F	2		○			△	コンピュータシミュレーションは従来科学の実験的な研究方法の補助となるばかりでなく、新たに数値シミュレーションによる研究方法も生まれて来ている。この研究分野は、自然科学のみならず、社会科学や人文科学にも広く応用されている。本講義では、シミュレーションの数理解析学的なモデル化手法について概説する。その上で、物理現象や生態系の現象、社会現象などの様々な数理解析モデルを微分方程式に基づく数値シミュレーション、セルオートマトンなどのシミュレーション技法について解説する。EXCELやRのサンプルプログラムを示し、その数学的アルゴリズムの理解を促す。

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			情報	教職	授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報			
専門応用科目	データサイエンスa	3	F	2		○			*	現実のデータから新たな知見を見出し、各領域の意思決定へつなげるデータサイエンティストの養成を視野に入れる。そのために必要なデータエンジニアリングとデータアナリシスの両面からの知識と技術の習得を目指す。
	データサイエンスb	3	L	2		○			*	データサイエンスaの内容をさらに発展させ、実際の解析例を実践しながらデータサイエンスの意義を修得する。
	計算機数論	2	F	2		△			*	本講義では、整数、素数、公倍数、公約数、Euclid algorithm、類、原始根など整数論の基本的事項と計算機を用いた整数論について学ぶ。
	整数論	2	L	2		△			△	整数論の中心的話題である素数の理論について、さまざまな側面から学ぶ。授業は講義形式で行うが、適宜時間外学習としての演習課題を交えながら実施し、これを通して実践力を身につける。
	微分方程式論	3	F	2		△			*	初等的な微分方程式を中心に、その解法や、解の性質について学んでいく。
	符号理論	3	F	2		△			*	本講義では、符号の数理として、情報量、圧縮符号、誤り訂正符号、通信路容量などを学ぶ。次の項目を含む。1. 情報量の定義と計算、2. 冗長性と符号化、3. ISBN符号、4. エントロピーの計算1、5. エントロピーの計算2、6. 情報源符号化法の分類、7. 語頭条件とクラフトの不等式、8. シヤノン・ファノ符号、9. ハフマン符号と情報源符号化定理、10. ユニバーサル情報源符号化、11. 通信路モデル、12. 通信路容量と電話線のアナログモデム、13. 符号の誤り検出・訂正能力、14. 誤り訂正符号の基礎としての多項式計算法、15. まとめ。
社会情報	映像制作論Ⅰ	2	L	2			△			業務用ビデオカメラのマニュアル操作を習得し、アニメーションや特撮、音楽PV作品における、より視覚効果の高い映像表現や制作技術について学ぶ。スローモーションやクロマキー合成、ストップモーションによるコマ撮りアニメーション等の技法を使いこなして、ショートムービーを制作する。
	映像制作論Ⅱ	3	F	2			△			最近の映像作品の多くは、小型デジタルカメラ、スマホカメラ、特殊カメラ撮影、画面合成、画面加工という技術の組み合わせで作られている。カメラやディスプレイ等、ハードの進歩は著しいが、それに対応したコンテンツ作りは大変遅れているのが現状です。360度カメラ ドローン、4K、8K映像の特性を理解し、新しい映像コンテンツの可能性を考察していきます。
	パフォーマンス論	3	F	2			△			生き生きとした「こころ」と「からだ」を取り戻し、本当の意味での自分に出会い、上辺だけでなく、真の他者と触れ合う喜びを味わう。演劇的なレッスンを中心に、自己表現、コミュニケーションの方法を学習する。
	シナリオ論	2	F	2			△			映画、演劇、テレビ・ラジオからゲームにいたるまで、シナリオはあらゆるコンテンツの設計図となる重要なものである。そこには広い教養と洞察力をバックボーンに、問題発見能力や世界観を構築する力、すなわち社会性のある主題の提示と論理的な構成力が求められるとともに、オーディエンスを作品世界に惹きつけ、牽引していく魅力的な情動性や美しさ、すなわち物語性を備えていなくてはならない。感性と技術を総合し、夢やアイデアをかたちあるコンテンツへと具現化させるためのシナリオの役割とその書き方について学ぶ。
	音響メディア論Ⅱ	2	F	2			△			音の分析手法としてスペクトルについて理解した後、音を分析的に聴き、音の違いを判断する訓練を通じて、人間の聴覚能力を理解する。また、オーディオ機器やその構成、アナログ系からデジタル系に至る音響信号の変換の仕組みについての理解を通して、客観的および主観的な音質評価についての科学的な理解を深める。さらに、音の空間的再生、音楽や音声の構造と知覚および認知についても概説する。
	出版メディア論	3	F	2			△			出版の基礎概念、現代に至る出版産業の発展の経緯を学び、その特徴、可能性、課題を具体的なかつ専門的に理解する。編集の仕事、印刷・製本のプロセス、さらに読者の開拓に至るまでを多くの事例から学ぶ。またパソコン、ケータイ、インターネットの普及により、現代人の読む行為に大きな変化が起きているが、これに対する現代の出版メディアの取り組みを取り上げる。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要		
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数			
専門応用科目	社会情報	メディア広告論	3	L	2			△			近年、急激に変化・多様化している広告の現状を最新理論や事例を通して学び、マーケティング、メディア、広告ビジネスのリテラシーを身に付ける。また、進化するメディア広告の意味を改めて問い直し、現在に至るまでの情報通信環境、技術、広告手法など、その社会的/文化的影響や課題を理解する。	
		現代社会学	3	L	2			△			現代社会を理論と現実の2つの視角から全体として理解してゆく。現代社会は、高度消費化と、高度情報化の進展という2つの特徴を備えるに至っている。このような「現在」市民社会のあり方を、古典的理論家達、具体的にはE・デュルケーム、M・ヴェーバー、ジェルジ・ルカーチ、カール・マンハイムなどをたよりに遡って検討を加える。	
		政治と情報	3	F	2			△			情報を構成する言語・シンボルの機能に着目して、政治を動的に把握する。具体的には、現代日本の政治を、政治学、政治経済学、マス・コミュニケーション論、行政学、政治過程論、政治意識論の視点から概説する。	
		新聞論	3	L	2			△			マス・メディアとしての新聞がこのWeb時代に生き残れるかと問われてから久しい。テレビが普及した1960年代過ぎにも同じようなことが言われた。しかし、今回は少し勝手が違うようである。紙で読むことから電子機器で読むことになったことが「新聞離れ」を加速させている。新たなメディアの登場は、従来のメディアにとって、その存在意義を問われるから、自らの存在証明をも確認できる契機となりうる。ネット時代に、新聞とははたしてどのようなメディアであるべきか、そもそも新聞とはいかなるメディアかを問い直す。	
		異文化コミュニケーション論	3	L	2			△			多国籍化・多文化化が進む今日の社会においては、お互いを尊重しながら良好な関係を築くためのコミュニケーションが欠かせない。この講義では、国、地域、言語、ジェンダー、世代など「異文化性」を感じる相手とのコミュニケーション全般を対象とする。まず自分の文化を認識することから始め、文化とコミュニケーションの関係性を多様な視点から考える。文化背景の異なる人々と接触し関係を築く過程でどんなことが起こるのかを具体的な事例から学び、異文化コミュニケーションに必要な柔軟で積極的な態度と方法を身につける。	
		社会調査法	3	F	2	△	○	△				実際の社会的問題意識に基づいて調査設計を行い、収集したデータに対しコンピュータによる集計・解析を実施する。社会調査の意義を理論・実習の両面から正確に理解する。
		マーケティング・コミュニケーション論	3	F	2		△	△				マーケティングの基本的な理論と関係性の構築について講義する。マーケティングの考え方は、製品やサービスだけでなく地域などにも適用可能であり、その応用範囲はきわめて広い。本講義においては理論と事例を織り交ぜながら、マーケティングに対する理解を深めることを目的とする。そのうえで様々な関係主体との双方向のコミュニケーションのあり方や重要性について学ぶ。
		会計学 a	3	F	2			△				経営者にとって基本的に必要となる原価情報および会計情報について学習する。経営学および会計学を基礎として、これらを融合した経営管理に役立つ原価情報および会計情報について説明する。
		会計学 b	3	L	2			△				経営者にとって基本的に必要となる予算および会計情報について学習する。経営学および会計学を基礎として、これらを融合した経営管理に役立つ予算編成法について説明する。基本的な会計情報の考え方に基づいた意思決定などについて、会計手法を用いた計算練習を含めて学習する。特に原価情報を含む会計情報に焦点をあて、原価計算システムと原価情報、標準原価計算と直接原価計算、会計情報を利用した執行管理などについて説明する。
		金融論	3	F	2			△				金融の基礎を固め、経済活動における金融システムの位置付けや金融市場の機能について学習する。さらに我が国における金融市場発展の歴史を理解する。また、我が国における金融制度を理解した上で、その課題と展望を俯瞰する。特に金融機関（バンク）とノンバンクの役割分担を把握し、金融市場の機能を理解する。
	経営戦略論	3	F	2		△	△				経営戦略論の基礎から応用まで通した議論を行う。今日の企業が直面する戦略上の課題は多岐にわたり、さまざまな切り口による研究が行われている。それらの中から特徴的な事例を複数取り上げ、経営戦略に関する理解を深めていく。さらに、事例についての体系化、一般化、概念化を行う。	

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
専門応用科目	社会情報 人的資源論	3	F	2			△			経営資源のなかの「人」に焦点をあて、この領域の主要理論と「個人・仕事・社会（組織）」の三者関係の動向を検討する。顧客ニーズの多様化、ICTやグローバル化の進展などの影響で経営環境が変化するに伴い、「人的資源管理」の発想が新たに生まれてきた。講義では受講者の調査学習の機会も取り入れ、双方向型の授業を通して受講者の問題意識の醸成につなげる。
	経営イノベーション論	3	F	2		△	△			企業は経営環境の変化に応じ、絶えずビジネスモデルを対応させている。かつて吉野家は高度成長期が終焉を迎え、日本人による食への意識変化に順応することができず1980年代初頭に倒産したものの、吉野家は牛丼というメニューに一貫性を保ちながら、食材の改良や店舗運営の改善などといった事業モデルを革新させて再生を遂げた。本講義では、こうした企業が経営革新を遂げて成功した事例や、逆に失敗した事例などを取り上げ学習する。
	ベンチャービジネス論	3	L	2			△			ベンチャー企業の効率的な成長を促す戦略を、企業の本メカニズム、発展段階別マネジメントのあり方、資金調達への導入、株式公開といった観点から確立することを目指す。なお、具体的なケーススタディ（成長を遂げた企業の成功事例や、一方で成長機会を捉えることに出来なかった失敗事例）を通してベンチャー企業が成功する鍵について考察する。
	マーケティング戦略論	3	L	2		△	△			企業におけるマーケティング戦略を掘り下げて講義する。今日の企業活動においてマーケティングの果たす役割はますます大きくなってきている。日本経済の停滞や市場のグローバル化などの要因によって、企業間の競争が激しさを増していることなどが、その背景にある。このため、マーケティング戦略の基本的なスタンスを整理した上で、先進的な事例を紹介しながらマーケティング戦略構築のプロセスを説明する。
	地域再生システム論	3	L	2			△			本講義では、地域再生に関連する政策・制度および具体的事例の検討を行う。政府や中央官庁主導から次第に脱却し、当該地域が主導的役割を担うことが重視されてきている。こうした背景のもと、地場産業や有形無形の文化財に着目するとともに、地域の特色を高めていく「ひと」の育成が必須である。講義では、地域再生に関する活動を行っている諸団体から講師を招聘することを視野に入れ、理論と実践の双方から地域再生の将来像を考察する。
	ブランドマネジメント論	3	L	2			△			企業には、自社の経営理念と事業戦略に基づいて管理されるべき企業ブランドがある。一方で、市場で顧客との接点となるべく生み出される製品ブランドがある。この2つの視点に基づいて、ブランドマネジメントのあり方について理解する。
	心理学実験Ⅰ	3	F	1			△			心の仕組みを適切に調べるためには、決められた手順や必要なテクニックがある。実験を通して心をデータ化し「情報」として扱うことで、心を客観的に捉えられるようになる。この講義では、実験を行う側、受ける側の両方を体験する。また、得られたデータを分析し、レポートを書くことを通じて、心に関する現象を客観的に考える方法を学ぶ。知覚や認知に関する内容を中心に取り扱う。
	心理学実験Ⅱ	3	L	1			△			心理学実験Ⅰと同様に、心を捉える技法を学ぶ。心理学実験Ⅰの発展として、より認知的な内容や、社会心理学に関する内容を取り扱う。
	心理検査法実習	3	L	1			△			臨床心理学分野における心理支援方法を実施していくためには、クライアントのアセスメントが必要である。アセスメントに大きな役割を果たすものが、長期にわたって、開発・検討されてきた各種心理検査法である。そこで、本授業では「心理検査法」の授業で学んだ心理検査法、特に知能検査やパーソナリティ検査を中心に取り上げ、実際に受講者が心理検査を実習体験していくことで、検査方法や解釈を学んでいく。授業時間前半において、各検査法の概略を説明し、後半において、実際に検査法を実習する。その後、実習の結果をまとめ、報告書を作成し提出する。
	臨床心理学実習	3	L	1			△			心理臨床の場において必要とされる具体的な支援方法に関する基礎的知識を取り上げる。本授業では「臨床心理学概論」で取り上げた心理支援方法や構造化されたカウンセリングの技法を紹介し、受講者がモデリング、ロールプレイ、ワーク、更にはクライアントとしてのセラピー体験などの実習を通じて、技法の理解と取得を進めていく。実習をすることで、心理支援方法理論や心理変容を体験的に理解し、将来の心理臨床の学びに役立つものとなる。本授業は実習ごとに課題があり、受講者はその課題の結果をまとめ、報告書を提出する。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(*)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	必選区分			教職		授業概要
					情報システム	数理情報	社会情報	情報	数	
専門応用科目	社会情報 カウンセリング	3	F	2				△		現代は「ストレス社会」の側面がある。悪性ストレスは、心ばかりでなく身体にも否定的な影響を与え、生活習慣病や精神疾患の原因の一つになる。また、思春期・青年期における不登校、中途退学、いじめ、自傷行為、依存行為などの問題や成人期以降における休職、抑うつ、アルコール依存、自殺などもその背後に悪性ストレスの影響を考えていく必要がある。 そこで、本授業は、いかにして健康なメンタルヘルスを維持していくことができるか、心理支援方法としてのカウンセリングや各種心理療法の理論と技法を講義と演習から学んでいく。更に、自己の生き方についてもカウンセリング・心理療法との関連で考察する。
卒業研究	専門演習	2	L	1	◎	◎	◎			本演習科目では、3年次からのコース選択を意識させ、希望するコースの教員のクラスへ所属し、コースの学びについて理解させる。また、コースの専門科目を学ぶ上で必要な専門的知識・技術の基礎を理解させる。最終的に、コースに必要な履修計画を策定・確認し、各自が希望しているコースを理解して選択できるようにする。
	卒業研究Ⅰ	3	F/L	4	◎	◎	◎			学生の興味のある知識や技術を複合的に習得すると共に、企業や組織の中で多様な人々とともに仕事を行っていくうえで必要である社会人基礎力を身につける。これにより、自律的・主体的に学習する意欲を引き出す人材を養成する。
	卒業研究Ⅱ	4	F/L	6	◎	◎	◎			4年次において、3年次に実施した卒業研究を通して幅広い思考能力や応用能力を身に付けるとともに、卒業研究の成果を卒業論文として纏める。少人数演習形式で、各コースの教員のもとで、研究をおこない、必要な専門知識や社会人として要求される総合力を身に付ける。卒業論文でおこなった研究内容を各コースや関連教員が主催する卒業論文発表会において発表し、質疑応答を体験する。

【備考】

- (1) 授業科目の名称欄の(※)は外国人留学生対象科目を表す。
- (2) 授業科目の名称欄の(◇)は教職課程履修者対象科目を表す。
- (3) 必選区分欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、－は履修不可科目、空白は学系ごとに指定した単位数まで自由選択を表す。
- (4) 教職欄の◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目、*は推奨科目を表す。

教職課程科目

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	教 職		授 業 概 要
					情 報	数 学	
教職	情報と職業	3	F	2	◎		高度に情報化・通信化された社会において、職業と自己形成、社会と職業との緊密な関係の展開方向について、講義を通じて理解を深めていく。その上で、学生自身が自己の職業観を形成し、社会における役割と責任を自覚することができるよう促し、生涯学習の観点に立ったキャリア形成ができるような取組みを提示していく。
	教育原理	1	L	2	◎	◎	本講義は「教育とは何か」「教育は何のためにあるのか」について、その要点を分かりやすく講述し、今後の教育学に関する学習の基礎的土台を構築するものである。このために、本講義の内容としては、教育の本質論、教育の目的論、教育の制度論、教育の内容と方法論、教育の経営論とした。
	教職概論	1	F	2	◎	◎	教職の意義、教員の役割・職務内容、教員として必要な資質能力・力量、教員採用試験の動向等々について授業を行う。併せて、グループ討議・発表の時間も設けたい。
	教育制度論	2	F	2	◎	◎	教育の社会的制度的なシステムを学び、学校教育が成立する基礎を理解し、法的・制度的・社会的な視点から学校教育と教員のあり方を考えることができるようになる。
	教育心理学	2	F	2	◎	◎	IoT社会における今日の学校教育において、児童・青年期の発達や学習過程を理解し、教育的支援を必要とする子どもへの理解を深め、その対応を考えることはきわめて重要である。本講では、広く教育に関わる心理学的知見を取り扱っていく。発達と教育、学習のメカニズム、学習過程や動機づけなど教育心理学の基礎知識を習得する。また、教授法、評価法、教育上の困難を持つ子どもの理解（学習障害やADHD等）なども取り扱いながら、具体的な教育場面と関連づけて検討していく。将来教師を目指す学生は、教育の現状を考える新たな視点として「心理学的な見方や考え方」を培う。
	特別支援教育	2	L	2	◎	◎	特別支援教育における変遷、インクルーシブを含めた特別支援教育に関する制度や仕組みを学び、学校教育で支援するため基礎的知識と方法を理解する。同時に、合理的配慮に基づいたICTの活用について学ぶ。そして、学校教育において組織的な支援体制のもと、個別の指導・教育支援計画に基づいて特別支援教育コーディネーターを中心に各関係機関や家庭との連携のあり方と支援について考えることができるようになる。
	教育課程編成論	2	L	2	◎	◎	本講義は学校における教育課程の基本的知識並びに編成の方法について習得する。したがって、教育課程とは何か、教育課程の歴史、教育課程編成の意義、要素、学習指導要領、等について取り上げる。このことを踏まえて、教育課程編成の実際並びに評価について学ぶ。
	数学科教育法 a	3	F	2	◎		教員としての資質を養うとともに数学科の指導理論と指導技術を習得する。「数学科教育法 a」では主として指導案の作成、模擬授業の実施、検討・評価という繰り返しの中で、教員としての豊かな人間性と、数学に対する専門知識、さらに数学教育に関する深い認識を養う。また、指導案作成時に教材の紹介をし、教材を活用した指導方法も養う。
	数学科教育法 b	3	L	2	◎		教員としての資質を養うとともに数学科の指導理論と指導技術を習得する。「数学科教育法 b」では学習指導要領への理解と各単元、テーマにおける教材研究を中心に数学の専門知識をいっそう確実にし、数学教育を自在に展開する力をはぐくむ。
	数学科教育法 c	3	F	2	◎ (中) △ (高)		教員としての資質を養うとともに数学科の指導理論と指導技術を習得する。「数学科教育法 c」では、指導案の作成、模擬授業の実施、検討・評価という繰り返しのほか、数学史にも目を向け、数学の専門知識および数学教育に関する認識の深化をはかる。
	数学科教育法 d	3	L	2	◎ (中) △ (高)		教員としての資質を養うとともに数学科の指導理論と指導技術を習得する。「数学科教育法 d」では、各単元、テーマごとに具体的な教材を取り上げ、それらの考察から学習指導要領のねらいに対する理解を深め、創意工夫にみちた授業展開を行う力を育てる。



科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	教職		授業概要
					情報	数	
教職	情報科教育法 a	3	F	2	◎		科学技術の発展にともない、社会が国際化・情報化へと急激に変化する中で、次代を担う高校生には、「情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。」ことが求められている。 情報科の教科目標を踏まえ、「知識基盤社会」といわれる時代に適切に対応することができる能力・態度を育成するにはどうすればよいか、学生とともに考えながら講義を進める。また、実際の授業事例を取り上げ、授業で使用する教材を紹介しながら、指導案作成、模擬授業を実施し、具体的な指導方法について講義する。
	情報科教育法 b	3	L	2	◎		共通教科「情報」および専門教科「情報」の授業における実際の教材、授業実践について事例をもとに学び、それぞれの授業の目的、教材の効果について理解し、教科の理念に則って適切な教材研究ができるようになることを目指します。また、生徒が各科目で学習する知識・技能を習得させるとともに、主体的な学習活動（いわゆるアクティブ・ラーニング）の視点を活かした授業設計ができるようになることを目標とします。
	道徳教育の理論と方法	2	L	2	△	◎	道徳教育は、学齢期にある青少年に対して道徳性を身に付けさせることを目標とする種々の教育の総称である。道徳性は、社会的、時代的背景によりさまざまな議論がされてきたが、現在では、非常に幅広い概念としてとらえられており、特定の価値観や理念に基づくものとは考えられていない。そうした観点から、道徳教育の歴史や法的な規制、学校教育における道徳授業の方法だけにかぎらず、家庭や地域社会とのかかわりやカウンセリング、人権教育とのかかわりなど、道徳に関連するさまざまな話題を取り上げ、検討し、授業のあり方を考察する。また、指導案の作成と教材研究を行い、模擬授業を通して実践的な指導力が身につくようにする。
	総合的な学習の時間の理論と方法	3	F	1	◎	◎	課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力など、今、求められる力の向上を図る。そのために対話型グループワーク、ケースメソッド、ディスカッション、研究発表等をとおして、それらの力を体験的に理解し培っていく。また、その目的達成のために、各教科等にこだわることなくカリキュラム・マネジメントの考え方を十分に理解して、横断的・総合的に学習を進めることができるようにする。
	特別活動の理論と方法	3	L	1	◎	◎	特別活動は、自主的実践的な態度や社会性の育成などを目指し、全ての教師がかかわる教育活動である。本講義では、中学校・高等学校における特別活動の教育課程上の位置づけや内容、人間形成における特別活動の教育的意義や役割、指導方法（学級活動・ホームルーム活動の指導案・生徒会活動実施案・学校行事実施案等の作成）について学習する。
	教育方法論	2	L	2	◎	◎	学校生活の大部分を占める授業は生徒にとって大きな意味と役割を有している。そこで本講義は、学校教育における学習指導の展開について、特にわかる授業に焦点化し、理論と実践の両面から考察していく。さらに今日の教育の方法、技術においての情報機器及び教材の活用観点から、視聴覚メディアと教育に関する理解も深めていくこととしたい。
	生徒指導・進路指導論	3	F	2	◎	◎	生徒指導・進路指導は教科指導と並んで学校における教育活動の根幹をなすものです。ここでは、あらゆる教育活動をとおして、自己管理能力を育成することが求められています。本授業においては、そのために必要な基本的な知識の修得を図ると同時に、より実践的な力の育成を目指し、でき得る限り体験的な活動をとおして、児童生徒や保護者への具体的な対応について学びます。ケースメソッド、対話型グループワークなどアクティブラーニングの手法を取り入れて、知識の定着を図り、問題解決能力を高めることをめざします。

科目区分	授業科目の名称	年次	学期	単位数	教職情報学		授業概要
					教職	数	
教職	教育相談論	3	L	2	◎	◎	情報社会の現在，学校では，いじめ（ネットいじめ含む）・不登校・非行・学級崩壊・特別支援教育・中途退学など問題が山積している。いずれも教師による早期発見や早期対応がきわめて重要であり，教育相談の果たす役割は非常に大きい。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家とチームで子供達を支援することが求められている。その中で教師は，心理発達の視点を重視しつつ，カウンセリング，予防的・開発的教育といった教育相談に関わる基礎知識が必須のものとされている。本講では，教育相談の理論背景や歴史的経緯，扱う問題や課題の専門的知識等を学び，体験やディスカッションを通して支援方法を検討する。
	教育実習Ⅰ	3 4	F/L F/L	3	◎	◎	4年次で実施する実習校での教育実習と本学での事前指導・事後指導からなる科目である。大学で修得した教職関係科目の基礎的理論を基に，教育実習を通して自らの適格性を具体的，実践的に検証させ，教員として必要な資質能力・実践的指導力をさらに高められるよう授業を進めていく。
	教育実習Ⅱ	3 4	F/L F/L	2		◎	4年次で実施する実習校での教育実習と本学での事前指導・事後指導からなる科目である。大学で修得した教職関係科目の基礎的理論を基に，教育実習を通して自らの適格性を具体的，実践的に検証させ，教員として必要な資質能力・実践的指導力をさらに高められるよう授業を進めていく。
	教職実践演習(中・高)	4	L	2	◎	◎	本演習はこれまでの学修について履修カルテを活用して振り返り，教員として必要な資質能力の最終的な確認と補填をおこなう。これまでの学びのまとめ(教職課程)として，「教科の指導力」「生徒理解や学級経営」「使命感や責任感，教育的愛情」「社会性や対人関係能力」という4つの柱を重視する。
	学校インターンシップ	2	F/L	2	△	△	教職課程を履修している学生は，千葉教職たまごプロジェクトに参加する。大学が実習提携している学校(平成30年度実績:更科中学校，生浜高校，千葉南高校)における授業補助および学校運営のサポートもある。学校運営には，学校イベント(学園祭など)の運営補助等も含む。それらの実習を通して，教職に就くために必要な実践的指導力の向上を図る。

【備考】

教職欄の◎は必修科目，○は選択必修科目，△は選択科目を表す。



4. 学系制

1) 総合情報学部総合情報学科の教育体系

総合情報学部総合情報学科は、教育目標及び人材育成の目的を達成するために3つの学系（「情報システム学系」「数理情報学系」「社会情報学系」）を設置しています。また、各学系には、専門の研究分野に分けて研究室を設置しています。2年次後期から研究室に所属しますが、その研究室が必要とする専門的な基礎・応用の知識・技術が修得できるように履修モデルを設けています。

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期～3,4年	履修モデル
共通	いずれかの学系を選択し所属する		いずれかの研究室を選択し所属する (複数教員指導体制) 3年次から指導教員のゼミに所属する	所属を希望する研究室の履修モデルを参考に授業科目を履修する
基礎教育	情報システム学系 (ヒト・モノ・環境の融合による、総合的な情報システムを学ぶ) 高校一種「情報」免許取得可		システムデザイン研究室	システム開発
			ゲーム・アプリケーション研究室	
			ネットワーク・セキュリティ基盤研究室	ネットワーク
			ネットワークシステム研究室	
			知能情報システム研究室	人工知能・ビッグデータ
			環境情報研究室	
	数理情報学系 (数学とITの力で新しい知識を創る) 中高一種「数学」免許取得可		数理情報研究室	数理情報
			データサイエンス研究室	
	社会情報学系 (情報を駆使して新しい価値を創る)		映像・音響研究室	メディアデザイン
			ゲーム・CG・Webデザイン研究室	
			メディア文化研究室	経営イノベーション
			経営イノベーション研究室	
			心理学研究室	人間情報
		スポーツ科学研究室		

(1) 学系選択について

1年次前期（7月頃）に、所属する学系を希望調査し、後期から学系に所属します。

※学系ごとに授業科目の必選区分が違うので、授業科目表で確認してください。

(2) 研究室選択について

2年次前期（6～7月）に所属する研究室を希望調査し、後期から研究室に所属します。

※研究室ごとに必要な知識・技術が異なります。履修モデルを参考に履修登録してください。

(3) ゼミ（指導教員）選択について

2年次後期（11～12月）に研究活動の指導を受ける指導教員を希望調査し、3年次前期からゼミに所属します。

2) 学系別科目配当表

《情報システム学系》

年次	学期	◎必修科目	○選択必修科目	△選択科目	自由選択科目	
1	前期	情報リテラシー演習 情報モラルとセキュリティ 英語 a 英語 c 日本語 a (※) 日本語 c (※) フレッシュマン演習 基礎演習 コンピュータ概論 総合情報学概論	スポーツ演習 a スポーツ演習 b スポーツ演習 c スポーツ演習 d 知識創造の方法 a 知識創造の方法 b 知識創造の方法 c 知識創造の方法 d 知識創造の方法 e 知識創造の方法 f	哲学概論 レポートと文章作法 歴史学 法学概論 日本国憲法 経済学概論 コミュニケーション論 市民活動論 人権・ジェンダー 統計学 基礎数学入門 基礎数学 a 環境学 健康科学		
	後期	英語 b 英語 d 日本語 b (※) 日本語 d (※) 経営と情報 情報分析基礎 学系基礎演習 a 情報システム学概論 IT 基礎技術論 プログラミング基礎 プログラミング基礎演習 情報ネットワーク概論	スポーツ演習 a スポーツ演習 b スポーツ演習 c スポーツ演習 d	レポートと文章作法 文化人類学 心理学概論 スポーツと社会 民法 現代企業論 情報法 基礎数学入門 基礎数学 b 生命と情報 生命倫理 数理科学 プログラミング入門 日本語総合演習 (※) コンピュータグラフィックス基礎 ゲーム制作基礎 情報メディア論	情報数学 a 離散数学 a 推測統計学 確率論 映像表現論 映像表現基礎 I 音響メディア論 I 社会学概論 海外事情 マーケティング概論 基礎会計論 経営学概論 スポーツトレーニング論	
2	前期	学系基礎演習 b	中国語 a ハングル・韓国語 a コンピュータ英語 a ビジネス英語 a アルゴリズムとデータ構造 a システム設計論 a プログラミング応用 a プログラミング応用 a 演習 情報通信システム論 a 環境情報論 a 地理情報システム a 画像情報論	情報社会と職業 日本の社会と生活文化 (※) Unix論 a 情報システムアーキテクチャ 情報分析応用 コンピュータグラフィックス論 Webデザイン演習	情報数学 b 離散数学 b データサイエンス概論 代数学 a 幾何学 a 解析学 a 映像表現基礎 II メディア社会論 マスメディア論 文学論・英米児童文学	経営管理論 経営組織論 グローバル経済と金融 スポーツ指導論 スポーツ情報論 臨床心理学概論 認知心理学 心理検査法 学校心理学 計算機数論 音響メディア論 II シナリオ論
	後期	専門演習	中国語 b ハングル・韓国語 b コンピュータ英語 b ビジネス英語 b アルゴリズムとデータ構造 b システム設計論 b プログラミング応用 b プログラミング応用 b 演習 情報通信システム論 b 環境情報論 b 地理情報システム b	キャリアデザイン a ビジネスコミュニケーション (※) Unix論 b データベース論 人工知能 a コンピュータグラフィックス演習 暗号理論	データ処理論 代数学 b 幾何学 b 解析学 b サウンドデザイン論 視覚デザイン論 知覚心理学 比較社会論 社会心理学 コミュニケーション実践論	マーケティング論 会計学概論 スポーツ心理学 心理学研究法 人間関係論 道徳教育論 (教職) 整数論 映像制作論 I
3	前期	卒業研究 I	Webシステムプログラミング a Webシステムプログラミング a 演習 ネットワークプログラミング a ネットワークプログラミング a 演習 環境システム論 環境リモートセンシング	キャリアデザイン b インターンシップ (通年) 学校インターンシップ (通年・教職) リクルートコミュニケーション (※) ソフトウェア工学 a モバイルプログラミング a 言語処理論 人工知能 b ゲームプログラミング a 情報通信ネットワーク論 データマイニング オペレーションズリサーチ 社会調査法	多変量解析 Webデータサイエンス シミュレーション データサイエンス a 微分方程式論 符号理論 映像制作論 II パフォーマンス論 出版メディア論 政治と情報	マーケティング・コミュニケーション論 会計学 a 金融論 経営戦略論 人的資源論 経営イノベーション論 心理学実験 I 臨床心理学実習 カウンセリング
	後期	卒業研究 II	Webシステムプログラミング b Webシステムプログラミング b 演習 ネットワークプログラミング b ネットワークプログラミング b 演習 環境システム演習 画像・動画処理演習	ネットワークセキュリティ論 ソフトウェア工学 b モバイルプログラミング b 人工知能プログラミング b 環境情報応用論 パターン認識	応用統計学 実験計画法 データ解析システム 数値計算法 データサイエンス b メディア広告論 現代社会学 新聞論 異文化コミュニケーション論	会計学 b ベンチャービジネス論 マーケティング戦略論 地域再生システム論 ブランドマネジメント論 心理学実験 II 心理検査法実習 臨床心理学実習
4	通年	卒業研究 II				

【備考】

授業科目名に (※) が付記されている科目は、外国人留学生対象科目を表す。



《数理情報学系》

年次	学期	◎必修科目	○選択必修科目	△選択科目	自由選択科目	
1	前期	情報リテラシー演習 情報モラルとセキュリティ 英語 a 英語 c 日本語 a (※) 日本語 c (※) フレッシュマン演習 基礎演習 基礎数学 a コンピュータ概論 総合情報学概論	スポーツ演習 a スポーツ演習 b スポーツ演習 c スポーツ演習 d 知識創造の方法 a 知識創造の方法 b 知識創造の方法 c 知識創造の方法 d 知識創造の方法 e 知識創造の方法 f	哲学概論 レポートと文章作法 歴史学 法学概論 日本国憲法 経済学概論 コミュニケーション論 市民活動論 人権・ジェンダー 統計学 基礎数学入門 環境学 健康科学		
	後期	英語 b 英語 d 日本語 b (※) 日本語 d (※) 基礎数学 b 経営と情報 情報分析基礎 学系基礎演習 a プログラミング基礎 プログラミング基礎演習 数理情報学概論 情報数学 a	スポーツ演習 a スポーツ演習 b スポーツ演習 c スポーツ演習 d 離散数学 a 推測統計学 確率論	レポートと文章作法 文化人類学 心理学概論 スポーツと社会 民法 現代企業論 情報法 基礎数学入門 生命と情報 生命倫理 数理学 プログラミング入門 日本語総合演習 (※) IT基礎技術論 ネットワークとセキュリティ コンピュータグラフィックス基礎 マーケティング概論 基礎会計論 経営学概論	映像表現論 映像表現基礎 I 音響メディア論 I ゲーム制作基礎 情報メディア論 社会学概論 海外事情 スポーツトレーニング論	
2	前期	学系基礎演習 b 情報数学 b 情報分析応用 データサイエンス概論	中国語 a ハングル・韓国語 a コンピュータ英語 a ビジネス英語 a 離散数学 b 代数学 a 幾何学 a 解析学 a	情報社会と職業 日本の社会と生活文化 (※) アルゴリズムとデータ構造 a プログラミング応用 a プログラミング応用 a 演習 Unix論 a 情報システムアーキテクチャ 地理情報システム a 画像情報論 スポーツ情報論 計算機数論	システム設計論 a 情報通信システム論 a 環境情報論 a 映像表現基礎 II メディア社会論 コンピュータグラフィックス論 Webデザイン演習 マスメディア論 文学論・英米児童文学	経営管理論 経営組織論 グローバル経済と金融 スポーツ指導論 臨床心理学概論 認知心理学 心理検査法 学校心理学 音響メディア論 II
	後期	専門演習 データ処理論	中国語 b ハングル・韓国語 b コンピュータ英語 b ビジネス英語 b 代数学 b 幾何学 b 解析学 b	キャリアデザイン a ビジネスコミュニケーション (※) アルゴリズムとデータ構造 b プログラミング応用 b プログラミング応用 b 演習 Unix論 b 地理情報システム b データベース管理システム マーケティング論 人間関係論 整数論	システム設計論 b 情報通信システム論 b 人工知能 a 環境情報論 b サウンドデザイン論 コンピュータグラフィックス演習 視覚デザイン論 知覚心理学 比較社会学 社会心理学	コミュニケーション実践論 会計学概論 スポーツ心理学 心理学研究法 道徳教育論 暗号理論 映像制作論 I シナリオ論
3	前期	卒業研究 I	データマイニング 応用統計学 多変量解析 オペレーションズリサーチ Webデータサイエンス シミュレーション データサイエンス a 社会調査法	キャリアデザイン b インターンシップ (通年) 学校インターンシップ (通年・教職) リクルートコミュニケーション (※) 微分方程式論 符号理論 マーケティング・コミュニケーション論 経営戦略論 経営イノベーション論	Webシステムプログラミング a Webシステムプログラミング a 演習 ソフトウェア工学 a ネットワークプログラミング a ネットワークプログラミング a 演習 モバイルプログラミング a 言語処理論 人工知能 b ゲームプログラミング a 情報通信ネットワーク論 環境システム論 環境リモートセンシング	映像制作論 II パフォーマンス論 出版メディア論 政治と情報 会計学 a 金融論 人的資源論 心理学実験 I カウンセリング
	後期		実験計画 データ解析システム 数値計算法 データサイエンス b	画像・動画処理演習 パターン認識 マーケティング戦略論	Webシステムプログラミング b Webシステムプログラミング b 演習 ネットワークセキュリティ論 ソフトウェア工学 b ネットワークプログラミング b ネットワークプログラミング b 演習 モバイルプログラミング b 人工知能プログラミング ゲームプログラミング b 環境システム演習 環境情報応用論	メディア広告論 現代社会学 新聞論 異文化コミュニケーション論 会計学 b ベンチャービジネス論 地域再生システム論 ブランドマネジメント論 心理学実験 II 心理検査法実習 臨床心理学実習
4	通年	卒業研究 II				

【備考】

授業科目名に (※) が付記されている科目は、外国人留学生対象科目を表す。

《社会情報学系》

年次	学期	◎必修科目	○選択必修科目	△選択科目	自由選択科目	
1	前期	情報リテラシー演習 情報モラルとセキュリティ 英語 a 英語 c 日本語 a (※) 日本語 c (※) フレッシュマン演習 基礎演習 コンピュータ概論 総合情報学概論	スポーツ演習 a スポーツ演習 b スポーツ演習 c スポーツ演習 d 知識創造の方法 a 知識創造の方法 b 知識創造の方法 c 知識創造の方法 d 知識創造の方法 e 知識創造の方法 f	哲学概論 レポートと文章作法 歴史学 法学概論 日本国憲法 経済学概論 コミュニケーション論 市民活動論 人権・ジェンダー 統計学 基礎数学入門 基礎数学 a 環境学 健康科学		
	後期	英語 b 英語 d 日本語 b (※) 日本語 d (※) 経営と情報 情報分析基礎 学系基礎演習 a 社会情報学概論	スポーツ演習 a スポーツ演習 b スポーツ演習 c スポーツ演習 d 映像表現論 音響メディア論 I 情報メディア論 マーケティング概論 経営学概論	レポートと文章作法 文化人類学 心理学概論 スポーツと社会 民法 現代企業論 情報法 基礎数学入門 基礎数学 b 生命と情報 生命倫理 数理学 プログラミング入門 日本語総合演習 (※) 映像表現基礎 I コンピュータグラフィックス基礎 ゲーム制作基礎 社会学概論 海外事情 基礎会計論 スポーツトレーニング論	IT 基礎技術論 プログラミング基礎 プログラミング基礎演習 情報数学 a 離散数学 a 推測統計学 確率論 ネットワークとセキュリティ	
2	前期	学系基礎演習 b	中国語 a ハングル・韓国語 a コンピュータ英語 a ビジネス英語 a 情報分析応用 メディア社会論 コンピュータグラフィックス論 経営管理論 経営組織論 グローバル経済と金融 スポーツ情報論 臨床心理学概論	情報社会と職業 日本の社会と生活文化 (※) 映像表現基礎 II Webデザイン演習 マスメディア論 スポーツ指導論 認知心理学 心理検査法 学校心理学 音響メディア論 II シナリオ論	アルゴリズムとデータ構造 a システム設計論 a 映像表現基礎 II プログラミング応用 a 演習 情報通信システム論 a Unix論 a 情報システムアーキテクチャ 環境情報論 a 地理情報システム a 画像情報論	
	後期	専門演習	中国語 b ハングル・韓国語 b コンピュータ英語 b ビジネス英語 b	キャリアデザイン a ビジネスコミュニケーション (※) サウンドデザイン論 コンピュータグラフィックス演習 視覚デザイン論 知覚心理学 比較社会学 社会心理学 文学論・英米児童文学 コミュニケーション実践論 マーケティング論 会計学概論 スポーツ心理学 心理学研究法 人間関係論 映像制作論 I	アルゴリズムとデータ構造 b システム設計論 b プログラミング応用 b プログラミング応用 b 演習 情報通信システム論 b Unix論 b 人工知能 a 環境情報論 b 地理情報システム b	データ処理論 代数学 b 幾何学 b 解析学 b データベース管理システム 暗号理論 整数論
3	前期	卒業研究 I		キャリアデザイン b インターンシップ (通年) 学校インターンシップ (通年・教職) リクルートコミュニケーション (※) 映像制作論 II パフォーマンス論 出版メディア論 政治と情報 社会調査法 マーケティング・コミュニケーション論 会計学 a 金融論 経営戦略論 人的資源論 経営イノベーション論 心理学実験 I カウンセリング	Webシステムプログラミング a Webシステムプログラミング a 演習 ソフトウェア工学 a ネットワークプログラミング a ネットワークプログラミング a 演習 モバイルプログラミング a 言語処理論 人工知能 b ゲームプログラミング a 情報通信ネットワーク論 環境システム論 環境リモートセンシング	データマイニング 多変量解析 オペレーションズリサーチ Web データサイエンス シミュレーション データサイエンス a 微分方程式論 符号理論
	後期			メディア広告論 現代社会学 新聞論 異文化コミュニケーション論 会計学 b ベンチャービジネス論 マーケティング戦略論 地域再生システム論 ブランドマネジメント論 心理学実験 II 心理検査法実習 臨床心理学実習	Webシステムプログラミング b Webシステムプログラミング b 演習 ネットワークセキュリティ論 ソフトウェア工学 b ネットワークプログラミング b ネットワークプログラミング b 演習 モバイルプログラミング b 人工知能プログラミング ゲームプログラミング b	環境システム演習 画像・動画処理演習 環境情報応用論 パターン認識 応用統計学 実験計画法 データ解析システム 数値計算法 データサイエンス b
4	通年	卒業研究 II				

【備考】

授業科目名に (※) が付記されている科目は、外国人留学生対象科目を表す。



3) 学系別履修モデル

《情報システム学系》

教育目標及び 育成する人材像	システム開発、情報ネットワーク、情報セキュリティや知能情報処理などに関する基礎技術からゲーム・エンタテインメント、仮想化システムなどの先端技術や環境分野のビッグデータ解析技術について研究し、新しい情報分野で活躍していくために必要な技術について学ぶ。企業活動のサポート、社会・環境問題のデータ分析と課題解決、人々の利便性向上やゲーム・エンタテインメント提供など、多様な情報システムを設計・構築・運用する能力を有する人材を育成する。
---------------------------	--

履修モデル		システム開発		ネットワーク		人工知能・ビッグデータ		
年次	科目系列	授業科目						
						知能情報	環境情報	
1	前期	全学共通科目 全学基礎科目	現代実学	○情報リテラシー演習		○情報モラルとセキュリティ		
			スポーツ	○スポーツ演習 a ○スポーツ演習 b ○スポーツ演習 c ○スポーツ演習 d				
	外国語		◎英語 a ◎英語 c ◎日本語 a (※) ◎日本語 c (※)					
	基礎科目	共通基礎科目	基礎演習	○フレッシュマン演習		◎基礎演習		
			総合基礎	△レポートと文章作法 △統計学 △基礎数学 a △環境学		*科目区分「総合基礎」から、後期科目と合わせて8単位修得すること		
		知識創造	○知識創造の方法 a ○知識創造の方法 b ○知識創造の方法 c ○知識創造の方法 d ○知識創造の方法 e ○知識創造の方法 f					
		情報基礎	◎コンピュータ概論					
	専門教育科目	専門基礎科目	◎総合情報学概論					
	後期	全学共通科目	全学基礎科目	スポーツ	○スポーツ演習 a ○スポーツ演習 b ○スポーツ演習 c ○スポーツ演習 d			
				外国語	◎英語 b ◎英語 d ◎日本語 b (※) ◎日本語 d (※)			
基礎科目		共通基礎科目	総合基礎	△レポートと文章作法 △情報法 △基礎数学 b △数理学 △生命と情報		*科目区分「総合基礎」から、前期科目と合わせて8単位修得すること		△レポートと文章作法 △情報法 △基礎数学 b △数理学 △生命と情報 △プログラミング入門 (#)
			実用語学	△日本語総合演習 (※)				
情報基礎		◎経営と情報 ◎情報分析基礎						
専門教育科目	専門基礎科目	◎学系基礎演習 a		◎情報システム学概論 ◎IT基礎技術論 ◎プログラミング基礎 ◎プログラミング基礎演習 ◎情報ネットワーク概論				
		△コンピュータグラフィックス基礎 △ゲーム制作基礎 △情報メディア論						
2	全学共通科目	全学基礎科目	外国語	○中国語 a ○中国語 b ○ハングル・韓国語 a ○ハングル・韓国語 b				
	基礎科目	共通基礎科目	実用語学	○コンピュータ英語 a ○コンピュータ英語 b ○ビジネス英語 a ○ビジネス英語 b				
			キャリアデザイン	△情報社会と職業 △キャリアデザイン a				
	専門教育科目	専門基礎科目	◎学系基礎演習 b					
			○アルゴリズムとデータ構造 a ○アルゴリズムとデータ構造 b		○環境情報論 a			
			○システム設計論 a ○システム設計論 b		○環境情報論 b			
○プログラミング応用 a ○プログラミング応用 a 演習			○地理情報システム a					
○プログラミング応用 b ○プログラミング応用 b 演習		○地理情報システム b						
○情報通信システム論 a ○情報通信システム論 b		○画像情報論						
△Unix論a(#)		△Unix論b(#)		△情報システムアーキテクチャ (#)				
△データベース論(#)		△人工知能a(#)		△情報分析応用(#)				
△コンピュータグラフィックス論		△コンピュータグラフィックス演習		△Webデザイン演習				
専門応用科目	△暗号理論		計算機数論 (自)					
卒業研究	◎専門演習							
3・4	基礎科目	キャリアデザイン	△キャリアデザイン b △インターンシップ					
	専門教育科目	専門応用科目	○Webシステムプログラミングa ○Webシステムプログラミングa演習		○Webシステムプログラミングa ○Webシステムプログラミングa演習		○環境システム論	
			○Webシステムプログラミングb ○Webシステムプログラミングb演習		○Webシステムプログラミングb ○Webシステムプログラミングb演習		○環境システム演習 ○環境リモートセンシング ○画像・動画処理演習	
		△ソフトウェア工学a (#)	△モバイルプログラミングa (#)		△人工知能b (#)			
		△ソフトウェア工学b (#)	△モバイルプログラミングb (#)		△人工知能プログラミング (#)			
		△モバイルプログラミングa (#)	△ネットワークセキュリティ論 (#)		△人工知能b			
		△モバイルプログラミングb (#)	△情報通信ネットワーク論 (#)		△人工知能プログラミング			
		△ゲームプログラミングa (#)	△ソフトウェア工学a		△ソフトウェア工学a			
		△ゲームプログラミングb (#)	△ソフトウェア工学b		△ソフトウェア工学b			
		△言語処理論	△ゲームプログラミングa		△ゲームプログラミングa			
		△ネットワークセキュリティ論	△ゲームプログラミングb		△ゲームプログラミングb			
		△情報通信ネットワーク論	△言語処理論		△モバイルプログラミングa			
		△人工知能b	△人工知能b		△モバイルプログラミングb			
		△人工知能プログラミング	△人工知能プログラミング		△言語処理論			
		△データマイニング	△データマイニング		△ネットワークセキュリティ論			
		△オペレーションズリサーチ	△オペレーションズリサーチ		△情報通信ネットワーク論			
		△社会調査法	△社会調査法		△データマイニング			
		符号理論 (自)	符号理論 (自)		△オペレーションズリサーチ △社会調査法 符号理論 (自)			
卒業研究	◎卒業研究 I ◎卒業研究 II							

【備考】 科目名の前の、◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目を表す。
 科目名の後の、(※)は外国人留学生用科目、(#)は各モデルの推奨科目、(自)は自由選択科目を表す。

《数理情報学系》

教育目標及び
育成する人材像

数理情報学を基礎にしたデータ分析や数理モデル化による自然・社会システムの理解と課題解決実現のための手法を学ぶ。同時にこれらを情報システム化する技法を身につけ、その過程を通じて数理情報学およびその基礎である数学の専門性を修得することにより、高度な情報技術を駆使して意思決定を実行する、社会の要請に応え得るデータサイエンティストを育成する。

履修モデル			数理情報					
年次	科目系列		授業科目					
1 前期	全学共通科目	全学基礎科目	現代実学	◎情報リテラシー演習 ◎情報モラルとセキュリティ				
			スポーツ	○スポーツ演習 a	○スポーツ演習 b	○スポーツ演習 c	○スポーツ演習 d	
		外国語	◎英語 a	◎英語 c	◎日本語 a (※)	◎日本語 c (※)		
	基礎科目	共通基礎科目	基礎演習	◎フレッシュマン演習 ◎基礎演習				
			総合基礎	◎基礎数学 a △統計学	※科目区分「総合基礎」から、後期科目と合わせて8単位修得すること			
		知識創造	○知識創造の方法 a ○知識創造の方法 b ○知識創造の方法 c ○知識創造の方法 d ○知識創造の方法 e ○知識創造の方法 f					
		情報基礎	◎コンピュータ概論					
	専門教育科目	専門基礎科目	◎総合情報学概論					
	後期	全学共通科目	全学基礎科目	スポーツ	○スポーツ演習 a	○スポーツ演習 b	○スポーツ演習 c	○スポーツ演習 d
				外国語	◎英語 b	◎英語 d	◎日本語 b (※)	◎日本語 d (※)
基礎科目			共通基礎科目	総合基礎	◎基礎数学 b △数理科学	※科目区分「総合基礎」から、前期科目と合わせて8単位修得すること		
			実用語学	△日本語総合演習 (※)				
		情報基礎	◎経営と情報 ◎情報分析基礎					
専門教育科目		専門基礎科目	◎学系基礎演習 a					
			◎数理情報学概論 ◎情報数学 a ◎プログラミング基礎 ◎プログラミング基礎演習					
			○離散数学 a ○推測統計学 ○確率論					
			△ネットワークとセキュリティ △IT基礎技術論 △コンピュータグラフィックス基礎					
			△マーケティング概論 △基礎会計論 △経営学概論					
2	全学共通科目	全学基礎科目	外国語	○中国語 a ○中国語 b ○ハングル・韓国語 a ○ハングル・韓国語 b				
			実用語学	○コンピュータ英語 a ○コンピュータ英語 b ○ビジネス英語 a ○ビジネス英語 b				
	基礎科目	共通基礎科目	キャリアデザイン	△情報社会と職業 △キャリアデザイン a				
	専門教育科目	専門基礎科目	◎学系基礎演習 b ◎情報数学 b ◎情報分析応用 ◎データサイエンス概論 ◎データ処理論					
			○離散数学 b ○代数学 a ○代数学 b ○幾何学 a ○幾何学 b					
			○解析学 a ○解析学 b					
			△データベース管理システム △アルゴリズムとデータ構造 a △アルゴリズムとデータ構造 b △プログラミング応用 a △プログラミング応用 a 演習 △プログラミング応用 b △プログラミング応用 b 演習 △Unix論 a △Unix論 b △情報システムアーキテクチャ △地理情報システム a △地理情報システム b △画像情報論 △マーケティング論 △スポーツ情報論 △人間関係論					
専門応用科目			△計算機数論 △整数論					
卒業研究	◎専門演習							
3・4	基礎科目	キャリアデザイン	△キャリアデザイン b △インターンシップ					
	専門教育科目	専門応用科目	○データマイニング ○応用統計学 ○多変量解析 ○実験計画法 ○オペレーションズリサーチ ○データ解析システム ○Webデータサイエンス ○数値計算法 ○シミュレーション ○データサイエンス a ○データサイエンス b ○社会調査法					
			△微分方程式論 △符号理論 △画像・動画処理演習 △パターン認識 △マーケティング・コミュニケーション論 △経営戦略論 △経営イノベーション論 △マーケティング戦略論					
			卒業研究	◎卒業研究 I ◎卒業研究 II				

【備考】 科目名の前の、◎は必修科目、○は選択必修科目、△は選択科目を表す。
科目名の後の、(※)は外国人留学生を表す。



《社会情報学系》

教育目標及び育成する人材像	社会と情報に関わるメディア学，社会科学，心理学などに関する研究をとおして，新しい価値を創造し，社会で活躍していくために必要な能力について学ぶ。社会問題解決のための情報分析，生活者の利便性向上のための社会情報の提供，情報メディアを活用した表現活動など，多様な情報を創造，運用する能力を有する人材を育成する。
----------------------	--

履修モデル		メディアデザイン		経営イノベーション		人間情報		
年次	科目系列		授業科目					
1	前期	全学共通科目	全学基礎科目	現代実学	◎情報リテラシー演習 ◎情報モラルとセキュリティ			
			スポーツ		○スポーツ演習 a	○スポーツ演習 b	○スポーツ演習 c	○スポーツ演習 d
			外国語		◎英語 a	◎英語 c	◎日本語 a (※)	◎日本語 c (※)
		基礎科目	共通基礎科目	基礎演習	◎フレッシュマン演習 ◎基礎演習			
				総合基礎	△コミュニケーション論 △統計学 △経済学概論	※科目区分「総合基礎」から，後期科目と合わせて8単位修得すること		
			知識創造	△健康科学 △経済学概論 ○知識創造の方法 a ○知識創造の方法 b ○知識創造の方法 c ○知識創造の方法 d ○知識創造の方法 e ○知識創造の方法 f				
		情報基礎		◎コンピュータ概論				
		専門教育科目	専門基礎科目	◎総合情報学概論				
	後期	全学共通科目	全学基礎科目	スポーツ	○スポーツ演習 a	○スポーツ演習 b	○スポーツ演習 c	○スポーツ演習 d
				外国語	◎英語 b	◎英語 d	◎日本語 b (※)	◎日本語 d (※)
基礎科目		共通基礎科目	総合基礎	△心理学概論 △スポーツと社会	※科目区分「総合基礎」から，前期科目と合わせて8単位修得すること			
				△プログラミング入門				
			実用語学	△日本語総合演習 (※)				
		情報基礎	◎経営と情報 ◎情報分析基礎					
	専門教育科目	専門基礎科目	○映像表現論 ○音響メディア論 I ○情報メディア論 △映像表現基礎 I △コンピュータグラフィックス基礎 △ゲーム制作基礎		○マーケティング概論 ○経営学概論 ○情報メディア論 △基礎会計論		○情報メディア論 ○経営学概論 ○映像表現論 △社会学概論 △海外事情 △スポーツトレーニング論	
2	全学共通科目	全学基礎科目	外国語	○中国語 a ○中国語 b ○ハングル・韓国語 a ○ハングル・韓国語 b				
	基礎科目	共通基礎科目	実用語学	○コンピュータ英語 a ○コンピュータ英語 b ○ビジネス英語 a ○ビジネス英語 b				
			キャリアデザイン	△情報社会と職業 △キャリアデザイン a				
	専門教育科目	専門基礎科目		◎学系基礎演習 b				
				○メディア社会論 ○コンピュータグラフィックス論		○経営管理論 ○経営組織論 ○グローバル経済と金融		
				△映像表現基礎 II △Webデザイン演習 △サウンドデザイン論 △視覚デザイン論 △コンピュータグラフィックス演習 △知覚心理学 △マスメディア論 △社会心理学 △知覚心理学 △社会心理学 △心理学研究法 △文学論・英米児童文学 △コミュニケーション実践論	△マーケティング論 △社会学概論 △会計学概論 △メディア社会論 △マスメディア論 △社会心理学 △認知心理学 △心理学研究法 △心理検査法 △人間関係論	△人間関係論 △心理検査法 △認知心理学 △社会心理学 △心理学研究法 △スポーツ指導論 △知覚心理学 △視覚デザイン論 △比較社会論 △スポーツ心理学 △マスメディア論 △コミュニケーション実践論		
専門応用科目		△映像制作論 I △シナリオ論 △音響メディア論 II						
	卒業研究	◎専門演習						
3・4	基礎科目	キャリアデザイン	△キャリアデザイン b △インターンシップ					
	専門教育科目	専門応用科目	△映像制作論 II △メディア広告論		△マーケティング・コミュニケーション論		△心理学実験 I △心理学実験 II	
			△パフォーマンス論 △出版メディア論 △社会調査法 △現代社会学 △政治と情報 △新聞論 △マーケティング・コミュニケーション論 △経営イノベーション論 △ブランドマネジメント論 △異文化コミュニケーション論	△経営戦略論 △経営イノベーション論 △人的資源論 △金融論 △会計学 a △地域再生システム論 △ベンチャービジネス論 △会計学 b △ブランドマネジメント論 △マーケティング戦略論 △社会調査法 △異文化コミュニケーション論 △出版メディア論 △現代社会学 △政治と情報 △メディア広告論 △新聞論	△臨床心理学実習 △心理検査法実習 △異文化コミュニケーション論 △社会調査法 △カウンセリング △政治と情報 △現代社会学 △出版メディア論 △新聞論 △人的資源論 △メディア広告論 △ブランドマネジメント論 △マーケティング戦略論 △実験計画法 △応用統計学			
	卒業研究	◎卒業研究 I ◎卒業研究 II						

【備考】科目名の前の，◎は必修科目，○は選択必修科目，△は選択科目を表す。
科目名の後の，(※)は外国人留学生を表す。

5. 教職課程

1) 教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて、中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるように設置された課程です。

教職課程を修めようとする者は、学部を設置された共通科目及び専門教育科目の単位の修得の他に、必要な教職関係科目の単位を修得しなければなりません。

教職課程の履修を希望する者には、教員としての適格性、教職関係科目を十分に理解する能力、将来教職に就きたいとする強い意志が要求されますので、いい加減な気持ちで教職課程を履修するようなことのないよう注意してください。

※大学院総合情報学研究科の専修免許については、161ページにて説明しています。

2) 取得できる免許状

各学系で以下の免許状が取得できます。

学 科	学 系	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
総合情報学科	情報システム学系	—	情報
	数理情報学系	数学	数学
	社会情報学系	—	—

3) 東京情報大学総合情報学部教職課程における教員養成の目的及び方針

(1) 教育研究上の目的

総合情報学部教職課程は、教育意欲に溢れ、情報、数理及び社会に関する優れた専門知識をもち、学校現場に対応できる柔軟な教育技能を身につけた教員を養成する。

(東京情報大学学則 第2条第2項の別表第1より)

(2) 教育目標及び育成する人材像

情報に関する専門的知識および技術とその背景を理解し、コミュニケーション能力に優れた情報の教員を育成する。

数学に関する専門的知識と実学としての数学を理解し、コミュニケーション能力に優れた情報技術に強い数学の教員を育成する。

(3) 入学者受入の方針【アドミッションポリシー】

①情報システムに関心を持ち、コンピュータに関わる技術を学ぶ意思の強い人、情報システムを学ぶ前提となる基礎知識、特に数学・理科・情報等の科目に興味を持つ人、さらに習得した専門知識を教育に活かす意欲を持ち、積極的に生徒指導と教育に携わる意思をもつ人。

②数理情報学に関心を持ち、コンピュータやデータ分析に関わる技術を学ぶ意思の強い人、数理情報学を学ぶ前提となる基礎知識、特に数学・理科・情報等の科目に興味を持つ人、さらに習得した専門知識を教育に活かす意欲を持ち、積極的に生徒指導と教育に携わる意思をもつ人。

(4) 学位授与の方針【ディプロマポリシー】

大学、学部学科及び学系の学位授与の方針に定められた学士力に加え、以下のような教職課程の学士力を身につけ、卒業要件単位数を修得し、教職課程の履修要件を満たした学生に対して、教員免許状授与の資格を与える。

知識・理解	1.教科と教職に関する基本的な知識を体系的に理解し、実学を重視した専門知識を有している。
汎用的技能	1.生徒に基礎的な知識・技能を習得させ、思考力、判断力、表現力等及び主体的に学習に取り組む態度を育む指導力を有している。 2.学校現場で活かすことができる授業実践力および学級経営能力を有している。 3.キャリア教育を含む進路指導と、多様な問題や課題を抱えた生徒に対応できる指導ができる。
態度・志向性	1.自らの資質向上に不断に取り組む、学び続ける力を有している。 2.教員としての職業モラルと職務遂行能力及びコミュニケーション能力を有している。
総合的な学習経験と創造的思考力	1.ICTを用いた効果的な授業や適切なデジタル教材の開発・活用の基礎力・指導力を有している。



(5) 教育課程編成・実施の方針【カリキュラムポリシー】

- ①情報モラル、道徳教育、コミュニケーションを重視した全学共通基礎科目、学科基礎科目を配置する。
- ②教科に関する一般的包括的内容を扱う科目に加えて、実学を重視した情報基礎科目、専門基礎科目の学修を通じて、情報及び情報技術が果たす役割や影響を理解する力と情報モラル、知的財産の保護、情報の安全等に対する実践的な態度を身につけ、情報活用の実践力を養う。
- ③単位の実質化および厳格な成績評価を前提として、教職課程において修得すべき単位の一部を可能な限り卒業所要単位として位置付ける。
- ④学校インターンシップによる学校現場の理解増進と、自らの教職への適性の確認を行う。
- ⑤ICTに関する専門教育を経た上で、教科指導法を履修することによって、デジタル教材の開発・活用の基礎力・指導力を備える。
- ⑥卒業研究遂行を通じた先端的な技術・研究の理解と、自主性および積極性を涵養する。
- ⑦千葉県および千葉市教育委員会と連携して、県下の中学校及び特別支援学校(県立及び市立)での実践研修等を体験する機会を提供する。
- ⑧情報社会に積極的に参画する能力と態度を育成する「マルチメディアと表現及び技術」「情報通信ネットワーク」、情報を効果的に活用する科学的な考え方を養う「情報システム」「コンピュータ及び情報処理」を学ぶ。
- ⑨「代数学」「幾何学」「解析学」を基礎として、自然、社会、人間の各現象に関わる「情報」を数理的に扱う「確率論、統計学」およびコンピュータを用いて各現象における問題を解く「数理情報学」を学ぶ。

4) 履修要件

本学で免許状を取得するための必要な最低単位数は、以下のとおりです。

教科及び教職に関する科目		中学（一種）	高校（一種）
最低修得単位数	教育の基礎的理解に関する科目	10	10
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	12	10
	教育実践に関する科目	7	5
	大学が独自に設定する科目	4	12
	教科及び教科の指導法に関する科目	28	24
	合 計	61	61

- (1) 基礎資格を得るため、学部を卒業することが最優先となります。
- (2) 「教科及び教職に関する科目」等の各科目区分に配当されている授業科目は、次ページから掲載しています。
- (3) 上記の他に、「教育職員免許法施行規則第66条の6」の定めにより、「日本国憲法」、「体育」、「外国語コミュニケーション」、「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の4分野から各2単位以上の計8単位以上の修得が必要になります。
- (4) 中学校一種の免許状を取得する場合は、上記の他に「介護等の体験」が義務付けされており、省令で定められている施設において、7日間の介護等の体験が必要になります。
- (5) 教職にかかわるガイダンスには必ず出席すること。
- (6) 取得する免許に関わる資格の検定に合格すること。
- (7) 各学年の継続判定に通過すること。

5) 教職課程の履修手続

(1) 申請受付

申請受付は1年次の前期に行います。詳しい説明は、4月に行われる「教職課程ガイダンス」で行いますので、希望者は必ず出席してください。ガイダンスに関する日程等は、別途連絡します。

なお、教職課程科目（教職に関する科目）の授業は、1年次前期からとなりますので、教職課程の履修を希望する場合は、必ず受講してください。

(2) 科目の履修

所定の期間内に履修申請を完了した者に対して、前期中に、別途、教職課程科目の履修登録（追加履修）を行います。該当者は、必ず期間内に履修登録手続を完了してください。

(3) 履修料

教職課程の履修を希望する場合は、別途、履修料（1免許教科120,000円、中学「数学」、高校「数学」の2免許を履修しても1免許とみなします。※年度ごとの分納）が必要になります。なお、途中で履修を放棄する場合でも、一旦納入した履修料は返金できませんので注意してください。

6) 教育実習

教育実習は、4年次になって、中学校は原則として4週間、高等学校は2週間以上にわたり、現場での教育活動（教科指導および生徒指導等）に参加することによって行われます。

(1) 教育実習の履修の条件

教育実習の履修は、履修登録を完了していることの他に、以下の要件を満たした者に許可します。

- ① 3年次までに配当されている「教職に関する科目」のうち、中学（一種）取得希望者は12科目以上、高校（一種）取得希望者は9科目以上を、3年次終了時までに修得済みであること。
- ② 「教育職員免許法施行規則第66条の6」に定める必修科目を、3年次終了時までに修得済みであること。
- ③ 教育実習までに、必要な「教育実習オリエンテーション」を全て受講済みであること。

(2) 教育実習校

実習希望者は、早い段階から（3年次になってから）中学校または高校へ出向いて予め依頼を行うなどして、実習校を確保することになります。自分で確保できない事情等がある場合は、大学と相談の上、実習校を決定します。

(3) 教育実習の手続

3年次から4年次にかけて行われる複数回のオリエンテーションの中で、具体的な手続について説明が行われます。教育実習を希望する者は、このオリエンテーションに必ず出席することが必要になります。

7) 介護等の体験の義務

平成9年に「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が公布され、平成10年度以降に大学に入学した者には、小学校および中学校の教諭の普通免許状を授与するための要件として、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験（「介護等の体験」）が加わりました。

具体的には、満18歳を過ぎてから免許状取得までの期間に、省令等で指定する施設で7日間の介護体験を行い、その体験を施設等の長から証明してもらうことにより、要件を備えることになります。

したがって、卒業時に、中学校の教員免許状を取得しようとする者は、4年次までに体験等を終えていなければなりません。本学では3年次以降になると、卒業研究や、就職活動、教育実習等で時間的余裕がなくなりますので、原則として2年次終了までに体験を終えられるよう指導することにしています。

介護等の体験に関する説明会等は、1年次から始める予定にしていますので、希望者は掲示等に注意してください。

8) 免許状の申請・交付

教育職員免許状の授与権者は、その大学が所在する都道府県の教育委員会であり、本学の場合は千葉県の教育委員会となります。

申請の方法には、大学が免許状の申請を一括して受け付け学位記授与式当日に免許状が交付される「一括申請」と、個人が直接教育委員会へ申請する「個人申請」があります。

(1) 一括申請

免許状取得を希望する4年次生（ただし、卒業見込み者でかつ免許状取得見込み者に限る）に対し、12月上旬に、説明会を開催します。該当者は、配布される「教育職員免許状授与申請書」に所要事項を記入の上、手数料（千葉県収入証紙）を添えて、期日までに大学へ提出します。大学がこれをまとめて県の教育委員会へ一括して申請し、審査を受けた後、該当者には、学位記授与式当日に学位記と同時に交付することになります。

(2) 個人申請

卒業後、居住する都道府県の教育委員会へ個人で申請し、交付を受ける方法です。詳しい内容は、該当の各教育委員会へ各自で問い合わせることになります。



9) 教育の基礎的理解に関する科目等

情報システム学系・数理情報学系共通

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	配当学年	配当学期	単位数	単位数		履修方法等
							必	選	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	1	L	2	○		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職概論	1	F	2	○		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育制度論	2	F	2	○		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	F	2	○		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	2	L	2	○		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程編成論	2	L	2	○		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育の理論と方法	2	L	2	○		中免のみ
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の理論と方法	3	F	1	○		
	特別活動の指導法		特別活動の理論と方法	3	L	1	○		
	教育の方法及び技術		教育方法論	2	L	2	○		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICTを活用した教育の理論と方法	2	L	2	○		
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導論	3	F	2	○		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談論	3	L	2	○		
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習Ⅰ	3・4	F/L	3	○		事前事後指導1単位含む
			教育実習Ⅱ	3・4	F/L	2	○		中免のみ
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)	4	L	2	○		

10) 大学が独自に設定する科目

科目区分	単位数	授業科目	配当学年	配当学期	単位数	単位数		履修方法等
						必	選	
大学が独自に設定する科目	中4※ 高12※	学校インターンシップ	2	F/L	2		○	
		道徳教育の理論と方法	2	L	2	○		高免のみ

※他の科目区分の単位数のうち最低修得単位数を超えている単位数を含める

11) 教科及び教科の指導法に関する科目等

情報システム学系（高校一種 情報）

施行規則に定める科目区分等		授業科目	配当 学年	配当 学期	単位数	必	選	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項							
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	情報モラルとセキュリティ	1	F	2	○	
			情報法	1	L	2	○	
	コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	コンピュータ概論	1	F	2	○		
		プログラミング基礎	1	L	2	○		
		プログラミング基礎演習	1	L	1	○		
		プログラミング応用a	2	F	2		○	
		プログラミング応用a演習	2	F	1		○	
		プログラミング応用b	2	L	2		○	
		プログラミング応用b演習	2	L	1		○	
		人工知能プログラミング	2	L	2		○	
	情報システム (実習を含む。)	データベース論	2	L	2	○		
		システム設計論a	2	F	2	○		
		システム設計論b	2	L	2	○		
		Webシステムプログラミングa	3	F	2		○	
		Webシステムプログラミングa演習	3	F	1		○	
		Webシステムプログラミングb	3	L	2		○	
		Webシステムプログラミングb演習	3	L	1		○	
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	情報ネットワーク概論	1	L	2	○		
		情報通信システム論a	2	F	2	○		
		情報通信システム論b	2	L	2	○		
		暗号理論	2	L	2		○	
		ネットワークセキュリティ論	3	L	2		○	
	マルチメディア表現・ マルチメディア技術 (実習を含む。)	コンピュータグラフィックス基礎	1	L	2	○		
		情報メディア論	1	L	2	○		
		コンピュータグラフィックス演習	2	L	1	○		
		Webデザイン演習	2	F	1		○	
	情報と職業	情報と職業	3	F	2☆	○		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	情報科教育法 a	3	F	2☆	○		
		情報科教育法 b	3	L	2☆	○		

必修単位を全て修得したうえで、合計24単位以上修得
 ※24単位を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含める
 単位数に（☆）がついている科目は卒業要件単位に含まれない



数理情報学系（中学校一種 数学）

施行規則に定める科目区分等		授業科目	配当 学年	配当 学期	単位数	必	選	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項							
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学	代数学a	2	F	2	○	
			代数学b	2	L	2	○	
			整数論	2	L	2		○
	幾何学	幾何学a	2	F	2	○		
		幾何学b	2	L	2	○		
	解析学	解析学a	2	F	2	○		
		解析学b	2	L	2	○		
		シミュレーション	3	F	2		○	
		数値計算法	3	L	2		○	
	確率論, 統計学	統計学	1	F	2	○		
		推測統計学	1	L	2	○		
		確率論	1	L	2	○		
		多変量解析	3	F	2		○	
		実験計画法	3	L	2		○	
		応用統計学	3	F	2		○	
	コンピュータ	情報分析基礎	1	L	2	○		
		データサイエンス概論	2	F	2	○		
		アルゴリズムとデータ構造a	2	F	2		○	
		アルゴリズムとデータ構造b	2	L	2		○	
		データ処理論	2	L	2		○	
		データ解析システム	3	L	2		○	
		Webデータサイエンス	3	F	2		○	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法 a	3	F	2☆	○		
		数学科教育法 b	3	L	2☆	○		
		数学科教育法 c	3	F	2☆	○		
		数学科教育法 d	3	L	2☆	○		

必修単位を全て修得したうえで、合計28単位以上修得

※28単位を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含める
単位数に（☆）がついている科目は卒業要件単位に含まれない

施行規則に定める科目区分等		授業科目	配当 学年	配当 学期	単位数	必	選	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項							
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	代数学	代数学a	2	F	2	○	
			代数学b	2	L	2	○	
			整数論	2	L	2		○
	幾何学	幾何学a	2	F	2	○		
		幾何学b	2	L	2	○		
	解析学	解析学a	2	F	2	○		
		解析学b	2	L	2	○		
		シミュレーション	3	F	2		○	
		数値計算法	3	L	2		○	
	確率論, 統計学	統計学	1	F	2	○		
		推測統計学	1	L	2	○		
		確率論	1	L	2	○		
		多変量解析	3	F	2		○	
		実験計画法	3	L	2		○	
		応用統計学	3	F	2		○	
	コンピュータ	情報分析基礎	1	L	2	○		
		データサイエンス概論	2	F	2	○		
		アルゴリズムとデータ構造a	2	F	2		○	
		アルゴリズムとデータ構造b	2	L	2		○	
		データ処理論	2	L	2		○	
		データ解析システム	3	L	2		○	
		Webデータサイエンス	3	F	2		○	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法 a	3	F	2☆	○		
		数学科教育法 b	3	L	2☆	○		
		数学科教育法 c	3	F	2☆		○	
		数学科教育法 d	3	L	2☆		○	

必修単位を全て修得したうえで、合計24単位以上修得
 ※24単位を超えて修得した単位は「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含める
 単位数に(☆)がついている科目は卒業要件単位に含まれない

12) 教育職員免許法施行規則第66条に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	授業科目	科目系列・区分	配当 学年	単位数	必	選	備考
日本国憲法	日本国憲法	基礎（総合基礎・社会）・選択	1	2	○		
体育	スポーツ演習a	全学共通（スポーツ）・選必	1	1		○	4科目中2科目 選択必修
	スポーツ演習b	全学共通（スポーツ）・選必	1	1		○	
	スポーツ演習c	全学共通（スポーツ）・選必	1	1		○	
	スポーツ演習d	全学共通（スポーツ）・選必	1	1		○	
外国語コミュニケーション	英語a	全学共通（外国語）・必修	1	1	○		
	英語b	全学共通（外国語）・必修	1	1	○		
	英語c	全学共通（外国語）・必修	1	1	○		
	英語d	全学共通（外国語）・必修	1	1	○		
数理, データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報リテラシー演習	全学共通（現代実学）・必修	1	2	○		



看護学部の学修について

学則第14条第3項に定める「授業科目の履修方法及び単位の修得に関することについては、本学則に定めるもののほかは、別に定める」とは、本書のこの部分を指します。



1. 学士課程教育の目的および方針

1) 教育研究上の目的

看護学部看護学科は、建学の精神「未来を切り拓く」及び教育理念「現代実学主義」の精神に基づき、急速に進む少子高齢社会を見据え、地域包括ケアシステムの中心的役割を担う情報活用と情報発信力に優れた看護職の育成を目指す教育及び看護学に関する研究を行う。

(東京情報大学学則 第2条第2項の別表第1より)

2) 教育目標及び育成する人材像

東京情報大学	
	建学の精神「未来を切り拓く」、教育理念「現代実学主義」を念頭に、日々進化する情報技術を活用し社会に貢献できる人材を育成する。
看護学部看護学科	
	生命に対する畏敬の念としなやかな創造力を持ち、看護の対象を深く理解しながら援助できる基礎能力を修得し、科学的根拠に基づいて適切なケアが提供できる看護職を育成する。 また、情報リテラシーを修得し、高い倫理性を発揮しながら、看護にかかわる情報を実践的に活用・発信し、保健医療福祉に関わる職業人と相補的にフォローアップ・リーダーシップ・アントレプレナーシップをとりながら協働できる看護職を育成する。 さらに、看護職としての社会的責任を自覚し、社会の発展に積極的に貢献し、生涯を通じて知識や技術を習得しつづける看護職として教育する。

3) 学位授与の方針【ディプロマポリシー】

東京情報大学は、以下のような学士力を身につけ、卒業要件単位数を修得した学生に対して、卒業時に学士の学位を授与する。

東京情報大学	
知識・理解	1. 専門分野の知識を習得し、社会の中で活用することができる。
汎用的技能	1. コミュニケーション能力を高め、自らの意見を論理的・効果的に伝えることができる。 2. 情報を適切に収集、分析及び活用することができる。 3. 社会人として必要な基礎的な知識と幅広い教養を身につけている。
態度・志向性	1. 社会人として必要な自己管理能力、協調性、統率力、倫理観、規律性を身につけている。 2. 情報モラルを身につけ、ICTを利活用することができる。
総合的な学習経験と創造的思考力	1. 主体的に課題を発見し、その課題を解決することができる。
看護学部看護学科	
知識・理解	1. 看護学および看護実践に関する基礎的知識を有している。 2. 看護実践を支え、発展させる科学的根拠に基づいた知識を有している。 3. 地域医療・ケアに関わる情報活用と情報発信の基礎的知識を有している。
汎用的技能	1. 生命に対する畏敬の念としなやかな創造力を有し、地域で暮らす生活者への看護ケアに必要な基礎的技能を有する。 2. 主体的学習と協同学習を推進していく技能を有する。 3. 社会人としての幅広い教養とコミュニケーション能力を有する。
態度・志向性	1. 看護の対象である人々を個人、集団の視点からより深く理解することに関心が持てる。 2. 患者・利用者の意思を尊重し、高い倫理性に裏付けられた援助が行える。 3. 保健医療福祉の職業人と相補的にフォローアップ・リーダーシップ・アントレプレナーシップをとりながら協働できる。
総合的な学習経験と創造的思考力	1. 看護実践に必要な基礎的能力を修得し、科学的根拠に基づいた適切なケアを提供する能力を有する。 2. 情報リテラシーを修得し、利用者中心のケアに向けたチーム医療への高い関心を発揮しながら、看護にかかわる情報を実践的に活用・発信できる能力を有する。



3.看護職としての社会的責任を自覚して、社会の発展に積極的に貢献し、生涯を通じて知識や技術を習得しつづける能力を有する。

4) 教育課程編成・実施の方針【カリキュラムポリシー】

東京情報大学
<ol style="list-style-type: none">1.「未来を切り拓く」という建学精神と「現代実学主義」という教育理念に基づき、自らのキャリアを確立するための教育を実現するために、情報を活かして新しい未来を切り拓く人材育成を目指して総合情報学部に情報システム学系、数理情報学系、社会情報学系を置く。さらに科学的根拠に基づいた適切なケアが提供できる人材育成を目指して看護学部看護学科を置き、教育課程を編成する。2.教育理念である「現代実学主義」の精神に基づき、急速に進展しつつある情報社会、少子高齢社会の将来を見据えることができるための現代実学科目を設置する。各学部において、実践的な実学教育のカリキュラム体系を構築し、学生自身が主体的にかつ計画的に学び、実社会で活用できる能力を身につけていくことを教育方針とする。3.全学共通科目は、学生として必要とされる知識と教養を養うとともに、国際的に通用する基礎的なコミュニケーション能力の習得を目指す。4.各学部の「基礎科目」は、当該学部で学修する知識や技能を体系的に身につけるために、学部の特性に合った基礎教育を行う。5.各学部の「専門教育科目」は、各々の専門的知識や学問的方法を体系的に学び、問題解決方法や問題の本質を見抜く洞察力や判断能力、社会や地域をサポートするための実践的能力を身につける。最終的に、それまで身につけてきた知識、技能・技術を集大成し、社会の発展に積極的に貢献できる人材を目指す。
看護学部看護学科
<p>看護学部では、しなやかでたくましい看護職を育成するために、自律と共創を基盤としながら、多様な人々と新しい価値を作り出していける力を涵養していくカリキュラムとする。</p> <ol style="list-style-type: none">1.全学共通の「全学基礎科目」、本学部の「基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分し、情報活用・発信力に優れ、科学的根拠に基づいた適切なケアが提供できる看護職を育成する。「基礎科目」には人間や環境の理解に関する科目、「専門基礎科目」には看護学の基礎となる健康に関する科目、「専門科目」には看護学の基盤領域、実践領域、統合領域および保健師科目を設置する。2.専門科目に配当する「象徴科目」では、学生がコア・コンピテンシ（情報活用・発信力、職業人としての基礎力、現場から学ぶ力）を意図し各科目を関連付けて学修できるようにする。3.臨地実習をはじめ、効果的で多様なアクティブ・ラーニングとなるような教育内容・教育方法とする。

2. 授業科目の履修及び進級・卒業要件について

1) 履修に関して

(1) 学生に対する履修指導

小クラス担任制を設け、学生の履修に関する履修指導を行います。履修相談は全教員が行います。

(2) 履修条件

履修条件については次のとおりです。

- ①実習科目は、原則として、その実習に関連する講義演習科目を修得したものが履修できる。
- ②基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護学実習、地域看護学実習及び地域包括ケア実習を基本実習とし、母性看護学実習、小児看護学実習、成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ及び在宅看護学実習、精神看護学実習は応用実習とし、基本実習を修得したものが応用実習を履修することができる。
- ③統合実習及び保健師課程の実習は、原則として、基本実習、応用実習のすべてを修得したものが履修できる。

2) 外国語の履修について

外国語の履修は、英語 a, b, c, d (必修) から1単位を必ず履修すること、また、その他に中国語 a, b, ハングル・韓国語 a, b も履修できます。外国語は1単位30時間、15回の授業で、日本語 a, b, c, d は外国人留学生の履修科目です。また、保健師課程の学生は、英語1単位を含む2単位以上の外国語の履修が必要です。

3) 単位制

(1) 授業科目の履修は単位制となっています。

単位制とは、各入学年度の教育課程によって定められた授業科目を履修し、所定の試験に合格し、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度です。

(2) 単位計算の基準は以下のとおりです。

区分	授業時間	単位数
講義	15時間又は30時間	1単位
演習	22.5時間又は30時間	1単位
実習	45時間	1単位

※時間割上1時限は90分授業であるが、授業外等を含め2時間とみなされる。

※授業は、概ね前期あるいは後期の15週をもって行なわれる。

4) 年間履修単位数 (CAP制)

1年間に履修できる上限単位数を看護学部においては、46単位と設定しています。これは、単位制に基づき、単位を修得するためには、授業外学修（予習や復習）の時間を確保する必要があり、履修単位数が多くなるとそれに比例して授業外学修の時間も多くなるので、これを防ぐために履修単位数を制限しています。

※履修登録できる単位数とは、あくまでも登録した科目の総単位数であり、修得できた総単位数ではありません。

※前期で26単位履修登録した場合、後期は20単位までしか履修できません。

※前学期までの通算GPAが3.0以上の時、年間履修登録上限単位数を緩和し、50単位とします。

5) 進級要件

3年次への進級は1、2年次配当の必修科目を全て修得することとします。進級判定は2年次末に行います。

6) 卒業要件

本学部の卒業要件は、以下のとおりです。

本学部に4年以上在学し、必修科目110単位、全学基礎科目のスポーツ演習a～d及び英語a～dから各1単位以上、全ての選択科目から12単位以上（全学基礎科目及び基礎科目から7単位を必ず修得）を修得し、124単位以上を修得することです。

7) 卒業生発表

学年末試験の結果を受けて卒業判定を行い、上記の要件を満たした者を卒業生として3月中旬に発表します。発表日および発表場所は、J-port等にて連絡します。

8) 卒業見込証明書の発行

卒業見込証明書は、4年次4月の履修登録の結果を踏まえて、卒業見込判定を行い、卒業要件を満たした学生にだけ5月中旬頃から証明書自動発行機で発行します。

9) 学士の学位

卒業要件を満たした者に対しては、学士（看護学）の学位を授与します。

10) 9月卒業

本学に4年以上在学したものの、所要の卒業単位を修得できずに留年した者が、前期科目の履修と単位の修得をもって卒業要件を満たした場合は、9月30日付けで卒業することができます。

11) 表彰

学則に基づき、在学中に極めて優秀な成績を修めた者には「学業成績優秀賞」を、極めて優秀な卒業論文（卒業制作を含む）を作成した者には「卒業論文優秀賞（学長賞・小田賞）」を授与して表彰します。また、スポーツ・文化の部門においても、特に抜群の成果を挙げた者には、「スポーツ・文化賞」を授与して表彰します。

表彰は、該当者の学位記授与式の際に行います。



3. 教育課程

1) カリキュラムマップ

看護学部カリキュラムマップ

看護学部看護学科(NN) 学習領域	1年次の学び				2年次の学び				3年次の学び				4年次の学び			
	前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
	科目No	科目名	科目No	科目名	科目No	科目名	科目No	科目名	科目No	科目名	科目No	科目名	科目No	科目名	科目No	科目名
3 看護専門	1 看護領域	311-101	看護と情報Ⅰ	311-101	キャリアデザインとケアⅡ	311-206	看護と情報Ⅱ	311-202	看護と情報Ⅲ	311-303	看護と情報Ⅳ	311-404	看護と情報Ⅴ	311-404	看護と情報Ⅵ	311-408
	2 看護領域	410-101	看護と情報Ⅱ	410-102	キャリアデザインとケアⅡ	410-303	看護と情報Ⅲ	410-304	看護と情報Ⅳ	410-305	看護と情報Ⅴ	410-406	看護と情報Ⅵ	410-407	看護と情報Ⅶ	410-408
5 保健師科目 0	0	311-101	看護と情報Ⅰ	311-101	キャリアデザインとケアⅡ	311-206	看護と情報Ⅱ	311-202	看護と情報Ⅲ	311-303	看護と情報Ⅳ	311-404	看護と情報Ⅴ	311-404	看護と情報Ⅵ	311-408
	0	410-101	看護と情報Ⅱ	410-102	キャリアデザインとケアⅡ	410-303	看護と情報Ⅲ	410-304	看護と情報Ⅳ	410-305	看護と情報Ⅴ	410-406	看護と情報Ⅵ	410-407	看護と情報Ⅶ	410-408
4 看護応用	1 総合領域	410-101	看護と情報Ⅱ	410-102	キャリアデザインとケアⅡ	410-303	看護と情報Ⅲ	410-304	看護と情報Ⅳ	410-305	看護と情報Ⅴ	410-406	看護と情報Ⅵ	410-407	看護と情報Ⅶ	410-408
	0	410-101	看護と情報Ⅱ	410-102	キャリアデザインとケアⅡ	410-303	看護と情報Ⅲ	410-304	看護と情報Ⅳ	410-305	看護と情報Ⅴ	410-406	看護と情報Ⅵ	410-407	看護と情報Ⅶ	410-408
3 看護専門	1 看護領域	312-101	看護と情報Ⅲ	312-102	看護と情報Ⅳ	312-201	看護と情報Ⅴ	312-202	看護と情報Ⅵ	312-203	看護と情報Ⅶ	312-204	看護と情報Ⅷ	312-205	看護と情報Ⅷ	312-206
	2 看護領域	312-101	看護と情報Ⅲ	312-102	看護と情報Ⅳ	312-201	看護と情報Ⅴ	312-202	看護と情報Ⅵ	312-203	看護と情報Ⅶ	312-204	看護と情報Ⅷ	312-205	看護と情報Ⅷ	312-206
2 看護基礎	0	312-101	看護と情報Ⅲ	312-102	看護と情報Ⅳ	312-201	看護と情報Ⅴ	312-202	看護と情報Ⅵ	312-203	看護と情報Ⅶ	312-204	看護と情報Ⅷ	312-205	看護と情報Ⅷ	312-206
	0	312-101	看護と情報Ⅲ	312-102	看護と情報Ⅳ	312-201	看護と情報Ⅴ	312-202	看護と情報Ⅵ	312-203	看護と情報Ⅶ	312-204	看護と情報Ⅷ	312-205	看護と情報Ⅷ	312-206
1 看護基礎	0	312-101	看護と情報Ⅲ	312-102	看護と情報Ⅳ	312-201	看護と情報Ⅴ	312-202	看護と情報Ⅵ	312-203	看護と情報Ⅶ	312-204	看護と情報Ⅷ	312-205	看護と情報Ⅷ	312-206
	0	312-101	看護と情報Ⅲ	312-102	看護と情報Ⅳ	312-201	看護と情報Ⅴ	312-202	看護と情報Ⅵ	312-203	看護と情報Ⅶ	312-204	看護と情報Ⅷ	312-205	看護と情報Ⅷ	312-206
3 科学的思考	0	312-101	看護と情報Ⅲ	312-102	看護と情報Ⅳ	312-201	看護と情報Ⅴ	312-202	看護と情報Ⅵ	312-203	看護と情報Ⅶ	312-204	看護と情報Ⅷ	312-205	看護と情報Ⅷ	312-206
	0	312-101	看護と情報Ⅲ	312-102	看護と情報Ⅳ	312-201	看護と情報Ⅴ	312-202	看護と情報Ⅵ	312-203	看護と情報Ⅶ	312-204	看護と情報Ⅷ	312-205	看護と情報Ⅷ	312-206

【知識・理解】
 1. 看護学および看護実践に関する基礎的知識を有している。
 2. 看護実践を支え、発展させる科学的根拠に基づいた知識を有している。
 3. 地域医療・ケアに関する情報活用と情報発信の基礎的知識を有している。

【応用的技能】
 1. 生命に対する救急の応じしめや応じしめが可能な技術的知識を有している。
 2. 主体的学習と協同学習を推進していく能力を有している。
 3. 社会人としての幅広い教養とコミュニケーション能力を有している。

【態度・志向性】
 1. 看護の対象である人々を人、集団の視点からより深く理解することに関心を持つ。
 2. 情報リテラシーを修得し、利用者中心のケアに向けたチーム医療への高い関心を発揮しながら、看護に関与する情報を実践的に活用し、発信できる能力を有する。
 3. 看護職としての社会的責任を自覚し、社会の発展に積極的に貢献し、生涯を通じて知識や技術を習得しつづける能力を有する。

【総合的な学習経験と創造的思考力】
 1. 看護実践に必要な基礎的能力を修得し、科学的根拠に基づいた適切なケアを提供する能力を有する。
 2. 情報リテラシーを修得し、利用者中心のケアに向けたチーム医療への高い関心を発揮しながら、看護に関与する情報を実践的に活用し、発信できる能力を有する。
 3. 看護職としての社会的責任を自覚し、社会の発展に積極的に貢献し、生涯を通じて知識や技術を習得しつづける能力を有する。

【各看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る】
 1. 看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る。
 2. 看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る。
 3. 看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る。

【各看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る】
 1. 看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る。
 2. 看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る。
 3. 看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る。

【各看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る】
 1. 看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る。
 2. 看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る。
 3. 看護学実習、実習準備講義、講義を通して、地域で活躍する看護師としての職を作る。

2) 授業科目の分類

○象徴科目

「情報活用・発信力」「職業人としての基礎力」「現場から学ぶ力」を育成していくための象徴科目として、「看護と情報Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」,「キャリアデザインとケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を4年間かけて学びます。

○全学基礎科目

「全学基礎科目」は,「数理・データサイエンス・AⅠ」科目としての「現代実学」と,「スポーツ」,「外国語」で構成し,主に1・2年次に学びます。

○基礎科目

「基礎科目」には,看護学を学ぶ基盤形成として,人間と環境を理解するための「人間理解」「環境理解」と「科学的思考」に関する科目を主に1・2年次に学びます。

○専門基礎科目

「専門教育科目(看護学科)」の「専門基礎科目」は,様々な健康状態にある人々を対象とする看護にとって重要な要素である『健康支援と社会生活の仕組み』『健康現象の疫学と統計』『人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復』に焦点を当てた科目を学びます。

○専門科目

看護学の専門科目は,『基盤領域(象徴科目と基礎看護)』,『実践領域(成育看護と成人・高齢者看護と地域看護)』,『統合領域』の3領域で構成されています。

○保健師科目

保健師国家試験受験資格を得るために必要な科目が配置されています。

3) 授業科目のナンバリング

授業科目の学修段階や順序を表し,教育課程の体系化を明示するために,各授業科目を以下の分類ごとにコード化しています。このことを「ナンバリング」といい,4)授業科目表の科目No欄に番号(コード)を掲載しています。

番号(コード)の分類方法

NN 101-1 01

① ② ③ ④

分類	コード名	コードの説明
①	学部学科コード(2桁)	UC:大学共通 NN:看護学部看護学科
②	学問領域(3桁)	100:情報基礎 200:スポーツ 300:外国語 101:人間理解 102:環境理解 103:科学的思考 201:健康支援と社会生活の仕組み 202:健康現象の疫学と統計 203:人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復 311:象徴科目 312:基礎看護 321:成育看護 322:成人・高齢者看護 323:地域看護 410:統合領域 500:保健師科目
③	レベル(1桁)	1:基礎科目・主に1年次に配当 2:初級科目・主に2年次に配当 3:中級科目・主に3年次に配当 4:上級科目・主に3・4年次に配当
④	通し番号(2桁)	①~③の分類ごとに01から連番



4) 授業科目表

授業科目は次の表のとおりです。

科目区分	授業科目の名称	科目No.	配当年次	卒業・資格取得に必要な単位				担当教員 * 予定者含む、当該年度のシラバス参照			
				単位数	看護師		保健師				
全学基礎科目	実現学代	情報リテラシー演習	UC100-101	1前	2	○	左記の卒業・資格取得要件により選択した科目以外の選択必修科目及び選択科目から5単位以上を履修	村上 洋一、松下 孝太郎			
		情報社会とAI	UC100-102	1前	2	○			井関 文一		
	スポーツ	スポーツ演習 a	UC200-101	1前・後	1	○		必修科目5単位、スポーツ演習 a、d 及び英語 a、d から各1単位以上履修、全14単位以上履修		石井 政弘、原 朗	
		スポーツ演習 b	UC200-102	1前・後	1	○					
		スポーツ演習 c	UC200-103	1前・後	1	○					
		スポーツ演習 d	UC200-104	1前・後	1	○					
	外国語	英語 a	UC300-101	1前	1	○			必修科目7単位、スポーツ演習 a、d 及び英語 a、d から各2単位以上履修、全14単位以上履修	國府方 麗夏	
		英語 b	UC300-102	1後	1	○					
		英語 c	UC300-103	1前	1	○					
		英語 d	UC300-104	1後	1	○					
		中国語 a	UC300-109	2前	1	△					
		中国語 b	UC300-110	2後	1	△					
		ハングル・韓国語 a	UC300-111	2前	1	△					
		ハングル・韓国語 b	UC300-112	2後	1	△					
		日本語 a	UC300-105	1前	1	△					
		日本語 b	UC300-106	1後	1	△					
基礎科目	人間理解	コミュニケーション論	NN101-205	2前	1	○	必修科目14単位以上		園岡 偉男 小須田 健 近藤 弘美 小早川 睦貴 石井 政弘、吉武 幸恵 鈴木 崇之 鈴木 崇之 鈴木 崇之 瀬山 紀子 足立 加勇 原 慶太郎 富田 瑞樹 安藤 達彦 朴 鍾杰		
		哲学概論	NN101-101	1前	2	△					
		生命倫理	NN101-103	1後	2	△					
		心理学概論	NN101-104	1後	2	△					
		健康科学	NN101-102	1前	2	△					
	環境理解	日本国憲法	NN102-102	1前	2	△					
		法学概論	NN102-101	1前	2	△					
		情報法	NN102-104	1後	2	△					
		人権・ジェンダー	NN102-103	1前	1	△					
		文化人類学	NN102-105	1後	2	△					
	科学的思考	生命と情報	NN103-103	1後	2	△					
		環境学	NN103-104	1後	2	△					
		基礎化学	NN103-102	1前	1	△					
		プログラミング入門	NN103-101	1前	2	△					
	小計				14単位以上			14単位以上			
	専門基礎科目	社会生活の仕組と健康支援	ヘルスケアサービス論	NN201-102	1前	2		○		必修科目27単位以上	松下 博宜 時田 礼子、金子 仁子、岸田 るみ 藤井 かし子 山口 豊 室岡 陽子 市川 香織、細川 満子、松下 博宜 大久保 一郎 大石 朋子、菊谷 武、田村 文誉 福田 亮子 内田 治 内田 治 谷口 優 石井 猛、宮芝 章 他 齋藤 俊彦、岡嶋 祐子 他 伊部 陽子 田嶋 公人 安藤 達彦 樋野 興夫 私バス 私バス 私バス 私バス 鈴木 明子
公衆衛生学			NN201-103	1後	2	○					
看護関係法規			NN201-206	2前	1	○					
カウンセリング基礎			NN201-101	1前	1	○					
リハビリテーション論			NN201-205	2前	1	○					
地域包括ケアと多職種連携			NN201-308	3前	1	○					
保健福祉行政論			NN201-409	4後	1	○					
口腔健康論			NN201-204	2前	1	△					
人間工学		NN201-207	2後	1	△						
疫学と統計		統計学	NN202-101	1前	2	○					
		看護情報と統計	NN202-102	1後	1	△					
		疫学・社会調査	NN202-203	2前	2	△					
		小計				27単位以上		29単位以上			
象徴科目		基礎領域	形態機能論Ⅰ	NN203-101	1通	2	○	必修科目27単位以上を履修	児玉 悠希、菅原 久純 児玉 悠希 他 水野 芳子 他 細川 満子 他 市川 香織、松下 博宜 市川 香織、松下 博宜 市川 香織、松下 博宜 市川 香織、松下 博宜		
			形態機能論Ⅱ	NN203-102	1通	1	○				
			臨床栄養学	NN203-104	1後	2	○				
	臨床薬理学		NN203-207	2前	2	○					
	臨床生化学		NN203-206	2前	2	○					
	病理学		NN203-105	1後	1	○					
	病態生理学		NN203-208	2後	1	○					
	疾病と治療Ⅰ		NN203-209	2前	2	○					
	疾病と治療Ⅱ		NN203-210	2後	1	○					
	疾病と治療Ⅲ		NN203-211	2後	1	○					
	感染症学		NN203-103	1前	1	○					
	小計				27単位以上		29単位以上				
専門科目	象徴科目	看護と情報Ⅰ	NN311-101	1後	1	○	○	児玉 悠希、菅原 久純 児玉 悠希 他 水野 芳子 他 細川 満子 他 市川 香織、松下 博宜 市川 香織、松下 博宜 市川 香織、松下 博宜 市川 香織、松下 博宜			
		看護と情報Ⅱ	NN311-202	2後	1	○					
		看護と情報Ⅲ	NN311-303	3前	1	○					
		看護と情報Ⅳ	NN311-404	4後	1	○					
		キャリアデザインとケアⅠ	NN311-105	1前	1	○					
		キャリアデザインとケアⅡ	NN311-206	2前	1	○					
		キャリアデザインとケアⅢ	NN311-307	3前	1	○					
		キャリアデザインとケアⅣ	NN311-408	4後	1	○					

科目区分	授業科目の名称	科目No	配当年次	卒業・資格取得に必要な単位				担当教員 *予定者含む、当該年度のシラバス参照	
				単位数	看護師		保健師		
専門科目	基礎看護	看護学概論	NN312-101	1前	2	○	○	藤井 かし子 他	
		ヘルスアセスメント論	NN312-102	1後	2	○	○	児玉 悠希 他	
		看護技術論Ⅰ	NN312-103	1前	2	○	○	吉武 幸恵 他	
		看護技術論Ⅱ	NN312-104	1後	2	○	○	藤井 かし子 他	
		看護過程論	NN312-205	2前	1	○	○	藤井 かし子 他	
		基礎看護学実習Ⅰ	NN312-106	1後	1	○	○	吉武 幸恵 他	
		基礎看護学実習Ⅱ	NN312-207	2後	2	○	○	藤井 かし子 他	
		看護倫理	NN312-308	3前	1	○	○	藤井 博英	
	成人看護	母性看護学概論	NN321-201	2後	2	○	○	市川 香織	
		母性看護学方法論	NN321-302	3前	2	○	○	市川 香織 他	
		母性看護学実習	NN321-303	3通	2	○	○	市川 香織 他	
		小児看護学概論	NN321-204	2後	2	○	○	山野内 靖子 他	
		小児看護学方法論	NN321-305	3前	2	○	○	山野内 靖子 他	
		小児看護学実習	NN321-306	3通	2	○	○	山野内 靖子 他	
		成人看護学概論	NN322-201	2前	2	○	○	小島 善和 他	
		成人看護学方法論(急性期)	NN322-303	3前	2	○	○	小島 善和 他	
		成人看護学方法論(慢性期)	NN322-202	2前	2	○	○	小島 善和 他	
		成人・高齢者看護学実習Ⅰ(急性・回復期)	NN322-304	3後	3	○	○	小島 善和 他	
		成人・高齢者看護学実習Ⅱ(回復・慢性期)	NN322-305	3後	3	○	○	小島 善和 他	
		実践領域	地域看護	高齢者看護学概論	NN322-206	2前	2	○	○
	高齢者看護学方法論			NN322-208	2後	2	○	○	高柳 千賀子 他
	高齢者看護学実習			NN322-207	2前	2	○	○	高柳 千賀子 他
	精神看護学概論			NN323-201	2後	2	○	○	藤井 博英 他
	精神看護学方法論			NN323-302	3前	2	○	○	藤井 博英 他
	精神看護学実習			NN323-303	3通	2	○	○	藤井 博英 他
	在宅看護学概論Ⅰ			NN323-104	1後	1	○	○	細川 満子 他
	在宅看護学概論Ⅱ			NN323-205	2後	1	○	○	細川 満子 他
	在宅看護学方法論		NN323-306	3前	2	○	○	細川 満子 他	
	在宅看護学実習		NN323-307	3後	2	○	○	細川 満子 他	
	地域看護学概論		NN323-108	1後	2	○	○	金子 仁子 他	
	地域看護学方法論		NN323-209	2前	2	○	○	金子 仁子 他	
	地域看護学実習		NN323-212	2前	1	○	○	金子 仁子 他	
	地域包括ケア実習		NN323-111	1後	1	○	○	細川 満子 他	
	学校保健論Ⅰ		NN323-213	2後	1	△	○	荒川 雅子	
	学校保健論Ⅱ		NN323-214	2後	1	△	○	荒川 雅子	
	産業保健論Ⅰ	NN323-215	2前	1	△	○	伊藤 美千代		
産業保健論Ⅱ	NN323-316	3前	1	△	○	伊藤 美千代			
公衆衛生看護学活動論	NN323-210	2後	2	△	○	金子 仁子 他			
統合領域	卒業論文ゼミナール	NN410-410	4通	2	○	○	看護学部専任教員		
	統合実習	NN410-409	4通	2	○	○	看護学部専任教員		
	ヘルスケアマネジメント論	NN410-406	4前	1	○	○	松下 博宜、細川 満子		
	災害看護論	NN410-407	4前	1	○	○	小島 善和		
	国際看護論	NN410-304	3前	1	○	○	藤屋 リカ		
	看護研究	NN410-305	3前	1	○	○	吉武 幸恵		
	医療リスクマネジメント	NN410-303	3前	1	△	△	藤谷 克己		
	看護とグローバルヘルス	NN410-101	1前	2	△	△	松下 博宜		
	家族看護学	NN410-102	1後	1	○	○	市川 香織 他		
	社会イノベーション論	NN410-408	4前	1	△	△	松下 博宜		
小計					78単位以上	5単位以上	84単位以上		
保健師科目	公衆衛生看護学活動方法論Ⅰ	NN500-301	3後	1	▲	○	金子 仁子 他		
	公衆衛生看護学活動方法論Ⅱ	NN500-402	4前	2	▲	○	金子 仁子 他		
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	NN500-403	4前	1	▲	○	金子 仁子 他		
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	NN500-404	4後	1	▲	○	金子 仁子 他		
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	NN500-405	4通	3	▲	○	金子 仁子 他		
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	NN500-406	4通	1	▲	○	金子 仁子 他		
	小計						9単位		
計(卒業及び資格取得に必要な単位数)					124単位以上		136単位以上		

【備考】

- (1) ○は必修科目, ◯は選択必修科目, △は選択科目, ▲は選択科目(単位として認めるが卒業要件には含まない)を表す。
(2) 配当年次の前は前期科目, 後は後期科目, 通は通年科目を表す。

※授業科目は卒業の要件として修得しなければならないか否かにより, 次のように分類されます。

- 必修科目・・・必ず取得しなければならない授業科目
選択必修科目・・・特定の科目の中から選択して必ず修得しなければならない授業科目
選択科目・・・自由に選択して修得する授業科目

○総合情報学部総合情報学科の他学科履修許可科目

科目区分		科目名	年次	学期	単位
共通基礎	総合基礎／自然	基礎数学 a	1	F	2
		基礎数学 b	1	L	2
専門基礎	情報システム	プログラミング基礎	1	L	2
		プログラミング基礎演習	1	L	1
		アルゴリズムとデータ構造 a	2	F	2
		アルゴリズムとデータ構造 b	2	L	2
		データベース論	2	L	2
		人工知能 a	2	L	2
	数理情報	情報数学 a	1	L	2
		情報数学 b	2	F	2
		離散数学 a	1	L	2
		離散数学 b	2	F	2
専門応用	情報システム	人工知能 b	3	F	2
		人工知能プログラミング	3	L	2
		画像・動画処理演習	3	L	1
		パターン認識	3	L	2

※修得した単位は、8単位まで選択科目の卒業要件に充てることができる。

※学期欄の F は前期配当科目、L は後期配当科目を表す。

5) 授業概要

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
全学基礎科目	現代美学	情報リテラシー演習	1	2		講義や演習を履修していく上で必要なコンピュータとネットワークに関する利用技術を学ぶ。文書作成、表計算およびグラフ作成、プレゼンテーション、インターネットを用いたコミュニケーションと情報収集・発信、画像・音声の利用と処理、コンピュータとネットワークの基本的な仕組みの理解、コンピュータ社会に関わる諸問題など幅広く学ぶ。
		情報社会とAI	1	2		今日の情報社会の基礎的教養である、情報モラル、データ処理、AI等の基礎について講義を行う。また、情報セキュリティやプログラミングについての基礎知識を学習する。この講義を通して、情報社会における基礎的教養やモラルやセキュリティの基礎を提供する。
	スポーツ	スポーツ演習 a	1		1	「水泳・基礎」をテーマにした講義と実技指導を行う。 はじめに、水泳の意義・歴史・技術の概要を説明し、健康維持のための生涯スポーツとして水泳の有効性、昨今のマリンスポーツ事情や水泳と事故について講義を行う。続いて、水泳の基礎技術及びクロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライなどの泳法別に実技指導を行う。また、水泳現場における事故を想定した応急処置や心肺蘇生法などについての実技指導も行う。
		スポーツ演習 b	1		1	「サッカー・基礎」をテーマとした講義と実技指導を行う。 サッカー初心者でも受講できるように、はじめに基本的なルールについての解説を行ったうえで、ボールを蹴る・止めるなどの基礎的技術について指導し、個人のスキルを向上させる。続いて、チームプレーと戦術等について講義し、最終的には2チームに分かれてのゲーム形式での実技を実施する。
		スポーツ演習 c	1		1	「バドミントン・基礎」をテーマとした講義と実技指導を行う。 バドミントン初心者でも受講できるように、はじめに基本的なルールについての解説を行う。続いてラケットの握り方、シャトルの打ち方などの基礎技術についての実技指導を行ったうえで、簡易ゲームを通して、様々な打ち方を学ぶ。また、シングルス、ダブルスの違いを講義し、ゲームを通して理解を深める。
		スポーツ演習 d	1		1	「スキー&スノーボード・基礎」をテーマとした初心者から中級者までを対象とした講義と実技指導を行う。 はじめに用具の説明と点検方法、ゲレンデ内でのマナーについての解説を行う。続いて正しい準備運動と転倒時の姿勢の取り方についての実技指導を行う。その後、スキー班とスノーボード班に分かれ、更に初心者班と中上級者班に分け、それぞれのスキルに合わせて滑走技術を指導する。
	外国語	英語 a	1		1	TOEICあるいはTOEIC BRIDGE試験において、重要な分野を占めるリスニングを強化することを授業の中心とする。TOEIC BRIDGEの公開テストにおいて130点以上、TOEICの公開テストでは400点以上を取ることを目標とする。TOEICのリスニング形式に慣れるために、副教材としてそれに対応するテキストも併用する。授業中はテキストだけでなく、洋楽、CNNのニュース、洋画などの聞き取りも行って、自然な英語のスピードに慣れることも目標とする。
		英語 b	1		1	TOEICの入門編といえるTOEIC BRIDGEの形式、特にリスニングとリーディングの形式に慣れ、TOEIC BRIDGEの公開テストにおいて130点以上、TOEICの公開テストでは400点以上を取ることを目標とする。公開テストにおいて大学生の平均点をクリアするために、授業だけでなく自発的に自習する習慣を身につけさせる。
		英語 c	1		1	TOEICあるいはTOEIC BRIDGE試験において、重要な分野を占めるリスニングを強化することを授業の中心とする。TOEIC BRIDGEの公開テストにおいて130点以上、TOEICの公開テストでは400点以上を取ることを目標とする。TOEICのリスニング形式に慣れるために、副教材としてそれに対応する初級用テキストを併用する。公開テストで一定以上の点数を取るために、授業だけでなく、自発的に勉強する習慣を身につけさせる。授業中はテキストだけでなく、洋楽、CNNのニュース、洋画などの聞き取りも行って、自然な英語のスピードに慣れることも目標とする。
		英語 d	1		1	TOEICの入門編といえるTOEIC BRIDGEの形式、特にリスニングとリーディングの形式に慣れ、実際の公開テストにおいて一定以上の点数を取ることを目標とする。具体的にはTOEIC BRIDGEの公開テストにおいて130点以上、TOEICの公開テストでは400点以上を取ることを目標とする。公開テストで大学生の平均点をクリアするために、授業だけでなく自発的に自習する習慣を身につけさせる。
		中国語 a	2			1
中国語 b	2			1	中国語 aを修了した学生を対象に、中国語 aで習得した発音の基礎、ローマ字による表記法と基本構文をより定着させるために、置き換え練習及び応用会話を中心に学んでいく。 講義の方法は、講義形式と演習形式の併用とする。演習形式では、学生相互の対話形式を取り入れ、会話の反復練習を中心に進めていく。	



科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業科目の概要	
			必 修	選 必	選 択		
全学基礎科目	外国語	ハングル・韓国語 a	2		1	韓国語は日本に一番近い隣国で話されている言語である。日本語に比べ、母音子音ともに数が多く、発音や文字(ハングル)を覚えるのにある程度時間がかかり、努力も必要になるが、一度文字と発音をマスターすれば、語順は日本語と同じなので、割合速く進むことができる。自己紹介をはじめ、身の回りの事柄を簡単に表現する練習をしていく。	
		ハングル・韓国語 b	2		1	「ハングル・韓国語 a」で習得したことを土台にして、読む、聞く、話す、書く力を伸ばしていく。語彙を増やし、動詞や形容詞の活用を習得することによって、口頭であるいは文章で、自分の言いたいことを表現できるようにする。また、韓国語を学ぶことを通じて、韓国の人々の心に少しでもふれていけるようにする。	
	日本語 a	1		1	前半は、大学生活についての話題を扱いながら、よく使われる語彙を抽出して意味と読み方を確認する。同時に、データ駆動学習として当該語彙のコロケーションを学生自身に調べさせ、それらの語彙のコロケーションプリントを作成する。 後半は、作成したプリントを用いて、担当語彙のコロケーションについて発表をしたり、タスクを解いたりする。また、その日に学習した語彙とそのコロケーションを用いた作文を書く。 以上、読む、調べる、書く、発表する、Wordに入力する、という言語活動を総合的に学ぶ。 (外国人留学生・帰国子女学生対象科目)		
	日本語 b	1		1	基礎的な日本語力、特に語彙力・発話力をスキルアップし、「聞く」「話す」面での日本語運用能力の向上を目標とする。毎回授業の始めにシャドーイングによる発音練習を行なう。それから、その日のテーマに沿った表現・語彙を学習し、ロールプレイによる会話練習を行う。さらに毎回語彙拡大のため、テキストの会話内容に関連した語彙や、漢字熟語についても学ぶ。 (外国人留学生・帰国子女学生対象科目)		
	日本語 c	1		1	大学生活でよく行われる、PowerPoint を使用したプレゼンテーションが日本語でできるようになることを目指す。 単なるスキルの習得だけではなく、大学生の調査発表やレポートの基本である三部構成や引用文献の提示なども含めて、アカデミックな日本語リテラシーとコンピュータリテラシーの融合と、アカデミックマインドの醸成を目指す。 (外国人留学生・帰国子女学生対象科目)		
	日本語 d	1		1	日本語 b での学習を踏まえて、基礎的な日本語力、特に語彙力・発話力をスキルアップし、「聞く」「話す」面での日本語運用能力の向上を目標とする。毎回授業の始めにシャドーイングによる発音練習を行なう。それから、その日のテーマに沿った表現・語彙を学習し、ロールプレイによる会話練習を行なう。さらに毎回語彙拡大のため、テキストの会話内容に関連した語彙や、漢字熟語についても学ぶ。 (外国人留学生・帰国子女学生対象科目)		
基礎科目	人間理解	コミュニケーション論	2	1		コミュニケーションという概念は、広範囲で様々な意味で用いられる日常的な概念である。しかしそれがゆえにその理解が曖昧になっているのも事実でもある。本講義は、そのようなコミュニケーションについてその本質的な分析を行い、あらためて、コミュニケーションを考察したい。その上でコミュニケーションにまつわる問題を具体的な事例を通して考察する。	
		哲学概論	1		2	哲学の起源をさかのぼるとき、知を求めると、知を求めるとを指す言葉にたどり着く。知への欲求、それは人間がもつ基本的な欲求かもしれない。しかし、哲学が求めるものは、自明なものへの問い、根本的な事柄への問いとなる。存在するとは何か、認識するとは何か、人間とは何か、いずれも簡単には答えでないものである。本講義では、西洋哲学の歴史を中心に概観する事を通して、これまでの知の営みとしての哲学を考える。	
		生命倫理	1		2	生命科学の進展に伴い、誕生する前から死に到るまで、私たちのいのちへさまざまな先進技術の介入が行われる時代になった。クローン技術や究極の個人情報であるゲノム配列情報等が容易に入手できる時代に、個々の事象のはらむ倫理的問題に対する洞察や幅広い検討が追いついていないのが実情である。本講義では、始めに先端生命科学のトピックスを分かり易く紹介し、そこから生じる命の尊厳を脅かす危険について考える。健康、医療を生命倫理の立場から捉え、一般人をも巻き込む生命科学の技術に対する深い洞察力と豊かな人間観を養うことを目指す。	
		心理学概論	1		2	人の心について知ることは、社会の中でより良く生きていくために重要な要素である。本講義では心理学の様々な領域について、それぞれどのような内容を対象としているかについて説明する。心について幅広い知識を得ることで、生活の様々な側面に心理学的な知見が生きていることを知り、心理学的な見方を持つための基礎を身につける。	
		健康科学	1		2	健康に関する保健、医療、福祉等にかかわる問題をテーマにした知識を広め、理解を深める。健康・ウェルネスの定義、社会的な健康、健康の意義と健康づくりの方法、栄養・食生活と健康、身体活動と運動・体育と健康、休養と健康、健康管理システム、地域社会と健康づくりなど、多方面から健康を科学的にとらえて理解する。	
		環境理解	日本国憲法	2	(2) 保健師必修		2
	法学概論		1			2	法は、ビジネス社会、商品交換社会、情報化社会などと称される現代社会において重要な社会規範の一つである。法が社会において担っている役割を学び、自由・平等な社会における法規範の効力・限界、及びあるべき姿を「私法」領域を中心に判例など実際の事件も利用して考察する。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要	
			必修	選必	選択		
基礎科目	環境理解	情報法	1		2	著作権法の主たる目的は著作物の創作者等の権利を保護することですが、他方著作物が広く一般に利用されなければ文化の発展もありえず、したがって権利の保護と利用との調和が図られている。しかし、コンピュータおよびネットワークに関するIT(情報技術)とその環境の急速な発展を伴う今日の情報化社会においては、従来の著作権制度がその姿を大幅に変えざるをえない状況にあることもまた事実である。本講義では、著作権及び知的所有権に関する現代的問題について、具体的かつ実学的に検討する。	
		人権・ジェンダー	1		1	現代社会に残る様々な差別を通して、保健医療福祉の専門職として理解しておくべき人権やジェンダーに関わるテーマについて考えていく。障害者の人権に関する歴史的な背景、障害当事者の活動、障害者差別撤廃・解消活動の推進と現状と今後の課題について学ぶ。	
		文化人類学	1		2	文化人類学の歴史や理論よりも、実際に役に立つ文化人類学の思想を重視する。例えば、個人付き合いやビジネスにおける国際的人間関係に必要な異文化への理解、または海外の発展計画や地域活性化計画における文化人類学の役割などに力をいれる。また、自習研究を通して、すぐに役に立つ文化人類学のフィールド・ワークのノウハウを身につけることがねらいである。	
	科学的思考	生命と情報	1		2	「生きている」ということはどのような状態をさすのだろうか？そして「生命」とは何だろうか？これらの問いに対して「情報」という概念なしに答えることはできない。本講義では、「情報」をキーワードに様々な側面から「生きていること」の特質について考えていく。まず「情報」とは何かについて論じる。つづいて、生物における個体より上位レベルでの情報交換(コミュニケーション)、そして個体より下位レベルの問題である脳の情報処理、遺伝情報、免疫システムなどについて概説し、受講者それぞれが「生きている」ということについて考えてもらおう一助にしたい。	
		環境学	1		2	地球規模から地域までのそれぞれのスケールで起きている環境問題の背景と課題解決の方途を概説する。地球スケールの課題としては、人口の急増にともなう自然資源の枯渇や地球温暖化、オゾン層破壊などの現象、地域スケールでは、生物多様性の低下や大気・水質汚染、廃棄物問題などが挙げられる。これらの問題が生じている原因と解決法を解説し、人類が自然資源の恵みを永続的に享受し、健全で持続可能な社会を実現するためになすべきことを考える。	
		基礎化学	1		1	医療の場で使用されている様々な医薬品、試薬、溶剤類などの化学物質や消毒薬の特性を理解するための基礎として、物質の特性、分子構造、生体への影響の基礎を学ぶ。有機・無機に関わらず、化学の基本を理解することで、臨床生化学、臨床栄養学および臨床薬理学などの専門基礎科目の理解を深め、医療の場で使用されている多種の化学物質の基礎を学ぶ。	
		プログラミング入門	1		2	本授業は、Python言語の基本的な使い方と、データを解析し可視化するために必要なスキルを勉強する。Pythonと科学計算のためのライブラリの使い方を理解できるようにする。	
	専門基礎科目	健康支援と社会生活の仕組み	ヘルスケアサービス論	1	2		現代社会の看護サービスを含むヘルスケアのあり方は多様化、複雑化の一途をたどっている。この科目では、①健康基盤(健康インフラストラクチャ、ソーシャル・キャピタル、社会保障制度)、②プラットフォーム(電子カルテ、学会、各種基準など)、③医療組織、④对患者・生活者インタラクションという階層ごとに、特徴、問題、過去の経緯、今後の変化を概観する。また看護関連の多様なサービスにはイノベーションが巻き起こりつつある。サービス科学(Service Science)と呼ばれる先端領域の知見や人文学・哲学的なアプローチを動員して、多面的に現代のヘルスケアサービスを捉えていく。
			公衆衛生学	1	2		地域社会全体の健康課題を扱う公衆衛生学の理念と方法についての基礎的な知識と考え方を学習する。環境や社会と健康との関連、人々が健康を維持・増進するための保健、医療、福祉等の総合的な健康政策について理解する。また保健医療福祉(予防、治療、社会復帰、社会参加)にかかわる制度や関連法案の概要について学び、医療職としての実践に役に立てられる力を身につける。
看護関係法規			2	1		保健師助産師看護師法を中心に看護実践および看護教育を支えている関係法規について系統的に学習し、看護職の法的責任について考察する。保健師助産師看護師法の変遷、看護職の法的責任、保健医療福祉に関連する法規、個人保護法等の看護に関連する法規を解釈しながら看護職の役割について学ぶ。さらに医療事故事例・看護事故事例の判例の解釈をしながら、医療過誤を通して看護職の責任を理解するとともに、国民とともに進める安全教育やシステムについて考える。	
カウンセリング基礎			1	1		何らかの悩みや問題を抱えた人あるいは抱えそうな人が問題の解決や処理に困難を感じて援助を必要とする人との面接やグループワークを通じた心理的相互作用によって、行動の変容を試みる援助的プロセスであるカウンセリングの基礎を学ぶ。本講義では、看護職として必要なカウンセリングの基本理論、カウンセリングマインド、基本技法について体験や経験を通して理解する。	
リハビリテーション論			2	1		リハビリテーションの理念と原則を踏まえて、医学および社会における包括的リハビリテーション、ならびに障害学の基本概念を習得することを目標とする。看護師に必要な障害学の内容と評価・治療方法の要点、リハビリテーションのプロセス、各専門職とリハビリテーションチーム医療のあり方、さらには保健・福祉行政における社会的資源とリハビリテーションの関わり等についての基礎知識を理解する。	
地域包括ケアと多職種連携			3	1		人々の生活や営みには、地域社会を超えて営まれるものがあるが、この授業では、地域社会をベースとした(community-based)保健医療福祉の具体的な営みについて、地域での様々な連携・協働の実践事例を通して理解を深める。これまでの実習などで経験してきた実践例を通しての学びをさらに発展させ、地域保健医療福祉の連携にとどまらず、看護職が地域ケアにおける包括的協働の要を担っていくために何が必要か、果たす役割やビジョンについて考える。	



科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単 位 数			授業科目の概要
			必 修	選 必	選 択	
専門 基礎 科目	保健福祉行政論	4	1			社会福祉・社会保障の歴史、社会福祉の担い手、ライフサイクルと社会福祉、生活保護、社会福祉の基礎を学ぶ。さらに、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発、サービスの評価調整、地方自治体等における行政施策の計画、実行、評価について、保健福祉行政財政の実例をとおして学ぶ。これまで実習等で経験しながら得てきた知識を再統合して深め、行政の中で実践・継続していくための基礎的能力について考える。
	口腔健康論	2			1	口から食べること、口腔領域の機能と健康を守ることの重要性を理解し、生きがいのある生活のために健康を維持・増進することについて口腔健康の視点から理解する。口腔機能の役割と口腔衛生の向上の重要性を理解し、口腔健康に携わる関連職種が、それぞれの立場で健康増進と維持のためにどのような役割を果たしているか実例を通して具体的に学ぶ。
	人間工学	2			1	人間工学は、生活者としての人間の理解を深め、安全や安楽な「ものづくり」を追求する学問である。この講義では、人間の日常生活行動に着目し、生活動作や生活姿勢、ボディメカニクスなどの理解を通じて、身近な道具に焦点を当てながら人間工学的な視点を学ぶ。
健康 現象 の 疫 学 と 統 計	統計学	1	2			データの背後にある情報を引き出すための方法として統計的手法がある。統計的手法はあらゆる分野で活用されており、研究活動におけるデータ処理の技法としても活用されている。本講義では統計的手法の基礎知識を習得することをねらいとする。具体的には、記述統計学と呼ばれる分野を中心に講義する。
	看護情報と統計	1			1	看護分野における情報を量的情報と質的信息に分け、それぞれの情報に適した統計学の手法を選択して、解析する方法を学ぶ。具体的には、定量情報の解析手法として、統計グラフ、統計的仮説検定法、相関分析法を取り上げ、定性情報の解析手法として、テキストマイニングの手法と多変量解析法を紹介する。さらに、表計算ソフトによる統計解析の方法と、統計解析専用のソフトウェアである SPSS と R の使い方も講義の中で紹介する。
	疫学・社会調査	2	(2) 保健 師 必 修		2	保健医療福祉対策を検討するうえで、疫学調査や社会調査により対象地域の健康現象や社会現象を人及び環境の両側面から調査し、その要因を明らかにしていく必要がある。本講義では、疫学調査と社会調査の特性と基本的手法を学び、そこから得られた情報の分析・活用方法について具体的事例を交えた講義により理解を深めていく。
人体 の 構 造 と 機 能 ・ 疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復	形態機能論Ⅰ	1	2			生命活動を営む最小単位の細胞構造から、身体骨格を支え、バランスの取れた動きや知覚をコントロールするしくみを総合的に理解する。また、体のすみずみまで血液を送るしくみと身体に酸素を取り入れ、二酸化炭素を排出する内（代謝）呼吸と外呼吸のしくみとして、肺でガス交換を行った血液が、体をどのように循環し、各臓器と器官、組織での代謝機能を理解する。さらに、血液の形成や免疫作用および恒常性を含めてヒトの身体の総合的な理解を深める。
	形態機能論Ⅱ	1	1			栄養物の摂取から消化・吸収・排便・排尿するまでのしくみと生体防御システム、ホメオスターシスとフィードバックのしくみから、ヒトの体が正常時にどのように動くのかをホルモンと自律神経系の構造に関連づけて総合的に学び、体の形態から機能的構成を理解する。また、受精から出産のしくみでは、受精と胎児の発生を理解する。また、男女の生殖機能についても取り上げる。
	臨床栄養学	1	2			人間の健康を維持・増進する総合科学の一分野として、食と健康をつなぐ人間栄養学の基礎を学ぶ。本講義においては、栄養の基本的概念とその意義と各栄養素の代謝、生理的意義、健康の維持・増進および疾病の予防・治療における栄養の役割などを理解する。[食]の捉え方について、食糧の生産、流通と分配、社会経済問題までを含めて、広く人間と栄養の関連について理解する。
	臨床薬理学	2	2			薬物がどのように生体に作用し、その効果が発揮されるかを、病態生理と関連付けて薬の効くメカニズムを理解する。薬物作用の薬理学的基盤となる薬物の作用機序を中心に、臨床で必要とされる薬理の基礎知識を習得し、薬物の有効性と安全性の双方を理解したうえで適正使用していくための考え方を学ぶ。主な生活習慣病、がん・痛み、感染症、脳・中枢神経系疾患、救命救急時、アレルギー・免疫不全状態、消化器疾患等で用いられる代表的な薬の用法や、安全管理、薬害、薬剤師の役割について理解する。
	臨床生化学	2	2			生体を構成する成分の構造と性質についての基本的な事柄を理解する。細胞内における種々の代謝反応において、炭水化物、脂質、タンパク質・アミノ酸の物質代謝としての同化と異化反応の代謝経路について学ぶ。さらに、エネルギー代謝も含めた酵素、ホルモン、生体微量分子などの生理活性物質による生体調節機構について学ぶ。
	病理学	1	1			病気がどのような原因で起こるのかを知り、それによって生じる身体組織や細胞レベルの変化を理解する。また、代表的な疾患については疫学、臨床症状、経過、治療なども合わせて関連を学ぶ。 細胞の構造と機能、細胞の病変（退行性病変、進行性病変）、循環器系の病変、炎症と免疫反応、腫瘍（がん）の疫学、良性腫瘍と悪性腫瘍、細胞異型と構造異型、転移と播種、がんの発生原因）並びに、先天性異常、代謝異常、免疫応答、感染の病理病態について学ぶ。
	病態生理学	2	1			疾患に伴って生じた症状あるいは徴候について、その発生機序を体系的に学ぶ。疾患の診断、治療法の選択、病状の経過観察の基盤であり、身体的なヘルスアセスメントを行う基本となる。下記の自覚、他覚症状あるいは徴候を通して理解する。 咳嗽、呼吸困難、胸痛、不整脈、チアノーゼ、ショック、腹痛、肥満・やせ・食欲不振、嚥下障害、嘔気・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、腹部膨満、腹水、黄疸、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、皮膚掻痒、レイノー症状、意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺・運動失調・歩行障害、嘔声、めまい、視力障害、難聴、耳鳴、味覚障害、嗅覚障害、しびれ、腰痛、関節症上、発熱・低体温、浮腫、脱水、排尿障害、睡眠障害、倦怠感などの病態生理について学ぶ。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要	
			必修	選必	選択		
専門基礎科目	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復	疾病と治療Ⅰ	2	2		傷病あるいは障害の成り立ちと経過、診断、治療法について、機能系統別に、内科的疾患を中心に機能の変化をおこさせる機序とその経過として種々の病態について学ぶ。生命維持機能に影響が大きい循環機能障害、呼吸機能障害、消化機能障害、腎・代謝機能障害、脳・神経機能障害、造血機能障害を取り上げ、内科的疾患の侵襲を伴う治療法について触れる。	
		疾病と治療Ⅱ	2	1		外科的治療前（術前）の身体的、心理的状態について理解し、手術中から術後に起こりうる急激な変化に対応するために必要な知識について、総論と各論に分けて学ぶ。総論では、手術侵襲と生体反応、麻酔法、救急処置法を学ぶ。各論では生殖機能障害（婦人科）、感覚器系機能障害（眼科、耳鼻科）、生体防御機能障害（皮膚科）、運動機能障害（整形外科）について、病態、診断プロセス、治療法を学ぶ。	
		疾病と治療Ⅲ	2	1		小児の代表的な疾患及び精神障害について、病気になるいは障害の成り立ちと経過、診断、治療法を理解する。小児の疾患では、臨床経過、転帰、診断、治療法について学ぶ。精神障害では、臨床経過、転帰、治療法（治療促進・阻害要因含む）について学ぶ。	
		感染症学	1	1		細菌、ウイルス、真菌などの病原微生物の形態や増殖感染様式を理解する。また、市中感染とともに、医学の進歩と相まって増加してきた日和見感染、院内感染についての理解を深める。感染予防、滅菌消毒の方法、効果についても学び、感染症の治療の概要を理解する。 人獣共通感染症、寄生虫感染症、小児の感染症、母子感染、高齢者の感染症、日和見感染、薬剤耐性菌、感染防御の基礎、感染・発症予防等について学ぶ。	
専門科目	基礎領域	象徴科目	看護と情報Ⅰ	1	1		看護職にとって「情報」とは何かを知り、保健医療分野における情報の「いかし方」と「まもり方」を学ぶことで基礎的な情報の扱い方を理解する。また、保健医療分野におけるICT、IoT、AI等の活用事例を概観することで、他分野との融合により開かれる新たな看護の形への探求心を育む。本学部の象徴科目として1年次から4年次にかけて開講される「看護と情報」の導入にあたる科目である。
			看護と情報Ⅱ	2	1		データサイエンスの視点に基づき、看護分野で扱う主なデータの種類や特徴について学ぶ。また、実践的なデータの扱いとして、データ観察の方法、データ可視化の方法等について学ぶことで、看護職におけるデータサイエンスの基礎的な教養を身につける。
			看護と情報Ⅲ	3	1		科学的根拠に基付いた看護実践を行うために必要な情報活用の実践を学ぶ。研究成果を系統的に活用する看護過程や臨床判断の実践について臨床で多く経験する事例を基に学習する。データベース、ビッグデータの活用、ガイドラインや指針などの活用について学び、エビデンスベースドナーシング、ナラティブアプローチの実践を演習を通して理解する。
			看護と情報Ⅳ	4	1		医療・看護に関わる電子データや診療システムの展望、ビッグデータを活用するヘルスケア情報学、遠隔看護やオンライン診療の実践、利用可能なICTの新しい技術など看護と情報に関する諸課題や展望について広く見識を深める。また、情報社会において科学的根拠に基付いた看護を実践するために必要な専門職としての能力や態度、職場環境、文化などについて検討する。
	基礎看護	看護学概論	キャリアデザインとケアⅠ	1	1		1年生を対象とする本象徴科目では本学部理念の「自律と共創」を「キャリアデザインとケア」という目的に沿って展開していく。看護技術以前に身につけておくべき社会人基礎力として必要とされる、前に踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）を育むため、基本的なスタディスキルを身につけるとともに、他者との対話とコミュニケーションについて、実践を通して学んでいく。また、キャリアデザイン・カードの活用を促し、キャリアに対する意識を高め、自身のキャリアデザインにつなげていく。
			キャリアデザインとケアⅡ	2	1		2年生を対象とする本象徴科目では、看護学を支える広い知識を通じて、看護実践能力の土台を創る。看護実践の中でも特に重要なスキルとして「対話力」に注目し、実際に対話の場に身を置くことによりアクティブ・ラーニングを進めてゆく。具体的には看護教員を対象に実践するインタビューを通して対話力を学び、同時にチーム活動を通して、リーダーシップ、フォローアップについて考察し、チームの中での自己を振り返る機会とする。
			キャリアデザインとケアⅢ	3	1		3年生を対象とする本象徴科目では、アカデミックライティングの基礎を固め、論理的思考のスキルアップを図る。また、生涯教育としての看護教育を理解し、看護体制や看護方式、クリニカルラダーやプリセプター制度といったキャリア支援体制についての理解も深める。さらに新卒看護師の経験や専門看護師の経験についてゲストスピーカーから話を聞くことで、自己のキャリア選択の幅を広げ、具体化させつつ、自己の方向性と可能性を追求していくことを主眼とする。
			キャリアデザインとケアⅣ	4	1		最終学年の学生を対象とする本象徴科目では、実際に活躍している様々な分野の看護職のキャリアデザインについて、ゲストスピーカーから話を聞く中で、キャリアデザインの拡がりや可能性について考え、自己のキャリアをデザインする際に深い洞察を加えることを主眼とする。また、これまでの実習や学習を統合し、自己のキャリアデザインについて学生間のディスカッションを通して深め、「地域で活躍する私のキャリアデザイン」として発表し、互いに共有していく。
			看護学概論	1	2		看護を学ぶ第1歩として、看護学全体の基本的内容を学習する。看護の定義と看護の構成要素である、人間、環境、健康、看護及びこれらの関連を理解する。看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割と機能、看護の実践を支える理論等を学習し、看護の本質を理解する。看護学の奥深さと豊かさを知り、自らの看護観を構築するための手がかりとする。



科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単 位 数			授業科目の概要
			必 修	選 必	選 択	
専 門 科 目 基 盤 領 域 象 徴 科 目	ヘルスアセスメント論	1	2			看護の対象者が身体的・心理的・社会的側面を持つ統合体であることを理解し、その人の健康状態をアセスメント（ヘルスアセスメント）する基礎を学ぶ。特に身体の生理的な健康状態を客観的にアセスメント（フィジカルアセスメント）するための身体診察の技法（フィジカルイグザミネーション）の基礎を系統的に学ぶ。また、複数の模擬事例に対し、健康状態を身体的、心理社会的側面から推論することで、実践的なアセスメント力を養う。
	看護技術論Ⅰ	1	2			看護技術の意義、特徴を理解し、主概念である安全・安楽・自立を目指すことの重要性および、看護の基本である人間関係技術を理解し、対象者との関係を築き発展させる能力を身につける。また、生活行動が健康に及ぼす影響を理解し、生活行動援助に関する基礎的な看護技術を修得する。 実習室での演習では、看護の基本的機能（環境調整、コミュニケーション、ボディメカニクス、倫理、安全・安楽）の活用を意識しながら、援助における原理・原則と具体的な留意事項を修得する。
	看護技術論Ⅱ	1	2			看護技術論Ⅰの次のステップとして、治療、処置にかかわる基本的な看護技術の知識、技術、態度を習得する。対象者にとって、治療、処置は身体的にも精神的にも苦痛や不安を伴うこと、安全管理が重要であることを理解する。科学的根拠に基づいて、看護技術を理解し、正確かつ安全に看護技術が実践できるように学習する。 演習では、科学的根拠に基づいた安全、安楽な技術、実践における注意、留意事項を取得する。
	看護過程論	2	1			対象者の個別性に合わせた看護を系統的、科学的に実施するために看護過程の意義、構造（アセスメント、看護診断、計画立案、実施、評価）、展開方法について学ぶ。講義では、看護過程の基本的事項と必要性、および各種理論やアセスメント・看護技術の活用の仕方を学習する。演習では、模擬事例を通して、対象者にとって有効な一連の看護過程の展開について学生が考え、実施する。
	基礎看護学実習Ⅰ	1	1			本実習では、地域で生活していた看護の対象者が、患者として病院に入院して療養していることに関心に向け、患者の生活習慣、価値観、社会の中で役割を持つ存在であることを意識する。そして、この患者理解の過程で看護と看護における情報の結びつきについて考察する。また、看護援助場面の見学や実践を通して、患者を取り巻く療養環境を多面的に捉え、その人にとってよりよい療養環境や入院生活の中での援助の在り方について理解を深める。
	基礎看護学実習Ⅱ	2	2			基礎看護学、看護過程論等で学んだ内容を活用し、対象者の生活行動に焦点を当てて看護計画を立案、実施しながら、看護における基本的な問題解決過程を展開することについて体験する。このプロセスを通して看護を系統的に展開する方法と思考判断のプロセスの基本を身につける。実習内容は、対象者の療養環境を理解し、対象者を身体的、心理的、社会的な側面から捉える。対象者の生活行動に焦点を当てて系統的に情報を整理し、看護診断を検討し、計画立案・実践・評価し、看護過程の一連のプロセスをまとめて評価する。
	看護倫理	3	1			看護倫理に関連する概念、歴史的背景、諸説を看護実践に結び付けて理解する。最近の保健医療福祉をめぐる倫理的問題について、どう判断・行動するかグループ討議を行いながら考える。看護実践の場で遭遇しやすい倫理的ジレンマを取り上げ、ディベート学習により、事例に含まれる多様な価値観、複眼的な見方を理解し、倫理的原則、倫理規定を活用した自己の判断の過程を学ぶ。
	実 践 領 域 成 育 ・ 成 人 看 護	母性看護学概論	2	2		
母性看護学方法論		3	2			母性看護の対象であるマタニティサイクルにある人々の看護について、身体的、心理的、社会文化的な側面からウェルネスの視点を基盤に、ケアの実際や看護過程の展開を学ぶ。また、妊娠婦および新生児の生理的特徴の観察やケアに必要な看護技術は、実践に近い形で習得する。さらに、思春期や性成熟期に必要な健康教育をリプロダクティブヘルスの視点から実践する方法を学ぶとともに、不妊や多様な性のあり方、セクシュアリティへの理解も深める。事前学習課題を課し、講義と演習を効果的に配置したアクティブラーニングで自己学習を促す。
母性看護学実習		3	2			マタニティサイクルにある人々と新生児の身体的・心理的変化、および社会的特徴を査定し、対象に応じた看護実践能力を養う。また、地域の中で生活する母性看護の対象者を理解し、健康を保持増進するために必要な看護の実践とケアについて、実践を通して学ぶ。さらに、リプロダクティブヘルスの視点に基づく健康教育を企画・実施・評価し、地域社会において母性看護が果たす役割を幅広く考察する。
小児看護学概論		2	2			子どもとその家族を取り巻く現代社会の中で、成長発達を遂げる子どもの身体・心理（認知）・社会的な特徴や小児医療の現状と課題を理解し、子どもとその家族が健やかにこころとからだを育み、成長発達を維持・促進する為の知識と支援のあり方を学ぶ。小児看護の対象と目的、子どもの権利、子どもを取り巻く社会環境、小児看護で用いられる理論、小児各期の成長発達と生活、栄養、安全と事故防止等について、講義及び視聴覚教材の利用、グループワークを通して理解する。
小児看護学方法論		3	2			子どもの成長発達を促進・維持しながらも、様々な局面におかれた健康障害を有する子どもとその家族への健康回復に向けた看護、重篤な健康障害をきたし苦痛を伴う子どもと家族への看護、急激な健康障害をきたし苦痛を伴う子どもと家族への看護に必要な看護技術を習得する。特に、現代の小児医療における長期療養児に対する支援のあり方について学習する。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要	
			必修	選必	選択		
専門科目 実践領域 成育・成人看護	小児看護学実習	3	2			地域で生活する子どもと家族、その環境及び様々な場における小児看護の実際を知り、看護に必要な基礎的能力を理解する。健康な子ども、障害をもち日常生活を送る子ども、治療を要する子どもと、様々な健康レベルの子どもと家族の特徴と看護支援について理解し、地域ケアにおける小児看護のあり方について考察する。	
	成人看護学概論	2	2			成人期にある対象を広く深く理解し、成人看護に有用な理論ならびに概念を学修する。成人期にある対象の成長発達段階に応じた特徴や課題と健康障害の予防、回復、維持に関連する概念、学習理論などを学修する。 主要な概念として、ストレス理論、危機理論、病みの軌跡の看護モデル、障害受容、セルフマネジメント、自己効力理論、意思決定などを理解し、病気や障害とともに生活することへの支援を学ぶ。	
	成人看護学方法論(急性期)	3	2			急激に健康状態が変化する成人期にある人とその家族を多面的・総合的に理解し、ホメオスタシスを維持・回復するための看護援助に必要な基礎的知識・技術を習得する。 急性疼痛マネジメント、周手術期看護、各機能の変化、複合的な全身機能の変化などの、急激に健康状態が変化する成人のホメオスタシスを維持・回復する援助を系統的に行う基礎的技術について学ぶ。演習においては、実践的な看護技術に加え、事例を用いた看護過程の展開を実施することにより、看護過程の流れを学修する。	
	成人看護学方法論(慢性期)	2	2			慢性の経過をたどる疾患をもつ成人と家族が、傷病や障害に起因する健康障害とともに生活していくプロセスや身体的・心理的・社会的特徴を理解するとともに、病状をコントロールし、生活の調整や再構築を行いながら、QOL(生命の質、生活の質、人生の質)の充実にめざすことを支援する看護の役割と方法を学ぶ。がんとともに生活する人と家族の看護、神経難病とともに生活する人と家族の看護、典型的な慢性期の症状マネジメントやリハビリテーションなど慢性期看護のエッセンスについて学習する。演習においては、糖尿病の看護事例を用いた看護過程の展開を実践し、関連した看護技術の実践も学修する。	
	成人・高齢者看護学実習Ⅰ(急性・回復期)	3	3			急性期にある人(成人・高齢者)は、突然の病気や慢性疾患の急性増悪などにより、短時間で健康状態が変化した状態にあったり、あるいは手術療法等による身体への高い侵襲をうけ、生命の危機、激しい症状や不安・恐怖などの心身の苦痛を体験している。この実習では、急性期にある人とその家族を多面的・総合的に理解し、健康状態の変化を予測し、苦痛の緩和と健康を回復するために必要な看護を実践する能力を養うとともに、急性期看護の役割について理解する。また急性期から在宅医療への移行や地域包括ケアを視野に入れた看護の役割を学ぶ。手術室や救急外来などの専門治療領域見学実習により、急性期看護の特性を学び、多職種連携を通じた看護師の役割を学ぶ。	
	成人・高齢者看護学実習Ⅱ(回復・慢性期)	3	3			慢性的な健康障害をもつ人(成人・高齢者)とその家族を対象とし、援助的人間関係を築きながら、慢性の疾患や障害とともに生きる対象を理解し、必要な看護を実践する基礎的能力を養う。さらにセルフマネジメント支援に対する看護の役割について理解を深める。また長期的なリハビリテーション(Re-Integration: 社会復帰)を必要とする人とその家族をも対象とし、退院後の在宅医療への移行や地域包括ケアを視野に入れた看護の役割を学ぶ。 病棟実習では慢性的な健康障害により入院加療を必要とする人々への看護を実践的に学ぶ。高齢者施設実習では、生活の場で療養しながら生きる人々との関わりを通して、対象を理解し、そこに必要な看護の役割を理解する。	
	地域看護	高齢者看護学概論	2	2			老年期にある人々の特徴を理解するために、老化現象が高齢者の身体面・心理面・社会面に及ぼす影響について学ぶ。さらに、高齢者を取り巻く保健・医療・福祉における課題の考察を通して、老年看護の目的と役割について理解する。
		高齢者看護学方法論	2	2			老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化をふまえ、高齢者に生じやすい様々な生活機能ならびに健康上における障害の特徴とそれらを予防することの意義について学ぶ。さらに、老年看護の対象となる人々の特性に応じた適切な看護の方法と看護実践に必要な基礎的知識・技術を習得する。
		高齢者看護学実習	2	2			病院や介護保険施設の療養環境を知り、そこに入院・入所する高齢者の特徴を生活の視点からとらえ、その人に適した日常生活援助を提供する方法を修得する。高齢者の抱える健康問題を多面的に捉え、老化による身体的・心理的・社会文化的要因からの影響を考え、自立支援に向けたケア計画を立案し、実施・評価する。
		精神看護学概論	2	2			成長発達と心身機能の概要、こころの健康、精神保健・医療と社会、疾病と障害の概要を踏まえ、人々の精神的健康の保持増進や、精神障害の回復を支えるために必要な精神医学や看護の概念モデルなど精神保健看護の概要について学ぶ。また、援助関係を発展させるために必要な、コミュニケーションや対人関係の基礎について学ぶ。
		精神看護学方法論	3	2			セルフケアの観点・精神症状などを踏まえて、様々な精神疾患を抱えた人たちの課題を克服するための援助について学ぶ。また、プロセスレコード等を通して自己理解を深める。地域における精神医療福祉の状況を学ぶ。
		精神看護学実習	3	2			精神障害を抱えた対象者やその家族に対する支援や、看護師の役割を理解し、看護実践力を養う。地域で生活しながらデイケアに通所する精神障害者とともにプログラムに参加し、精神障害者との交流し、プロセスレコードの検討を通して、自らのコミュニケーション、対人関係の傾向を検討する。病棟実習では、治療環境の在り方について、地域の就労支援、作業所等地域生活支援施設では、地域の中でのリハビリテーションや精神障がい者の生活支援の実際を体験し、精神障がい者の社会参加、退院支援について考える。



科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業科目の概要					
			必 修	選 必	選 択						
専門 科目	実践 領域	地域 看護	在宅看護学概論Ⅰ	1	1		在宅看護の歴史を通して在宅看護の意義について学ぶ。また在宅において多様な価値観・健康レベル・生活を背景とする人とその家族について理解し、その人々を支える社会保障制度、社会資源や在宅ケアシステムおよび地域包括ケアシステムについて学ぶ。さらに、その人らしい人生を送るための自助、互助、共助、公助の意義と方法について学ぶ。				
			在宅看護学概論Ⅱ	2	1		在宅看護の基本概念、機能、倫理について学ぶ。また在宅ケアにおける訪問看護の特徴について認知症、難病、小児、精神障害者、終末期ケアなど広範囲にわたる看護活動を通して学ぶ。さらに地域包括ケアシステム展開に向けて退院支援を中心に継続看護の意義と方法について学ぶ。				
			在宅看護学方法論	3	2		在宅療養者とその家族を単位とした地域・在宅での看護活動の展開方法と技術について学ぶ。家族の健康とヘルスケア機能をアセスメントする方法、訪問看護過程に沿った面接技術、アセスメント方法、援助技術の基本、在宅療養者とその家族を支える看護職同士、他職種・他機関との連携、社会資源について、その実際や活用方法を学ぶ。訪問看護で用いられる在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気法・ストマケア・胃瘻などへの看護ケア技術を学ぶ。				
			在宅看護学実習	3	2		在宅で療養する対象者やその家族への支援や看護の役割を理解し、看護実践力を養う。訪問看護ステーションの看護活動への同行訪問を通して、在宅療養者とその家族に対する訪問看護師の果たす役割や訪問看護事業の現状と課題、今後の方向性について考える。地域で疾患や障害を有しながら生活する人やその家族が、健康課題解決のために活用できる施設や機関、組織の活用方法や関係機関・職種との連携方法を学ぶ。在宅療養者の生活をチームで支えるために、地域ケアシステムにおいて看護職が担う様々な役割、これからの看護職のあり方について考える。				
			地域看護学概論	1	2		地域において生活する人々の健康とクオリティオブライフの向上を図るための実践科学である地域看護について理解し、地域を基盤として行われている看護活動の全体像と基本的な考え方を学ぶ。そのために、地域で暮らす様々な人々の暮らしや支援のあり方について学ぶ。また、地域で動く看護職の役割・機能・活動の方法について学ぶ。				
			地域看護学方法論	2	2		地域で看護を展開していく上で、地域で生活する人々の生活環境や生活状況を把握し、地域で生活する人々の特性に合わせた看護活動方法、地区診断、健康教育、健康相談について理解し、地域看護活動へ発展させる方略を学ぶ。授業では、地区診断方法として、コミュニティアズパートナーズ、プリシードモデルの概略を学ぶとともに、生活実態に基づく地区診断について事例を用いてグループで行う。地域看護実習における地区踏査に向けてインタビュー方法を学び準備する。				
			地域看護学実習	2	1		地域で看護を展開していく上で重要な、地区診断の必要性を理解し、地域で生活する人々の健康ニーズの把握方法について理解する。実習では、グループで事前に収集した担当地区の統計資料分析するとともに、担当市区に赴き実際の状況を歩きながら観察するとともに、住民へのインタビューをし、生活実態を把握し健康ニーズとそれを解決する方法を検討し発表する。				
			地域包括ケア実習	1	1		在宅で生活する様々なライフステージ、健康レベルの人々について理解するとともに生活の多様性について理解する。また地域包括支援センター、訪問看護ステーション、助産院、ボランティア等の活動の実際について見学・体験を通して人々の生活を支える活動を理解する。さらに地域包括ケアシステム推進するための看護職としてのあり方について考察する。				
			学校保健論Ⅰ	2	(1) 保健 師必 修	1		学校保健の意義・歴史・現状と学校教育における学校保健の果たす役割、児童生徒の健康問題と学校における養護教諭の活動を理解する。 授業内容は、学校保健の意義、児童生徒の発育・発達、健康診断、健康観察・保健指導、疾病管理・感染症学校給食、養護教諭の活動の実際、特別支援教育について学ぶ。			
			学校保健論Ⅱ	2	(1) 保健 師必 修	1		学校保健活動の実際を学び、学校における児童生徒の健康課題について考える。学校保健論Ⅰに引き続き、学校保健活動の実際を学び、学校における児童生徒の健康課題について考える。 健康教育は学習指導要領における保健学習、学校における性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育について学ぶ。学校安全、学校での救急処置、健康相談、学校環境衛生について理解する。			
総合 領域	卒業論文ゼミナール	4	2			産業保健論Ⅰ	2	(1) 保健 師必 修	1		産業保健活動の理念と健康管理体制、我が国における産業保健の実態など、産業保健の概要について講義し、事業者が推進する産業保健活動を支援する学際的なチームの一員として活動する産業看護職の役割と職務について解説する。また、産業看護活動に必要な労働生理、産業疲労、職業関連健康影響について概説するとともに、産業看護活動の実際について紹介する。
						産業保健論Ⅱ	3	(1) 保健 師必 修	1		産業保健・産業看護の展開方法の実際について学び、産業看護の専門性について考察する。労働環境における「安全管理」と「女性労働者への健康支援」について理解を深める。また、産業看護のアセスメントについて、具体的な事例を使用して、個人、集団/組織それぞれについて理解する。
						公衆衛生看護活動論	2	(2) 保健 師必 修	2		公衆衛生看護活動の展開過程（地域診断、計画立案、実施、評価）と個人・家族・集団・地域への支援方法および対象別公衆衛生看護活動の現状等について学習し、公衆衛生看護活動の特性、機能、役割について理解する。
						学生が主体的にテーマを設定し、研究計画書を作成する。原則として、卒業論文のテーマを深めることができるよう統合実習のテーマや実習場所を選択する。卒業テーマの選択に当たっては、3年次までに卒業ゼミナール担当教員を決定し、4年次からゼミごとに指導を受けながらテーマを深め、プレゼンテーションする。ゼミ担当教員は、各看護学領域ごとのグループ指導を原則としているが、領域を超えたグループ指導をおこなうこともできる。また、希望によりデータ収集・分析を行う調査研究、ケースレポートを作成することが出来る。					



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
専門科目	統合領域 ヘルスケアマネジメント論	4	2			看護師が関与する「健康」を、システムという視点からとらえていく。健康を支えるシステムには、健康政策、社会保障制度、ソーシャルキャピタル、各種医療系組織、ヒューマンサービス組織などがあり、それらが数々の問題を孕みながらも地域の人々と相互・共創的に作用しながら健康基盤を形成している。いかに健康を管理すべきなのかという問いは、①個人にとっては疾病予防・健康増進、②地域にとっては地域包括ケアの実現、③医療機関にとっては経営戦略、④政策担当者にとっては政策立案に直結するテーマである。 本講では、マネジメントの基礎とともに、主に③④のヘルスケア組織におけるマネジメントと政策決定について学ぶ。
	ヘルスケアマネジメント論	4	1			健康、医療に関わる人、モノ、カネ、情報を含む諸資源をいかに効果的にマネジメントしてゆくべきなのだろうか。本授業では、この問いに対して、マネジメント・サイエンスの視点から日本、アメリカ、カナダ等の医療・健康政策を概観し、微視的な視点から日本国内の臨床現場の看護管理、医療管理を扱ってゆく。特に看護の立場から、いかにヘルスケアをマネジメントしてゆくのか。その現状とあるべき姿、両者を検討してゆく。この授業は、地域のヘルスケア(保健、医療、福祉)サービス全般を視野に収めて、それら「全体のマネジメント」(ソフトシステムズ方法論)という視点からアプローチする。全体のマネジメントは患者(利用者)、看護師、経営者、管理者、行政にとって重要な課題である。前半は、このような視点に立って、健康マネジメントシステム、目標管理、人材マネジメントシステム等を俯瞰する。卒後は、ヘルスケア関連の多様な職種と連携して業務を行うことになるので、多職種連携・チーム医療というテーマも扱う。後半は、入退院管理、地域包括ケアシステム、認知症患者の包括的ケア、多職種連携教育等を含めプラクティカルな内容に焦点を当てる。
	災害看護論	4	1			国内、国外で発生する災害が引き起こす社会、生活、健康への影響について学び、災害サイクルや活動の場、被災者特性に応じた看護の役割を理解する。 授業内容は、災害看護の定義、災害看護の基礎知識、災害サイクルに応じた看護、トリアージなどの看護技術、被災者に応じた看護、災害と心のケアを学び、災害看護についてグループワークで深め、災害発生時の専門職としての役割とチームの中での役割について考える。
	国際看護論	3	1			グローバル課題が引き起こす健康への影響について学び、個人と個人を取り巻く地球環境全体をみる視点を持ち、看護が多様なものであり、変化するものであることを理解する。 国際看護の概念・歴史・理論、保健医療分野の開発理念の変遷と世界の健康課題、文化を考慮した看護、国際協力の仕組みと看護職の活動、国際保健看護活動の実践について学び、異文化下における健康課題アプローチについて事例検討を行う。
	看護研究	3	1			看護研究の目的や意義、方法とプロセスについて、基礎的な内容を取り上げ学習する。研究疑問を明確にして研究方法の選定につなげていくプロセスを学び、研究のタイプやデザイン、研究に必要なデータの収集方法と、研究における倫理的配慮の重要性について理解と関心を深め、得られたデータを分析・考察する初歩的な方法について学ぶ。
	医療リスクマネジメント	3			1	医療安全とリスクマネジメントの概念、医療のリスクマネジメントプロセスとその実践、起こりやすい医療事故とその対策について学ぶ。患者・市民とともに作り上げる医療安全について考える。 医療安全に関する国の取り組み、医療事故の定義、事故発生メカニズム、医療機関における安全対策、事故分析と対策、患者家族との協働による取り組み、安全文化の醸成、医療事故と安全対策、実際の事例を通して医療安全管理の基本について学ぶ。
	看護とグローバルヘルス	1			2	「地域ケア」はローカルな場のみならず、グローバルな場にも存在する。本演習では、グローバル社会における地域ケアの実態を、実際にカナダを訪問することによって深く学んでいくものである。この科目は、カナダのブロック大学と連携して、オンタリオ州のキャンパスならびに周辺地域を舞台にして、①臨床実践英語の基礎、②臨床トレーニング、③地域の看護・ヘルスケア関連施設、④在宅のチーム医療などについてフィールド調査を交えながら学ぶ。約2週間の短期留学プログラムを中心として、カナダへ行く前の臨床英語トレーニング、帰国後の報告会をもって終了する。滞在はブロック大学から至近の一般カナダ人家庭にホームステイする。
	家族看護学	1	1			健康問題、貧困、格差といった社会的問題を解決していくためには社会イノベーションの視点と行動が必要である。社会イノベーションの主体者、つまり社会起業家として看護師にはなげがで、なにをすべきなのかを議論してゆく。この科目では、イノベーターやアントレプレナーとしての看護師に注目し、起業行動を分析していく。訪問看護ステーション、代替的ケアシステム、生活支援サービスなど、看護サービス分野には多くの起業家が活躍しつつある。変化・変革・イノベーションを起こすような起業家、イノベーターの資質を強化するコンテンツも適宜提供していく。
	社会イノベーション論	4			1	健康問題、貧困、格差といった社会的問題を解決していくためには社会イノベーションの視点と行動が必要である。社会イノベーションの主体者、つまり社会起業家として看護師にはなげがで、なにをすべきなのかを議論してゆく。この科目では、イノベーターやアントレプレナーとしての看護師に注目し、起業行動を分析していく。訪問看護ステーション、代替的ケアシステム、生活支援サービスなど、看護サービス分野には多くの起業家が活躍しつつある。変化・変革・イノベーションを起こすような起業家、イノベーターの資質を強化するコンテンツも適宜提供していく。
	保健師科目	公衆衛生看護活動方法論Ⅰ	3	(1)保健師必修		▲1



科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業科目の概要
			必修	選必	選択	
専門科目 保健師科目	公衆衛生看護活動方法論Ⅱ	4	(2) 保健師必修		▲2	公衆衛生看護活動を行なう保健師として必要な知識、技法を学習する。公衆衛生看護活動の対象である個人・家族・集団及び地域への支援方法としての家庭訪問、健康相談、健康教育・グループ支援等について、その理論、展開方法及び実践的技法等を講義及び演習により習得する。特に健康教育についてはある地域ある場面の設定の中で企画・実施・評価の展開を行い、その技法を具体的に学ぶ。
	公衆衛生看護管理論Ⅰ	4	(1) 保健師必修		▲1	公衆衛生看護管理の理念・目的、管理の仕組み及び公衆衛生看護管理の具体的な対象である組織・人材、社会資源管理、情報管理、予算管理、事業評価そしてリスクマネジメント及び健康危機管理について教授する。
	公衆衛生看護管理論Ⅱ	4	(1) 保健師必修		▲1	公衆衛生看護活動におけるシステムづくり・施策化について、事例について演習を行うことから学ぶ。また、公衆衛生看護管理における継続教育や管理活動の実践について課題等を分析・検討することを通して、公衆衛生看護活動の今後の活動のあり方、保健師の専門性等について研究的視点から教授する。
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	(3) 保健師必修		▲3	行政機関としての県の保健所、市の保健施設等での実習を行うことにより、それぞれの機関が担う機能を学ぶとともに、地域社会で生活している人々の健康を護る活動、公衆衛生の向上に寄与するための保健師としての必要な知識と技法(家庭訪問、健康教育、グループ支援)を体験から学び、さらに保健師の持つ基本能力、行政能力、専門能力のベースになる能力を実践を通して養う。特に行政保健師として技能として重要な施策化について検討するため地区診断を行い、それぞれ事業を実施している意義を考察する。
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4	(1) 保健師必修		▲1	産業現場や学校における保健活動の実際を知り、産業保健及び学校保健における保健師の活動内容、役割及び機能を理解し、必要な技法等を習得するとともに、産業保健と学校保健を含めた公衆衛生看護活動のあり方について考察する。 実習内容は産業保健現場の見学と、健診活動事業の見学実習、健康教育媒体の作成、小中学校での学校保健実習を行い、最終日は産業保健、学校保健における保健師の役割についてカンファレンスで深める。

【備考】単位数(選択)の▲は、単位として認めるが卒業要件には含まない選択科目を表す。

履修モデル【保健師】 この履修モデルは一例です。

年次	1年次			2年次			3年次			4年次		
	前期	後期	単位	前期	後期	単位	前期	後期	単位	前期	後期	単位
全学基礎	情報リテラシー演習	スポーツ演習C	1	コミュニケーション論								
	英語a	英語b	1	生命倫理								
	英語b	英語c	1	心理学概論								
	英語c	英語d	1	心理学概論								
	英語d	英語e	1	心理学概論								
	英語e	英語f	1	心理学概論								
	英語f	英語g	1	心理学概論								
	英語g	英語h	1	心理学概論								
	英語h	英語i	1	心理学概論								
	英語i	英語j	1	心理学概論								
看護基礎	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
看護専門科目	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
看護応用	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
保健師科目	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
	看護学概論	看護学概論	2	看護学概論								
小計	小計	24	小計	24	小計	26	小計	20	小計	24	小計	14

◎：必修科目
 ○：選択必修科目 スポーツ演習は人数制限があり、前期と後期に分けて実施。
 △：選択科目
 選択科目を含めて、1年間履修登録上限の46単位まで履修可。本学部の教育理念、方針に沿って各自選択可。

7) 実習について

(1) 臨地実習基本方針

臨地実習は、講義や演習によって修得した知識や専門的技術をもとに看護の対象との相互関係の中で学びながら、看護実践に必要な基礎的能力を修得する授業です。

臨地実習は看護師としての知識・技術・態度について、基本実習段階、応用実習段階、統合実習段階として段階的に学びます。

(2) 各段階の実習配置および年次計画

各段階の実習配置と年次計画については、看護学実習（臨地実習）スケジュールに示しました。

看護学実習（臨地実習）スケジュール

*実習時期は変わることがあります。各年度ごとのガイダンスにて必ず確認してください。

年次	月 週	4					5					6					7					8				9				10				11				12				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5									
基本実習 段階	1 年次	5 人 / G																					基礎 看護学 実習Ⅰ 1単位																			
	2 年次	5 人 / G	高齢者看護 学実習 2単位					地域 看護学 実習 1単位																																		
応用実習 段階	3 年次	5 人 / G						母性看護学実習(一部) 小児看護学実習(一部) 精神看護学実習(一部)									母性看護学実習 2単位 *グループローテーションにて行う。 小児看護学実習 2単位 成人・高齢者看護学実習Ⅰ(急性・回復期) 3単位 成人・高齢者看護学実習Ⅱ(回復・慢性期) 3単位 精神看護学実習 2単位 在宅看護学実習 2単位																									
統合実習 段階	4 年次	100人	統合実習 2単位 *時期は各学生にて調整して行う																																							
		保健師 課程	公衆衛生看護学実習Ⅰ 3単位 公衆衛生看護学実習Ⅱ 1単位																																							

年次	月 週	1				2				3				
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
基本実習 段階	1 年次	5 人 / G					地域包括 ケア実習							
	2 年次	5 人 / G	基礎看護学 実習Ⅱ 2単位前半G				基礎看護学 実習Ⅱ 2単位後半G							
応用実習 段階	3 年次	5 人 / G	母性看護学実習(一部) 精神看護学実習(一部) 在宅看護学実習(一部)											
統合実習 段階	4 年次	100人 保健師 課程												

実習科目の詳細な内容については、「実習の手引き」を参照してください。

8) 短期留学について

専門科目（統合領域）の選択科目「看護とグローバルヘルス（2単位）」では、短期留学を行います。時期は夏季休暇中の3週間程度を予定しています。



4. 取得できる資格と選抜方法

1) 看護師

卒業要件に必要な単位（124単位以上）を修得し、全必修科目を取得することで、看護師国家試験受験資格が得られます。厚生労働省所管の看護師国家試験に合格することで看護師免許が取得できます。

2) 保健師

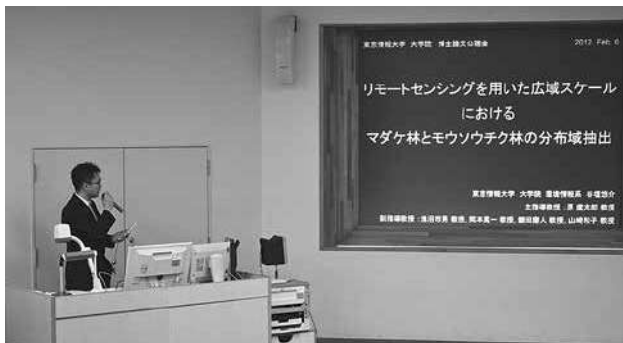
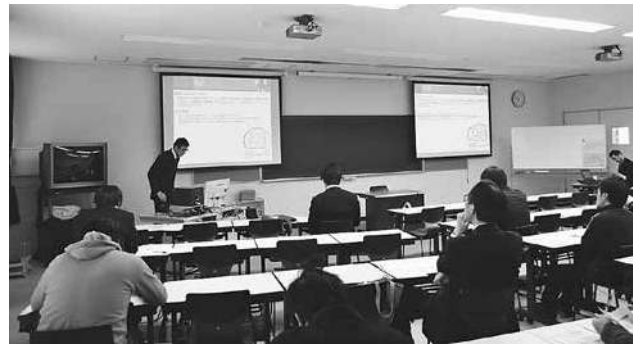
保健師課程では、保健師課程を選択し、卒業要件に必要な単位（124単位）を修得し、且つ保健師の国家試験受験に必要な疫学・社会調査2単位、学校保健論Ⅰ・Ⅱ、産業保健論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護活動論と保健師科目9単位の履修が必要です。また必修単位としては養護教諭2種免許取得に必要なスポーツ演習2単位以上、外国語2単位以上、日本国憲法2単位の履修も必要で、保健師選択課程の最低必要単位は136単位になります。

厚生労働省が行う保健師国家試験に合格することにより保健師免許が修得できます。また、保健師免許取得者で、所定の単位（日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、情報機器の操作）を修得しているものは、都道府県教育委員会に個人申請することで「養護教諭2種免許」の交付を受けられます。

3) 保健師課程の選抜方法

保健師課程の選抜は、まず3年次前期中盤に希望調査（選抜理由書含む）を行います。その後、面接試験を行い、希望理由書、2年次までの成績を総合的に判断し、3年次前期終了までに選抜結果を発表します。

大学院総合情報学研究科



1. 総合情報学研究科の目的及びポリシー

1) 博士前期課程

(1) 博士前期課程 教育研究上の目的

大学院総合情報学研究科博士前期課程においては、システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの各分野において研究開発や課題解決を推進する「情報システム系列」、メディア情報、経営・社会情報の各分野において社会的な課題を解決する「社会情報系列」、保健医療福祉分野において医療現場での課題を解決する「ヘルスケア情報系列」の3つの系列を柱として、各系列における高度な専門知識、および、技能を修得した研究者や高度職業人を育成するとともに未来を切り拓く「総合情報学」の進展を目的とする。

(2) 博士前期課程 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

大学院総合情報学研究科博士前期課程においては、「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列を有する総合情報学の専門分野において、次の専門知識・技能、研究・開発能力、研究の素養を身に付け、総合情報学専攻で定める所定の単位を修得し、かつ、修士の学位論文及び最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、修士（総合情報学）の学位を授与する。

①総合情報学研究科の専門分野に応じた各系列の高度な専門知識と技能。

②修得した高度な専門知識と技能をもとに、与えられた問題を論理的に思考して、自ら課題を発見・解決し、解決策を社会に発信する研究・開発能力。

③修得した専門知識・技能や研究・開発能力により、多様化・複雑化する情報化社会における諸問題を的確に捉え、主体性を持って問題解決に関与、貢献することができる研究の素養。

それぞれの系列に係わる専門知識・技能、研究・開発能力、研究の素養は次の通りである。

《情報システム系列》

システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの各分野において、新たな技術や手法を研究・開発する研究者・技術者を目指して、専門知識・技能、思考力・問題解決力・情報発信力等の能力を身に付ける。それらの知識や能力を修得することで、高度で洗練された情報技術やシステムを提案する能力を持ち、情報化社会における諸問題の解決に関与、貢献することができる。

(専門知識・技能)

情報学の応用分野において、新たな技術や手法を研究・開発する研究者・技術者として、情報分野における体系的な知識と専門分野における先端的知識を修得し、より良いシステムを提案する能力を持ち、課題を解決することができる。

(研究・開発能力)

情報化社会の変化を論理的に分析する思考力と問題解決能力を備え、解決策を的確に発信することができる。

(研究の素養)

情報を正確かつ論理的に分析すると共に、他人の考えを正しく理解した上で、自分の考えを正確かつ効果的に発信し、自らが主体的に未解決な課題に取り組むことができる。

《社会情報系列》

メディア情報、経営・社会情報の各分野において、メディア情報学・経営学、およびその他の社会科学の領域をもとにした複眼的アプローチを学ぶことによって、それら諸学問領域の連携・融合を試みる。そこから得られた知識・思考様式・技術を使って、多様化する高度コミュニケーション社会における人間・社会の関係性を理解し、解決策を提案する能力を培い、社会的な課題を能動的に解決することができる。

(専門知識・技能)

メディア情報学、経営学、およびその他社会科学の諸領域の先端的な知識・技能を習得する。そこから多角的な視点と、現象への複眼的なアプローチを得る。それによって、社会情報学を構成するメディア情報学その他の社会科学諸領域を統合的に把握できる枠組みを構築することができる能力を養う。

(研究・開発能力)

情報学に依拠した経営学やその他の社会諸科学の視座、およびメディア情報学によるメディアそのものの意味と機能をふまえた視座から、総合的な思考力と問題解決能力、および専門的な情報技術の習得による情報発信力を用いて、現実社会の複合的な諸問題について総合的な解決を得ることができる。



《研究の素養》

異論を即座に否定し排除するのではなく、まず受容し、その後、異論が発生した背景を可能な限り多角的な視点をもって探求し、自説との照合・比較・検討を行う。そこから、より高度な次元の問題解決策につなげることで、新たな課題の構築、設定、検討、解決に向けて進むことができる。

《ヘルスケア情報系列》

社会構造の変化によって複雑・多様化する人々の健康ニーズに対して、保健医療福祉関連の専門職同志の情報の共有化とデータの活用は健康福祉社会を形成するための必須事項である。ヘルスケア情報系列では、保健医療福祉分野におけるヘルスケア情報のデータサイエンティストとして適切な能力と技能を身に付け、人々が安心できる健康福祉社会を形成するために必要な情報活用の専門家を育成する。

《専門知識・技能》

保健医療福祉分野におけるヘルスケア情報とその学問的基盤に関連する情報科学技術を理解し、診療情報や医療看護情報などの医療データを的確な手法で解析すると共に、その解決策を分かりやすく提案する能力を生かして、医療現場における課題を能動的に解決する技能を修得する。

《研究・開発能力》

科学的思考（エビデンス）に基づいたデータ活用によって健康福祉社会に貢献することができる能力を養うとともに、高度情報社会に求められるヘルスケア情報を、未来志向で管理運営、研究・開発することのできる能力を身に付ける。

《研究の素養》

グローバル化する社会・文化の違いを尊重し、人々の多様な健康ニーズに対して高い倫理観をもって、能動的かつ主体的に未知の課題に取り組む姿勢を養う。

(3) 博士前期課程 教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)

大学院総合情報学研究所博士前期課程のディプロマポリシーを達成するため、情報処理や情報科学に関連する研究を推進していくための総合情報学や基礎知識を修得するための「基礎科目」を配置する。「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列においては、それぞれの専門的特徴を活かした「専門科目」を編成し、「修士特別研究」により、研究・開発能力を修得する研究指導、「修士特別演習」により、研究の素養を修得する口頭発表や修士論文発表会などを行う。さらに、高等学校「情報」及び中学校・高等学校「数学」の教員免許状(専修)取得者に対する教職専門科目を配置する。博士前期課程の修了の可否は、修了所要単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査と、最終試験の結果に基づいて判定する。知識・技能、思考力・問題解決力・情報発信力等の能力及び主体的な態度の修得に関する科目編成の考え方は次の通りである。

《専門知識・技能》

「基礎科目」において、データサイエンスの基礎技術や「システム情報系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列に共通する基礎知識を理解する。「専門科目」において、3つの系列に関連する特論等の専門的知識を身につけるための授業科目を配置する。授業科目の配置においては、総合情報学部の連携を考え、総合情報学部の履修モデル(システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、数理情報、メディアデザイン、経営イノベーション)との接続性を考慮した専門分野に体系化している。また、看護学部との連携においては、「ヘルスケア情報系列」に看護学部との接続性を考慮した科目を配置している。学生はそれらの科目群から幅広く受講科目を選択でき、体系的な専門知識・技術を修得する。成績は試験、レポート等に基づいて評価する。

それぞれの系列に係わる「専門科目」の編成方針は次の通りである。

《情報システム系列》

システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの専門的特徴を活かした専門科目の中から、選考する専門分野を中心として幅広く受講科目を選択し、体系的な専門知識・技術を修得する。

《社会情報系列》

社会における情報現象の総体を理論的、実証的、歴史的に把握するために、社会学および社会コミュニケーション、メディア実践の専門領域から、そして、社会組織の意思決定の現実把握のために、経営学・組織論の多方面にわたる領域の専門領域から幅広く受講科目を選択し、メディアや社会情報の本質的理解と組織体の総合的な管理や意思決定についての体系的な専門知識、技術の習得を修得する。

《ヘルスケア情報系列》

ヘルスケア情報の基盤となる講義および演習で構成し、ヘルスケア情報を扱う者に求められる優れたコミュニケー

ション能力と、高い倫理観に基づく学習を通して情報リテラシーに必要な知識・技術を修得する。

(研究・開発能力, 研究の素養)

「修士特別研究」においては、研究活動、修士論文の作成を通して、問題発見能力、柔軟な思考力、問題解決能力などの研究・開発能力を育成する。「修士特別演習」においては、口頭発表や修士論文発表会などで、研究成果や解決策を社会に発信する情報発信力、コミュニケーション能力などの研究の素養を修得し、また、学会参加、研究討論などの場を通して、専門的内容に関する説明や討論などを主体的に進めるための態度を修得する。

2) 博士後期課程

(1) 大学院博士後期課程 教育研究上の目的

大学院総合情報学研究科博士後期課程においては、システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの分野において研究開発や課題解決を推進する「情報システム系列」、メディア情報、経営・社会情報の分野において社会的な課題を解決する「社会情報系列」、保健医療福祉分野において医療現場での課題を解決する「ヘルスケア情報系列」の3つの系列を柱として、各系列における最先端かつ高度な専門性と卓越した発想・問題解決能力を身に付け、当該分野を牽引し、新たな学術領域を開拓する教育者、研究者、および、技術者の育成を目的とする。

(2) 博士後期課程 学位授与の方針 (ディプロマポリシー)

大学院総合情報学研究科博士後期課程においては、「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列を有する総合情報学の専門分野において、研究・教育機関の中核となる研究者等として活躍することを目指して、次の専門知識・技能、研究・開発能力、研究の素養を身に付け、総合情報学専攻で定める所定の単位を修得し、かつ、博士の学位論文の審査、最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、博士(総合情報学)の学位を授与する。

- ①総合情報学研究科の専門分野に応じた極めて高度な専門知識と技能。
- ②高度な専門知識・技能と教養をもとに、与えられた問題を論理的に思考して、自ら課題を発見・解決し、独創的な解決策を社会に発信する研究・開発能力。
- ③多様化・複雑化する情報化社会における諸問題を的確に捉え、総合情報学分野の高度な研究者、技術者として、主体性を持って問題解決に関与、貢献する研究の素養。

(3) 博士後期課程 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラムポリシー)

大学院総合情報学研究科博士後期課程のディプロマポリシーを達成するため、「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列の博士前期課程で修得した専門知識や研究能力を基礎として、「博士特別研究」により、極めて高度な専門知識、論理的で独創的な研究・開発能力を修得する研究指導、「博士特別演習」により、研究成果や解決策を的確に社会へ発信する情報発信力、コミュニケーションなどの能力を養う口頭発表、博士論文発表会や学会発表などを行う。また、総合情報分野において、情報化社会における諸問題を的確に捉え、独創的な考えで研究活動の行う研究の素養を修得するための科目として「情報哲学」を配置する。博士後期課程の修了の可否は、修了所要単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査と、最終試験の結果に基づいて判定する。

3) 学位取得までの流れ

(1) 博士前期課程

審査の区分	目的	内容
1年次審査 (1年次終了時)	総合的・専門的知識に関する審査	特論科目(1年次履修)の評価
2年次審査 (2年次前期)	研究計画の遂行に関する審査	修士論文計画の審査
〈修士論文の提出〉		
修士論文審査 (2年次後期)	修士論文の完成度の審査	①修士論文要旨の審査 ②修士論文の審査
最終試験 (2年次終了時)	専攻学術の知識の確認	修士論文に対する口頭試問
〈修士(総合情報学)の学位授与〉		



(2) 博士後期課程

審査の区分	目的	内容
第1次審査 [基礎資格審査] (1年次終了時)	問題設定能力の基礎審査 ①理論的知識の確認 ②方法的知識の確認 ③関連する専門知識の確認	研究計画に対する評価・指導 ①博士論文計画書の審査 ②理論的知識に関する口頭試問 ③方法的知識に関する口頭試問 ④専門領域に関する口頭試問
第2次審査 [博士候補者資格審査] (2年次終了時)	問題設定能力および研究方法等の審査 ①研究内容の確認 ②実証能力の確認	研究経過報告に対する評価・指導 ①研究経過報告書の審査 ②博士予備論文(中間発表)の評価
第3次審査 [博士候補者資格審査] (3年次前期)	研究内容の公開および審査	研究成果・論文内容に対する評価・指導 ①博士論文概要の審査 ②博士論文に関する研究発表内容の審査(専攻内の研究発表会)
〈博士論文の提出〉		
博士論文審査 (3年次後期)	博士論文の完成度の審査	博士論文の審査
最終試験 (3年次終了時)	専攻学術の学力の確認	①専攻学術試験 ②外国語能力審査 (博士論文英文要旨の審査)
〈博士(総合情報学)の学位授与〉		

2. 授業科目の履修及び単位認定

1) 履修方法について

博士前期課程の学生は、情報システム系列、社会情報系列、ヘルスケア情報系列の中から専門とする系列を決めて入学する。併せて、情報システム系列、社会情報系列を専門とした場合、各系列において更に専門性を目指す分野を決める。履修科目は、専門とする系列・分野を考慮し、指導教員と相談して選択する。履修科目は、基礎科目、専門科目で構成する。修了要件は、34単位以上で、・基礎科目(必修)2単位、・基礎科目(選択)から4単位以上、かつ・基礎科目(選択)、専門科目(選択)、教職科目から24単位以上、・専門科目(必修)8単位を修得する必要がある(12.教育課程参照)。

【履修モデル例】

- ・情報システム系列で、システム開発分野の専門性を目指す場合
 - 基礎科目 総合情報学総論, 知能情報特論, データマイニング特論 : 6単位
 - 専門科目 システム開発分野 : 8単位
 - ネットワーク分野 : 4単位
 - 知能情報分野 : 4単位
 - データサイエンス分野 : 4単位
 - 専門科目(修士特別研究, 修士特別演習) : 8単位
- ・社会情報系列で、社会組織の意思決定分野の専門性を目指す場合
 - 基礎科目 総合情報学総論, 情報社会理論特論, データマイニング特論 : 6単位
 - 専門科目 メディア情報分野 : 2単位
 - 経営・社会情報分野 : 18単位
 - 専門科目(修士特別研究, 修士特別演習) : 8単位
- ・ヘルスケア情報系列で、データサイエンティストとして保健医療福祉分野の専門性を目指す場合
 - 基礎科目 総合情報学総論, ヘルスケア情報特論, データマイニング特論 : 6単位
 - 専門科目 保健医療福祉分野 : 10単位
 - 知能情報分野 : 2単位
 - データサイエンス分野 : 8単位
 - 専門科目(修士特別研究, 修士特別演習) : 8単位

博士後期課程の学生は、大学院総合情報学研究科博士後期課程のディプロマポリシーを達成するための科目(情報哲学, 博士特別研究, 博士特別演習)を修了要件として、10単位修得する必要がある。

2) 単位認定について

(1) 成績評価基準

- 履修した授業科目の成績評価は、原則として試験（筆記試験・論文・レポート・その他）により行う。
- 成績評価基準、および成績証明書等の成績の表記は、下表のとおりとする。

成績評価基準とGP

判定	評価点	成績原簿表記	成績証明書表記	GP	成績評価内容
合格	100～90点	秀	秀	4	到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果をおさめている
	89～80点	優	優	3	到達目標を十分に達成している
	79～70点	良	良	2	到達目標を達成している
	69～60点	可	可	1	到達目標を最低限達成している
不合格	59点以下	不	表示せず	0	到達目標を達成していない
	—	欠		0	試験欠席・レポート未提出・出席不足

(2) GPA制度

学生の履修行動や学修意欲を高めることを目的として、GPA 制度を導入する。

・GPA 制度

GPA とは、「Grade Point Average」の略で、授業科目の成績評価に対して点数 (Grade Point) を与え、その点数に各科目の単位数を乗じた合計を、履修登録した科目の総単位数で割って算出した平均値のことである。この GPA は、学修への取り組みを質的に把握するための指標となり、学期ごとに比較することで、学修した成果を判断する目安となる。

・成績評価と GP

成績評価	GP	評価点	備考
秀	4	100～90点	
優	3	89～80点	
良	2	79～70点	
可	1	69～60点	
不	0	59点以下	
欠	0	—	
認	—	—	対象外とする

(3) GPA算出方法

$GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の合計} / \text{履修登録科目の単位数の合計}$

* 小数点第2位下四捨五入

* 分母の総単位数には、不合格科目（評価が「不」、「欠」）の単位数を含む

(4) 対象科目

全ての科目を対象とする。

(5) GPAの通知方法

4月・9月の学期開始時に、J-portで通知する。

(6) GPAの「総合評価表」

算出されたGPAは、下表を参照し、評価の目安とする。

GPA	総合評価
3.5～4.0	大変優秀な成績です。
3.0～3.4	優秀な成績です。
2.0～2.9	平均的な成績です。
1.0～1.9	努力を要する成績です。
0～0.9	より一層の努力を要する成績です。

3) 単位の計算方法

東京情報大学学則第13条の規定を準用します。



3. 授業時間

授業時間は、原則として次のとおりです。

時 限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時 間	9 : 15~10 : 45	10 : 55~12 : 25	13 : 10~14 : 40	14 : 50~16 : 20	16 : 30~18 : 00

4. 論文計画書の提出から学位論文審査の申請まで

《博士前期課程》

1) 修士論文計画書の提出

各年度の授業科目の履修登録時に、履修届とあわせて修士論文計画書（158ページ様式1）を学生教務課へ提出してください。

- (1) 1年次生については、入学選考時に提出した研究計画書とは別に、あらためて指導教授と相談の上、様式1により再度提出すること。
- (2) 2年次生については、予定する修士論文の題目を明記し、副担当指導教員の欄に副査の教員氏名（予定）を記入して提出すること。

2) 学位請求論文の提出

学位の審査を受けようとする学生は、2年次の1月20日（20日が休日にあたる場合はその前日）までに、以下の書類を学生教務課に提出しなければなりません。

- (1) 修士論文審査申請書（158ページ様式2）1部
- (2) 学位請求論文（和文または英文 和文表紙は159ページ様式3）正本1部・副本2部
- (3) 論文内容の要旨（和文および英文 和文表紙は159ページ様式4）各3部
※要旨（和文・英文）は、同じ内容のデータもあわせて提出すること。（USBメモリー等を持参すること）
- (4) 参考論文（必要に応じて1部）
※様式1～4は、大学のホームページからダウンロードすることが可能です。

3) 論文発表会

2年次の2月には、修士論文の最終判定に先立って、口頭による論文発表会を行います。

《博士後期課程》

1) 博士論文計画書の提出

担当の指導教授と相談の上、1年次の1月末までに博士論文計画書（158ページ様式1）を学生教務課へ提出してください。

提出された計画書をもとに、2月には論文計画審査会（第1次審査）が行われます。

2) 研究経過報告書の提出

入学後2年間の研究経過等をまとめた研究経過報告書（様式任意）を、2年次の1月末までに担当の指導教授に提出してください。

それらをもとに、2月には研究経過報告会（第2次審査）が行われます。

3) 論文要旨の提出

論文作成の進捗状況を確認するため、論文内容の要旨（159ページ様式4）を、3年次の6月末までに担当の指導教授に提出してください。

それらをもとに、7月には論文要旨発表会（第3次審査）が行われます。

4) 論文発表会

3年次生の11月には、博士論文の受理可否を審査するため、口頭による論文発表会（博士論文予備審査）を行います。なお、博士論文の審査にあたり、要件が設けられているので担当の指導教授に確認してください。

5) 学位請求論文の提出

論文の受理を認められた学生は、3年次の1月始めまでに、以下の書類とともに学位請求論文を学生教務課に提出しなければなりません。

- (1) 博士論文審査申請書 (158ページ様式2) 1部
- (2) 学位請求論文 (和文または英文 和文表紙は159ページ 様式3) 正本1部副本2部
- (3) 論文内容の要旨 (和文および英文 和文表紙は159ページ 様式4) 各3部
※要旨 (和文・英文) は、同じ内容のデータもあわせて提出すること。(USBメモリー等を持参すること)
- (4) 参考論文 (必要に応じて1部)
※様式1～4は、大学のホームページからダウンロードすることが可能です。

5. 課程修了の要件

《博士前期課程》

博士前期課程の修了要件は、以下のとおりです。

- ①博士前期課程に2年以上在学すること。
- ②所定の授業科目について34単位以上を修得すること
- ③必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。

《博士後期課程》

博士後期課程の修了要件は、以下のとおりです。

- ①博士後期課程に3年以上在学すること。
- ②所定の授業科目について10単位を修得すること
- ③必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格すること。

6. 修士(総合情報学)の学位授与のための基準および方法(申し合わせ)

1) 学位論文(博士前期課程)(以下、「学位論文」とする)の審査基準

- (1) 学位論文作成のプロセス
 - ①先行研究の整理と問題設定は適切になされているか。
 - ②研究方法の選択・実行は適切になされているか。
- (2) 学位論文の構成
 - ①章立てを含めた論述の流れは適切であるか。
 - ②設定した問題の解明は的確・適切になされ、オリジナリティあるいは有効性が適切にまとめられているか。
 - ③注や図表処理、参考文献の適切な引用等も含めて、論述が的確でかつ分量的にも適切であるか。

以上の観点で審査を行い、以下の4段階で評価する。

- A 優れた学位論文である
- B おおむね良好な学位論文である
- C いくつかの問題はあるが、学位論文として認定しうる
- D 学位論文としての水準に達していない

2) 最終試験実施要領

- (1) 提出された学位論文の内容についての質疑応答。
- (2) 学位論文作成にあたってどのような研究を行ったかについての質疑応答。
- (3) 研究成果のさらなる発展可能性についての質疑応答。

この3つの観点で試験を行い、以下の4段階で評価する。

- A 優れた研究が行われ、独力でのさらなる研究の発展が期待できる
- B おおむね良好な研究が行われたと認められる
- C 不十分な点がいくつかあるが、一定程度の研究が行われたと認められる
- D 適切な研究が行われたとはいいがたい

学位論文審査と最終試験のいずれかまたは両者がDであれば、不合格とする。

7. 博士(総合情報学)の学位授与のための要件及び方法(申し合わせ)

博士(総合情報学)の学位授与は、東京情報大学大学院学則第13条、14条、及び15条の規定に基づき、大学院研究科委員会において承認された審査委員(3名以上)による博士論文の審査及び最終試験を行い、大学院研究科委員会での審議によって、承認を得なければならない。

1) 博士(総合情報学)の学位授与の要件

博士(総合情報学)の学位授与にあたっては、原則として以下の要件を満たしている必要がある。

- (1) 査読付き学術雑誌などに単著あるいは筆頭著者として2編以上の原著論文が掲載されているか、掲載予定であること。
- (2) または、これに準ずる業績があること。
また、論文博士においては、博士論文を提出する際に、原則として以下の要件を満たしている必要がある。
- (3) 査読付き学術雑誌などに単著あるいは筆頭著者として5編以上の原著論文が掲載されていること。
- (4) または、これに準ずる業績があること。

2) 博士論文の審査

(1) 博士論文の作成プロセス

- ① 先行研究が的確に参照され、研究の目的は合理的で独創性のあるものか。
- ② 研究、調査あるいは実験方法等が再現性を持ち、適切であるか。
- ③ 研究、調査あるいは実験結果等に基づいた仮説や結論の展開は適切であるか。

(2) 博士論文の構成

- ① 先行研究が的確に参照され、研究課題の背景や意義について適切に記述されているか。
- ② 研究目的の合理性、学術上あるいは応用面で社会に貢献することが適切に記述されているか。
- ③ 研究、調査あるいは実験に関する計画や方法が適切に記述されているか。
- ④ 研究、調査あるいは実験結果について、図表を用いて適切に記述されているか。
- ⑤ 本文中における参考文献の引用と、参考文献リストが整合性を持っているか。

以上の観点で博士論文の審査を行い、以下の4段階で評価する。

- A 優れた博士論文である。
- B おおむね良好な博士論文である。
- C いくつかの問題が散見されるが、博士論文として認定しうる。
- D 博士論文としての水準に達していない。

3) 最終試験

- (1) 先行研究に基づく研究目的、研究の合理性あるいは独創性についての質疑応答。
- (2) 研究、調査あるいは実験方法等の再現性、適切性についての質疑応答。
- (3) 研究、調査あるいは実験結果等に基づいた仮説や結論の展開についての質疑応答。

以上の3つの観点で最終試験を行い、以下の4段階で評価する。

- A 優れた研究が行われたと認められる。
- B おおむね良好な研究が行われたと認められる。
- C 不十分な点が散見されるが、一定程度の研究が行われたと認められる。
- D 適切な研究が行われたとは言い難い。

博士論文の審査と最終試験のいずれか、または、両者がDであれば、不合格とする。

8. 学位

本大学院博士前期課程修了者には修士(総合情報学)の学位を、博士後期課程修了者には、博士(総合情報学)の学位を授与します。

9. 9月修了

所定の修業年限以上在学したものの、論文未完成または論文審査不可により留年した者が、翌年度の前期終了時点までに当該課程の修了要件を満たし、研究科委員会の修了判定を受けた場合は、9月30日付けで学位授与を受けることができます。

10. 表彰

大学院特別賞は、修了年次学生で、博士前期課程においては修士論文が極めて優秀な者、また博士後期課程においては博士論文が学界又は社会的に高い評価を得た者に、「大学院特別賞」を授与して表彰します。

表彰は、当該者の修了式において行います。

11. 論文計画書等の様式

(1) 修士・博士論文計画書（様式1）

修士論文計画書（様式1）

専攻	総合情報学専攻	系列	学籍番号	氏名
論文題目				
担当指導教授	副担当指導教授			
研究の背景（経緯と必要性、先行研究、当該研究の位置づけなど）				
研究目的（この研究の学術的な特色・独創的な点、予想される結果と意義など）				
研究計画・方法（研究目的を達成するための研究計画・方法を研究の段階ごとに区分し時系列で記入）				
【1年目】				
<前期>				
<後期>				
【2年目】				
<前期>				
<後期>				
研究業績（学会、研究会報告、学術誌等に発表した論文等の業績を現在から順に記入） ※特許等へは研究業績がない場合は記入する必要なし				
参考文献				
研究発表の予定				
【1年目】				
【2年目】				

博士論文計画書（様式1）

専攻	総合情報学専攻	系列	学籍番号	氏名
論文題目				
担当指導教授	副担当指導教授			
研究の背景（経緯と必要性、先行研究、当該研究の位置づけなど）				
研究目的（この研究の学術的な特色・独創的な点、予想される結果と意義など）				
研究計画・方法（研究目的を達成するための研究計画・方法を研究の段階ごとに区分し時系列で記入）				
【1年目】				
<前期>				
<後期>				
【2年目】				
<前期>				
<後期>				
【3年目】				
<前期>				
<後期>				
研究業績（学会、研究会報告、学術誌等に発表した論文等の業績を現在から順に記入）				
参考文献				
研究発表の予定				
【1年目】				
【2年目】				
【3年目】				

(A4版・縦)

(2) 修士・博士論文審査申請書（様式2）

令和 年 月 日
東京情報大学大学院 総合情報学研究科委員長 殿
総合情報学研究科 年度入学（学籍番号 ） 氏名 印
修士・博士論文審査申請書
このたび、修士・博士（総合情報学）の学位を受けたいので、学位規則第 条の規定により、下記のとおり関係書類を提出しますので、審査くださるようお願いいたします。
記
1. 修士・博士請求論文 1編（正本1部、副本2部）
2. 論文要旨 部

(A4版・縦)



(3) 修士・博士請求論文表紙 (様式3)

修士・博士請求論文 (令和 年度)	
タイトル:	
指導教授	主査 副査 副査
総合情報学専攻	系列
学籍番号	
氏名	

(A4版・縦・左綴じ・2穴)

(4) 論文内容の要旨 (様式4)

フリガナ 氏名 (本籍)	
学籍番号	
学位 (専攻分野の名称)	修士・博士 (総合情報学)
学位記番号	第 号*
学位授与の日付	令和 年 月 日*
学位授与の要件	学位規則第 条該当*
学位論文題目	
論文審査委員	主査 副査 副査
論文内容の要旨	

〔「論文内容の要旨」の作成上の注意〕

(A4版・縦)

- ・*については記入しない。
- ・本文はワープロ打ちとする。(修士論文の場合は標題等を含め3枚以内)
- ・図表は丁寧に記入するか、別にかいたものを貼り付ける。
- ・研究目的、方法、結論がわかるように適宜章を分けるなどして、簡潔に述べる。

12. 教育課程

<博士前期課程>

科目区分	系列	分野	授業科目	年次	学期	単位数		科目担当者	教職		備考	履修要件		
						必修	選択		情報	数学				
基礎	共通		総合情報学総論	1	F	2		布広 永示 他			1年次に履修すること	2単位必修		
			知能情報特論	1	F	2		マツカスジ エム						
			情報社会特論	1	F	2		圓岡 偉男						
			ヘルケア情報特論	1	F	2		金子仁子, 小早川睦貴						
専門	システム開発		分散・並列処理システム特論	1	L	2		布広 永示	○			基礎科目(選択), 専門科目(選択), 教職科目から24単位以上を修得 ※基礎科目(選択)は4単位以上修得		
			画像情報特論	1	L	2		井関 文一		○				
			組込みシステム特論	1	F	2		大見 嘉弘	○					
			ウェアラブル特論	1	L	2		* 中尾 宏	○					
			ソフトウェア工学特論	1	L	2		宇田川 佳久	○					
			データベース特論	1	F	2		藤原 丈史	○					
	ネットワーク		情報ネットワーク特論 A	1	F	2		花田 夏樹	○				セット履修	
			情報ネットワーク特論 B	1	L	2		花田 真樹	○					
			暗号理論特論	1	L	2		鈴木 英男		○				
			ネットワークセキュリティ特論 I	1	F	2		森口 一郎	○					
			ネットワークセキュリティ特論 II	1	L	2		森口 一郎	○					
			人工知能システム特論	1	F	2		永井 保夫		○				
	知能情報		ソフトウェア特論	1	L	2		マツカスジ エム		○			基礎科目(選択), 専門科目(選択), 教職科目から24単位以上を修得 ※基礎科目(選択)は4単位以上修得	
			機械学習特論 A	1	F	2		佐野 夏樹		○				
			機械学習特論 B	1	L	2		永井 保夫		○				
		環境情報		環境情報特論 A	1	F	2		* 原 慶太郎	○				
				環境情報特論 B	1	L	2		* 原 慶太郎	○				
				環境マネジメント特論	1	F	2		富田 瑞樹					
			空間情報特論	1	F	2		朴 鍾杰	○					
		環境IT-センシング特論 A	1	F	2		* 浅沼 市男	○						
		環境IT-センシング特論 B	1	L	2		* 浅沼 市男	○						
	データサイエンス		数理学特論 A	1	F	2		* 三宅 修平		○			基礎科目(選択), 専門科目(選択), 教職科目から24単位以上を修得 ※基礎科目(選択)は4単位以上修得	
			数理学特論 B	1	L	2		* 三宅 修平		○				
			情報数理特論 A	1	F	2		* 北風 和久		○				
		情報数理特論 B	1	L	2		村上 洋一		○					
		複雑系情報科学特論	1	F	2		休講		○					
		データ解析特論	1	F	2		* 櫻井 尚子		○					
		品質マネジメント特論	1	F	2		内田 治							
		バイオインフォマティクス特論	1	F	2		村上 洋一							
メディア情報			音響メディア情報特論	1	F	2		西村 明		○				
			マルチメディア特論	1	L	2		松下 孝太郎	○					
		映像情報特論	1	L	2		* 伊藤 敏朗							
社会情報	経営・社会情報		金融情報特論	1	F	2		堂下 浩			セット履修 奇数年開講 セット履修 偶数年開講			
			社会情報特論 I	1	F	2		茨木 正治						
			社会情報特論 II	1	L	2		茨木 正治						
			コミュニケーション特論 I	1	F	2		茨木 正治						
			コミュニケーション特論 II	1	L	2		茨木 正治						
			会計情報特論	1	F	2		* 斎藤 隆						
			人的資源特論	1	F	2		休講						
			経営情報特論	1	L	2		池田 幸代						
	情報法学特論	1	F	2		休講								
ヘルケア情報	保健医療福祉		ヘルケア情報管理特論	1	L	2		金子 仁子						
			ヘルケア情報教育特論	1	L	2		山口 豊						
			診療情報学特論	1	L	2		未定						
			ヘルケアイノベーション特論	1	F	2		松下 博宣						
			遠隔看護特論	1	L	2		未定						
共通	共通		修士特別研究	1-2	通年	6		各指導教員			8単位必修			
			修士特別演習	1-2	通年	2		各指導教員						
教職	共通		情報教育学研究	1	F	2		松下 孝太郎	○	○	教職課程履修者のみ履修可	教職課程履修者は6単位必修		
			教育心理学特論	1	L	2		原田 恵理子	○	○				
			教育内容方法学特論	1	F	2		* 森山 賢一	○	○				

※科目担当者の*は非常勤講師を表す。
 ※教職欄の◎は必修科目, ○は選択科目を表す。
 ※セット履修科目は, 同時に履修すること。

<博士後期課程>

科目区分	系列	分野	授業科目	年次	学期	単位数		科目担当者
						必修	選択	
共通	共通		情報哲学	1	L	2		布広 永示 他
			博士特別研究	1~3	通年	6		各指導教員
			博士特別演習	1~3	通年	2		各指導教員



13. 教員免許について

1) 取得できる免許状

大学院総合情報学研究科で取得できる教員免許状の種類は、以下のとおりです。

専攻	課程	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
総合情報学専攻	博士前期課程	数学	情報・数学

2) 免許状取得の要件

- ①当該教科の中学校教諭または高等学校教諭の一種免許を取得していること。
- ②当該免許状の教科に関する科目（下記表を参照）から24単位以上（必修6単位含む）修得していること。
- ③修士の学位を有すること。

教職課程科目〈令和3年度以降入学生〉

免許状	科目名	授業科目	単位数		履修方法等
			必修	選択	
情報 (高校専修)	大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目	環境情報特論A		2	これらより 18単位選択 必修
		環境情報特論B		2	
		環境リモートセンシング特論A		2	
		環境リモートセンシング特論B		2	
		空間情報特論		2	
		データベース特論		2	
		ウェブアプリケーション特論		2	
		組込みシステム特論		2	
		情報ネットワーク特論A		2	
		情報ネットワーク特論B		2	
		ネットワークセキュリティ特論I		2	
		ネットワークセキュリティ特論II		2	
		分散・並列処理システム特論		2	
		マルチメディア特論		2	
ソフトウェア工学特論		2			
	教育の基礎的理解に関する科目	教育心理学特論	2		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育内容方法学特論	2		
		情報教育学研究	2		
数学 (中学専修) (高校専修)	大学が独自に設定する科目 教科及び教科の指導法に関する科目	数理科学特論A		2	これらより 18単位選択 必修
		数理科学特論B		2	
		暗号理論特論		2	
		複雑系情報科学特論		2	
		音響メディア情報特論		2	
		画像情報特論		2	
		人工知能システム特論		2	
		情報数理特論A		2	
		情報数理特論B		2	
		ソフトコンピューティング特論		2	
		データ解析特論		2	
		機械学習特論A		2	
		機械学習特論B		2	
			教育の基礎的理解に関する科目	教育心理学特論	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育内容方法学特論	2		
		情報教育学研究	2		

3) 履修の手続き

教員免許状の取得を希望する場合は、入学時のガイダンス期間に学生教務課に問い合わせること。

課外活動

課外活動



1. 願出が必要な施設利用について

以下の各種施設の利用は、団体（課外活動、ゼミ等）を対象としています。申請にあたっては、教員（顧問・部長・指導教授等）の承認が必要になります。

1号館（本館棟）教室の利用について

- ① 学生教務課で利用を申し出る。
- ② 学生教務課の教室台帳に必要事項を記入して仮予約をする。
- ③ HP書式集の「教室・体育館および学生会館共用施設利用願」をダウンロードし、必要事項を入力の上、学生教務課に提出する。（原則1週間前）
- ④ 教室を利用する。
※利用可能時間：平日16:30～19:00、利用可能教室：原則として1号館5階の教室（授業の入っていない教室）

4号館（総合情報センター）の利用について

- ① 学生教務課まで仮予約を申し出る。
- ② HP書式集の「課外活動団体の総合情報センター使用願」をダウンロードし、必要事項を入力の上、学生教務課（B 課外活動）に提出する。（原則1週間前）
- ③ 施設を利用する。
※利用可能施設：メディアホール、サブメディアホール
※利用可能時間：平日16:30～19:00
※教卓の機器を使用する場合は、原則として担当教員の立会いが必要。（部長、顧問、ゼミ教員等）

学生会館共用施設の利用について

- ① 学生教務課で利用を申し出る。
- ② 「学生会館共用施設予約表」に必要事項を記入して仮予約をする。
- ③ HP書式集の「教室・体育館および学生会館共用施設利用願」をダウンロードし、必要事項を入力の上、学生教務課に提出する。（原則1週間前）
- ④ 利用前に学生教務課にある「学生会館施設管理簿」に必要事項を記入し、鍵を受け取り、施設を利用する。
※利用可能時間 9:00～22:00
※利用可能施設 会議室・和室・多目的ホール・学生会館前広場
※共用室については自由に使用できることとする。特定の団体が占有することがないように利用する。占有の必要がある場合は学生教務課（B 課外活動）に1ヶ月前までに相談する。

平日夜間・終夜・休日の活動について（課外活動）

- ① HP書式集の「施設利用許可願（平日夜間・休日・終夜用）」をダウンロードし、必要事項を入力の上、1号館1階警備室「平日夜間・休日・終夜届専用ポスト」に提出する。（原則2日前）
※ポストへ投函する前に必ず担当教員の緊急連絡先と押印をもらってください。
平日夜間 22:00～24:00、終夜 22:00～翌日9:00

合宿届

- ① HP書式集の「課外活動団体合宿届」をダウンロードし、必要事項を入力の上、学生教務課（B 課外活動）に提出する（原則1週間前まで）
※合宿届未提出で事故に遭った場合、大学の保険が適用されませんのでご注意ください。

注意事項

- ・施設利用に関しては、クラブ・サークル・研究室（ゼミ）単位で利用の許可を行っています。個人での利用は原則できませんので、ご注意ください。
- ◇書式集アドレス<http://www.tuis.ac.jp/campus-life/download/>
書式集：情報大トップページ→学生生活→各種届出・様式ダウンロード→課外活動関連

2. 学友会

学友会は本学の学部学生及び教職員の全員をもって組織しています。課外活動をとおして会員相互の親睦と研鑽を図ることにより自立と連帯の精神を養うとともに、本学の発展に寄与し、あわせて社会への貢献を果たすことを目的としています。

有意義で、しかも潤いのある学生生活を送るためには、正課中の活動のほかに主体性をもって課外活動に取り組むことが重要です。各人が学友会のいずれかの団体に所属し、学友会行事に積極的に参加して下さい。(詳しいことは別冊子「諸規則諸規程」のP.59「東京情報大学学友会規程」を参照)

学友会の会員

- ◇特別会員：教職員
- ◆正会員：学部学生

学友会の組織及び役員

■総務部

- ◇総務部長 特別会員
- ◇総務部長補佐 特別会員
- ◆総務部執行委員 正会員

学友会の執行委員で、予算の編成、行事の企画運営などにあたります。正会員から公募し「役員会(特別・正会員で構成)」で承認します。

■課外活動団体

- ◇文化部部長 特別会員
- ◇運動部部長 特別会員
- ◆文化部幹事 正会員
- ◆同好会代表 正会員
- ◇同好会顧問 特別会員
- ◆運動部主将 正会員

文化部、運動部、同好会が活動しています。

■翔風祭実行本部

- ◇翔風祭実行本部長 特別会員
- ◇統括顧問 特別会員
- ◇実行委員会委員長 正会員
- ◇実行委員会副委員長 正会員

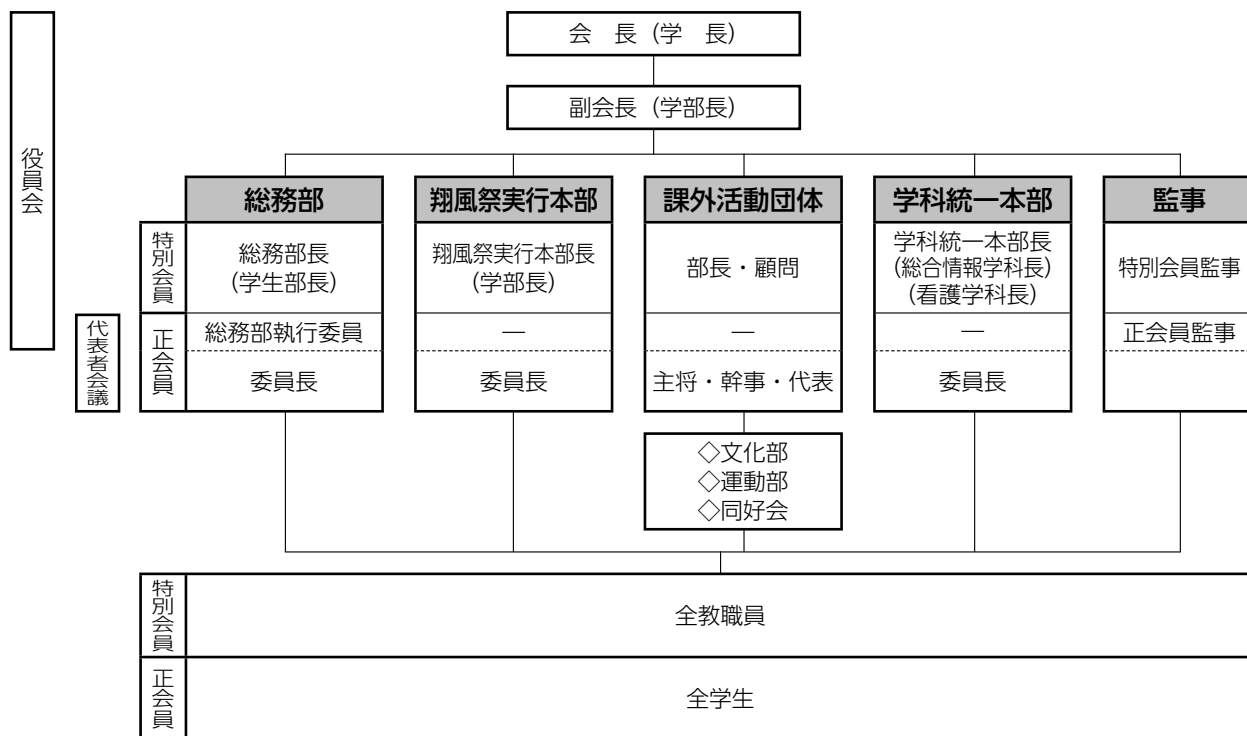
■学科統一本部

- ◆学科統一本部長 特別会員
- ◇統括顧問
- ◇委員会担当顧問

■監事

- 特別会員
- 正会員

東京情報大学学友会組織図



学友会行事

- 学友会オリエンテーション
 - 学友会レクリエーション大会
- 夏と冬の2回開催を予定しています。

◎翔風祭

2022年度は10月22日(土)，23日(日)の2日間にわたって開催します。翔風祭(学園祭)は日頃の教育研究活動の成果を学内外に披露する貴重な機会です。この機会を積極的に利用しましょう。

[主な内容]

文化学術展(ゼミの研究発表，課外活動の作品展示など)，特別企画(芸能人によるライブ，講演会，ステージ企画)，模擬店

◎卒業パーティー

「卒業パーティー」は，学友会が主催し，教職員・後援会(父母)・校友会(OB・OG)にもご参加いただき，卒業生をお祝いする会として例年卒業式(3/25)終了後，千葉市内で開催しています。

また，卒業生の負担軽減を行うため，参加費は無料とし，学友会予算及び大学関連団体からの寄付等で開催していますので，卒業生(卒業年次生)は奮ってご参加ください。

学友会 役員一覧(2021年度実績)

役 職 名	職 名	氏 名
会長	学 長	鈴木 昌治
副会長	学 部 長	藤井 博英
総務部長	学生部長	朴 鍾杰
総務部長補佐(会計担当)	教 員	内田 治
総務部長補佐(総合情報学科担当)	教 員	高橋 洋平
総務部長補佐(外国人留学生担当)	教 員	茂住 和世
総務部長補佐(看護学科担当)	教 員	時田 礼子
監事(外部専門家)	外部委員	斎藤 隆
監事	職 員	六崎 光浩

翔風祭実行本部長	学 部 長	圓岡 偉男
統括顧問	教 員	樋口 大輔
実行委員会担当顧問(総合情報)	教 員	マッキンケルジエム
//	教 員	藤原 丈史
実行委員会担当顧問(看護)	教 員	時田 礼子
//	教 員	山野内 靖子

学科統一本部長(総合情報)	学 科 長	井関 文一
学科統一本部長(看護)	学 科 長	細川 満子
卒業パーティー担当顧問	教 員	大城 正典
//	教 員	児玉 悠希



課外活動団体一覧
(2021年度実績)

《学友会：2》

団 体 名	部 長	活 動 内 容
総務部執行委員 (gakuyu1)	朴 鍾杰	学友会諸行事の企画・運営
翔風祭実行本部 (showsai)	圓岡 偉男	翔風祭の企画・立案・運営

《文化系団体（部）：5》

団 体 名	部 長	活 動 内 容
Wind Ensemble (winden)	圓岡 偉男	コンサート活動
L.V.T (Laboratory of VideoTechnologies) (lvt)	藤田 修平	映像作品の制作
軽音部 (keion)	西村 明	L I V E活動
コンピュータ部 (computer)	村上 洋一	ゲーム用ソフトウェアの制作
Digi-Graph (dgraph)	中島 淳	CG技術の向上, 資格取得

《運動系団体（部）：5》

団 体 名	部 長	活 動 内 容
硬式野球部 (baseball)	圓岡 偉男	千葉県大学野球連盟1部
サッカー部 (soccer)	山口 豊	千葉県大学サッカー協会1部
バドミントン部 (badmin)	富田 瑞樹	関東学生バドミントン連盟3部 千葉県学生バドミントン連盟1部
バレーボール部 (volly)	高橋 洋平	関東学生バレーボール連盟
陸上競技部 (rikujyo)	石井 政弘	関東学生陸上競技連盟

《同好会：11》

団 体 名	顧 問	活 動 内 容
バスケットボール同好会	河野 義広	バスケットボールを中心とした活動
Roger rabbits	朴 鐘杰	ダンスの練習, 大会参加
イラストレーション同好会	中島 淳	イラストの制作・発表
ディアバスター	マッキンケスジェームス	サバイバルゲームを中心とした活動
B-HOBBY	鈴木 英男	ボードゲームの制作, テーブルゲームの遊覧・振興, 会報の発行
FANTASISTA	吉澤 康介	フットサルを中心とした活動
留学生交流会	朴 鍾杰	留学生相互の親睦活動
医療・福祉同好会	内湊 恵子	被災地支援, 医療関係の勉強会 他
テニスサークル P-Easter	松下孝太郎	テニスを中心とした活動
Digi-Creation	西村 明	PC音楽, 3DCG, プログラミング等創作活動
Network and System Security 同好会	森口 一郎	情報ネットワーク, システムセキュリティ等の基礎知識と最新動向を学ぶ

※興味のある団体があった場合、顧問の先生にお尋ねください。



キャリア・就職



就職活動について

～就職活動の動向～

昨年の就職活動については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、対面によるイベントの開催制限、選考・インターンシップのWeb・オンライン化といった環境の変化がありました。オンラインを利用した就職活動では、効率的に多くの企業と出会えることや交通費が節約できるというメリットがある一方で、企業の雰囲気分かりづらさや通信環境の整備など対面とは異なる準備が必要になるというデメリットもあります。2023年卒以降の就職活動についてもオンラインと対面の併用が見込まれ、早めの対策が内定獲得の鍵となると考えられますので、早いうちからご自身の進路について考え対策を進めましょう。

また、看護学部の学生の就職については、昨今の看護師不足・看護師の役割の多様化等に起因し、現在のところ就職活動（病院等）は、売り手市場の中で推移しています。しかし、大学での学びや専門性、職場の特性を考慮したうえで就職（病院等）選びが必要となります。

なお、国家試験合格が就職の大前提ですので、1年次から着実に学習を進めながら、自身の将来設計、ライフワークバランス等についても十分に考えることが重要です。

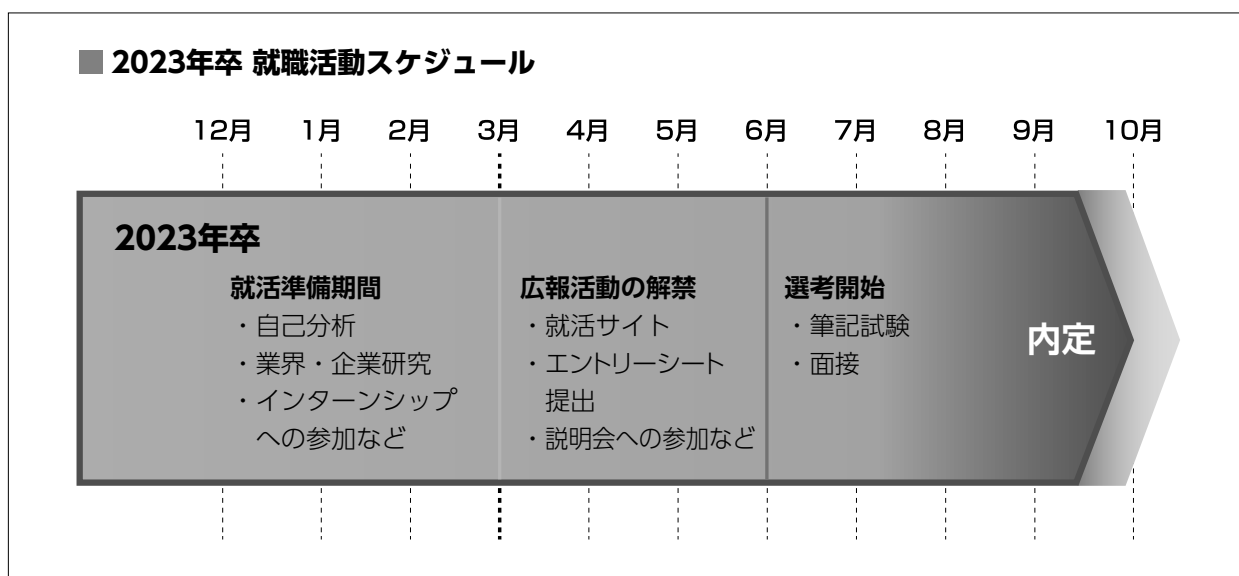
是非、今日から卒業後の就職について意識を高めつつ大学生活を充実させてください。

～就職活動スケジュール～

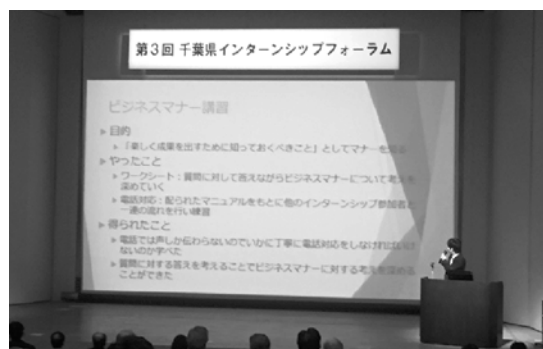
就職活動時期は、一般社団法人 日本経済団体連合会が、現在のルールを撤廃することを発表し、政府主導で決定することとなりましたが、当面は現行のスケジュールを維持することが見込まれます。

下の図は「2023年卒の就職活動スケジュール」です。

1年次生にとっては、まだ先のことでイメージするのは難しいかもしれませんが、今から就職活動スケジュールの動向をチェックし、将来の就職活動に役立ててください。



東京情報大学には、みなさんの就職を全面的にサポートする体制が整っています。キャリア形成科目や就職支援行事など積極的に参加し、キャリア課を最大限に活用してください。



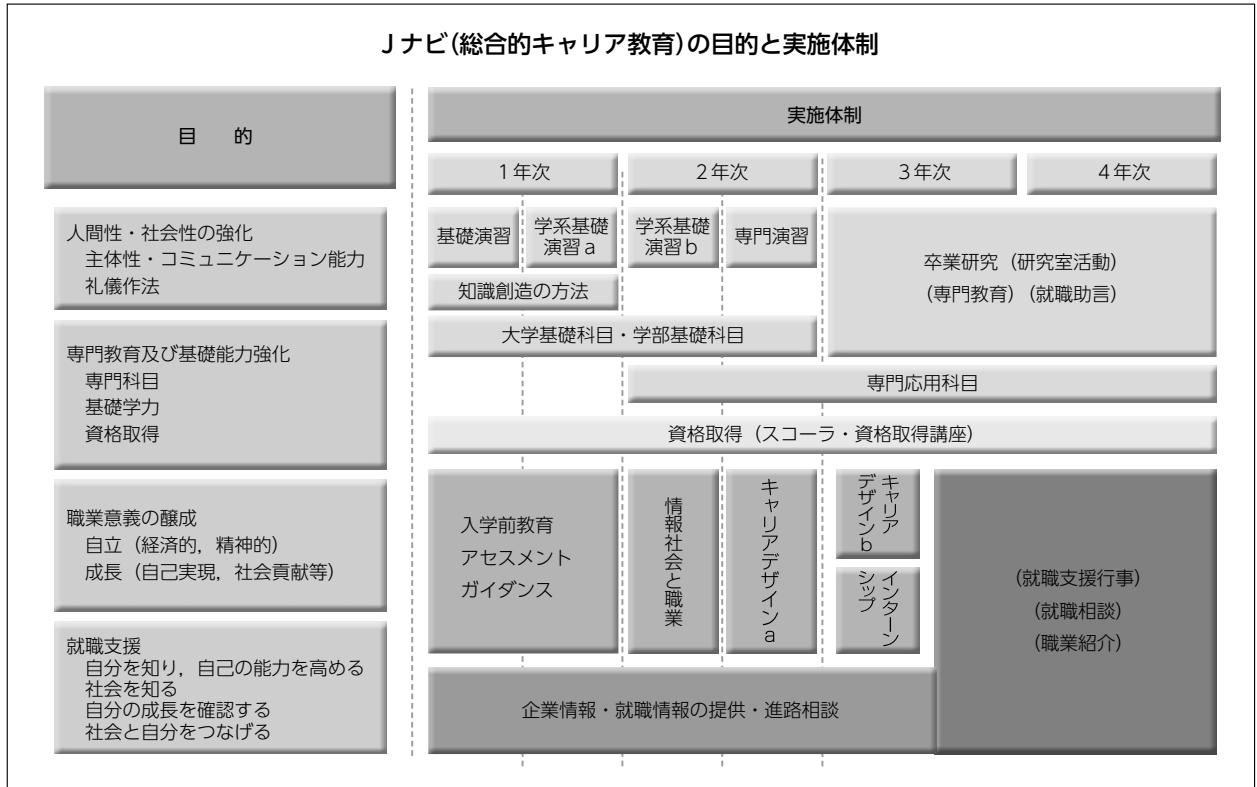
総合情報学部の総合的キャリア教育（Jナビ）

I 総合情報学部の総合的キャリア教育（Jナビ）について

総合情報学部では、すべての学生が、大学生活のなかで「なりたい自分」や「なれる自分」について考え、「満足いく進路（就職、進学など）選択」ができるように、「職業意識の醸成」、「就職支援」、「対人能力強化」および「現代実学主義を目指す専門教育および基礎能力強化」を4本柱とする「Jナビ（総合的キャリア教育）」を実施しています。ここに全体像を紹介しますので、是非、対象となるプログラムを活用してください。

(1) 総合的キャリア教育の取組み

総合情報学部では、キャリア形成系科目や就職支援行事などを体系的にとらえるために、総合的キャリア教育としての全体像をまとめましたので、下記の表を参考にしてください。



(2) 総合的キャリア教育に期待できることは何か

総合的キャリア教育では、様々な取組みを通して、皆さんに将来の自分をイメージしてもらい、自分にとっての生きがい、職業人としてのやりがい、自立・独立、経済的安定、社会への貢献、ライフスタイルなど多様な価値観を形成することに力を入れています。皆さんが、それぞれの目的（進路を決め、主には就職によって、社会に巣立つこと）と目標（なりたい自分・なれる自分）を持ち、さらには理由付け（目標に到達するために何を体得すべきなのかを考えること）を行い、行動できる人材となることを目標としています。

(3) 主なキャリア科目

- ① 「情報社会と職業」（共通キャリアデザイン科目、2年前期）は、(i)社会情勢および就職を巡る全般的状況の理解、(ii)どのような職業があるかの理解、(iii)労働の意義の理解、(iv)就職に際しての心構えの育成を目指します。この科目は、現在の社会情勢や様々な業種の実情等を理解することを目的としているため企業経営者、採用担当者、職種別エキスパート、卒業生など各現場で業務に携わっている人を講師として招くオムニバス講演形式です。

「情報社会と職業」～社会を知る～ (参考)

No.	タイトル
1	①社会情勢と新卒雇用状況 ②総合情報学部のキャリア教育の理念とその目的
2	業種(産業)研究と職業選択
3	就職汎用適性検査(GPS-Academic)
4	社会変化に伴い今後の働き方について
5	自分の強みをのばす①～自己理解を深める～
6	自分の強みをのばす②～大学で伸ばしたい力を考える～
7	将来について考える
8	仕事について考える
9	自分の適性を考える～就職汎用適性検査を受けて～
10	業界の実情と求められる資質・人物像1(情報・通信)
11	業界の実情と求められる資質・人物像2(公務員と国家資格)
12	①職業に求められる適性 ②職業に必要な基礎学力
13	目標と行動計画を立てる
14	学生生活とキャリア形成
15	総括

- ②「キャリアデザインa」(共通キャリアデザイン科目, 2年後期)は, 自己分析, 職業基礎力検査などにより「自分の成長を確認する」ことを中心に行います。またマナー講座などでは, ペアワークなど体験型学習も取り入れコミュニケーション能力の基礎を身につけます。

総合的に卒業後の進路決定に不可欠となるキャリア形成に必要なことを学びます。

「キャリアデザインa」～自分の成長を確認する～ (参考)

No.	タイトル
1	キャリアデザインaとは
2	マナーとコミュニケーション①～社会人になること～
3	マナーとコミュニケーション②～自己開示とフィードバック～
4	マナーとコミュニケーション③～話のきき方～
5	マナーとコミュニケーション④～社会人基礎力を考える～
6	マナーとコミュニケーション⑤～長所と短所～
7	クリティカルシンキングを身につける①
8	クリティカルシンキングを身につける②
9	クリティカルシンキングを身につける③
10	ロジカルライティングを身につける①
11	ロジカルライティングを身につける②
12	ロジカルライティングを身につける③
13	内定者が「就職活動」を語る
14	将来に向けて行動する
15	「キャリアデザインa」を今後にかす

- ③「キャリアデザインb」(共通キャリアデザイン科目, 3年前期)は, 「社会と自分をつなぐ」ことに達成目標を置き, その実践について学びます。卒業後社会人として働く場を企業等に求めることとなりますが, 企業等は求める人材を就職試験等で判断します。このため就職試験を一つの切り口として, 基礎的学力, 社会人常識, ビジネスマナー, 職業人意識などに関する就職基礎力の必要性を実践的に理解します。



「キャリアデザインb」～社会と自分をつなぐ～ (参考)

No.	タイトル
1	社会と自分をつなぐために
2	就職活動を理解する
3	自己分析Ⅰ ～自分の強みを生かした仕事選び～
4	自己分析Ⅱ ～自分の特徴を知ろう～
5	自己分析Ⅲ ～エントリーシートの基礎を知る1～
6	自己分析Ⅳ ～エントリーシートの基礎を知る2～
7	就職活動のための情報収集
8	職業と業界を理解する
9	筆記試験の目的と概要
10	筆記試験対策①-1 ～SPI攻略講座①～
11	筆記試験対策①-2 ～SPI攻略講座②～
12	一般常識模擬試験
13	卒業生が「仕事」を語る
14	就活身だしなみ講座
15	「キャリアデザインb」を今後に生かす

- ④「インターンシップ」(共通キャリアデザイン科目, 3年)は, 事前ガイダンス(情報社会の概説, 企業研究, マナー講座)を経て, 就業体験を行い, 体験報告会や報告書を作成します。この科目では「職業観の育成」, 「キャリアデザインの構築」, 「専門教育へのフィードバック」などの展開を目指します。
(インターンシップとは, 在学中に企業等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです)

(4) 就職支援行事

【前期】～就活対策を知る～ (参考)

No.	タイトル
1	公務員ガイダンス
2	就職活動支援ガイダンス
3	外国人留学生就職ガイダンス
4	U・Iターン就職ガイダンス
5	夏期インターンシップ講座
6	身だしなみ講座
7	筆記試験対策② ～言語・非言語Web模擬試験～

【後期】～就職活動対策～ (参考)

No.	タイトル
1	就職ガイダンス
2	筆記試験対策③ ～CAB・GAB模擬試験～
3	筆記試験対策④ ～WEBテスト玉手箱型～
4	筆記試験対策⑤ ～SPI模擬試験～
5	筆記試験対策⑥-1 ～エントリーシート対策講座①～
6	筆記試験対策⑥-2 ～エントリーシート対策講座②～
7	筆記試験対策⑥-3 ～エントリーシート対策講座③～
8	グループディスカッション力向上セミナーⅠ
9	グループディスカッション力向上セミナーⅡ
10	WEB面接対策講座
11	WEB模擬面接～実践編～
12	グループディスカッション対策講座
13	就活スタートアップ講座 ～エントリー・合同企業説明会～
14	就職活動用証明写真・学内撮影会
15	就活スーツの選び方
16	学内業界セミナー
17	就活ナビの活用について
18	千葉県29大学合同開催「就活応援セミナー」
19	学内合同企業説明会

※キャリア課では, 上記の就職支援行事のほか, 個別・集団によるエントリーシート対策, 履歴書添削, 模擬面接, 就職相談・紹介を随時行っています。是非キャリア課を活用してください。

看護学部のキャリア支援プログラム

I 看護学部のキャリア支援プログラムについて

看護学部のキャリア支援プログラムは、「自律と共創」をキーワードとし、デザイン思考、経験学習、協同学習を通して、看護職としての長い職業生活の準備と出発を支えます。

1年次の授業開始前のフレッシュマンキャンプから、職業人としての基礎力である「社会人基礎力」を養うプログラムが始まります。看護学部の全教育課程が、地域で貢献する看護師づくりのプログラムとなっています。特に象徴科目「キャリアデザインとケア」では、1年次から4年次まで段階的に学びながら、看護職としてのキャリアを描いていきます。さらに1年次から、看護師・保健師国家試験対策や就職準備に対して、看護学部教員とキャリア課が支援していきます。

(1) 「キャリア支援プログラム」の全体像



(2) キャリア支援プログラムに期待できることは何か

①フレッシュマンキャンプから始まるキャリア教育

フレッシュマンキャンプは大学生活に慣れていくための機会です。看護学部に入學した学友と共に4年後、卒業に必要な単位を修めて卒業し、看護師国家試験・保健師国家試験合格を目標とします。フレッシュマンキャンプは、これから共に学ぶ仲間づくりの場でもあり、看護職として生涯学び続けるための基礎力をつけていく準備として位置付けています。

②全教育課程が看護師としてのキャリア教育

看護学部の全教育課程が看護師としての基礎教育課程であり、キャリア教育の一部として位置付けています。基礎科目や専門基礎科目は看護学を広く支える学問領域であり、専門科目である各看護学とともに重要です。全教育課程が看護職として必要な素養を育み、生涯教育としての看護教育の基礎をなしています。



(3) 象徴科目「キャリアデザインとケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

象徴科目「キャリアデザインとケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を4年間かけて段階的に学び、看護職としてのキャリアデザインを描きます。1年次には、基礎実習に加え、地域包括ケア実習を行い様々な場で活躍する看護職に出会い、看護について考える機会とします。2年次にはインタビュー経験を通して聴く力を育むと共に、看護職としてのキャリアを積み上げることを理解します。3年次には、多様なキャリアを視野におさめつつ、自己の方向性と可能性を追究していきます。4年次には、モデルとなる先輩看護師のキャリアを参考にしながら、「地域で活躍する看護職としての私のキャリアデザイン」についてプレゼンテーションを行います。

【キャリアデザインとケアⅠ】1年前期（参考）

主体的に学ぶ基礎力を養う。

No.	タイトル
1	大学で学ぶということとキャリア形成
2	コミュニケーション1（伝える）
3	コミュニケーション2（読む）
4	コミュニケーション3（書く）
5	書くためのトレーニング1（読み取る）
6	書くためのトレーニング2（要約する）
7	ディスカッションスキル／プレゼンテーションスキル
8	キャリアデザインを描くために～キャリアデザインカードとポートフォリオ～

【キャリアデザインとケアⅡ】2年前期（参考）

お互いを尊重しあう関係性の中（授業でのチーム活動や課外活動）から学びを深め、「人々とともに生きる」ことを理解する。

No.	タイトル
1	対話とは何か
2	コミュニケーションの進化と深化
3	対話によるポジティブな人間関係
4	ポジティブ心理学基礎
5	インタビュースキルの基礎
6	インタビューから関係性を深める
7	プレゼンテーションの方法
8	インタビュー結果のプレゼンテーションと講評

【キャリアデザインとケアⅢ】3年前期（参考）

様々な分野で活躍する看護職へのインタビューやモデル協力者へのインタビューの実際を通して、職業人として生きることについて考える。

No.	タイトル
1	職業人としての生きるとは
2	アカデミック・ライティング基礎その1
3	アカデミック・ライティング基礎その2
4	生涯教育のキャリアサポート
5	本学部卒業生による体験談
6	看護職の職業人としての生き方（ゲストスピーカー）
7	キャリアデザインとキャリアポートフォリオ
8	私のキャリアデザインの方向性

【キャリアデザインとケアⅣ】4年後期（参考）

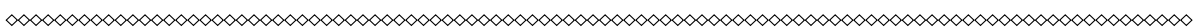
地域で活躍する看護職としての自分のキャリアを描く。

No.	タイトル
1	キャリア開発とクリニカルラダー
2	地域で活躍している先輩のキャリアデザイン1
3	地域で活躍している先輩のキャリアデザイン2
4	自分自身のキャリアを思い描く グループワーク
5	キャリアに関する理論
6	キャリアアンカーによる自己洞察
7	「地域で活躍する私のキャリアデザイン」発表
8	「地域で活躍する私のキャリアデザイン」発表

(4) 就職準備・支援行事

実習の他、職場訪問やインターシップ体験等を重ねながら、自分に合った就職先を決めていきます。キャリア課では看護学部教員の協力により就職説明会や就職準備講座を開催します。また、必要に応じて奨学金に関する相談や申請事務手続きを支援します。

なお、キャリア課では、上記の就職支援行事のほか、個別・集団によるエントリーシート対策、履歴書添削、模擬面接、就職相談・紹介を随時行っています。



キャリア・アシスタント

就職内定した4年生が、就活サポートを行っています。(10月～2月) 就職活動を終えたばかりの4年生と接することで貴重な情報や経験を得ることができます。


ぜひ、キャリア・アシスタントが企画するイベントなどに参加してください。

学生の学生による学生のための

学生キャリア・アシスタント

学生による就活サポート集団。
それが**学生キャリア・アシスタント**です。

内定を獲得した学生たちが、自らの経験を活かしながら学生自らの「就活サポート」を企画・運営していきます。就職活動を通して、学生自らがモチベーションを高めていく環境づくりが目標です。



キャリア・アシ
Facebook

キャリア支援プログラム、学内・学外で行なわれる就職関連イベント、就活生の活動報告など、役立つ情報を私たち学生キャリア・アシスタントがリアルタイムに発信しています。


学生キャリア・アシスタント

キャリアアシ

「候補生」募集!

内定を獲得した4年生が中心となって、皆さんの就職活動を応援する「学生キャリア・アシスタント」。その候補生として、学生キャリア・アシスタントと一緒に活動してみませんか!

学生キャリア・アシスタント候補生の詳細については、キャリア課までお問合せください。



キャリア課を利用する

I キャリア課の紹介

キャリア課では、キャリア形成・就職に関する情報を収集・整理し、皆さんの資料として提供するとともに、進路や就職活動の相談・指導および企業開拓、就職斡旋など、キャリア課スタッフが皆さん一人ひとりの“満足いく進路選択”をバックアップしています。

キャリア課開室時間：月～木 午前9時～午後5時30分、金 午前9時～午後5時

(1) 就職相談は気軽に

就職活動は、進路選択の方向性や進め方が一人ひとり異なるものです。キャリア課では、個々のニーズに合わせたきめ細かい対応を行うため、企業の採用経験者やキャリアアドバイザーなどのスタッフが常駐しています。進路に関する不安や就職活動についてのアドバイス、採用試験対策（履歴書・エントリーシートの添削、模擬面接）などの個別相談・指導にも応じています。

(2) キャリア課からの情報提供

企業からの求人票、会社案内、会社説明会情報をはじめ、先輩たちの就職活動記録など、就職活動に直接役立つ資料を整備しています。その他にも、キャリア形成につながる資格取得関連の書籍や就職活動に関する資料・書籍（自己分析、企業研究、筆記試験対策・面接対策など）を取り揃えるなど、就職活動をスムーズに行うための情報提供に努めています。

◎就職活動報告書

内定までの経過・採用試験の内容・後輩へのアドバイスなど、就職活動の記録を年度別にファイリング

◎就職関連書籍・雑誌

新聞や就職関連書籍、ビジネス雑誌の閲覧が可能。就職関連書籍は貸出可（1人3冊まで、期間は1週間）

(3) J-port (就職)

J-portにて、キャリア形成・資格取得・就職に関する情報発信を行っています。学内・学外で利用できます。また、進路が決まった際の報告についてもJ-Portを利用し、4年生全員に報告をお願いしています。

(4) キャリア課掲示板

学外のイベント情報（セミナー開催情報、合同企業説明会・会社説明会開催情報、インターシップ情報、U・Iターン情報、資格取得対策講座など）、キャリア課に寄せられた求人情報や企業情報、就職戦線に関する資料など、就職活動に役立つ情報を掲示しています。



II キャリア課配置図

キャリア課資料室内の配置図と主な資料の設置場所は以下のとおりです。
不明な点はキャリア課スタッフまで気軽に声をかけてください。



資料コーナー — 1

求人情報や企業説明会、インターンシップ等の就職活動に関する案内を掲載しています。ここでしか得られない耳寄り情報もあるので、こまめにチェックしましょう！
※キャリア課掲示板は、1号館正面玄関前及び120教室前通路です。

個別相談ブース — 2

履歴書やESの添削、模擬面接や求人企業の紹介など、学生一人ひとりに合わせた就職相談が受けられます。1人で悩まず、まずは相談してみましょう！

フリースペース — 3

求人票を見るのもよし、就活本を読むのもよし、就活について話すのもよし、このフリースペースを情報収集の場として活用してください。ここに集まれば、きっと就職仲間ができます！みんなで内定をつかみ取りましょう！

<キャリア課の就職支援について>

キャリア課の就職支援について映像で公開しています。ホームページより、閲覧可能となっております。以下、URLよりご確認ください。

<http://www.tuis.ac.jp/recruit/support/event/>



進路に関する手続き及び就職状況について

I 進路に関する手続き

(1) 進路希望登録

東京情報大学では、就職、進学に関わらずすべての3年次生を対象にJ-portにて進路希望登録をしていただきます。進路希望登録をすることで、求職登録が完了します。この求職登録は「職業安定法」によって義務付けられている行為で、登録することによって大学からの就職斡旋や推薦書の発行、履歴書(本学指定)の無料配布など、就職活動に必要なサポートを受けることができます。また、学生一人ひとりの希望に合わせた進路指導や企業情報の提供、就職活動の進捗状況に沿ったアドバイスなどのきめ細かいサポートにつながります。

《実施手順》

1. J-port内「キャリア／就職」より、キャリアデザインカードのデータをダウンロードする。
2. キャリアデザインカードに記入し、各担当教員から指導を受ける。
3. キャリアデザインカードを基にJ-portにて「進路希望登録」を行う。

※作成したキャリアデザインカードはキャリア課に提出していただく必要はありませんが、履歴書を作成する際のベースになりますのでご自身で大切に保管してください。



(2) 最終的な進路に関する手続き

卒業後の進路が確定した学生は、J-portを利用しての報告が必要となります。あなたの卒業後の進路として記録される大事なデータとなりますので、必ず提出してください。

①進路届

企業から内定を受けた学生や進学など、卒業後の進路が決定した学生は進路届の提出が必要です。進路届は、キャリア課への提出が義務付けられている重要な書類です。登録方法はJ-Portにログインし、就職活動状況タブより、登録をお願いします。

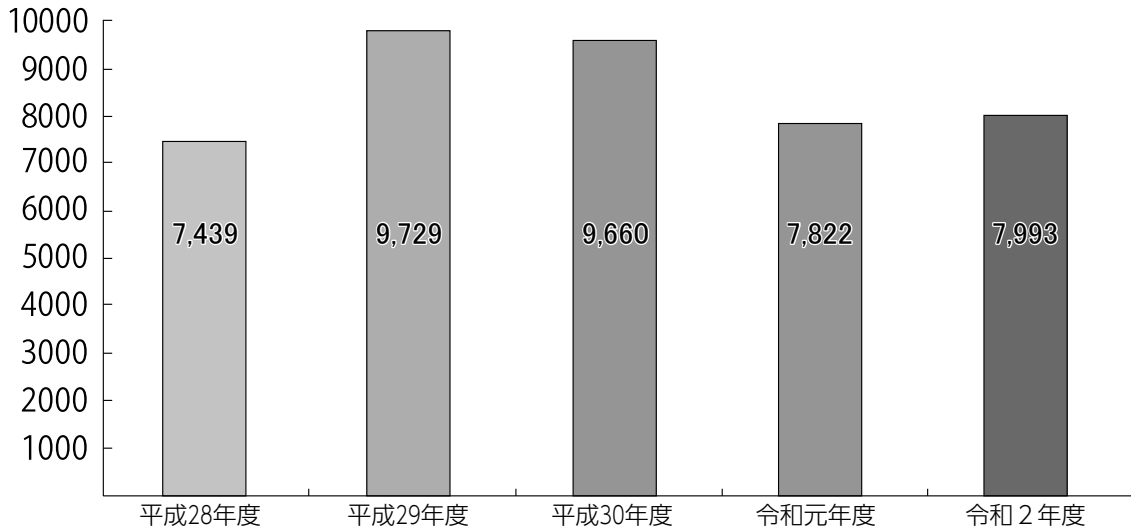
②就職活動報告書・就職活動アンケート

皆さんの就職活動の体験を後輩の就職支援に活用することを目的として、就職活動報告書・就職活動アンケートを実施しています。



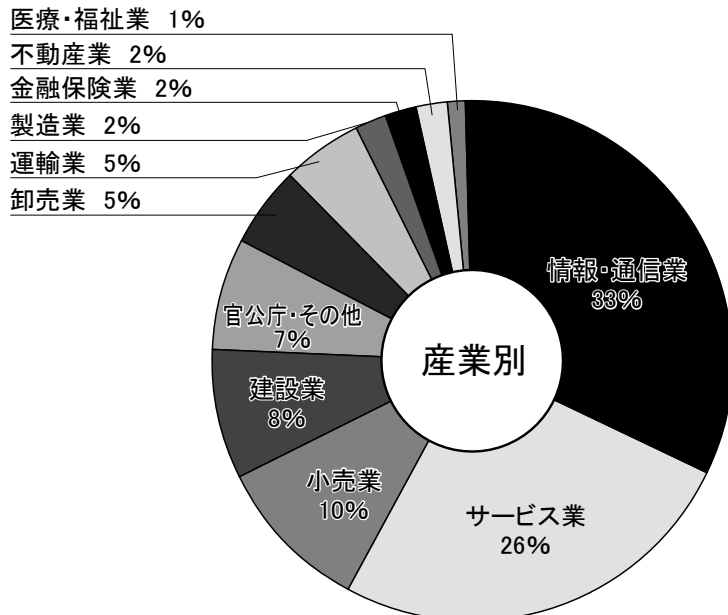
就職状況

1) 求人状況 (求人社数 過去4年含む)

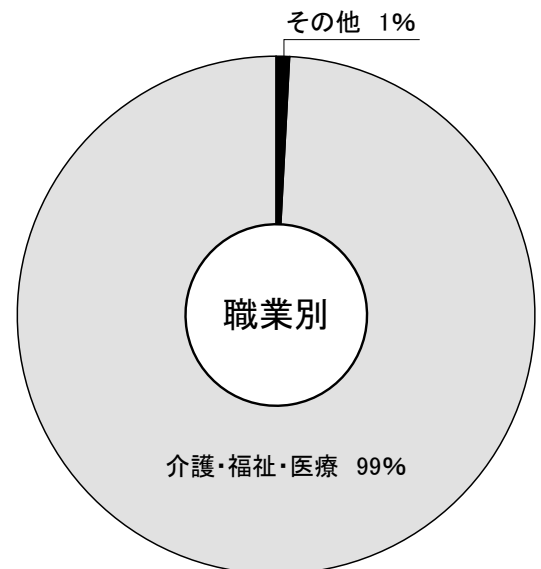
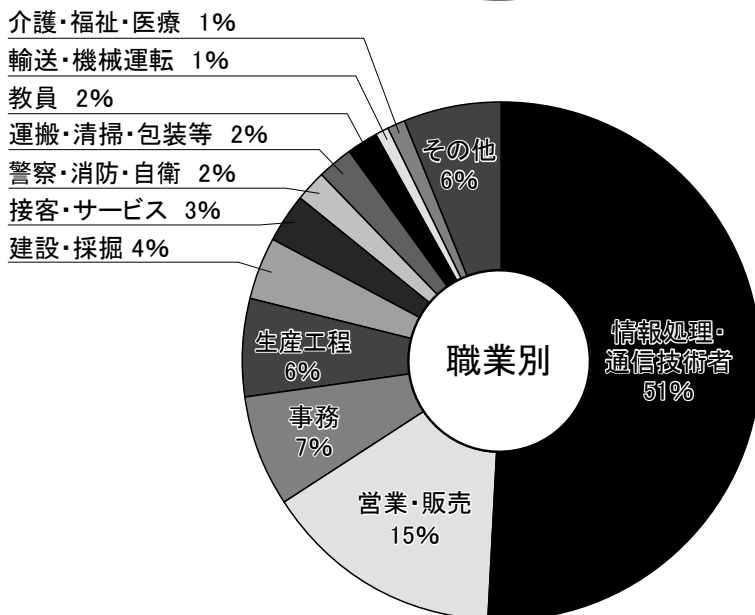
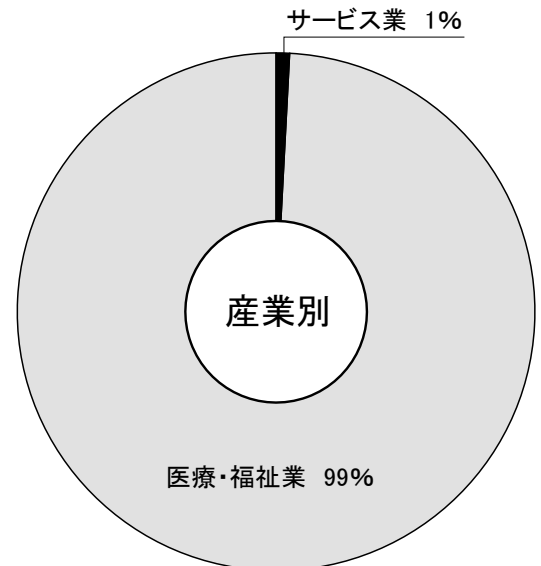


2) 令和2年度業種別・職種別就職状況

〈総合情報学部〉



〈看護学部〉



資格取得対策について

I 総合情報学部の資格取得について

(1) 資格取得対策講座（スコーラ）

総合情報学部では、特定の資格取得に向けて興味と意欲を持った方を支援する課外講座“スコーラ”を設置しています。

このスコーラは、皆さんの資格取得を専門的な教育指導を重点に行います。受講料は無料です。詳しくは各指導担当教員へ問合せをし、是非、受講してください。

資格取得のメリットは 1.基礎知識および専門知識の一定の証明 2.学習習慣が身に付く 3.目標を設定し、努力して取得した資格は、就職活動にも大変有利になります。

スコーラ (Sciola) とはイタリア語で、英語のschoolとほぼ同じ意味です。

スコーラ分野	指導担当教員	主な目標	主な活動内容
コンピュータスコーラ	森口 一郎	ITパスポート 基本情報技術者 応用情報技術者 CCENT CCNA	模擬試験の実施、試験区分別の対策講座、夏期強化講座の開催など。また、基本情報技術者で必要とされるJava、C言語やWindows, UNIX, Ciscoルータの操作方法などの実技。
IPA情報処理技術者集中講義スコーラ	朴 鍾杰	基本情報技術者試験の午前試験免除	本スコーラは10月と11月に実施する基本情報午前免除試験に合格するためのスコーラである。そのためには、2年間決められた授業科目を履修し、夏休みの集中講義を受ける必要がある。午前免除試験に合格すれば、その後の1年間基本情報技術者試験の午前試験が免除され午後試験に集中できる。
AIスコーラ	マッキン ケネジエムス	G検定（ジェネラリスト検定）	日本ディープラーニング協会が主催するAI検定であるG検定（ジェネラリスト）合格を目指す。合格に必要な知識の講義、模擬試験と解説などを実施する。また、理解を深めるためにPCを用いた演習も取り入れる。
Microsoftスコーラ	マッキン ケネジエムス	Microsoft Office Specialist Office 365 & Office 2019 Excel Microsoft Office Specialist Office 365 & Office 2019 Word	テキストを用いた試験範囲の講義、および問題集を用いた試験問題解説を夏季・春季休業期間に集中授業（夏季4日間、春季4日間程度）として実施する。
マルチメディアスコーラ	中島 淳	CGクリエイター検定	過去問・予想問題の解説試験対策演習、検定試験（学内受験）の実施等。受講生には問題集・参考図書を貸与し自宅学習も応援。
日本語・コミュニケーションスコーラ	茂住 和世	日本漢字能力検定準2級・2級 ビジネス能力検定(ジョブパス) 2級・3級 (外国人留学生対象) 日本語能力試験N1・N2 BJTビジネス日本語能力テストJ2・J1	どの学系であっても必要な、就職に役立つ諸資格の取得を目指す。問題集や参考図書の紹介・貸与、メールによる指導も行う。

※受講については、各指導担当教員にお問い合わせください。

(2) その他 各種試験対策 (キャリア課支援講座等)

試験対策	内容	その他
公務員試験対策講座	対策講座の実施, 模擬試験実施	有料講座 公務員試験の第一関門である教養試験の突破を目指し、基礎力を養うとともに、公務員試験問題の特徴とその攻略法の会得に努めます。(全20回) 夏季休業期間中には専門試験対策の集中講座も実施します。
日商簿記検定 (3級)	対策講座の実施	有料講座 日商簿記検定は会計の基本的な資格です。 会計の最も基本である商業簿記の知識が身につく、就職活動をする学生だけでなく、ビジネスパーソンにも必須の資格です。 貸借対照表や損益計算書など、財務諸表を理解するための知識が身につきます。
秘書技能検定 (2級)	対策講座の実施	有料講座 秘書技能検定は、「社会人基礎力」を証明する資格です。 入社前に必ず身に付けておかなければならないビジネスマナーや一般常識を、秘書技能検定の学習により身につけます。

II 看護学部の看護師・保健師国家試験対策について

国家試験対策は主体的に各学生が1年次からの学習を進めていきます。

- ① 電子テキストで専門基礎科目・専門科目の自主学習を支援する
- ② 国家試験対策用 e ラーニングによる支援
- ③ 1~3年次では、低学年国家試験模擬試験による学習の動機づけを図る
- ④ 3年次3月から4年次にかけて模擬試験を2カ月に1回実施
- ⑤ 4年次では国家試験対策の外部業者による補習講義を実施
- ⑥ 4年次後期では専任教員による補習講義を実施
- ⑦ 4年生後期では、ゼミ担当教員が学習を支援する



情報サービスセンター

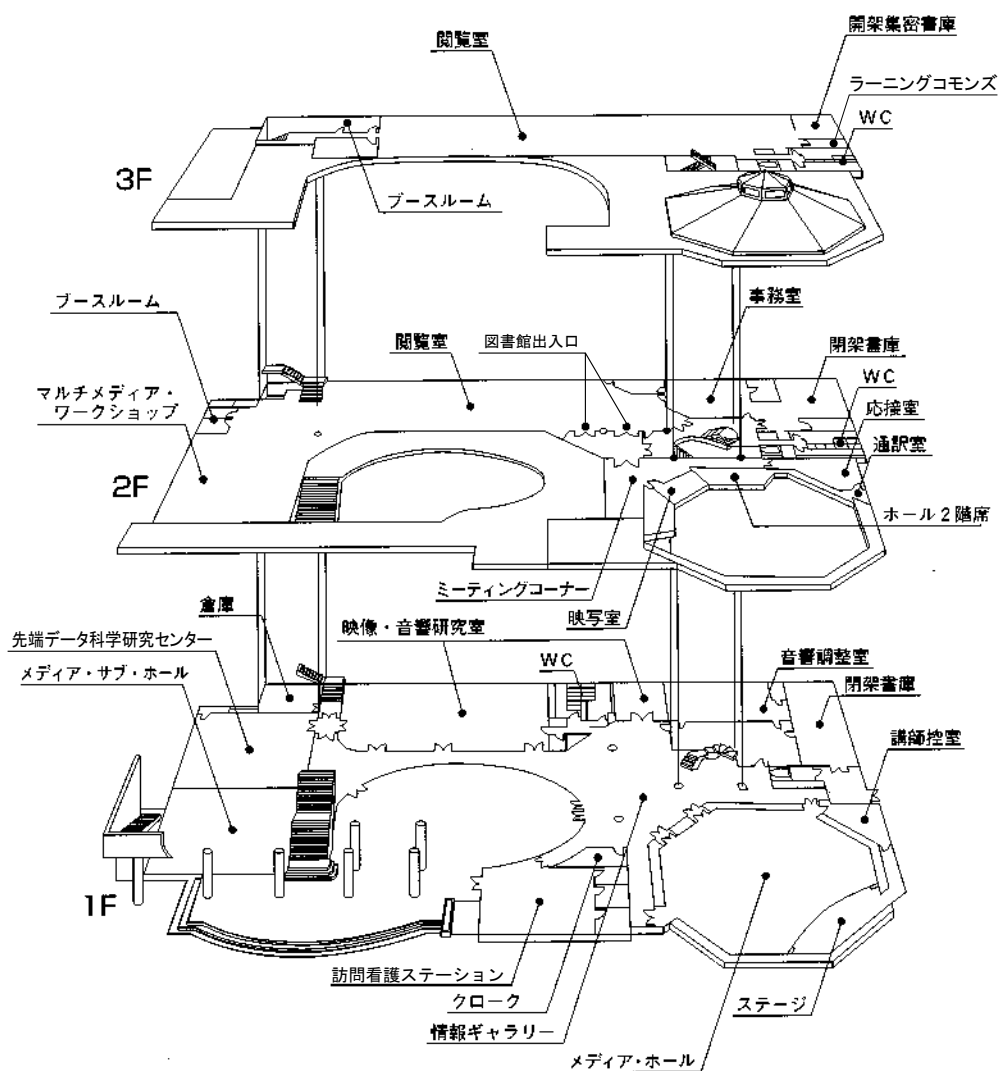


〈図書情報部〉（4号館・総合情報センター棟）

1. 図書情報部の概要

情報サービスセンター（以下「センター」と称する）図書情報部では、本学における教育・研究に必要な図書、視聴覚資料等の収集・整理・提供を行うとともに、様々な教育・研究活動の支援を行っています。

2. 総合情報センター棟展開図



3. ライブラリー・エリア

センター2～3階にあるライブラリー・エリアでは、図書約130,000冊、雑誌約1,600タイトルのほか、DVDの視聴覚資料を収集しており、これら資料の館内閲覧を自由に行うことができます。

センター所蔵の図書・雑誌は、館内の蔵書検索用端末(webOPAC)や、インターネットを通じて、学内外からの検索が可能です。(OPAC2台・各種DB用6台)

センターが保有する図書・資料は、一部の資料を除いて、館外貸出を行っています。

図書の館外貸出は、学生証が必要となりますので、利用の際は、必ず学生証を携帯してください。

また、マルチメディア・ワークショップには学生が自由に使うことができる本館棟の実習環境と同等のパソコン(12台)を設置しています。



館内は飲食や持ち込みを禁止しています。

■開館時間 平日：9:00～20:00
土曜日：10:00～16:00

■休館日
①日曜日(一部、土曜日の休館あり)
②国民の祝日
③学校法人の創立記念日(3/6)
④開学記念日
⑤夏季・冬季の一定期間
⑥その他(臨時に必要な場合)

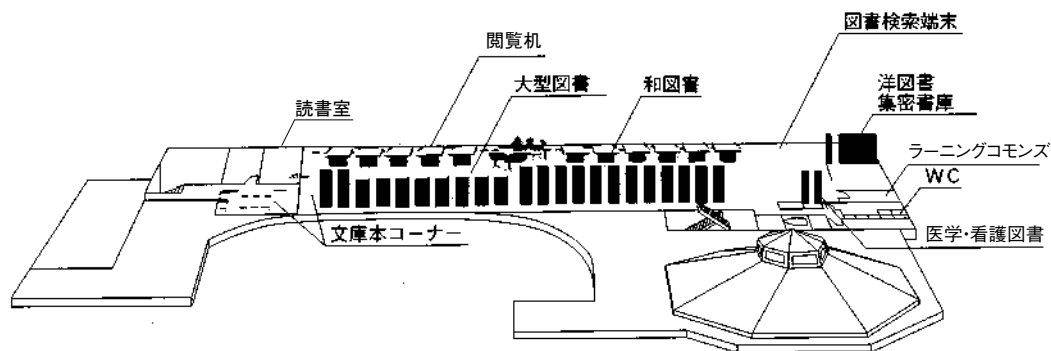
■貸出期間
①学部生：2週間以内10冊まで
②大学院生：2ヶ月以内20冊まで

■貸出できない資料(館内閲覧のみ)
①参考図書など「禁帯出ラベル」の貼ってある資料
②雑誌(最新刊)③新聞④地図⑤視聴覚資料

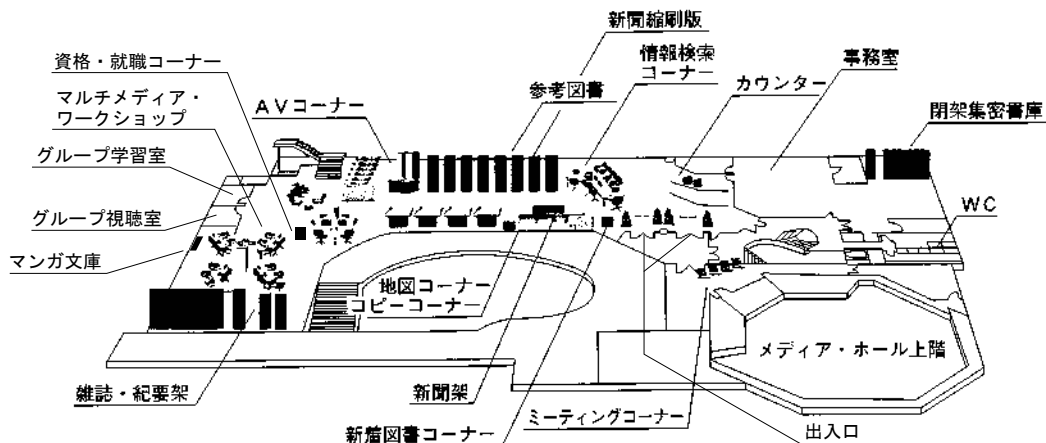
■館内貸出のみ
①DVD

※ 夏休み・冬休み・春休みの長期休業期間中は貸出期間を延長した特別貸出を行っています。
また、開館日・時間に変更が生じる場合があります。館内の掲示やセンター図書情報部のホームページで確認して下さい。

ライブラリー・エリア (3階)



ライブラリー・エリア (2階)

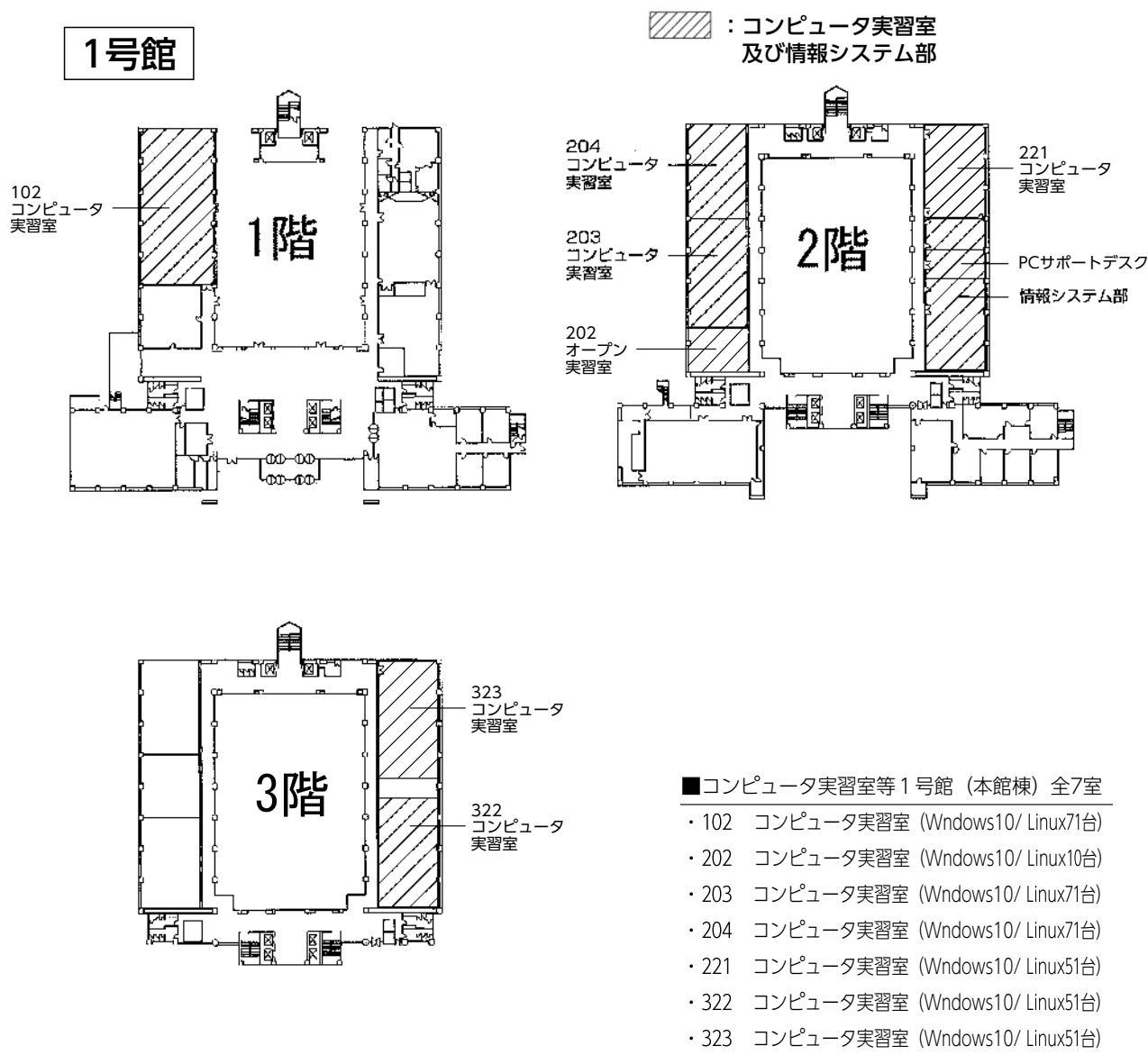


〈情報システム部〉 (1号館・本館棟)

1. 情報システム部の概要

情報システム部は、コンピュータ実習室や一般教室における教育機器等のハードウェアやネットワーク環境の整備と保守管理を行っています。また、窓口での質問受付や講習会を通じて、情報教育をサポートしています。更に、学籍・履修・成績・就職等のキャンパスライフを支える各種システムの運用支援も行っています。

2. 情報システム部の各施設について



① 無線 LAN が利用可能なエリアおよび、プリンターの利用について

3号館以外で無線 LAN が利用できます。

また、全実習室を始め、1号館 (本館棟)、2階食堂棟側ロビー、526・527ゼミ室、4号館 (総合情報センター棟) メディア・サブ・ホール (802)、2階マルチメディアワークショップ、6号館 (学生会館ピオーネ) 1階ロビーには、プリンターが設置されていますので、無線及び情報コンセント接続したノートパソコンから印刷することが可能です。無線接続する場合は大学ホームページの「学習交換情報・システム」からダウンロードできる情報大ネットワークツールを利用すると便利です。



② 一般教室の情報コンセントについて

ノートパソコンを必携化したことにあわせて、下記の一般教室にも「情報コンセント」と「電源」を設置し、講義形式の授業においてもノートパソコンを利用できます。情報コンセントは、教室の机の1箇所につき座席4～6席分をまとめて設置してあるため、隣り合わせの人達と協力しあって積極的に利用してください。

また、下記の教室は、机が固定式となりますので、無理して動かさないようご注意ください。

建物	フロア	教室番号	情報コンセント	電源
1号館（本館棟）	1階	101	○	○
	2階	201	○	○
	3階	301・302・303・322・323	○	○
	4階	401	○	○
4号館（総合情報センター棟）	1階	801（メディアホール）	○	○
		802（メディア・サブ・ホール）	○	○

③ 情報教育システムと実習環境について

本学の情報教育システムを特徴づけるコンピュータ実習室の環境は、Windows10とLinuxの二重ブート方式を採用しており、見やすい22インチワイド液晶モニターとなっています。

教室番号	PC設置台数	OS	プリンタ台数	情報コンセント	電源
102	71	Windows10／Linux	6	○	○
202	10	Windows10／Linux	2	○	○
203	71	Windows10／Linux	6	○	○
204	71	Windows10／Linux	6	○	○
221	51	Windows10／Linux	5	○	○
322	51	Windows10／Linux	5	○	○
323	51	Windows10／Linux	5	○	○

④ 実習室のオープン利用について

実習室については、授業のない時間帯に、原則として下記のとおり、オープン利用できます。なお、各実習室の利用可能な時間帯は、各実習室の掲示やHP『コンピュータ実習室の利用状況』（URL：<http://www.affrs.tuis.ac.jp/infosys/open/index.php>）で確認できます。

また、次の注意事項を守って利用するようにしてください。

- ①静かに、携帯電話は室外で ②ゲームソフトの利用禁止 ③喫煙・飲食厳禁 ④紙の持ち出し厳禁

コンピュータ実習室	月曜日～金曜日
102 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
202 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
203 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
204 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
221 コンピュータ実習室	午前9時～午後9時
322 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時
323 コンピュータ実習室	午前9時～午後7時

⑤ サポートデスクについて

操作方法に関する質問等に応じるため、学生相談員による「PCサポートデスク」を設置しています。困ったことが起きたら気軽に相談してください。

《PCサポートデスク》

1号館2階 情報サービスセンター（情報システム部）

※必携ノートPCの故障・修理については、学生教務課にご相談下さい。

3. 利用に先立って

ネットワークを利用しようとする学生等は「ネットワーク利用申請書」を提出し、ユーザID及びパスワードが記載された「ネットワーク利用許可証」の交付を受けなければなりません。

EARTH情報教育システムでは、ユーザIDとパスワードを使って認証を受けなければ利用できません。この認証によって、システム全体のセキュリティを維持するだけでなく、利用者自身のプライバシーを守ることができるのです。

パスワードは利用者の自己責任において管理し、定期的に変更しなければなりません。パスワードを失念し、ネットワーク利用資格を失った場合は、ネットワーク講習会(有料)に参加して許可証の再交付を受けなければなりません。

4. ネットワークの利用心得

本学では、学生全員が快適にネットワークを利用できる環境を整備しており、国内外からのネットワーク情報入手したり、メール等で互いに連絡を取り合うことが可能ですが、ネットワーク利用者である学生の皆さんは、東京情報大学ネットワーク利用ポリシーを十分に理解し、学術機関である大学の一員として品位とマナーをもって、ネットワークを利用するように心がけてください。

ネットワーク利用によるトラブルに巻き込まれないために

本学では、ネットワークの利用に関する利用指針をまとめています。ネットワークの利用を始める前に、これらを十分に理解することがトラブルに巻き込まれないために大切です。

万が一、自分が実際に被害を受けてしまった場合や、おかしいと感じたときには、情報サービスセンター情報システム部に出向いて相談するようにしてください。

東京情報大学ネットワーク利用ポリシー

東京情報大学アカデミックインターネットネットワーク専門委員会

本学のAUP(Acceptable Use Policy)の骨子は以下の通りである。本学アカデミックインターネットネットワーク専門委員会は、これらの事項に著しく逸脱したユーザーに対して直ちにネットワーク利用資格を停止し、その者に対して適切な指導を施す。

コンピュータネットワーク組織としての本学は、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所の学術情報ネットワーク『SINET』(Science Information Network)に加入してインターネット利用を可能としている研究・教育をおこなっている学術機関である。それゆえに本学のネットワークユーザーは一般の商用プロバイダが加入者に求める以上の一層の品位およびマナーが求められており、また社会からもそのように強く期待されてもいる。

そのために本学のすべてのユーザーは学術機関の一員として学術、教育、研究の発展に資する以下の範囲内でネットワークを利用することができる。ネットワーク活動における以下の基準に対する質問や具体的運用指針についてはWebページで提供されているネットワーク利用の手引きを参照されたい。

人権の保護

本学のユーザーはネットワーク活動を通じて、人種・性差・信条などによるいかなる差別にも与せず、プライバシーの保護などあらゆる人権の保護に務めなければならない。これによって、差別発言や誹謗中傷などの言論による暴力、性的虐待、通信内容の第三者への開陳などによる秘密の暴露などは厳しく禁止される。

知的所有権の尊重

著作権・特許権・商標権・意匠権などの知的所有権の遵守に常に留意すること。著作物には文章、写真、音楽、デザイン、プログラムなどが含まれ、著作者に無断でその著作物(その一部でも)の複製を作成・配布することは禁じられている。また、アイデアの盗用や勝手な改ざんについても許されていない。近年では、これらの権利の侵害に対して法的責任が厳しく問われてきているので十分注意されたい。



商用利用の禁止

学術ネットワークを利用する本学のユーザーは、ネットワークをいかなる商用活動にも利用してはならない。ネットワークを利用した商品の売買、アルバイトや求人・広告や斡旋活動などはすべて禁止する。

セキュリティの維持

本学のネットワークの安全で安定的稼働を脅かし、通信やプライバシーの漏洩につながるようなあらゆる行為は厳重に禁止する。他人へのユーザーIDの譲渡、パスワードの漏洩が発覚した場合には直ちに利用資格を停止する。ユーザーは定期的にパスワードを変更し自らのプライバシーとネットワークセキュリティを維持するように努めねばならない。またコンピュータを利用しているときには席を離れることを禁止する。ログアウトなど適切な措置を講じた後でのみコンピュータから離れることができる。

学内での匿名・ハンドル名の禁止

本学のユーザーは学内への電子メールの送信、学内でのWebページの作成または掲示板等への書き込みにおいては、常に氏名や学籍番号等の本人を特定できる情報を明記しなければならない。氏名や学籍番号等の署名のない匿名またはハンドル名を使ったネットワーク活動は、学内においてはこれを禁ずる。

ただし、システムのユーザー認証機能などにより、管理者が直ちにユーザーを認識できる場合は、そのシステム内においてはこの限りでない。

一方、学外のソーシャルメディアサービス等を利用する場合は、個人情報保護の観点から匿名やハンドル名の使用を認める。

ソーシャルメディア利用の心得

東京情報大学において学外のオープンなソーシャルメディア（facebook, twitterなど）を利用する場合は、全世界のインターネットユーザーがアクセスできることを理解し、私的なやりとりは電子メールやクローズドなソーシャルメディアを利用すべきであることを理解すること。また、ソーシャルメディアに限らず、Web上に一度公開された情報は、削除するのが困難であることを認識し、ソーシャルメディア等を利用した情報発信にあたっては、以下を遵守すること。

- ①東京情報大学の学生としての自覚と責任を持った発言を行うこと。
- ②基本的人権、著作権、プライバシー等各種法令や条例等を遵守すること。
- ③推測や伝聞に基づく不正確な情報ではなく、正確でかつ誤解を与えない情報発信を心がけること。
- ④社会通念に照らし、他のユーザーとトラブルが起きないように、冷静・誠実な対応を心がけること。
- ⑤東京情報大学に関する重要施策の意思形成過程における情報（検討中の素案、それに対する個人的な意見等）など機密情報を漏洩しないこと。
- ⑥反道徳的・非常識な行為をしないこと。
- ⑦教育・研究目的を逸脱した商業行為を目的とする情報を発信しないこと。
- ⑧特定の個人・団体への誹謗中傷、差別的な内容、猥褻な内容の情報を発信しないこと。

ネットワークマナーの厳守

学術機関である本学のユーザーはネットワーク活動においては一層の節度と品位が求められている。Webページの作成や電子メールによる依頼においては、十分な注意を払って社会通念上適切な表現を工夫しなければならない。他人の作成したWebページのリンクについては、電子メール等を通じてリンク依頼を行い作者の承諾を事前に受けることを原則とする。また、いたずらにネットワーク通信量を増加させるような行為（授業での利用を除く）は厳に慎まねばならない。

本学のネットワーク利用についてのこれらの指針は以下に説明する根拠に基づいている。

ネットワーク利用ポリシーの根拠

コンピュータネットワークによるコミュニケーション

コンピュータネットワークを利用した情報交換は私たちにとって今や欠くことのできないコミュニケーション手段となっている。コンピュータネットワークを利用するものをユーザー、ネットワーク組織（およびその管理者）が提供するユーザーに提供する様々な利便をネットワークサービスまたは単にサービスといい、本学でも様々なサービスの充実をはかっている。

本学でユーザーが利用できる情報交換のサービス形態は、次のように分類できる。

- ・個人から個人へ。電子メール、ソーシャルメディアサービス等
- ・個人から特定グループへ。メーリングリスト、WWW、ソーシャルメディアサービス等
- ・個人から不特定多数へ。WWW、ソーシャルメディアサービス等

これら情報の到達範囲は現在では地球のほぼ全域をカバーするまでになってきている。コンピュータネットワークはかつて人類が手にすることのできた最強の情報通信メディアであり、時間・空間を超えたグローバルなコミュニケーションを可能にしている。

しかしながら以下に説明するように、コンピュータネットワークによるコミュニケーションは郵便や電話、さらに新聞・テレビなどによる通信メディアとはその性質が異なり、本学のコンピュータネットワークを利用しようとする者は本学の利用規定を遵守する場合に限ってのみそのユーザーとなることができる。

AUPと個人の責任

個人がインターネットなどコンピュータネットワークを利用するためには、ネットワークサービスを提供しているネットワーク組織・団体に加入し、利用資格を得なければならない。本学を含めこれらのネットワーク組織ではそのユーザーに遵守させるべきネットワーク利用心得を定めている。これをAUP (Acceptable Use Policy) と呼んでいる。

ある個人がネットワークサービスを受けるためには、その個人がネットワーク組織が定めるAUPを尊重することをネットワーク組織が認定してはじめて可能となる。AUPから逸脱したネットワーク利用を行うユーザーに対しては、それが属するネットワーク組織は利用制限や利用資格を剥奪することがある。ここに現在のコンピュータネットワーク機構を利用したコミュニケーションの特性がある。

従来の情報通信メディアである郵便・電話や出版を利用した場合、概してその個人だけの責任において活動することができる。一方、情報の伝播力において優れているコンピュータネットワークを利用した活動は、新聞、テレビなどのマスメディアで個人が活動するときのように、個人の責任範囲は微妙に制限される。端的に言えば、その組織に属する個人の活動によって何らかの問題が発生した場合、その個人だけでなく、むしろその組織自体の管理責任が問われることも少なくない。

したがって、ユーザーがそのネットワーク活動においてなす様々な行為は完全にユーザー個人だけの責任においてなされているとは見なされ難く、対外的にはネットワーク組織に属するある個人として受け取られ易いことに注意されたい。本学学生の電子メールアドレス（****@edu.tuis.ac.jp）を見ると誰もが了解するように、本学のユーザーはネットワークドメイン名tuis.ac.jpで称される「東京情報大学」の一員であるというラベル付けされており、決して個人単独の名の下でネットワーク活動を行うことはできないことがわかる。

AUPの必要性

このようにしてネットワークユーザーは常にそれが属するネットワーク組織の管理下におかれている。ここで理解すべきことは、AUPの遵守はネットワークユーザーの自由を維持するためのものであり、決してネットワーク組織がユーザーのネットワーク活動を制限することにはないという点である。

ネットワーク組織の緊密な協調・連携で世界規模のネットワークサービスを構築しているインターネットでは、ネットワーク組織間の良好な関係の維持はネットワーク管理者にとって最優先の課題である。ひとたびネットワーク組織間の接続が絶たれたならば、ユーザーはいかなるネットワークサービスも受けることができない。あるユーザーが外部ネットワーク組織および個人にトラブルを与えた場合、多くの場合、その抗議はユーザーばかりでなくそのユーザーの属するネットワーク組織の管理者に通知され、最悪の場合にはそのネットワーク組織に何らかの対策がとられることがある。このことは、たとえ握りのユーザーが引き起こした問題であってもネットワーク組織



ばかりでなくそれに属するすべてのユーザーにとって致命的な支障にまで発展し得ることを意味する。

こうしてネットワークサービスの安定供給とその享受というネットワーク管理者だけでなくあらゆるユーザーにとっての一義的目的のために、AUPの厳守という全ユーザーの協力の必要性が浮止するのである。このAUP尊重の協力機構なくしては定常的ネットワーク利用の達成は困難である。それゆえにAUPの遵守はユーザーの自由なネットワーク活動を保証することになる。

後援会・教育振興会・校友会

1. 後援会・教育振興会・校友会

後援会の活動

後援会は、本学に在学する学生の父母によって構成され、父母と大学との親睦化を図るとともに、在学生の勉学や学生生活の充実のための諸活動を行うことを目的に、平成2年4月に発足しました。

主な活動内容は以下のとおりです。

- (1) 後援会会報の発行
- (2) 教職員と父母との交流親睦の促進
- (3) 大学主催行事への助成
- (4) 学友会への助成
- (5) 学生の就職活動への助成
- (6) 卒業記念品の贈呈

教育振興会の活動

本学には、学生生活を支援し、あわせて東京情報大学の教育研究活動の充実及び発展に寄与することを目的に、教育振興会が設置されています。

本会は、本学学生全員と教職員を対象とした正会員で構成され、会員からの会費によって以下の活動を行っています。

- (1) 学生生活上の有益な情報提供のための資料・冊子の作成
- (2) 特別講演会等の運営への助成
- (3) 教育研究活動・学内外の研究会の参加者への助成
- (4) 厚生補導活動への助成
- (5) 学生生活に係る安全・安心対策事業への助成
- (6) その他前各号に関連する事項

なお、本会の運営には、正会員である在校生も委員として参加しています。

校友会の活動

本学の卒業（修了）者を正会員、在職者・功労者等を賛助会員とする会ですが、在生も“準会員”として組織に加わっています。

4月現在の正会員は約1万3千人、主に以下の活動を行なっています。

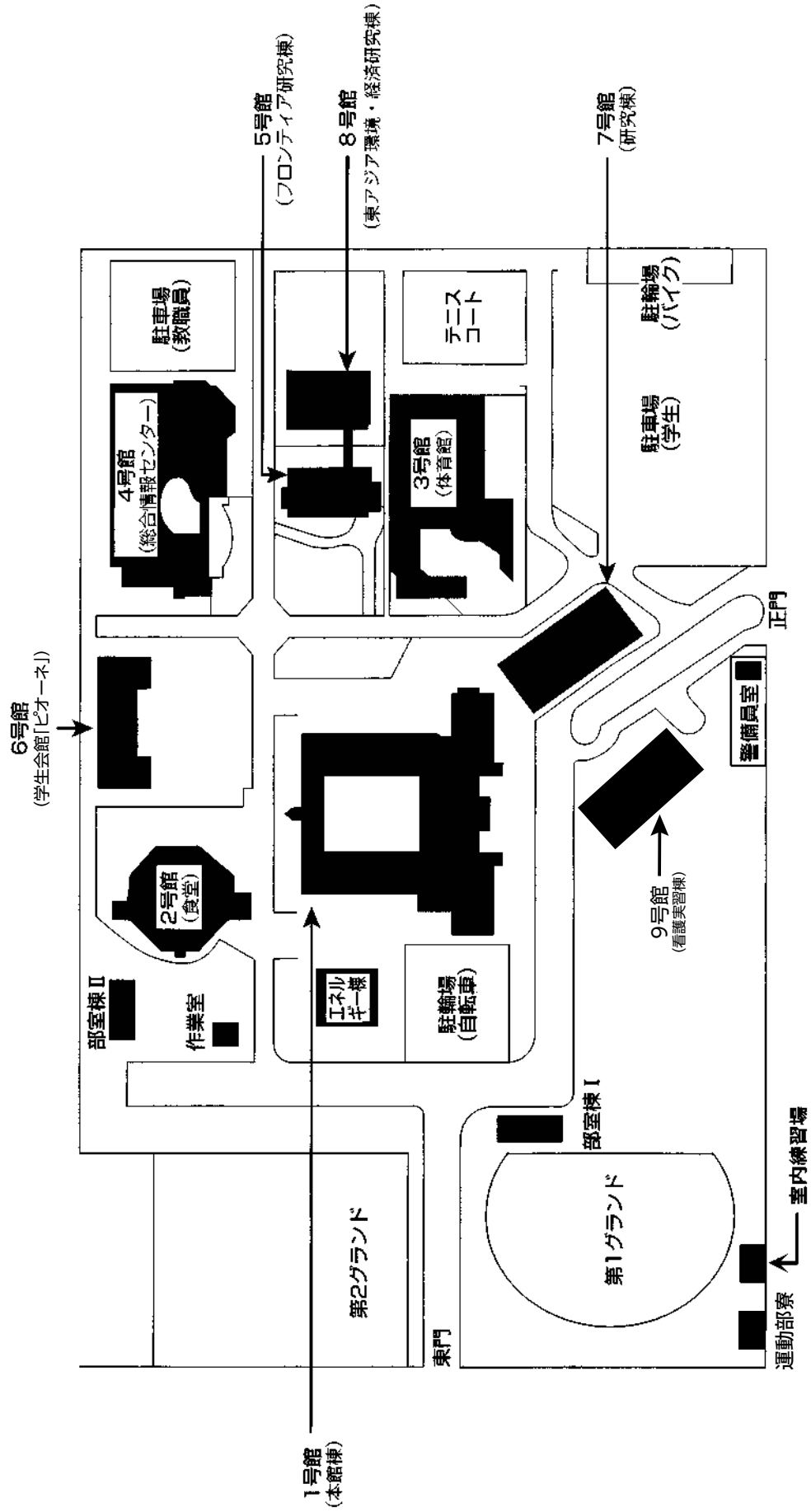
- (1) 会報及び会員名簿の刊行に関する事項
- (2) 会員相互の扶助に関する事項
- (3) 講演会及び研究会等の開催に関する事項
- (4) 会員の慶弔及び表彰に関する事項
- (5) 東京情報大学の後援及び相互の連絡に関する事項



キャンパス案内

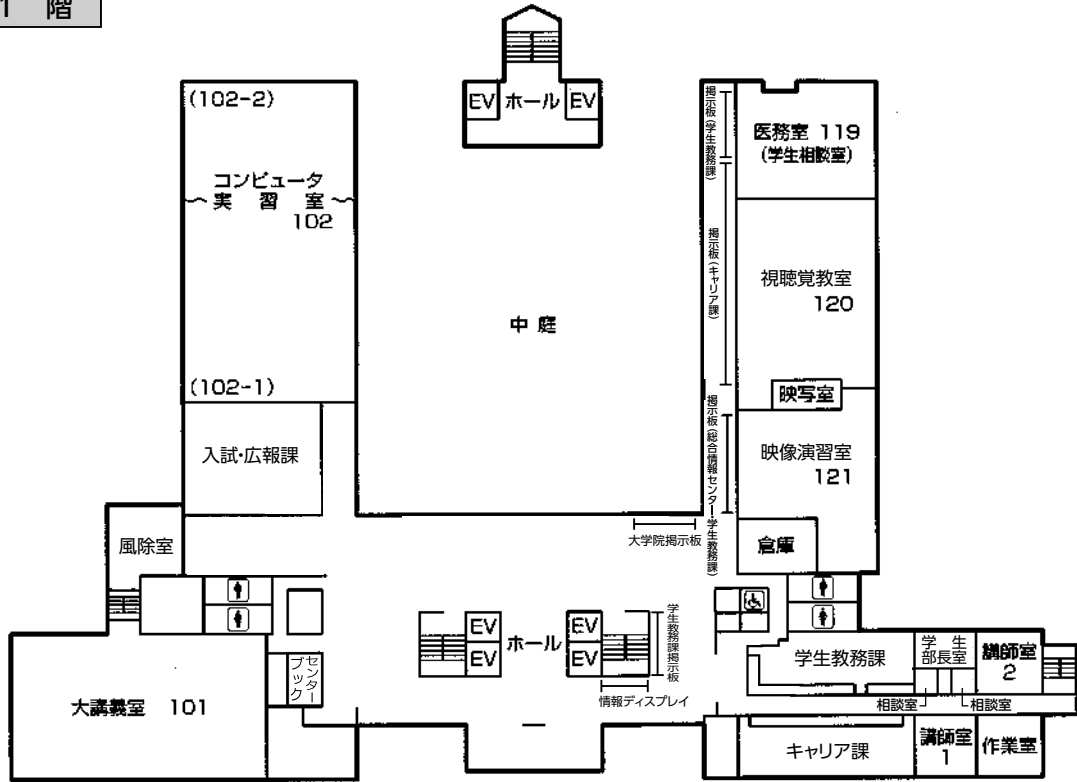


校舎等配置図

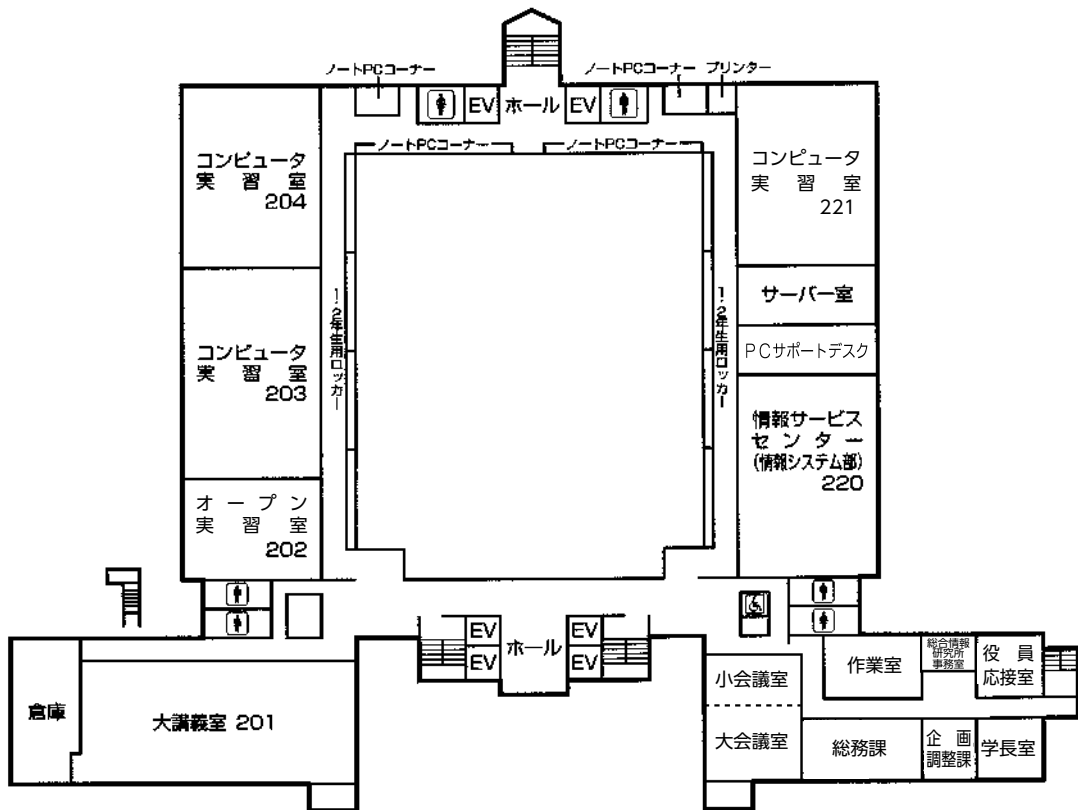


1号館 (本館棟) 案内図

1 階



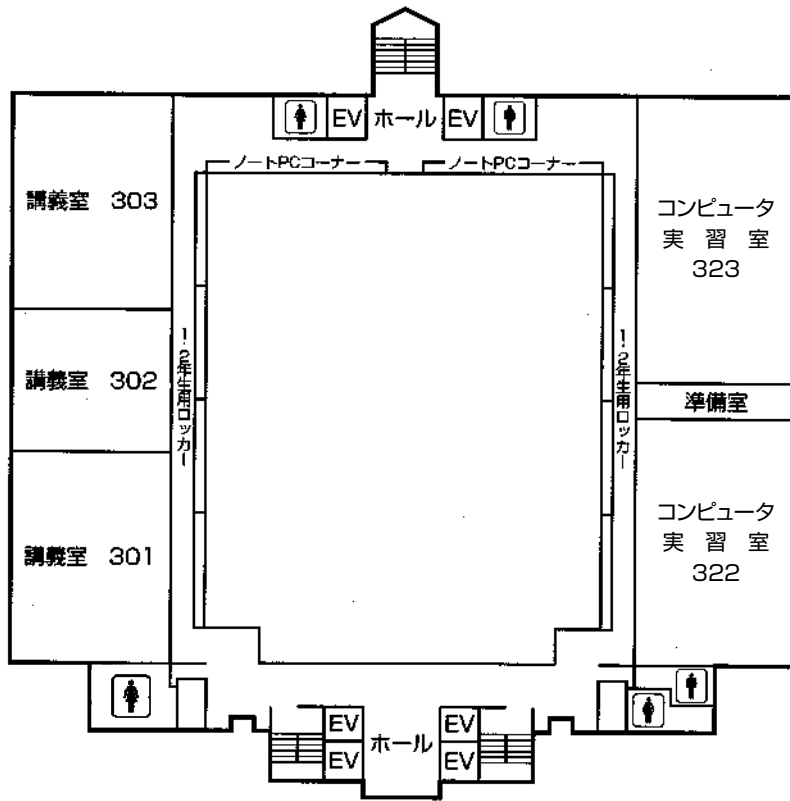
2 階



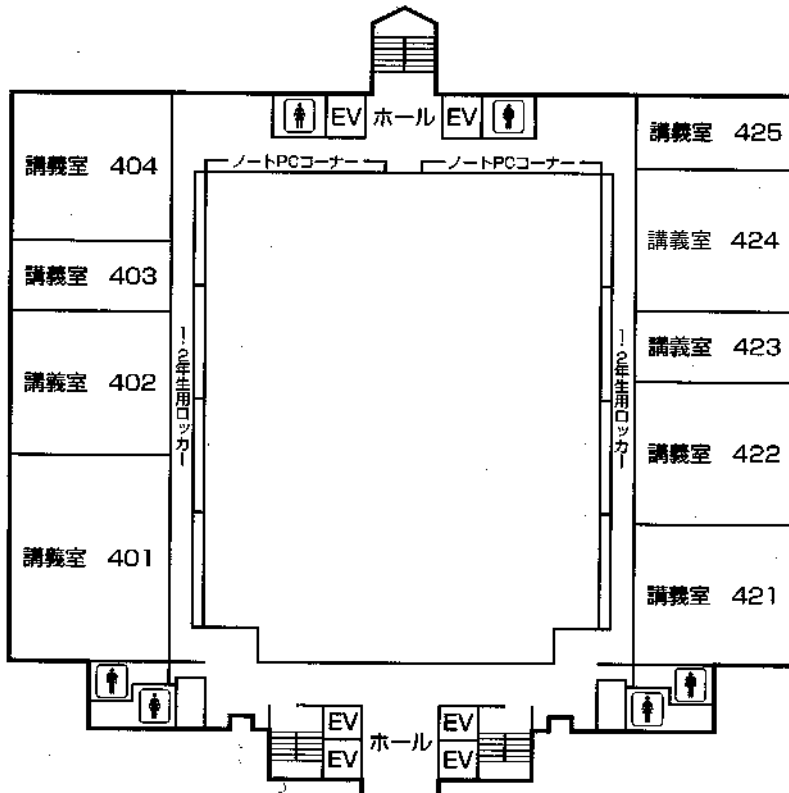
キャンパス案内

1号館 (本館棟) 案内図

3 階

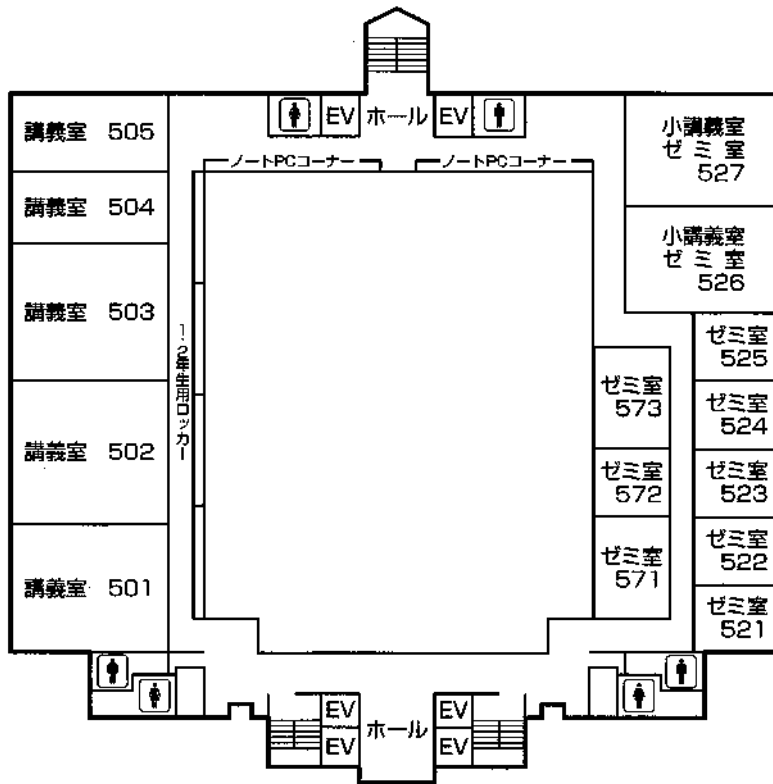


4 階

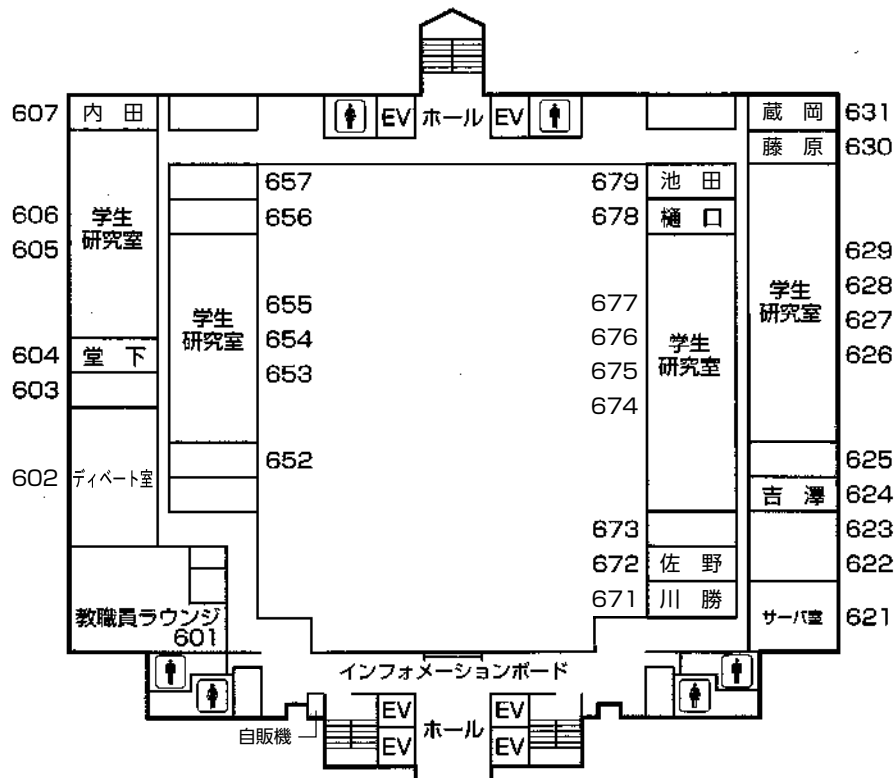


1号館 (本館棟) 案内図

5 階



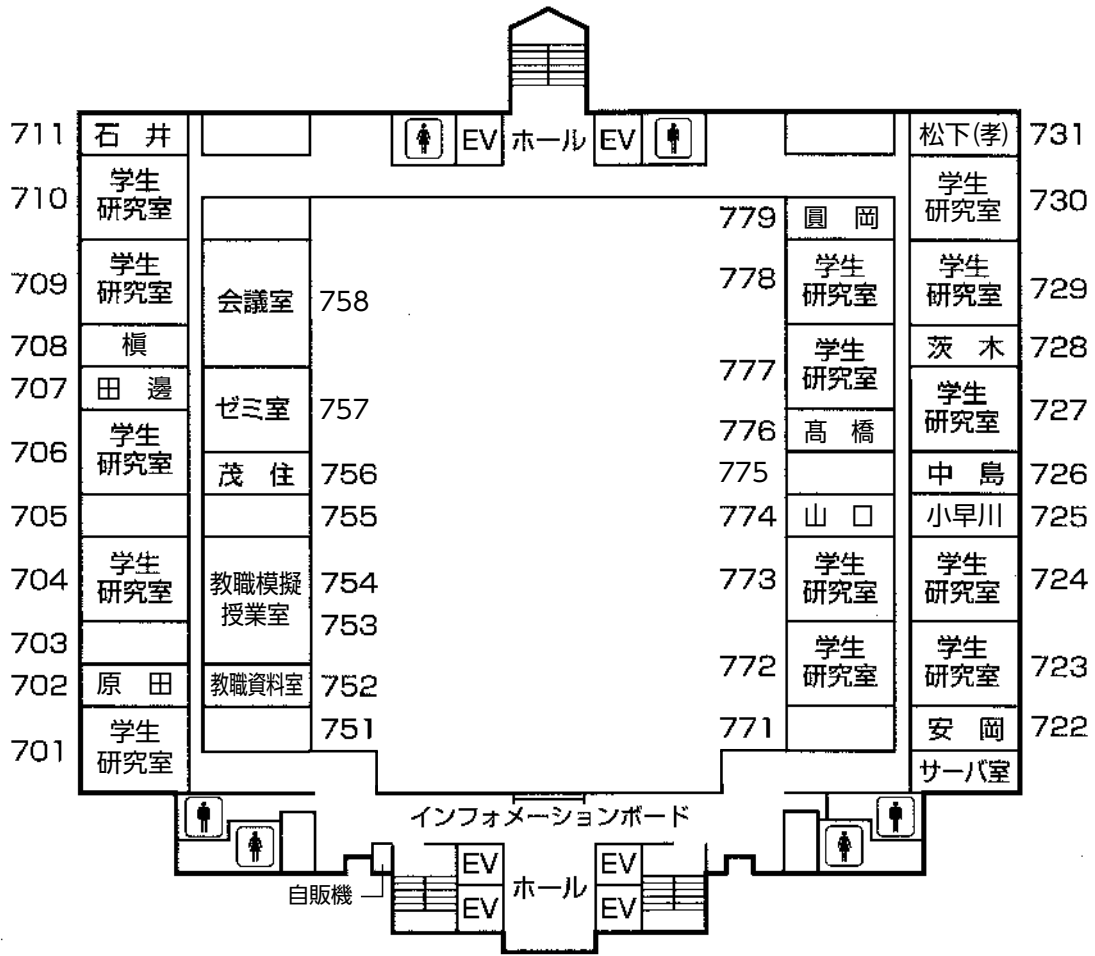
6 階



キャンパス案内

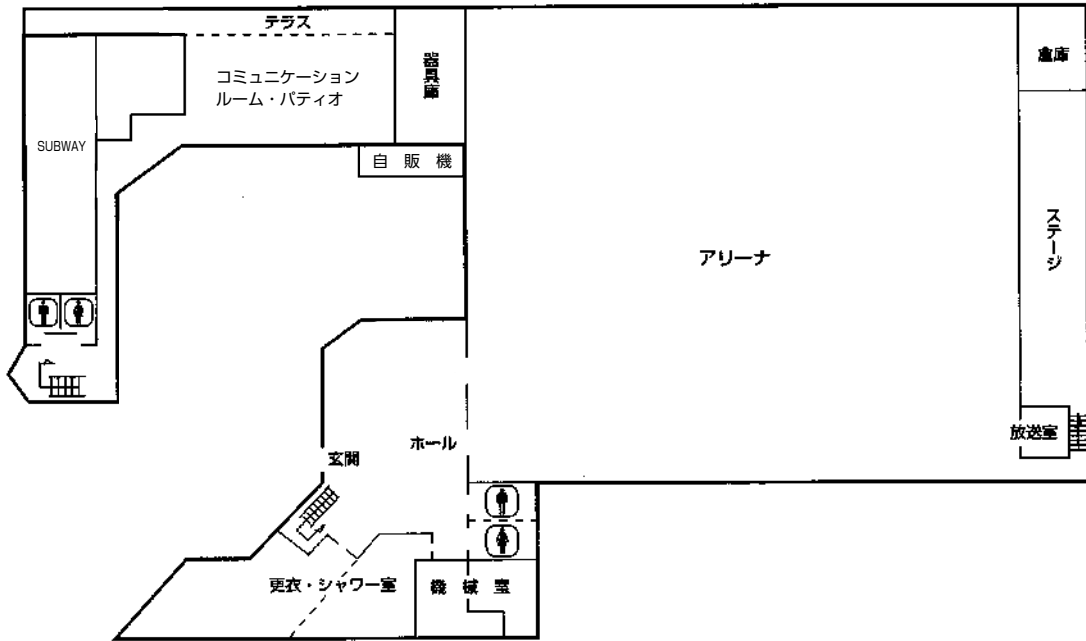
1号館 (本館棟) 案内図

7 階

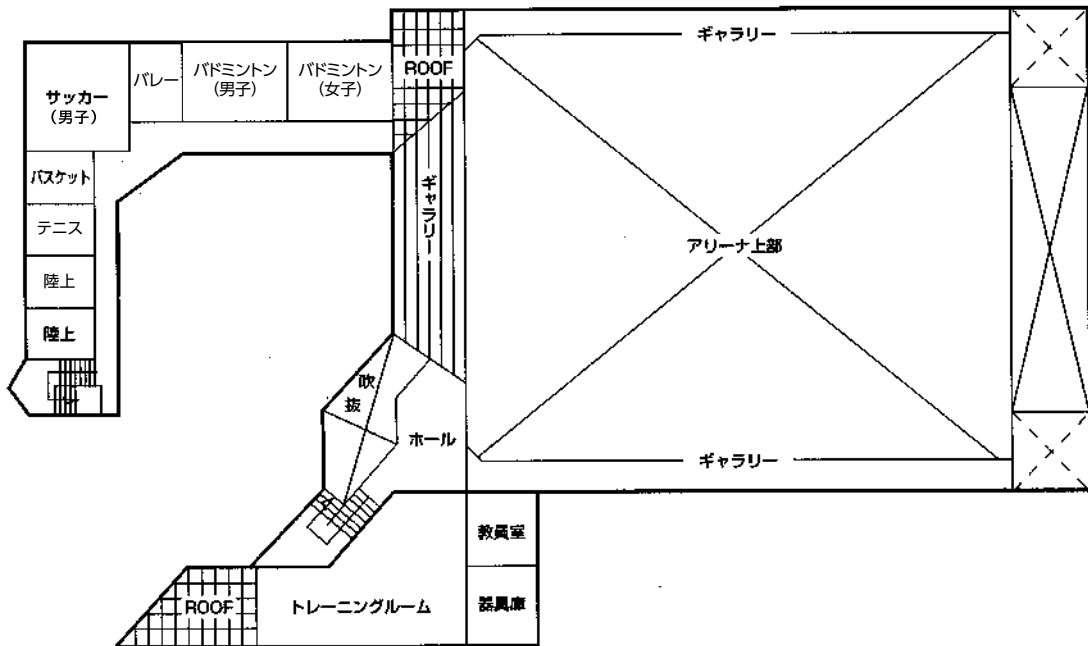


3号館 (体育館) 案内図

1 階

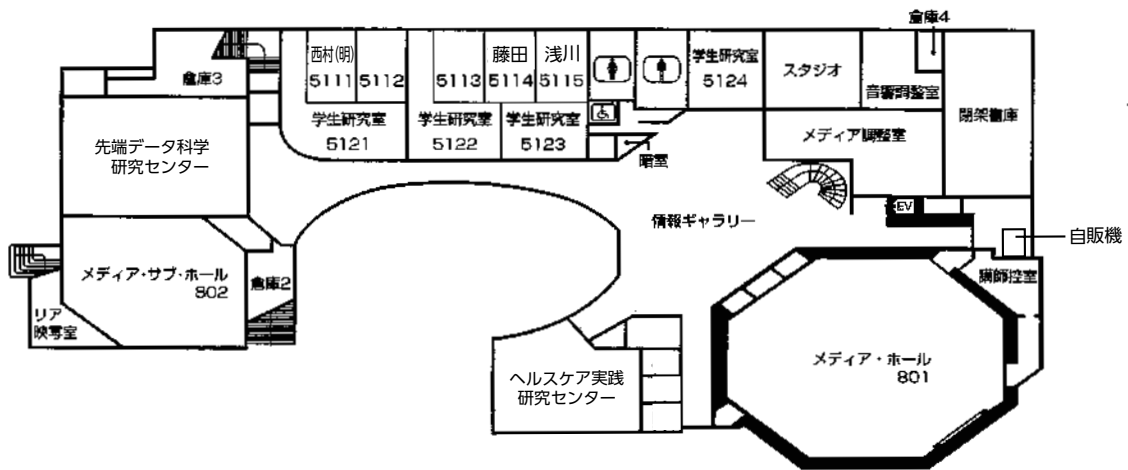


2 階

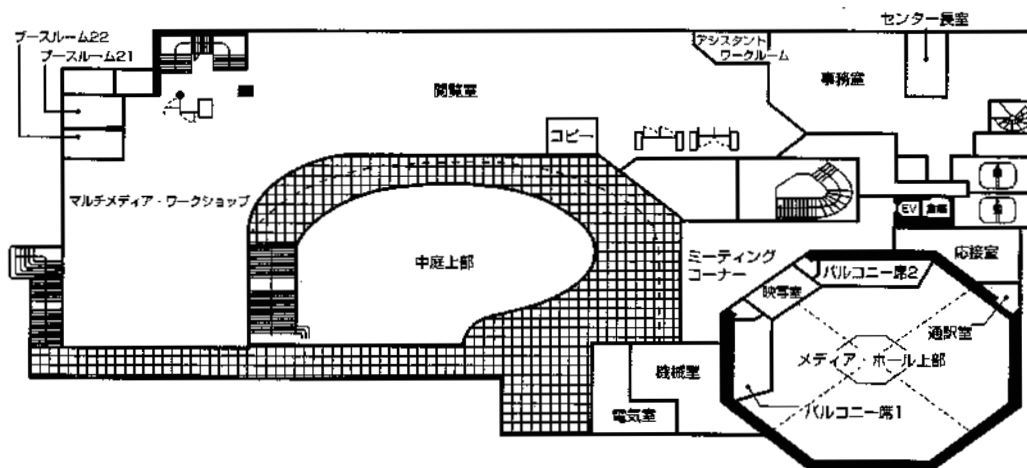


4号館 (総合情報センター棟) 案内図

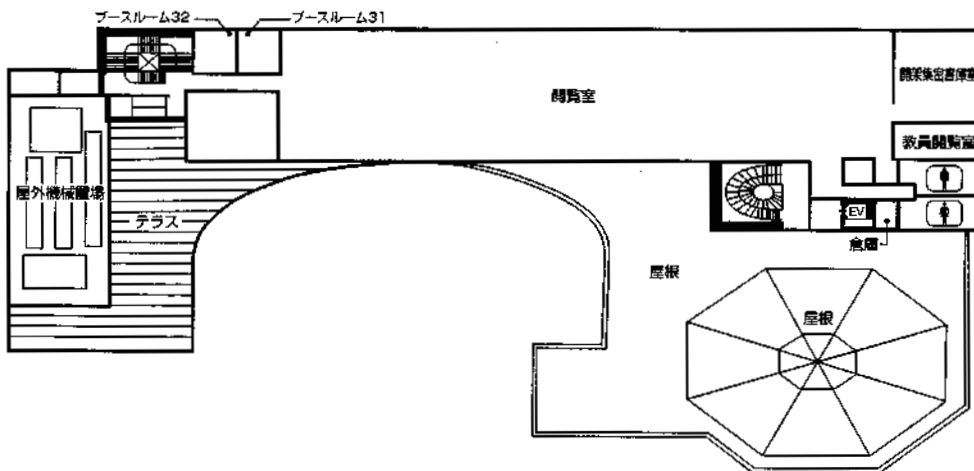
1 階



2 階

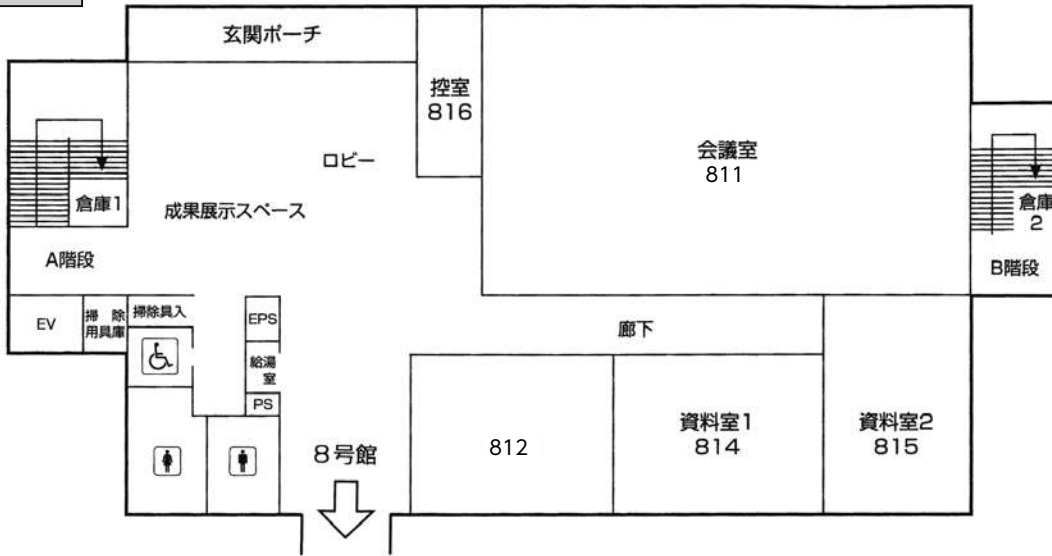


3 階

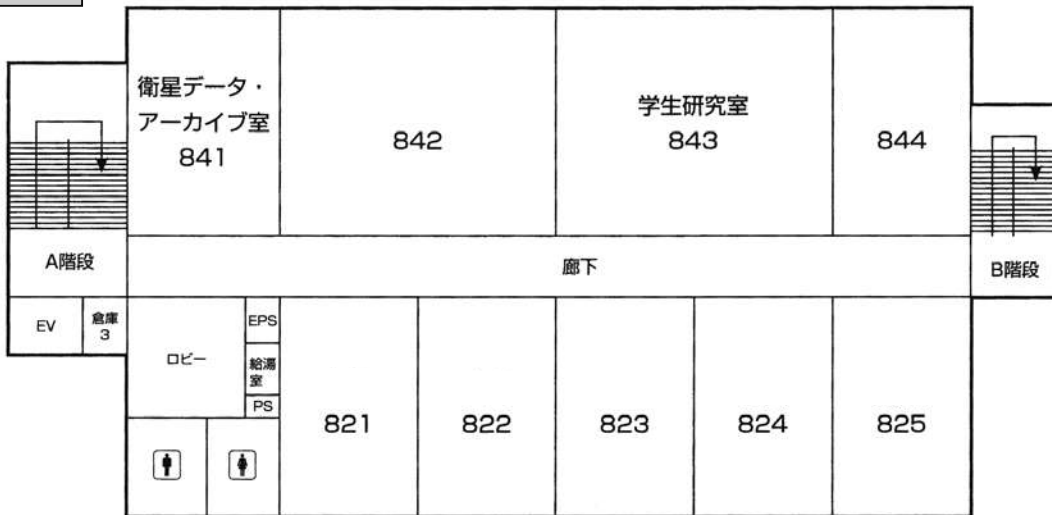


5号館 (フロンティア研究棟) 案内図

1 階



2 階

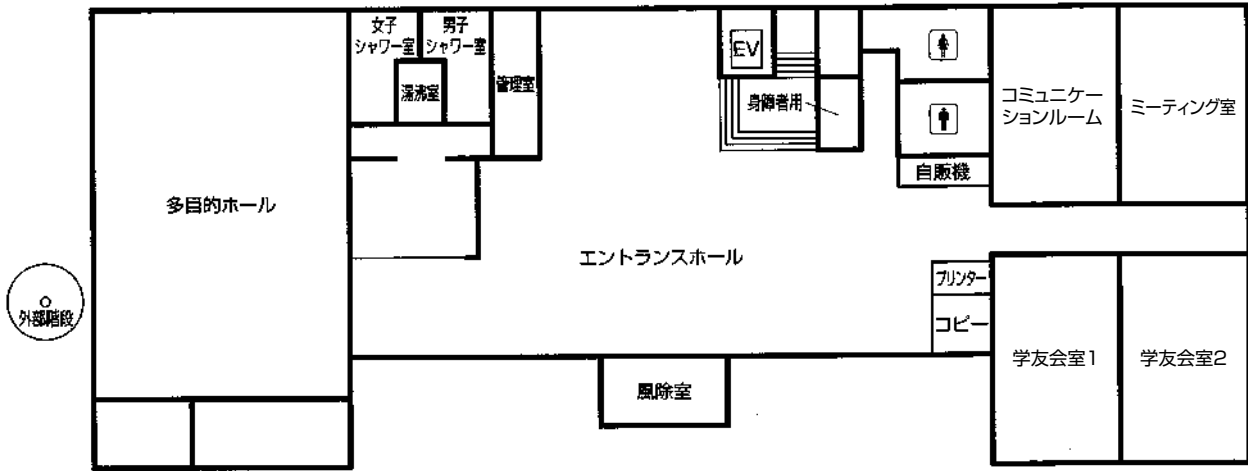


3 階



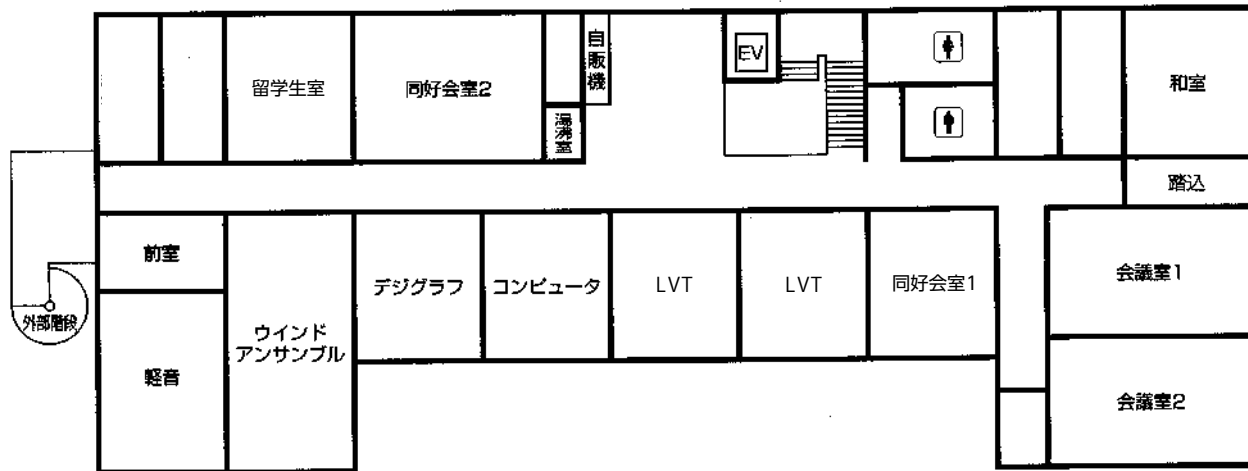
6号館 (学生会館「ピオーネ」) 案内図

1 階



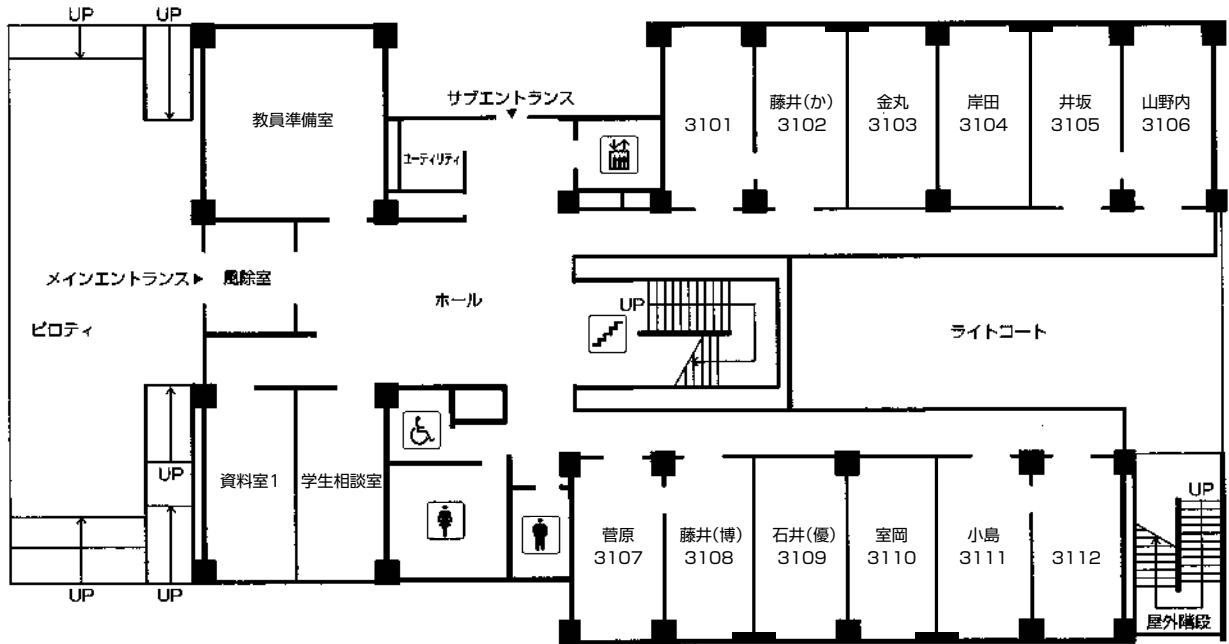
2 階

学生会館2階「部室配置図」

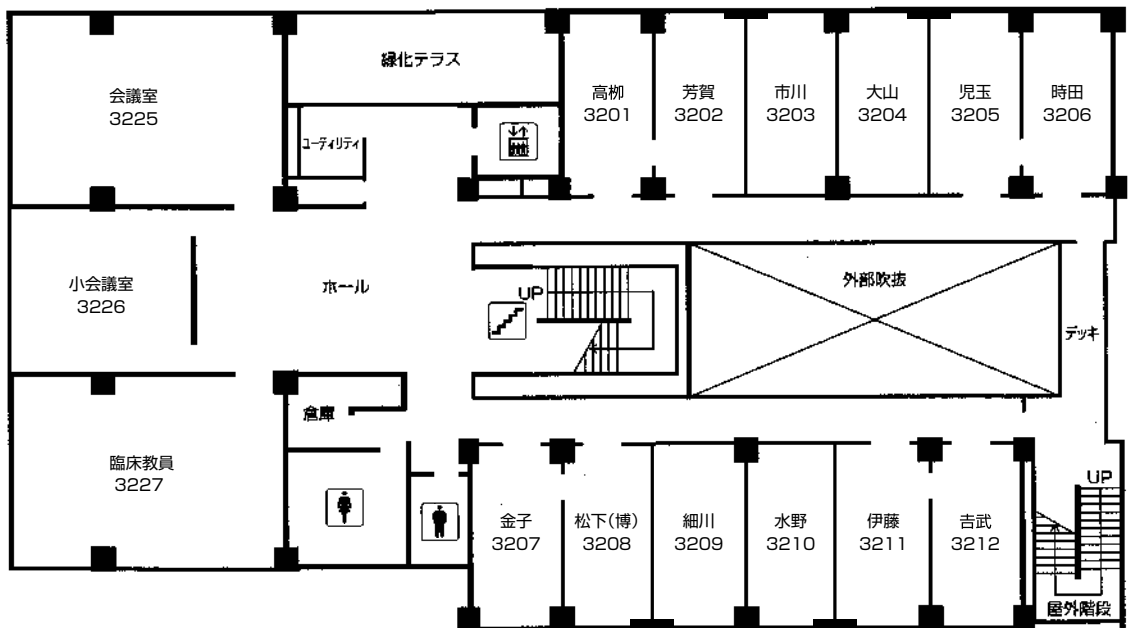


7号館 (研究棟) 案内図

1 階

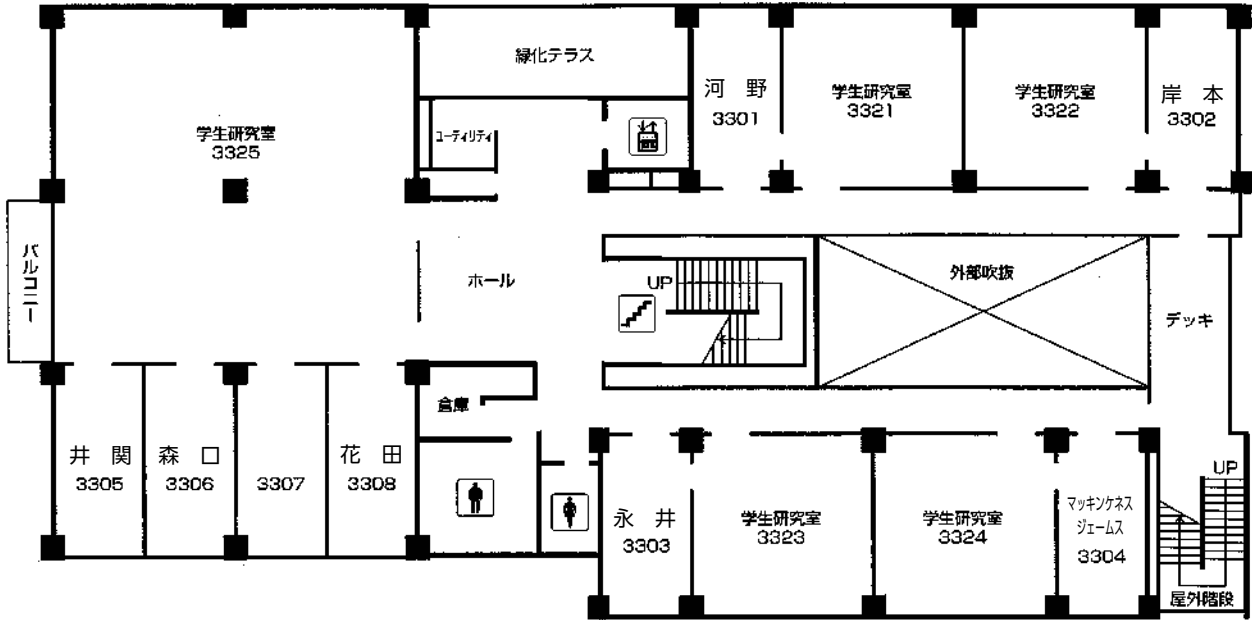


2 階

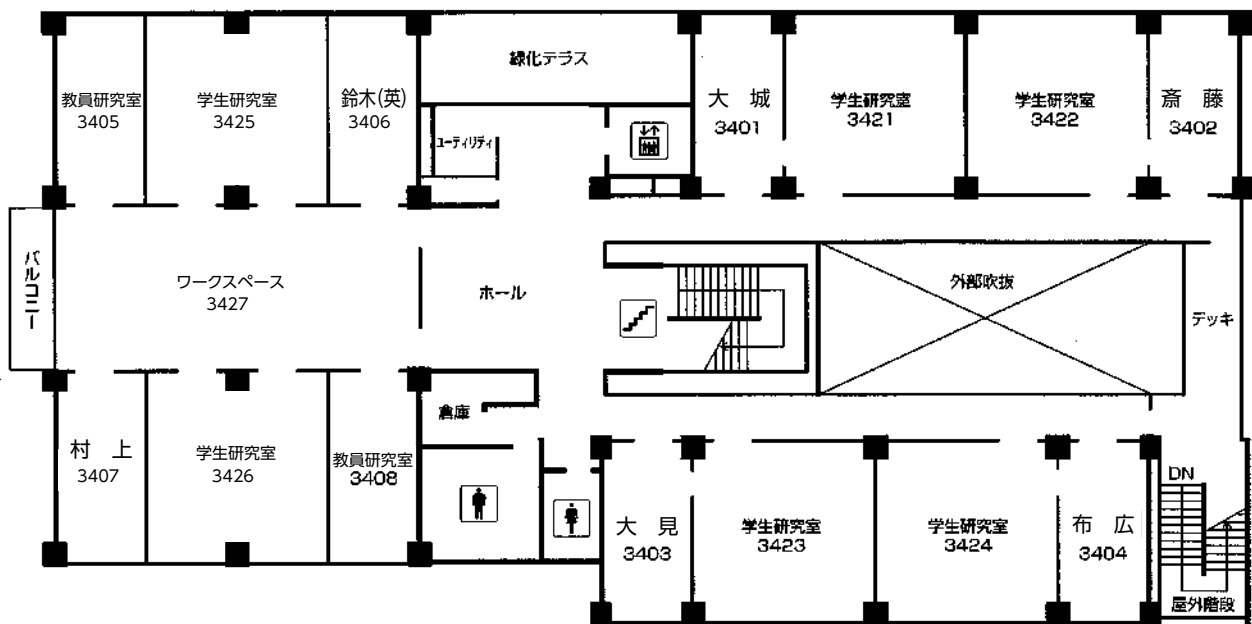


7号館 (研究棟) 案内図

3 階

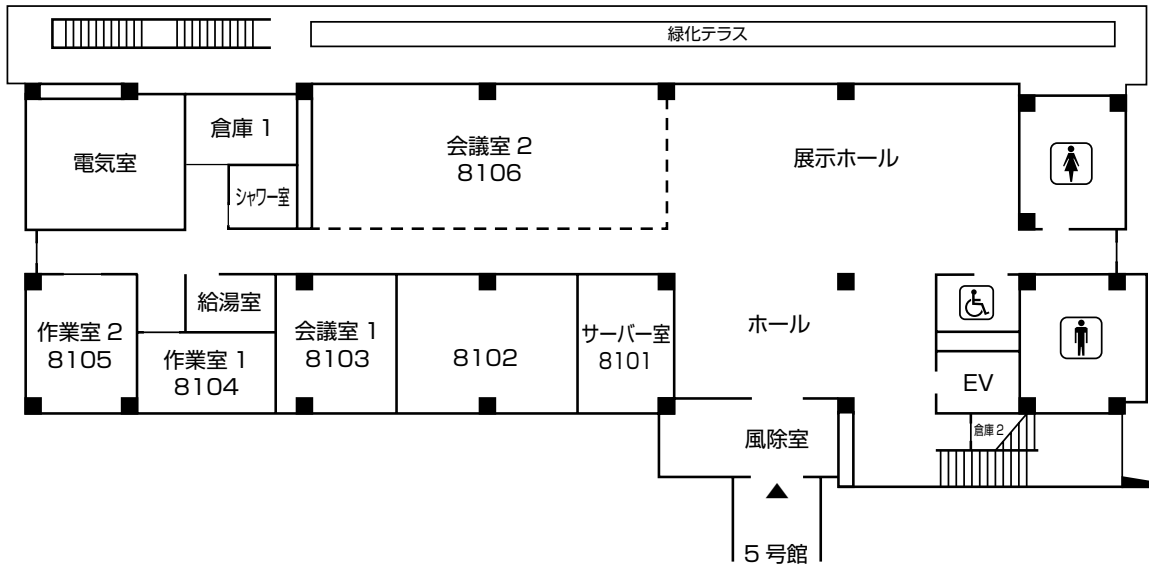


4 階

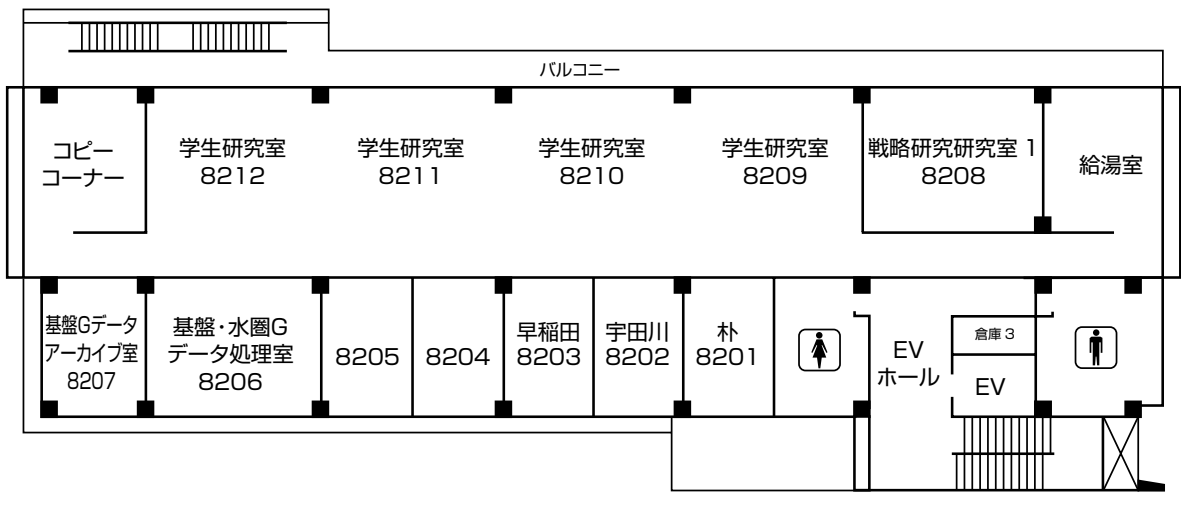


8号館 (東アジア環境・経済研究棟) 案内図

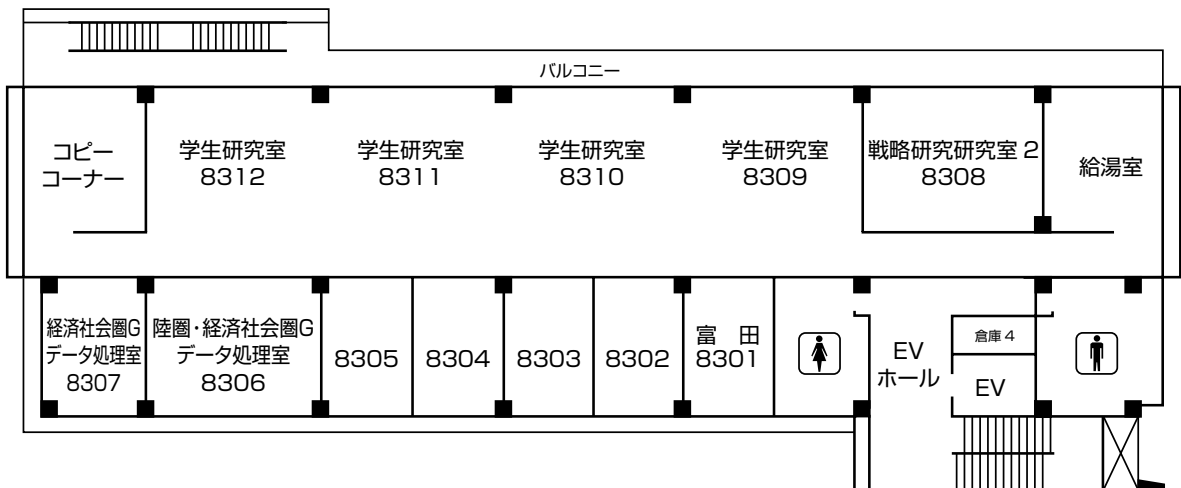
1 階



2 階



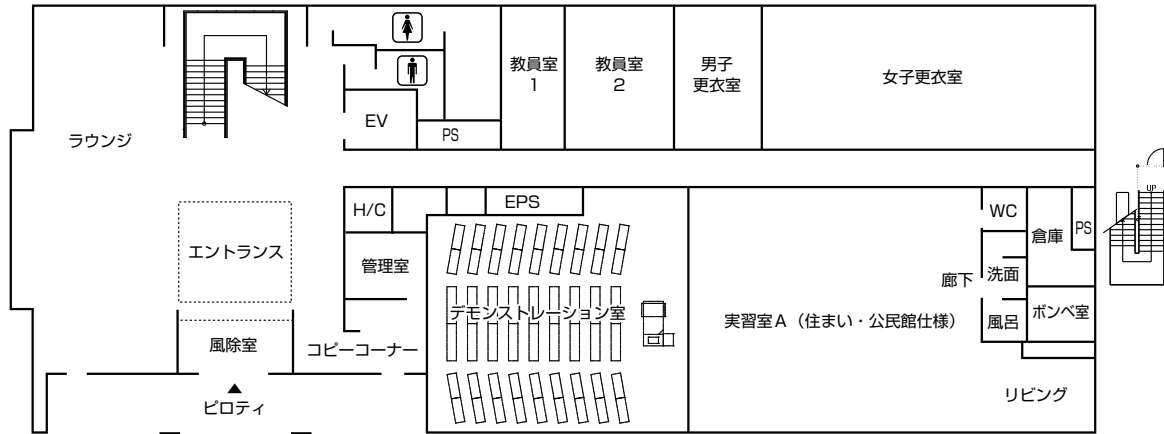
3 階



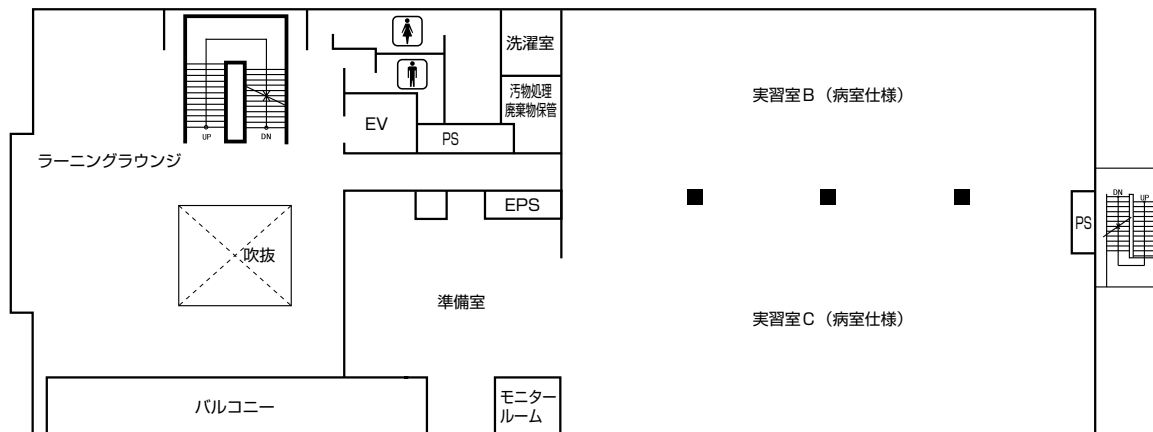
キャンパス案内

9号館（看護実習棟）案内図

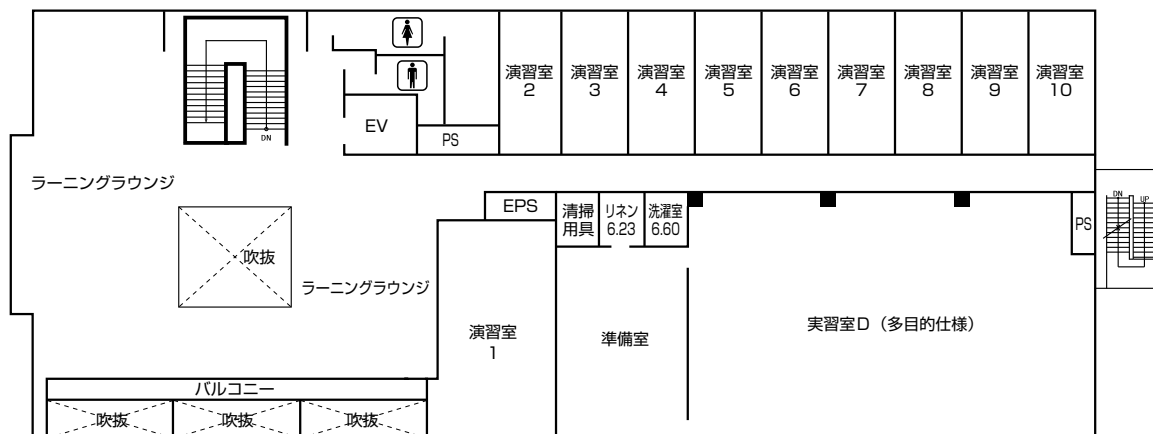
1 階



2 階



3 階



Q&A (よくある質問)

1. 履修登録に関すること

Q 履修登録を忘れた場合はどうなりますか。

A 修学の意味がない者として、学則に基づき除籍される場合があります。
また、正しい履修登録が行われないと、定期試験等を受験できなくなることもあるので注意してください。
毎年、定期試験期間になって初めて、履修登録の不備に気がつく学生が何人かいます。

Q 入学当初のカリキュラムが在学中に変更になることはありますか。

A 原則的にはありません。したがって、学生は入学年度に示されたカリキュラムを卒業まで履修することになります。

ただし、その後の入学者に対するカリキュラムが変更されると、学年進行につれて旧カリキュラムの履修に影響を与えることがありますので、自分のカリキュラムの当該学年に配当されている科目は、当該年度内で修得するよう心がけてください。

Q 不合格になった科目は、再履修して合格すれば不合格の表示は消えますか。

A 単位修得した科目は再履修できませんが、不合格になった科目については、再履修すれば再履修後の成績に置き換えられます。

ただし、GPAは、不合格になった科目も含めて算出するため、値が低下する原因になるので、科目履修を途中で放棄したり、始めから過剰な履修登録をするようなことのないよう注意してください。

Q 履修登録した科目を取り消すことはできますか。

A 各学期の履修登録・確認期間に取り消すことができます。
ただし、むやみに取り消しをして、進級要件や卒業要件が不足することもあるので、注意してください。

Q 授業に出席していたのに、履修登録し忘れていました。追加登録できますか。

A 履修登録（修正）期間以降の登録は認めていませんので、必ず期間内に確認してください。

Q 「J-port」を使って、どんなふうに履修登録するのですか？

A 「J-port」での履修登録は、簡単に言えばパソコンを使って行うWeb履修登録です。
科目のシラバスを閲覧しながら、各曜日・時限ごとに、履修できる科目の中から選択しながら履修登録することができます。この「J-port」履修では、間違った登録をするとすぐにエラー表示がでたり、科目の選択内容をその場で確認しながら登録できるので、登録ミスを防ぐことができます。登録内容は、印刷機能で一覧表にして確認することもできます。また、登録した結果が進級要件や卒業要件に合っているのかもその場で確認できるので、自分の思い違い、勘違いもなくなります。

必要な情報を検索しながら、勘違いや間違いのない履修登録を行うことができるのが、「J-port」履修の大きな特徴です。

操作方法の詳細については、別に配布される「J-port利用ガイド」で確認してください。

Q 「J-port」を使って履修登録した後、登録内容を確認できる機会はありますか？

A パソコンからの入力で行う「J-port」履修では、登録作業と確認作業が同時に行えます。履修したい科目を全て登録した後「確定」ボタンを押すと、「正常に登録されました。」というメッセージが表示されます。正常に登録できていない場合は、「エラーメッセージ」が表示されるので、もう一度登録し直して、正常な登録が行われるまで作業を続けることになります。

また、「J-port」履修では、履修登録完了後も、自分の登録した科目の状況(一覧)は、学内のコンピュータ実習室の端末や必携ノートパソコンからはもちろんのこと、自宅などの学外からパソコンやスマートフォン・携帯電話で、いつでも確認することができます。

Q 集中授業を履修したい場合はどうすればよいですか。

A 「J-port」を使って通常の科目と同様に行うこととなりますが、集中授業の科目は「J-port」の「履修登録画面」の左下にまとめて表示されます。履修したい集中授業科目をその中から選択して登録してください。なお、夏季に行う集中授業の「履修対象学期」は「前期」で、冬季に行う集中授業は「後期」で履修登録してください。また、複数の集中授業を履修する場合は、それぞれの日程を確認し、重複しないように登録してください。

Q 後期にも履修登録することはできますか？

A 総合情報学科の1年次は、後期科目の履修登録を後期の履修登録期間に行います。その他の学生については、後期にできるのは、履修登録ではなくて、正確に言うと履修の修正登録です。後期に配付される前期の成績の結果によって、履修科目を「追加」しないと進級や卒業の要件を満たすことができなくなった場合などに行うのが後期の履修修正登録です。その場合もちろん、後期から授業の始まる後期科目だけが対象となりますが、後期科目であっても、履修できない科目もあるので、注意してください。また、放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目も履修修正登録の対象にはなりません。

Q 放送大学の授業を受けたい場合の履修登録の方法を教えてください。

A 本学が単位互換科目として指定する放送大学の授業科目の受講は、年度の後期(10月)からです。履修を希望する場合は、学生教務課窓口で申請手続きをして下さい。

千葉県内私立大学との単位互換科目の履修を希望する場合も、放送大学と同様に学生教務課で履修登録手続きを行ってください。ただし、県内私立大学の場合は、相手大学との所定の手続きを履修登録の期間より前に行いますので、その手続きが行われていないと履修登録が無効になります。

いずれの場合も、受講を希望する場合は、4月の早い段階で学生教務課にその旨を申し出て、その後の手続きについて確認してください。

なお、どちらの受講も履修料が必要になります。(県内私立大学との単位互換科目には、一部履修料が無料のものもあります。)

2. 授業に関すること

Q 授業を受ける上で注意することはありますか？

A 授業を受ける上で、教員や他の履修者の妨げにならないよう、以下のことを注意する必要があります。

- ①私語を慎む
- ②遅刻をしない
- ③途中退室をしない
- ④飲食しない
- ⑤私事をしない
- ⑥レポート等の提出物の提出期限を遵守する

Q 交通事故に遭い、1ヶ月入院することになりました。どうしたらいいでしょうか。

A 交通事故や病気で入院し、3週間以上出席できなくなった場合は、学生教務課へ電話して（保護者が電話しても可）、詳しい状況を報告してください。履修している授業担当者へ長期欠席する旨を報告します。ただし、欠席した回数によっては、単位修得できない場合もあります。

Q 教科書販売期間に教科書を買って忘れてしまったのですが。

A 1号館1階のブックセンターで購入してください。在庫がない場合は注文することができます。

3. 試験に関すること

Q 平常試験と定期試験の違いはなんですか。

A 定期試験は、学期末に設定されている定期試験期間中に行う試験であり、試験専用の時間割で行うので注意が必要です。また、定期試験を病気等で欠席した場合、追試験を受けることができます。一方、平常試験は、授業担当者が授業内に行う試験で、試験日については、授業中あるいは掲示板で周知します。

Q 定期試験（追試験、再試験）に遅刻してしまいましたが、受験できますか。

A 15分以内であれば遅刻を認めますが、15分を超えてしまったら受験できません。なお、遅刻の原因が、公共の交通機関の遅延によるものであり、遅延証明書があれば、定期試験に限り、追試験を受けられます。

4. 成績評価に関すること

Q どのように成績をつけたか確認することはできますか。

A 各授業科目のシラバスに「成績評価の方法」が掲載されているので確認してください。また、学期の初めに「成績に関する質問」ができる期間を設定しています。この期間内に様式を大学のホームページからダウンロードして、質問を記入し、学生教務課へ提出してください。約1週間後に質問の回答を返却します。なお、記入内容によっては、受取らない場合もあります。

Q 授業に毎回出席していたのに、不合格でした。どうしてですか。

A シラバスに各授業の評価の方法が記載されているので、確認してください。おそらく試験の点数やレポートの評価がよくなかったのではないのでしょうか。授業に出席しただけで合格するとは限りません。

Q 他大学との単位互換で修得した単位は、卒業要件単位として認められますか。

A 千葉県内私立大学との単位互換で履修した単位は、在学中に通算16単位までを自分の所属する学科の専門教育科目（選択）の単位として換算することができます。また、放送大学との単位互換で履修した単位は、合計で12単位までを全学共通科目及び基礎科目の単位として換算することができます。これらの履修はどれも所定期間内に所用の履修登録手続きを済ませることによって初めて可能となります。

なお、放送大学および千葉県内私立大学との単位互換科目を履修できるのは、1年次から3年次までの学生に限られています。

Q

教職課程の履修で修得した単位は、卒業要件単位として認められますか。

A

総合情報学科の専門教育科目に配当されている科目であれば、卒業要件の単位として認められますが、科目は多くありません。教職課程を履修しようとする学生は、履修登録にあたってこのことに注意が必要であると同時に、卒業に必要な単位の修得以上の学習が必要になることを肝に銘じて履修するようにしてください。

Q

以前在学していた短大で修得した単位は卒業要件単位として認められますか。

A

大学または短期大学を卒業または中途退学して、新たに本学の1年次に入学した場合に、審査の上既修得単位の全部または一部を認定することがあります。該当する場合は当該年度の履修登録開始前までに学生教務課に申し出てください。



様式サンプル等

様式 1 成績評価に関する質問票

成績評価に関する質問票 (令和 年度 前期・後期・通年科目)

学科・学年 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____ 印

配付された成績表に記載されている履修科目の評価について、下記のとおり質問します。

科目担当者	
対象科目	(曜日 時限 クラス)
評価内容	秀 ・ 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不 ・ 欠 【いずれかに○】
<p>質問の理由</p> <p>〔質問内容を、できるだけ詳しく、必ず記入すること。〕</p> <p>※「質問の理由」が明確に記入されていないものは受付けない。</p>	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

【科目担当者からのコメント】

.....

.....

.....

.....

.....

.....

年 月 日	科目担当者	印
-------	-------	---

- 注1) 当該年度に履修している科目に対してのみ質問を受付ける。
- 注2) 受付期間を過ぎた質問票は一切受付けない。
- 注3) 1枚の質問票には1科目に対する質問のみ記入すること。
- 注4) この用紙は、大学ホームページ「各種届出・様式ダウンロード」から出力(期間限定)すること。
- 注5) ボールペンで記入の上、押印すること。

様式2 時間割変更申請書

再履修科目が必修科目と同一時限に配当されて履修できない場合、時間割を変更するための申請書です。学生教務課で相談の上、配付します。

年 月 日

時間割変更申請書

以下のとおり、時間割の変更を申請いたします。

学科 _____ 年 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

変更を希望する科目名： _____

	学 期	必 選 区 分	ク ラ ス	曜 日	時 限	登 録 番 号	担 当 者
変更前							
変更後							許可印

重複している科目名： _____

学 期	必 選 区 分	ク ラ ス	曜 日	時 限	登 録 番 号	担 当 者

- ※ 申請は、原則として必修科目が同一時間割に配当されている場合のみとする。
- ※ 変更後の授業科目担当者に許可を得ること。(許可印必要)
- ※ 担当者が非常勤講師の場合は、学生教務課に提出すること。

欠席届

年 月 日

授業担当教員

_____ 様

学部・学科 _____ (年)

学 籍 番 号 _____

氏 名 _____

団 体 名 _____

※団体での活動で欠席する場合は、団体名を記載し、名簿を添付すること。

下記のとおり、授業を欠席【 します・しました 】 のでご連絡いたします。

記

1 欠席する授業科目名

_____ (曜日 時限)

2 欠席の期日

_____ 年 月 日

3 欠席の理由

<公欠的な取り扱い>

- 大学の許可を得て課外活動の公式戦等に参加 ※開催要項等を添付
- 個人資格による課外活動等、大学が特別に認めたもの ※事前に学生教務課に相談すること
- 忌引（3親等まで） ※会葬案内等を添付
- 感染症による出席停止 ※治癒証明書等を医務室に提出後、写しを添付（証明者の記載不要）
- 裁判員候補者に指名され、裁判所に出頭・職務従事した場合
※裁判所発行の通知文書等を添付（証明者の記載不要）
- 教職課程履修学生が教育実習や課外活動に参加
- 看護学科の学生が臨地実習に参加

(証明者記載事項)

.....
証明者 _____ 印

<連絡事項>

※欠席日の前後1週間以内に提出すること。当該期間を過ぎたものは受領しない。

※欠席届は学生教務課に提出すること。

※忌引きで欠席できる日数は、次のとおりです。

1 親等：連続7日、2 親等：連続3日、3 親等：1日

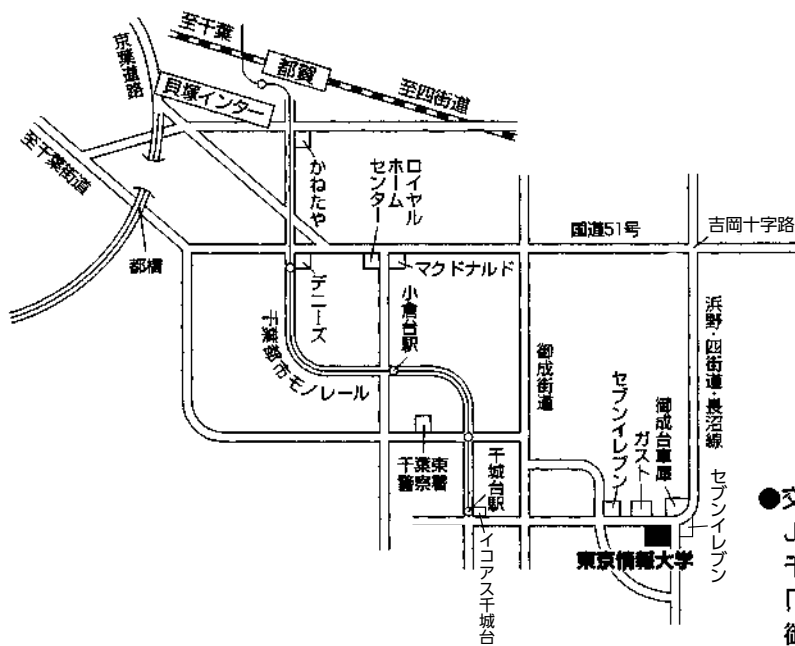
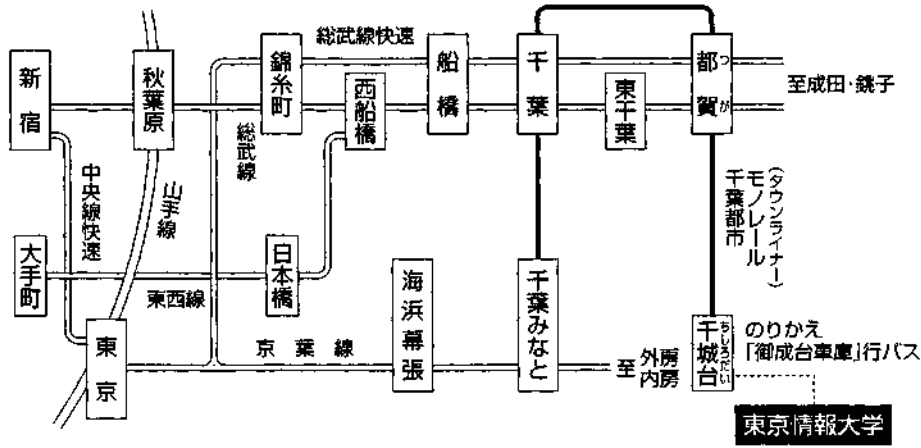
※別途、授業前日まで（欠席することがわかった時点）に、授業担当教員に次の内容のメールをして、欠席した授業の学習方法等の回答を得ること。

・メール題目：「【公欠届】 授業科目名・学籍番号・氏名」

・メール本文：欠席日、時限、科目名、学籍番号、氏名、メール送信理由（欠席理由、課題有無）



交通案内図



●交通

JR千葉駅または都賀駅より
千葉都市モノレールに乗り換え、
「千城台駅」下車。
御成台車庫行バスで7分、
「情報大正門」下車。
車の場合：京葉道路貝塚インター
より約15分。



学生ハンドブック (2022年度)

東京情報大学
大学院総合情報学研究科
総合情報学部
看護学部

編集・発行
学生教務課
2022年4月1日

学籍番号	
氏名	

この学生ハンドブックは卒業まで使用しますので、大切に使用してください。

学事暦カレンダー(2022 / 4~2023 / 3)

2022

4月(April)	
1 金	総情1年次研修
2 土	
3 日	
4 月	看護1年次研修
5 火	入学式・ガイダンス(～9日)
6 水	総情ルックマキャア(～9日) 健康診断(～9日) 成績質問日(～12日)
7 木	
8 金	
9 土	
10 日	
11 月	授業開始日 履修登録期間(～15日) 院)修士論文計画書 受付期間(～15日)
12 火	
13 水	
14 木	
15 金	
16 土	
17 日	
18 月	
19 火	
20 水	
21 木	
22 金	
23 土	
24 日	
25 月	履修修正・確認期間(～26日)
26 火	
27 水	
28 木	院)博士論文(製本)提出期限
29 金	昭和の日
30 土	

5月(May)	
1 日	
2 月	休講
3 火	憲法記念日
4 水	みどりの日
5 木	こどもの日
6 金	
7 土	
8 日	
9 月	
10 火	
11 水	
12 木	
13 金	
14 土	
15 日	
16 月	
17 火	
18 水	
19 木	
20 金	
21 土	
22 日	
23 月	
24 火	
25 水	
26 木	
27 金	
28 土	
29 日	
30 月	
31 火	

6月(June)	
1 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
2 木	
3 金	
4 土	
5 日	
6 月	
7 火	
8 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
9 木	
10 金	
11 土	
12 日	
13 月	
14 火	
15 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
16 木	
17 金	
18 土	
19 日	
20 月	
21 火	
22 水	院)博士特別演習発表会(D1,2)
23 木	
24 金	
25 土	
26 日	
27 月	
28 火	
29 水	
30 木	院)論文内容の要旨 提出締切(D3)

7月(July)	
1 金	
2 土	
3 日	
4 月	
5 火	
6 水	
7 木	
8 金	
9 土	
10 日	
11 月	
12 火	
13 水	
14 木	
15 金	
16 土	
17 日	
18 月	海の日(通常授業日)
19 火	院)論文要旨発表会(D3)
20 水	
21 木	
22 金	
23 土	
24 日	
25 月	
26 火	
27 水	
28 木	
29 金	
30 土	
31 日	

8月(August)	
1 月	補講日
2 火	学)定期試験(～4日)
3 水	
4 木	
5 金	夏季休業開始
6 土	
7 日	
8 月	
9 火	
10 水	
11 木	山の日
12 金	
13 土	
14 日	
15 月	
16 火	
17 水	
18 木	
19 金	
20 土	
21 日	
22 月	学)追試験(～23日)
23 火	
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	
28 日	
29 月	
30 火	
31 水	

9月(September)	
1 木	
2 金	
3 土	
4 日	
5 月	
6 火	
7 水	
8 木	
9 金	
10 土	
11 日	
12 月	
13 火	
14 水	
15 木	学系発表(情)1年次ガイダンス 看)1,2,3年次ガイダンス 成績質問日(～21日)
16 金	授業再開 後期履修登録期間 (～23日)
17 土	
18 日	
19 月	敬老の日(通常授業日)
20 火	
21 水	
22 木	
23 金	秋分の日(通常授業日)
24 土	保護者教職員懇談会
25 日	
26 月	
27 火	
28 水	
29 木	
30 金	学)9月卒業 院)9月修了

2023

10月(October)	
1 土	
2 日	
3 月	後期履修修正・確認 期間(～4日)
4 火	
5 水	
6 木	
7 金	
8 土	
9 日	
10 月	スポーツの日(通常授業)
11 火	
12 水	
13 木	
14 金	
15 土	
16 日	
17 月	
18 火	
19 水	
20 木	
21 金	翔風祭準備(休講)
22 土	翔風祭(～23日)
23 日	
24 月	翔風祭後片付け(休講)
25 火	
26 水	
27 木	
28 金	
29 土	
30 日	
31 月	

11月(November)	
1 火	院)論文本文提出期限(D3)
2 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
3 木	文化の日
4 金	
5 土	
6 日	
7 月	
8 火	
9 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
10 木	
11 金	
12 土	
13 日	
14 月	
15 火	院)口頭論文発表会(D3)
16 水	院)修士特別演習発表会(M1,2)
17 木	
18 金	
19 土	
20 日	
21 月	
22 火	
23 水	勤労感謝の日
24 木	
25 金	
26 土	
27 日	
28 月	
29 火	
30 水	院)博士特別演習発表会(D1,2)

12月(December)	
1 木	
2 金	
3 土	
4 日	
5 月	
6 火	
7 水	
8 木	
9 金	
10 土	
11 日	
12 月	
13 火	
14 水	
15 木	
16 金	
17 土	
18 日	
19 月	
20 火	
21 水	
22 木	
23 金	創立記念日(通常授業日)
24 土	
25 日	
26 月	冬季休業開始
27 火	
28 水	
29 木	
30 金	
31 土	

1月(January)	
1 日	元旦
2 月	元旦の振替休日
3 火	
4 水	
5 木	
6 金	
7 土	
8 日	
9 月	成人の日
10 火	授業再開
11 水	院)博士請求論文提出締切(D3)
12 木	
13 金	休講
14 土	
15 日	
16 月	
17 火	補講日(・24日)
18 水	
19 木	
20 金	院)修士請求論文提出締切(M2)
21 土	
22 日	
23 月	
24 火	
25 水	学)学年末定期試験(～27日)
26 木	
27 金	
28 土	
29 日	
30 月	情)卒論発表会
31 火	院)博士論文計画書 提出締切(D1) 院)研究経過報告書 提出締切(D2)

2月(February)	
1 水	
2 木	
3 金	
4 土	
5 日	
6 月	
7 火	
8 水	学)追試験(～9日)
9 木	
10 金	
11 土	建国記念の日
12 日	
13 月	院)口頭論文発表会(M2) 院)論文計画審査会(D1) 院)研究経過報告会(D2)
14 火	博士論文公聴会
15 水	
16 木	
17 金	
18 土	
19 日	
20 月	
21 火	
22 水	
23 木	天皇誕生日
24 金	学)再試験(・27日)
25 土	
26 日	
27 月	
28 火	

3月(March)	
1 水	
2 木	
3 金	
4 土	
5 日	
6 月	法人創立記念日
7 火	
8 水	
9 木	
10 金	
11 土	
12 日	
13 月	
14 火	
15 水	
16 木	
17 金	学)卒業・進級者発表 院)修了者発表
18 土	
19 日	
20 月	
21 火	春分の日
22 水	
23 木	
24 金	
25 土	学位記授与式
26 日	
27 月	
28 火	
29 水	
30 木	
31 金	



東京情報大学

Tokyo University of Information Sciences

〒265-8501

千葉県若葉区御成台4-1

TEL. 043-236-4612

FAX. 043-236-2215

URL. <http://www.tuis.ac.jp>
